

平成 26 年度 認知症介護研究・研修仙台センター運営費研究事業

加齢と健康に関する縦断研究
—心身の健康を維持するための要因に関する分析研究—

研究事業報告書

平成 27 年 3 月

社会福祉法人 東北福祉会

認知症介護研究・研修仙台センター

目 次

1. 目的	1
2. 方法	1
3. 倫理的配慮	1
4. 結果	1
1) 日常活動	4
2) 対人交流	24
3) 社会活動	92
5. 結果のまとめと考察	113

加齢と健康に関する縦断研究

—心身の健康を維持するための要因に関する分析研究—

1. 目的

加齢が心身の健康におよぼす影響を調べるためには、同一の個人を長期間追跡調査する縦断研究の手法を用い、個人のそれまでのライフスタイルや社会との関係性がどうであったのかを生活視点から明らかにしていく必要がある。心身の健康は、単に個人の努力によって維持されるものではなく、そこには対人関係や社会活動参加、相互扶助関係などのソーシャルサポートも大きな役割を果たしていることが考えられる。認知症介護研究・研修仙台センターでは、2002年から10年間にわたり、2002年に55歳以上であった気仙沼大島地区住民を対象に、加齢と健康に関する縦断研究を行ってきた。

本研究では、2002年のベースライン調査から2012年までの計6回の縦断調査データの中から「日常生活」「対人交流」「社会活動」に関する項目を精査し、調査開始時に設定したコホート（壮年期群、前期高齢期群、後期高齢期群）の群間比較と縦断的な分析を行うことを目的とする。

2. 方法

過去10年間のすべての調査に協力してくれた気仙沼大島の65歳以上の住民177人の縦断データを分析対象とする。分析対象は「日常活動」「対人交流」「社会活動」等に関するものとする。

3. 倫理的配慮

過去10年間の訪問面接調査による研究は、すべて認知症介護研究・研修仙台センターの倫理審査委員会の承認を受けて行っている。本研究については、認知症介護研究・研修仙台センターの倫理審査小委員会の承認を受けて行う。

4. 結果

初回調査時（2002年）では、55歳以上の住民1550人のうち、1134人に対して調査を行うことができた。2002年、2004年、2006年、2008年、2010年、2012年の計6回の調査が行われ、すべての調査に協力してくれた177人を分析対象とした。対象者177人のうち、女性は105人（59.3%）、男性は72人（40.7%）である。

調査結果は、初回調査時（2002年度）当時の年齢を3群に分け、55歳以上65歳未満を「壮年期群」、65歳以上75歳未満を「前期高齢期群」、75歳以上を「後期高齢期群」として分類し比較検討した。本報告書では、年齢区分を「壮年期群→Y0」、「前期高齢期群→00」、「後期高齢期群→0d0」と表記している。

分析対象者は、「壮年期群→Y0」58人のうち、女性は33人(56.9%)、男性は25人(43.1%)であった。「前期高齢期群→00」78人のうち、女性は47人(60.3%)、男性は31人(39.7%)であった。「後期高齢期群→0d0」41人のうち、女性は25人(61.0%)、男性は16人(39.0%)であった。

性別

人数(割合)

	壮年期群(n=58)	前期高齢期群(n=78)	後期高齢期群(n=41)	全体(n=177)
女性	33 (56.9%)	47 (60.3%)	25 (61.0%)	105 (59.3%)
男性	25 (43.1%)	31 (39.7%)	16 (39.0%)	72 (40.7%)

平均年齢

平均年齢±標準偏差

	壮年期群(n=58)	前期高齢期群(n=78)	後期高齢期群(n=41)	全体(n=177)
2012年	70.8±2.6	79.5±3.0	87.4±2.1	78.5±6.7
2010年	68.8±2.6	77.5±2.9	85.3±2.1	76.4±6.7
2008年	66.7±2.6	75.5±3.0	83.4±2.1	74.4±6.8
2006年	64.7±2.6	73.4±2.9	81.3±2.1	72.4±6.7
2004年	62.7±2.6	71.4±2.9	79.3±2.1	70.4±6.7
2002年	60.8±2.6	69.5±2.9	77.3±2.2	68.5±6.7

平均年齢(男女別)

平均年齢±標準偏差

	壮年期群(n=58)		前期高齢期群(n=78)		後期高齢期群(n=41)		全体(n=177)	
	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性
2012年	70.8±2.8	70.8±2.4	79.5±3.0	79.5±2.9	87.2±1.9	87.6±2.4	78.6±6.7	78.3±6.8
2010年	68.8±2.8	68.7±2.4	77.5±2.9	77.4±2.9	85.2±2.0	85.5±2.4	76.6±6.7	76.2±6.8
2008年	66.7±2.8	66.7±2.4	75.5±3.0	75.5±3.0	83.2±1.9	83.6±2.4	74.6±6.7	74.3±6.9
2006年	64.7±2.8	64.7±2.4	73.4±3.0	73.4±2.9	81.2±1.9	81.5±2.4	72.5±6.8	72.2±6.9
2004年	62.7±2.8	62.7±2.4	71.5±2.9	71.4±2.9	79.1±1.9	79.5±2.4	70.5±6.7	70.2±6.8
2002年	60.8±2.8	60.8±2.4	69.5±3.0	69.5±2.9	77.2±2.1	77.5±2.4	68.6±6.7	68.3±6.8

1) 日常活動状況

■収入を伴う仕事

(全体の結果)

収入を伴う仕事を「している」人は、初回調査時（2002年）が37.3%と最も多く、その後は漸減し、2012年調査時では14.7%と1割程度に減少している（-22.6ポイント）。（図表1-1）

(壮年期群→Y0)

収入を伴う仕事を「している」人は、初回調査時（2002年）が58.6%と最も多く、その後は漸減し、2012年調査時では24.1%と大きく減少している（-34.5ポイント）。（図表1-2）

(前期高齢期群→00)

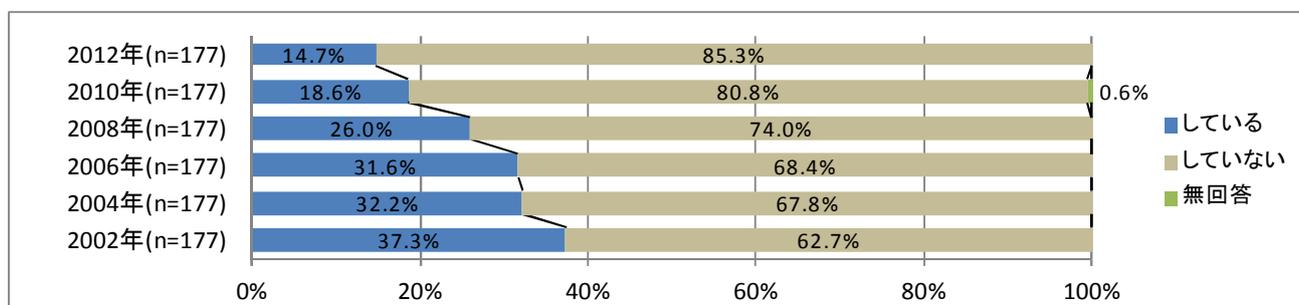
収入を伴う仕事を「している」人は、初回調査時（2002年）が33.3%と最も多いが、2006年調査時から漸減傾向にあり、2012年調査時では14.1%と6年間で16.7ポイント減少している。（図表1-3）

(後期高齢期群→0d0)

収入を伴う仕事を「している」人は、初回調査時（2002年）が14.6%と最も多いが、2008年調査時から漸減傾向にあり、2012年調査時では2.4%と4年間で9.8ポイント減少している。（図表1-4）

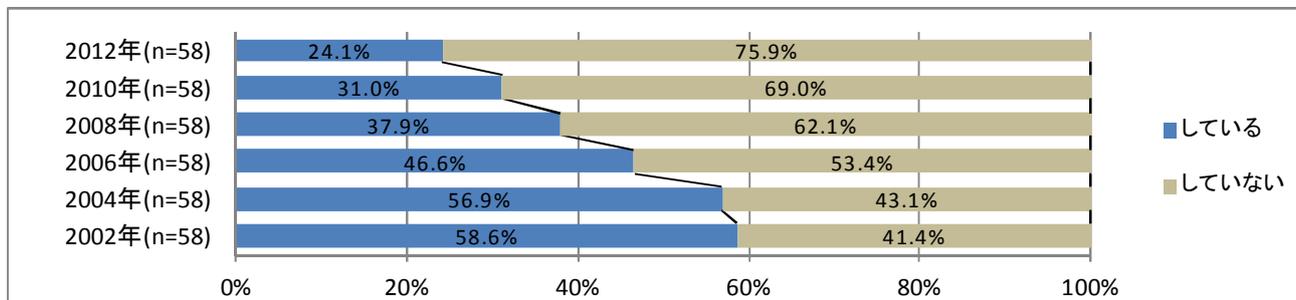
図表 1-1 収入を伴う仕事（全体）

	している	していない	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=177)	26 (14.7%)	151 (85.3%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2010年(n=177)	33 (18.6%)	143 (80.8%)	1 (0.6%)	177 (100.0%)	
2008年(n=177)	46 (26.0%)	131 (74.0%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2006年(n=177)	56 (31.6%)	121 (68.4%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2004年(n=177)	57 (32.2%)	120 (67.8%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2002年(n=177)	66 (37.3%)	111 (62.7%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	



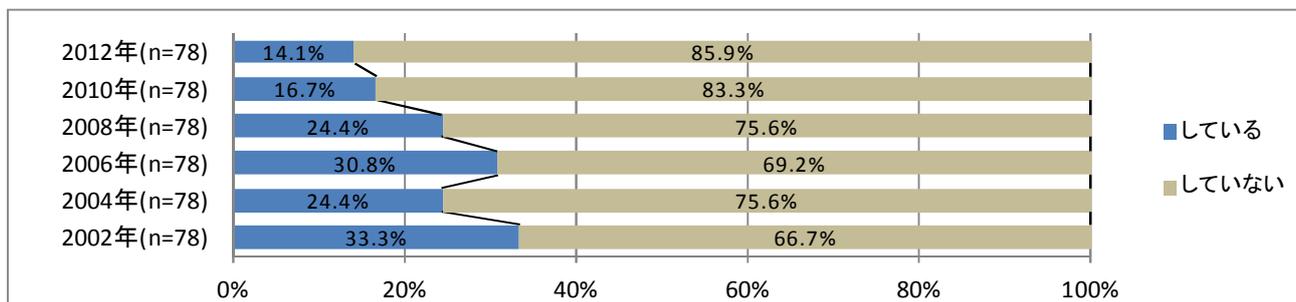
図表 1-2 収入を伴う仕事（壮年期群）

	している	していない	合計	人数(割合)
2012年(n=58)	14 (24.1%)	44 (75.9%)	58 (100.0%)	
2010年(n=58)	18 (31.0%)	40 (69.0%)	58 (100.0%)	
2008年(n=58)	22 (37.9%)	36 (62.1%)	58 (100.0%)	
2006年(n=58)	27 (46.6%)	31 (53.4%)	58 (100.0%)	
2004年(n=58)	33 (56.9%)	25 (43.1%)	58 (100.0%)	
2002年(n=58)	34 (58.6%)	24 (41.4%)	58 (100.0%)	



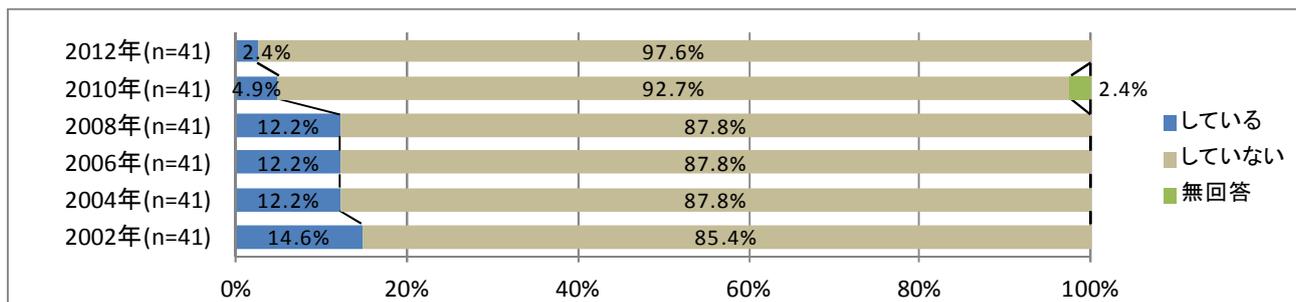
図表 1-3 収入を伴う仕事（前期高齢期群）

	している	していない	合計	人数(割合)
2012年(n=78)	11 (14.1%)	67 (85.9%)	78 (100.0%)	
2010年(n=78)	13 (16.7%)	65 (83.3%)	78 (100.0%)	
2008年(n=78)	19 (24.4%)	59 (75.6%)	78 (100.0%)	
2006年(n=78)	24 (30.8%)	54 (69.2%)	78 (100.0%)	
2004年(n=78)	19 (24.4%)	59 (75.6%)	78 (100.0%)	
2002年(n=78)	26 (33.3%)	52 (66.7%)	78 (100.0%)	



図表 1-4 収入を伴う仕事（後期高齢期群）

	している	していない	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=41)	1 (2.4%)	40 (97.6%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2010年(n=41)	2 (4.9%)	38 (92.7%)	1 (2.4%)	41 (100.0%)	
2008年(n=41)	5 (12.2%)	36 (87.8%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2006年(n=41)	5 (12.2%)	36 (87.8%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2004年(n=41)	5 (12.2%)	36 (87.8%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2002年(n=41)	6 (14.6%)	35 (85.4%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	



■仕事の種類

(「Q.収入を伴う仕事」で「している」と回答した人のみ)

(全体の結果)

「農林漁業」をしている人が最も多く、すべての調査時で3割～5割程度を占めている。初回調査時(2002年)が36.4%と最も少なく、その後は漸増傾向にあり、2008年調査時では56.5%と最も多く(+20.1ポイント)、それ以降も半数以上で推移している。(図表1-5)

(壮年期群→Y0)

「農林漁業」をしている人が最も多く、すべての調査時で3割～5割程度を占めている。初回調査時(2002年)が29.4%と最も少なく、その後は漸増傾向にあり、2008年調査時では54.5%と最も多く(+25.1ポイント)、その後も半数以上で推移している。(図表1-6)

(前期高齢期群→00)

「農林漁業」をしている人が最も多く、すべての調査時で4割～6割程度を占めている。初回調査時(2002年)が42.3%と最も少なく、2008年調査時を除いて漸増傾向にあり、2010年調査時では61.5%と最も多くなっている(+19.2ポイント)。(図表1-7)

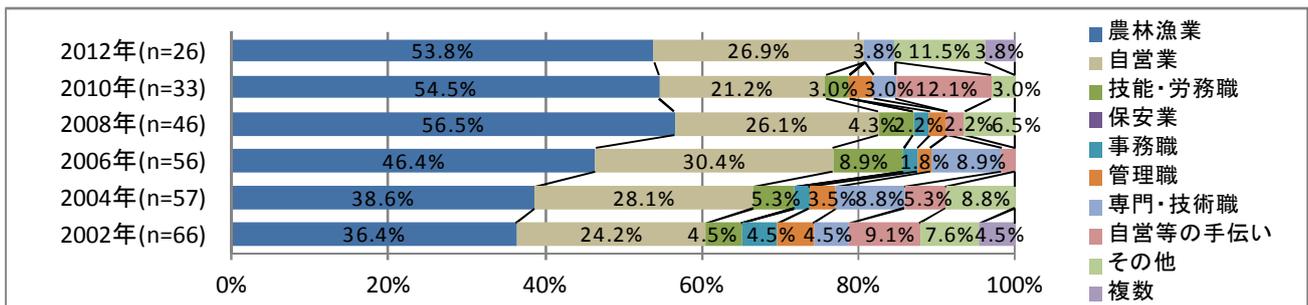
(後期高齢期群→0d0)

「農林漁業」をしている人が最も多く、2004年調査時が40.0%と最も少ないが、それ以外は半数以上を占めており、2012年調査時では「農林漁業」のみの回答になっている。(図表1-8)

図表 1-5 仕事の種類 (全体)

	農林漁業	自営業	技能・労務職	保安業	事務職	管理職
2012年(n=26)	14 (53.8%)	7 (26.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
2010年(n=33)	18 (54.5%)	7 (21.2%)	1 (3.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (3.0%)
2008年(n=46)	26 (56.5%)	12 (26.1%)	2 (4.3%)	0 (0.0%)	1 (2.2%)	1 (2.2%)
2006年(n=56)	26 (46.4%)	17 (30.4%)	5 (8.9%)	0 (0.0%)	1 (1.8%)	1 (1.8%)
2004年(n=57)	22 (38.6%)	16 (28.1%)	3 (5.3%)	0 (0.0%)	1 (1.8%)	2 (3.5%)
2002年(n=66)	24 (36.4%)	16 (24.2%)	3 (4.5%)	0 (0.0%)	3 (4.5%)	3 (4.5%)

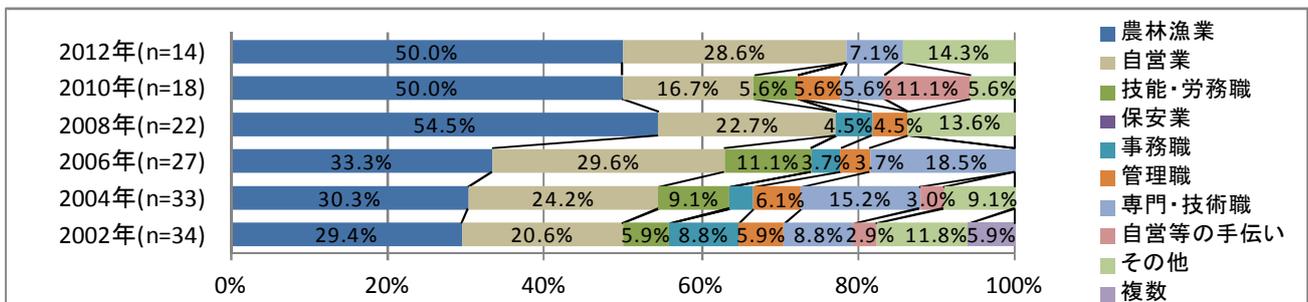
	専門・技術職	自営等の手伝い	その他	複数	合計	人数(割合)
2012年(n=26)	1 (3.8%)	0 (0.0%)	3 (11.5%)	1 (3.8%)	26 (100.0%)	
2010年(n=33)	1 (3.0%)	4 (12.1%)	1 (3.0%)	0 (0.0%)	33 (100.0%)	
2008年(n=46)	0 (0.0%)	1 (2.2%)	3 (6.5%)	0 (0.0%)	46 (100.0%)	
2006年(n=56)	5 (8.9%)	1 (1.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	56 (100.0%)	
2004年(n=57)	5 (8.8%)	3 (5.3%)	5 (8.8%)	0 (0.0%)	57 (100.0%)	
2002年(n=66)	3 (4.5%)	6 (9.1%)	5 (7.6%)	3 (4.5%)	66 (100.0%)	



図表 1-6 仕事の種類 (壮年期群)

	農林漁業	自営業	技能・労務職	保安業	事務職	管理職
2012年(n=14)	7 (50.0%)	4 (28.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
2010年(n=18)	9 (50.0%)	3 (16.7%)	1 (5.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (5.6%)
2008年(n=22)	12 (54.5%)	5 (22.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (4.5%)	1 (4.5%)
2006年(n=27)	9 (33.3%)	8 (29.6%)	3 (11.1%)	0 (0.0%)	1 (3.7%)	1 (3.7%)
2004年(n=33)	10 (30.3%)	8 (24.2%)	3 (9.1%)	0 (0.0%)	1 (3.0%)	2 (6.1%)
2002年(n=34)	10 (29.4%)	7 (20.6%)	2 (5.9%)	0 (0.0%)	3 (8.8%)	2 (5.9%)

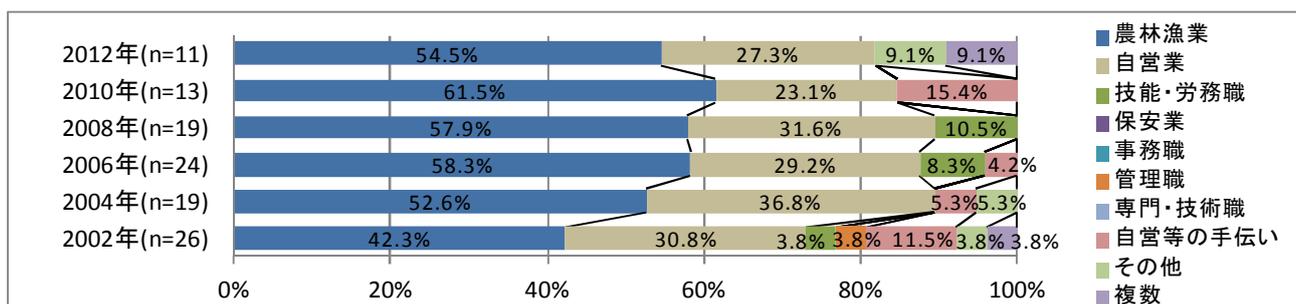
	専門・技術職	自営等の手伝い	その他	複数	合計	人数(割合)
2012年(n=14)	1 (7.1%)	0 (0.0%)	2 (14.3%)	0 (0.0%)	14 (100.0%)	
2010年(n=18)	1 (5.6%)	2 (11.1%)	1 (5.6%)	0 (0.0%)	18 (100.0%)	
2008年(n=22)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (13.6%)	0 (0.0%)	22 (100.0%)	
2006年(n=27)	5 (18.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	27 (100.0%)	
2004年(n=33)	5 (15.2%)	1 (3.0%)	3 (9.1%)	0 (0.0%)	33 (100.0%)	
2002年(n=34)	3 (8.8%)	1 (2.9%)	4 (11.8%)	2 (5.9%)	34 (100.0%)	



図表 1-7 仕事の種類（前期高齢期群）

	農林漁業	自営業	技能・労務職	保安業	事務職	管理職
2012年(n=11)	6 (54.5%)	3 (27.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
2010年(n=13)	8 (61.5%)	3 (23.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
2008年(n=19)	11 (57.9%)	6 (31.6%)	2 (10.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
2006年(n=24)	14 (58.3%)	7 (29.2%)	2 (8.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
2004年(n=19)	10 (52.6%)	7 (36.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
2002年(n=26)	11 (42.3%)	8 (30.8%)	1 (3.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (3.8%)

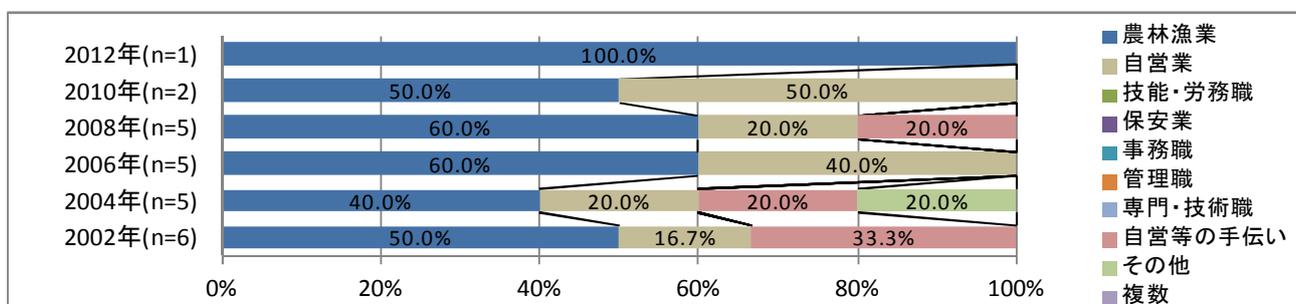
	専門・技術職	自営等の手伝い	その他	複数	合計	人数(割合)
2012年(n=11)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (9.1%)	1 (9.1%)	11 (100.0%)	
2010年(n=13)	0 (0.0%)	2 (15.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	13 (100.0%)	
2008年(n=19)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	19 (100.0%)	
2006年(n=24)	0 (0.0%)	1 (4.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	24 (100.0%)	
2004年(n=19)	0 (0.0%)	1 (5.3%)	1 (5.3%)	0 (0.0%)	19 (100.0%)	
2002年(n=26)	0 (0.0%)	3 (11.5%)	1 (3.8%)	1 (3.8%)	26 (100.0%)	



図表 1-8 仕事の種類（後期高齢期群）

	農林漁業	自営業	技能・労務職	保安業	事務職	管理職
2012年(n=1)	1 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
2010年(n=2)	1 (50.0%)	1 (50.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
2008年(n=5)	3 (60.0%)	1 (20.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
2006年(n=5)	3 (60.0%)	2 (40.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
2004年(n=5)	2 (40.0%)	1 (20.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
2002年(n=6)	3 (50.0%)	1 (16.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)

	専門・技術職	自営等の手伝い	その他	複数	合計	人数(割合)
2012年(n=1)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (100.0%)	
2010年(n=2)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (100.0%)	
2008年(n=5)	0 (0.0%)	1 (20.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	5 (100.0%)	
2006年(n=5)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	5 (100.0%)	
2004年(n=5)	0 (0.0%)	1 (20.0%)	1 (20.0%)	0 (0.0%)	5 (100.0%)	
2002年(n=6)	0 (0.0%)	2 (33.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	6 (100.0%)	



■趣味活動の有無

(全体の結果)

趣味活動を「している」人は、初回調査時（2002年）が82.5%と最も多く、その後は漸減し、2012年調査時では67.2%と10年間で15.3ポイント減少している。（図表1-9）

(壮年期群→Y0)

趣味活動を「している」人は、初回調査時（2002年）が77.6%と最も多く、その後は7割程度で推移しているが、2012年調査時では69.0%と最も少なくなっている。（図表1-10）

(前期高齢期群→00)

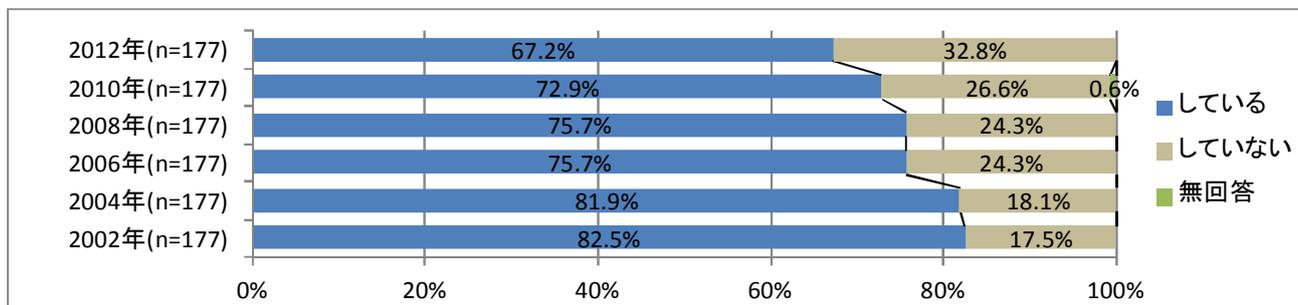
趣味活動を「している」人は、2004年調査時の88.5%をピークに漸減し、2012年調査時では69.2%と最も少なくなっている（-19.3ポイント）。（図表1-11）

(後期高齢期群→0d0)

趣味活動を「している」人は、初回調査時（2002年）が85.4%と最も多く、その後は2008年調査時を除いて漸減傾向を示し、2012年調査時では61.0%と大きく減少している（-24.4ポイント）。（図表1-12）

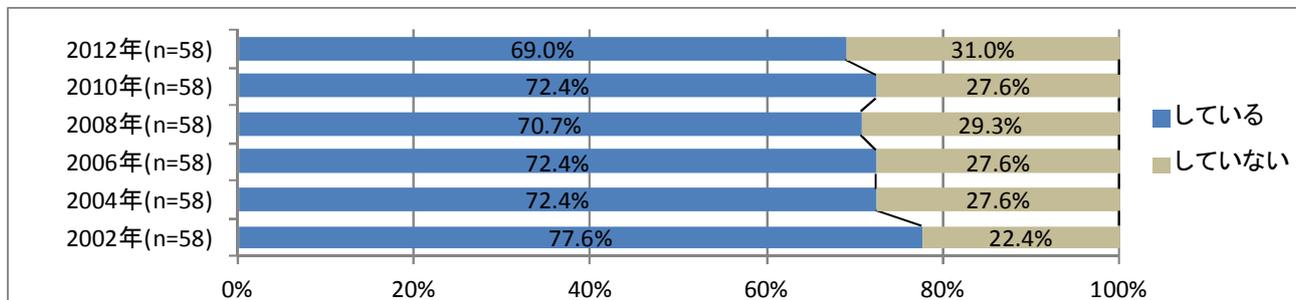
図表 1-9 趣味活動の有無（全体）

	している	していない	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=177)	119 (67.2%)	58 (32.8%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2010年(n=177)	129 (72.9%)	47 (26.6%)	1 (0.6%)	177 (100.0%)	
2008年(n=177)	134 (75.7%)	43 (24.3%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2006年(n=177)	134 (75.7%)	43 (24.3%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2004年(n=177)	145 (81.9%)	32 (18.1%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2002年(n=177)	146 (82.5%)	31 (17.5%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	



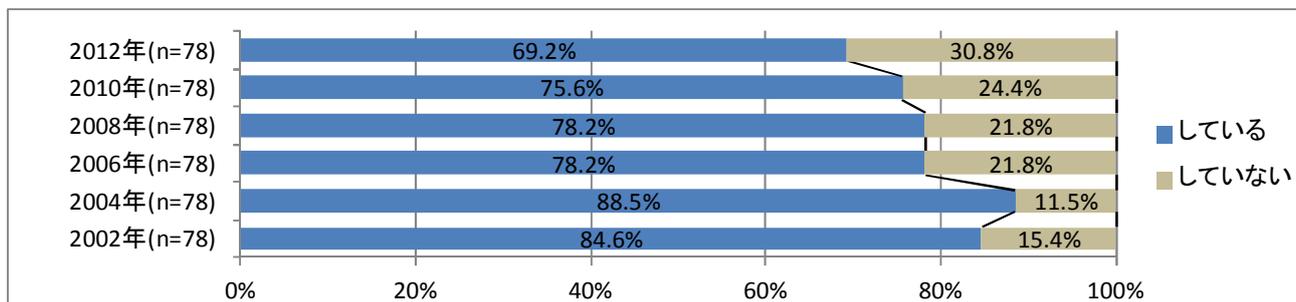
図表 1-10 趣味活動の有無（壮年期群）

	している	していない	合計	人数(割合)
2012年(n=58)	40 (69.0%)	18 (31.0%)	58 (100.0%)	
2010年(n=58)	42 (72.4%)	16 (27.6%)	58 (100.0%)	
2008年(n=58)	41 (70.7%)	17 (29.3%)	58 (100.0%)	
2006年(n=58)	42 (72.4%)	16 (27.6%)	58 (100.0%)	
2004年(n=58)	42 (72.4%)	16 (27.6%)	58 (100.0%)	
2002年(n=58)	45 (77.6%)	13 (22.4%)	58 (100.0%)	



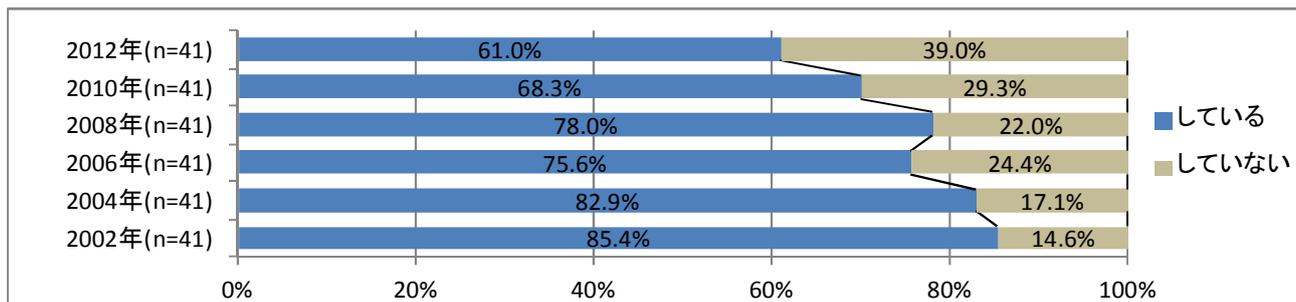
図表 1-11 趣味活動の有無（前期高齢期群）

	している	していない	合計	人数(割合)
2012年(n=78)	54 (69.2%)	24 (30.8%)	78 (100.0%)	
2010年(n=78)	59 (75.6%)	19 (24.4%)	78 (100.0%)	
2008年(n=78)	61 (78.2%)	17 (21.8%)	78 (100.0%)	
2006年(n=78)	61 (78.2%)	17 (21.8%)	78 (100.0%)	
2004年(n=78)	69 (88.5%)	9 (11.5%)	78 (100.0%)	
2002年(n=78)	66 (84.6%)	12 (15.4%)	78 (100.0%)	



図表 1-12 趣味活動の有無（後期高齢期群）

	している	していない	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=41)	25 (61.0%)	16 (39.0%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2010年(n=41)	28 (68.3%)	12 (29.3%)	1 (2.4%)	41 (100.0%)	
2008年(n=41)	32 (78.0%)	9 (22.0%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2006年(n=41)	31 (75.6%)	10 (24.4%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2004年(n=41)	34 (82.9%)	7 (17.1%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2002年(n=41)	35 (85.4%)	6 (14.6%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	



■趣味活動の種類

(「Q.趣味活動の有無」で「している」と回答した人のみ)

(全体の結果)

「文化系」の趣味をしている人が最も多く、すべての調査時で4割以上を占めている。2006年調査時が41.0%と最も少なく、その後は漸増傾向にあり、2012年調査時では60.5%と最も多い(+19.5ポイント)。特に2010年調査時以降の2年間で増加の程度が大きい(+14.8ポイント)。(図表1-13)

(壮年期群→Y0)

初回調査時(2002年)から2004年調査時まで「文化系」の趣味をしている人が最も多く、約半数を占めている。一方、2006年調査時から2008年調査時まで「アウトドア・スポーツ」の趣味をしている人が約4割以上と最も多く、2010年調査時以降は「文化系」の趣味をしている人が半数以上を占めている。(図表1-14)

(前期高齢期群→00)

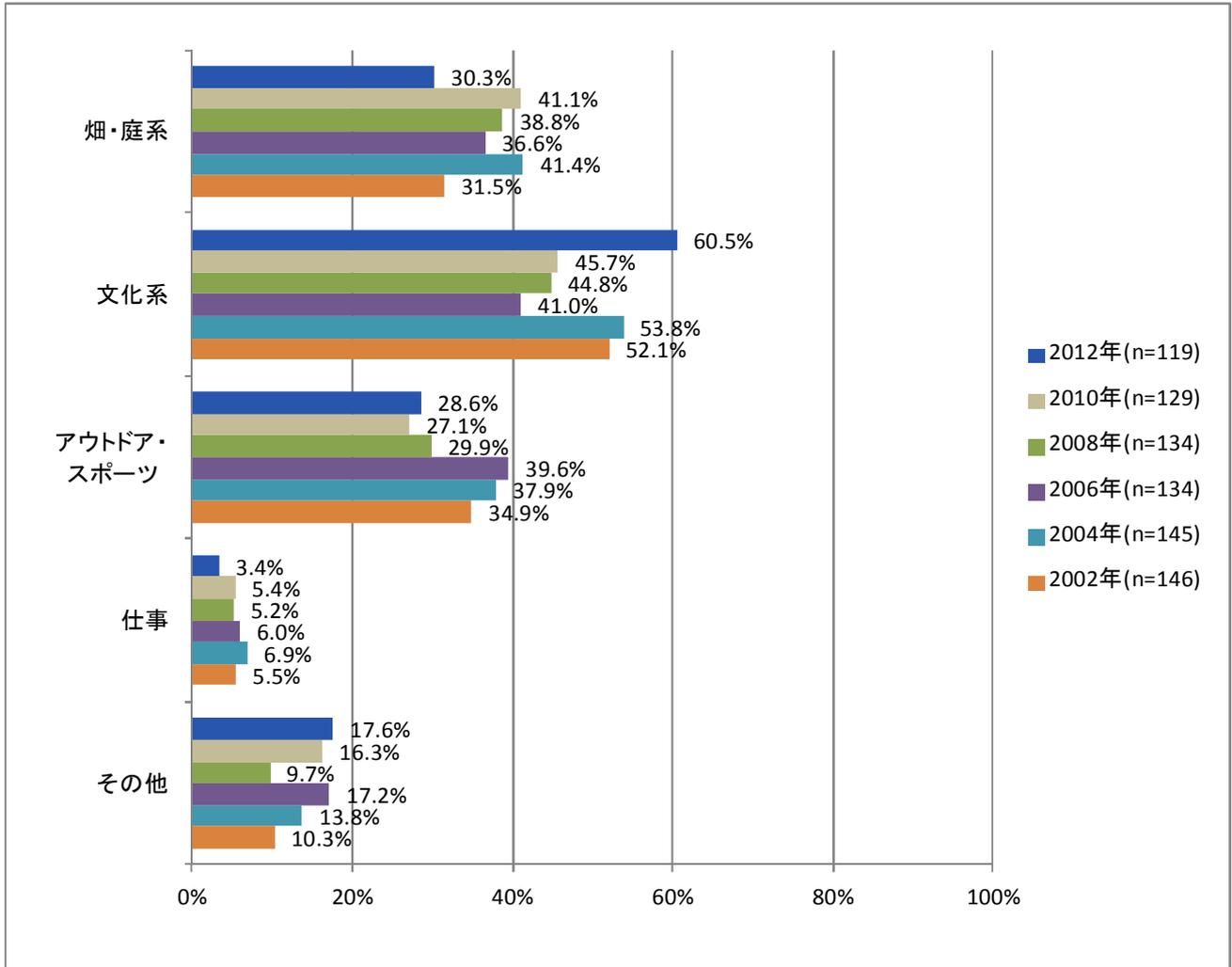
「文化系」の趣味をしている人が最も多く、すべての調査時で4割以上を占めている。初回調査時(2002年)から2010年調査時まで4割~5割程度で推移しているが、2012年調査時では63.0%と最も多くなっている。(図表1-15)

(後期高齢期群→0d0)

初回調査時(2002年)から2004年調査時まで「文化系」の趣味をしている人が半数以上と最も多く、2006年調査時から2010年調査時までは「文化系」と「アウトドア・スポーツ」の趣味をしている人がそれぞれ4割程度で推移している。一方、2012年調査時は、「文化系」の趣味をしている人が64.0%と最も多くなっている。(図表1-16)

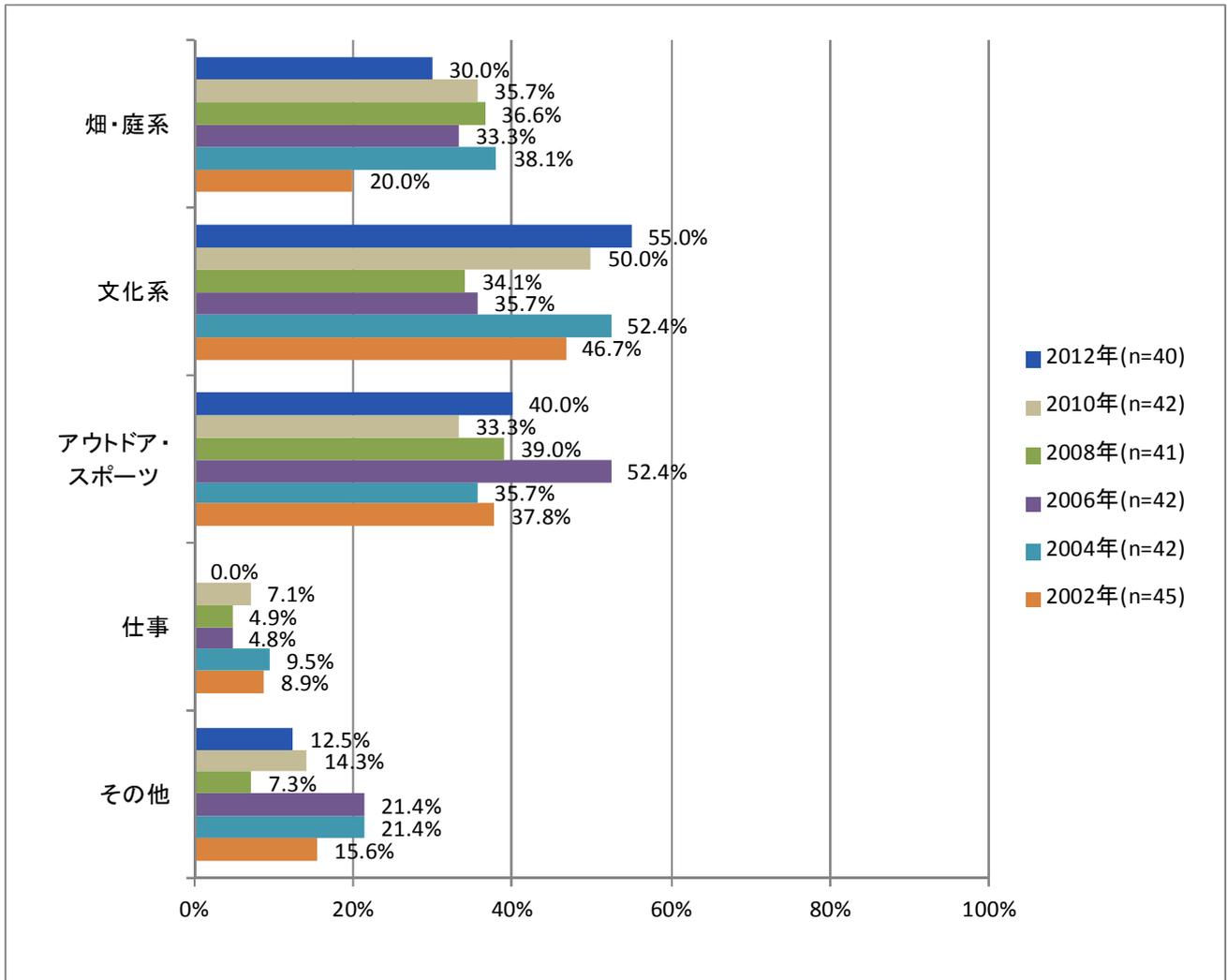
図表 1-13 趣味活動の種類（全体）※複数回答

	畑・庭系	文化系	アウトドア・スポーツ	仕事	その他	回答数	回答数(割合)
2012年(n=119)	36 (30.3%)	72 (60.5%)	34 (28.6%)	4 (3.4%)	21 (17.6%)	167	
2010年(n=129)	53 (41.1%)	59 (45.7%)	35 (27.1%)	7 (5.4%)	21 (16.3%)	175	
2008年(n=134)	52 (38.8%)	60 (44.8%)	40 (29.9%)	7 (5.2%)	13 (9.7%)	172	
2006年(n=134)	49 (36.6%)	55 (41.0%)	53 (39.6%)	8 (6.0%)	23 (17.2%)	188	
2004年(n=145)	60 (41.4%)	78 (53.8%)	55 (37.9%)	10 (6.9%)	20 (13.8%)	223	
2002年(n=146)	46 (31.5%)	76 (52.1%)	51 (34.9%)	8 (5.5%)	15 (10.3%)	196	



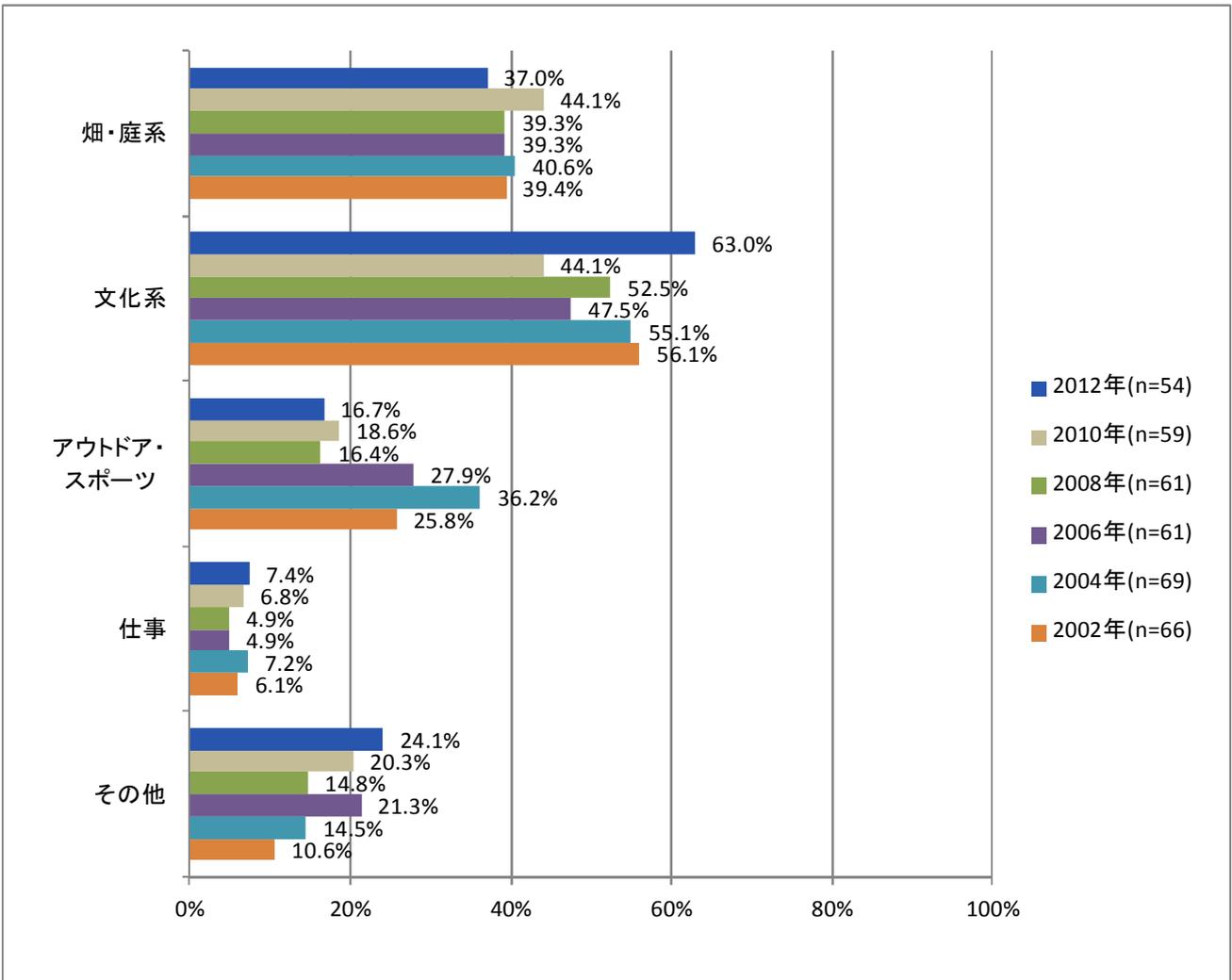
図表 1-14 趣味活動の種類（壮年期群）※複数回答

	畑・庭系	文化系	アウトドア・スポーツ	仕事	その他	回答数	回答数(割合)
2012年(n=40)	12 (30.0%)	22 (55.0%)	16 (40.0%)	0 (0.0%)	5 (12.5%)	55	
2010年(n=42)	15 (35.7%)	21 (50.0%)	14 (33.3%)	3 (7.1%)	6 (14.3%)	59	
2008年(n=41)	15 (36.6%)	14 (34.1%)	16 (39.0%)	2 (4.9%)	3 (7.3%)	50	
2006年(n=42)	14 (33.3%)	15 (35.7%)	22 (52.4%)	2 (4.8%)	9 (21.4%)	62	
2004年(n=42)	16 (38.1%)	22 (52.4%)	15 (35.7%)	4 (9.5%)	9 (21.4%)	66	
2002年(n=45)	9 (20.0%)	21 (46.7%)	17 (37.8%)	4 (8.9%)	7 (15.6%)	58	



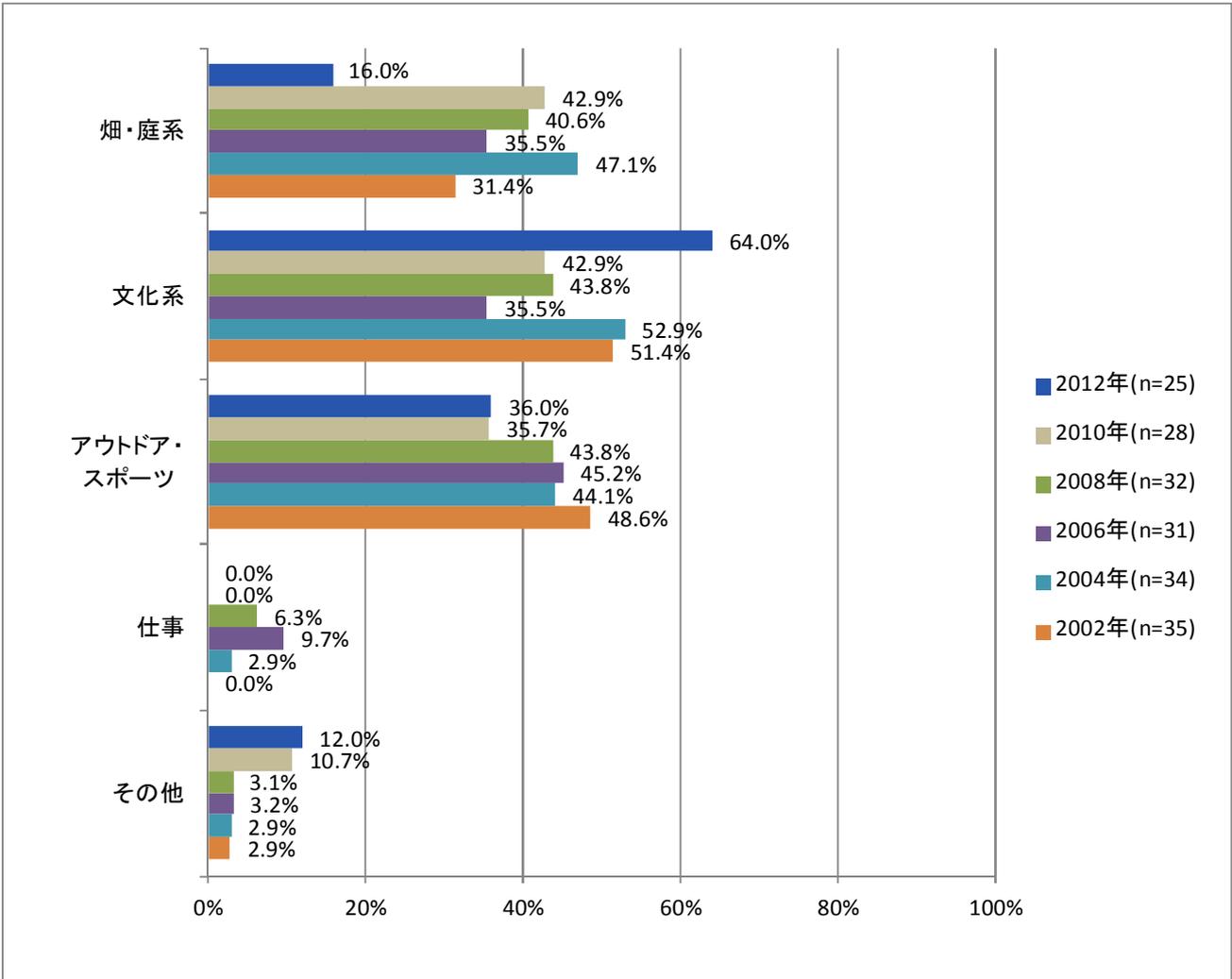
図表 1-15 趣味活動の種類（前期高齢期群）※複数回答

	畑・庭系	文化系	アウトドア・スポーツ	仕事	その他	回答数	回答数(割合)
2012年(n=54)	20 (37.0%)	34 (63.0%)	9 (16.7%)	4 (7.4%)	13 (24.1%)	80	
2010年(n=59)	26 (44.1%)	26 (44.1%)	11 (18.6%)	4 (6.8%)	12 (20.3%)	79	
2008年(n=61)	24 (39.3%)	32 (52.5%)	10 (16.4%)	3 (4.9%)	9 (14.8%)	78	
2006年(n=61)	24 (39.3%)	29 (47.5%)	17 (27.9%)	3 (4.9%)	13 (21.3%)	86	
2004年(n=69)	28 (40.6%)	38 (55.1%)	25 (36.2%)	5 (7.2%)	10 (14.5%)	106	
2002年(n=66)	26 (39.4%)	37 (56.1%)	17 (25.8%)	4 (6.1%)	7 (10.6%)	91	



図表 1-16 趣味活動の種類（後期高齢期群）※複数回答

	畑・庭系	文化系	アウトドア・スポーツ	仕事	その他	回答数	回答数(割合)
2012年(n=25)	4 (16.0%)	16 (64.0%)	9 (36.0%)	0 (0.0%)	3 (12.0%)	32	
2010年(n=28)	12 (42.9%)	12 (42.9%)	10 (35.7%)	0 (0.0%)	3 (10.7%)	37	
2008年(n=32)	13 (40.6%)	14 (43.8%)	14 (43.8%)	2 (6.3%)	1 (3.1%)	44	
2006年(n=31)	11 (35.5%)	11 (35.5%)	14 (45.2%)	3 (9.7%)	1 (3.2%)	40	
2004年(n=34)	16 (47.1%)	18 (52.9%)	15 (44.1%)	1 (2.9%)	1 (2.9%)	51	
2002年(n=35)	11 (31.4%)	18 (51.4%)	17 (48.6%)	0 (0.0%)	1 (2.9%)	47	



■趣味活動の活動頻度

(「Q.趣味活動の有無」で「している」と回答した人のみ)

(全体の結果)

趣味活動を「ほぼ毎日」している人が最も多く、すべての調査時点で4割以上を占めている。初回調査時(2002年)が46.6%と最も少ないが、2004年調査時以降は半数以上の人がほぼ毎日活動している。(図表1-17)

(壮年期群→Y0)

趣味活動を「ほぼ毎日」している人が最も多く、初回調査時(2002年)から2010年調査時まで4割以上を占めているが、2012年調査時では32.5%と最も少ない。(図表1-18)

(前期高齢期群→00)

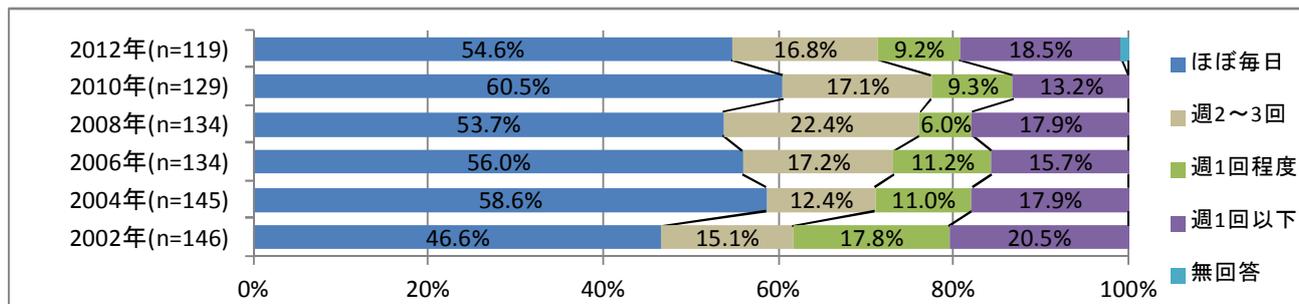
趣味活動を「ほぼ毎日」している人が最も多く、初回調査時(2002年)が42.4%と最も少ないが、2004年調査時以降はほぼ半数を超えている。2006年調査時から漸増傾向にあり、2012年調査時では63.0%と最も多くなっている(+13.8ポイント)。(図表1-19)

(後期高齢期群→0d0)

趣味活動を「ほぼ毎日」している人が最も多く、すべての調査時点で6割以上を占めている。初回調査時(2002年)が60.0%と最も少ないが、2004年調査時では82.4%と最も多く(+22.4ポイント)、その後は増減を示しながら6割～8割程度で推移している。(図表1-20)

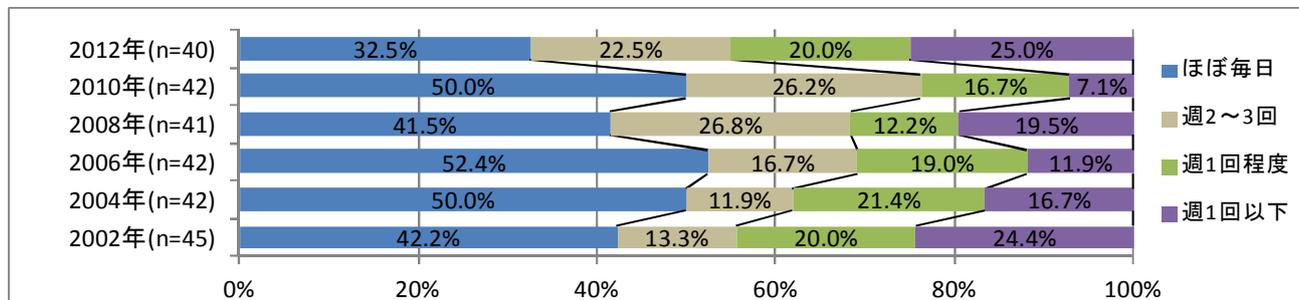
図表1-17 趣味活動の活動頻度(全体)

	ほぼ毎日	週2～3回	週1回程度	週1回以下	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=119)	65 (54.6%)	20 (16.8%)	11 (9.2%)	22 (18.5%)	1 (0.8%)	119 (100.0%)	
2010年(n=129)	78 (60.5%)	22 (17.1%)	12 (9.3%)	17 (13.2%)	0 (0.0%)	129 (100.0%)	
2008年(n=134)	72 (53.7%)	30 (22.4%)	8 (6.0%)	24 (17.9%)	0 (0.0%)	134 (100.0%)	
2006年(n=134)	75 (56.0%)	23 (17.2%)	15 (11.2%)	21 (15.7%)	0 (0.0%)	134 (100.0%)	
2004年(n=145)	85 (58.6%)	18 (12.4%)	16 (11.0%)	26 (17.9%)	0 (0.0%)	145 (100.0%)	
2002年(n=146)	68 (46.6%)	22 (15.1%)	26 (17.8%)	30 (20.5%)	0 (0.0%)	146 (100.0%)	



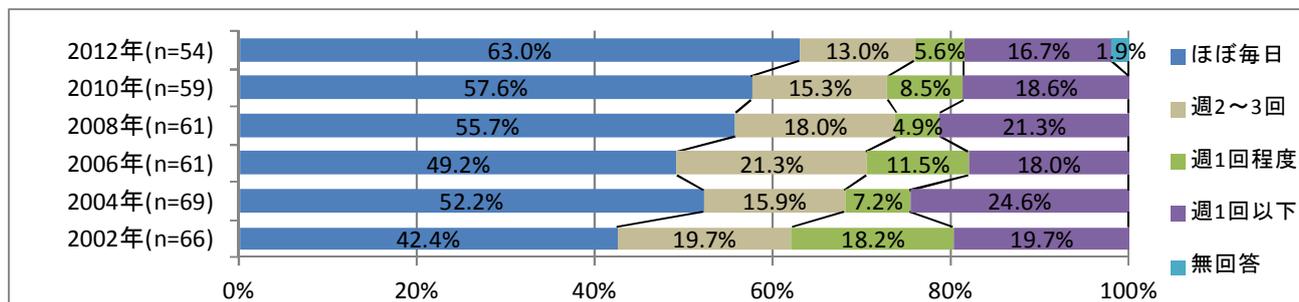
図表 1-18 趣味活動の活動頻度（壮年期群）

	ほぼ毎日	週2～3回	週1回程度	週1回以下	合計	人数(割合)
2012年(n=40)	13 (32.5%)	9 (22.5%)	8 (20.0%)	10 (25.0%)	40 (100.0%)	
2010年(n=42)	21 (50.0%)	11 (26.2%)	7 (16.7%)	3 (7.1%)	42 (100.0%)	
2008年(n=41)	17 (41.5%)	11 (26.8%)	5 (12.2%)	8 (19.5%)	41 (100.0%)	
2006年(n=42)	22 (52.4%)	7 (16.7%)	8 (19.0%)	5 (11.9%)	42 (100.0%)	
2004年(n=42)	21 (50.0%)	5 (11.9%)	9 (21.4%)	7 (16.7%)	42 (100.0%)	
2002年(n=45)	19 (42.2%)	6 (13.3%)	9 (20.0%)	11 (24.4%)	45 (100.0%)	



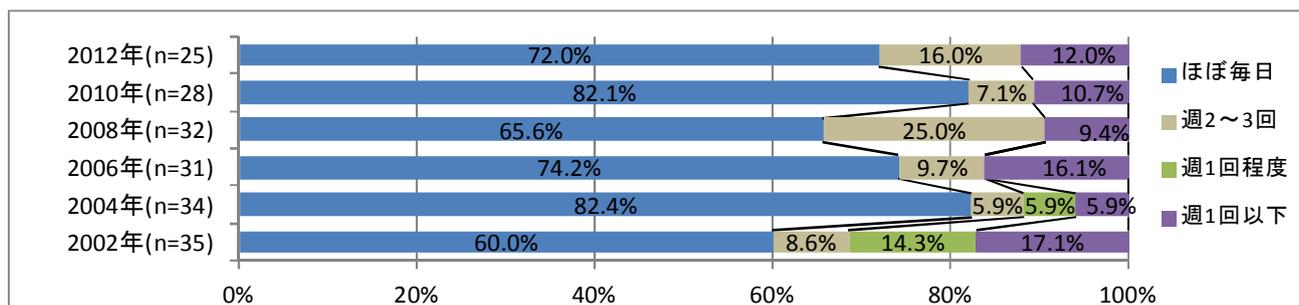
図表 1-19 趣味活動の活動頻度（前期高齢期群）

	ほぼ毎日	週2～3回	週1回程度	週1回以下	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=54)	34 (63.0%)	7 (13.0%)	3 (5.6%)	9 (16.7%)	1 (1.9%)	54 (100.0%)	
2010年(n=59)	34 (57.6%)	9 (15.3%)	5 (8.5%)	11 (18.6%)	0 (0.0%)	59 (100.0%)	
2008年(n=61)	34 (55.7%)	11 (18.0%)	3 (4.9%)	13 (21.3%)	0 (0.0%)	61 (100.0%)	
2006年(n=61)	30 (49.2%)	13 (21.3%)	7 (11.5%)	11 (18.0%)	0 (0.0%)	61 (100.0%)	
2004年(n=69)	36 (52.2%)	11 (15.9%)	5 (7.2%)	17 (24.6%)	0 (0.0%)	69 (100.0%)	
2002年(n=66)	28 (42.4%)	13 (19.7%)	12 (18.2%)	13 (19.7%)	0 (0.0%)	66 (100.0%)	



図表 1-20 趣味活動の活動頻度（後期高齢期群）

	ほぼ毎日	週2～3回	週1回程度	週1回以下	合計	人数(割合)
2012年(n=25)	18 (72.0%)	4 (16.0%)	0 (0.0%)	3 (12.0%)	25 (100.0%)	
2010年(n=28)	23 (82.1%)	2 (7.1%)	0 (0.0%)	3 (10.7%)	28 (100.0%)	
2008年(n=32)	21 (65.6%)	8 (25.0%)	0 (0.0%)	3 (9.4%)	32 (100.0%)	
2006年(n=31)	23 (74.2%)	3 (9.7%)	0 (0.0%)	5 (16.1%)	31 (100.0%)	
2004年(n=34)	28 (82.4%)	2 (5.9%)	2 (5.9%)	2 (5.9%)	34 (100.0%)	
2002年(n=35)	21 (60.0%)	3 (8.6%)	5 (14.3%)	6 (17.1%)	35 (100.0%)	



■趣味活動を一緒に行う人の有無

(「Q.趣味活動の有無」で「している」と回答した人のみ)

(全体の結果)

趣味活動を一緒に行う相手が「いる」と回答した人は、初回調査時(2002年)が67.1%と最も多く、それ以降も5割~6割程度で推移している。(図表1-21)

(壮年期群→Y0)

趣味活動を一緒に行う相手が「いる」と回答した人は、すべての調査時で6割以上を維持しているが、2008年調査時と2012年調査時には7割以上を占めており、他の年と比較してやや多い。(図表1-22)

(前期高齢期群→00)

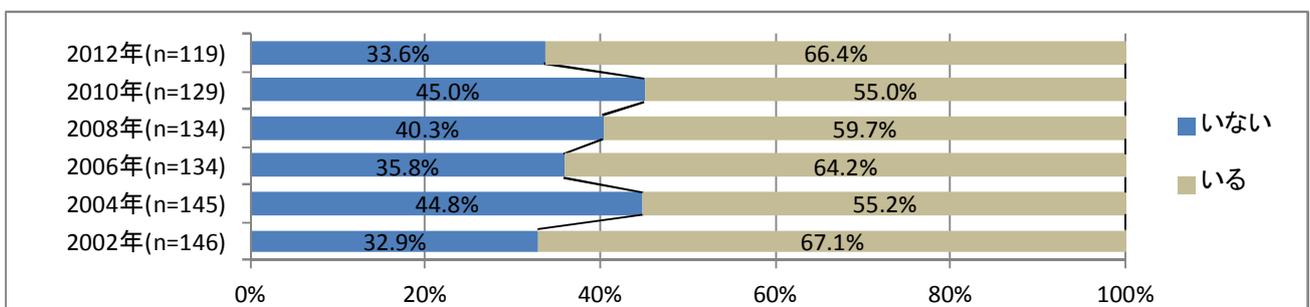
趣味活動を一緒に行う相手が「いる」と回答した人は、2006年調査時が65.6%と最も多く、それ以外も4割~6割程度で推移している。(図表1-23)

(後期高齢期群→0d0)

趣味活動を一緒に行う相手が「いる」と回答した人は、初回調査時(2002年)が77.1%と最も多く、それ以降も5割~7割程度で推移している。(図表1-24)

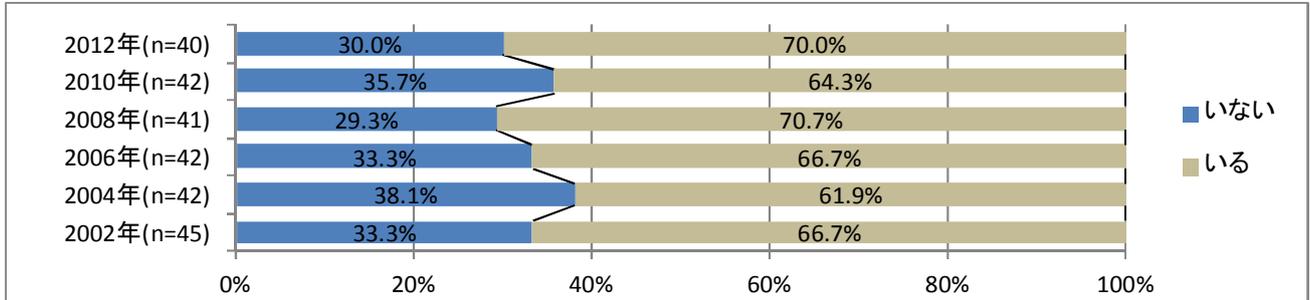
図表1-21 趣味活動を一緒に行う人の有無(全体)

	いない	いる	合計	人数(割合)
2012年(n=119)	40 (33.6%)	79 (66.4%)	119 (100.0%)	
2010年(n=129)	58 (45.0%)	71 (55.0%)	129 (100.0%)	
2008年(n=134)	54 (40.3%)	80 (59.7%)	134 (100.0%)	
2006年(n=134)	48 (35.8%)	86 (64.2%)	134 (100.0%)	
2004年(n=145)	65 (44.8%)	80 (55.2%)	145 (100.0%)	
2002年(n=146)	48 (32.9%)	98 (67.1%)	146 (100.0%)	



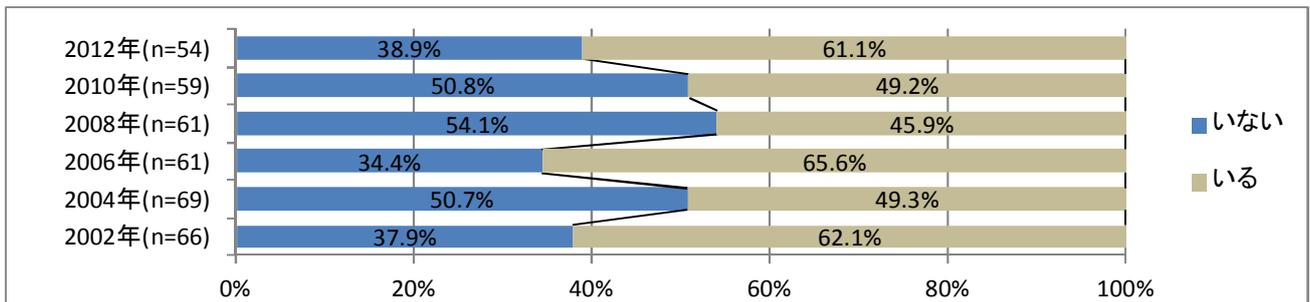
図表 1-22 趣味活動を一緒に行う人の有無（壮年期群）

	いない	いる	合計	人数(割合)
2012年(n=40)	12 (30.0%)	28 (70.0%)	40 (100.0%)	
2010年(n=42)	15 (35.7%)	27 (64.3%)	42 (100.0%)	
2008年(n=41)	12 (29.3%)	29 (70.7%)	41 (100.0%)	
2006年(n=42)	14 (33.3%)	28 (66.7%)	42 (100.0%)	
2004年(n=42)	16 (38.1%)	26 (61.9%)	42 (100.0%)	
2002年(n=45)	15 (33.3%)	30 (66.7%)	45 (100.0%)	



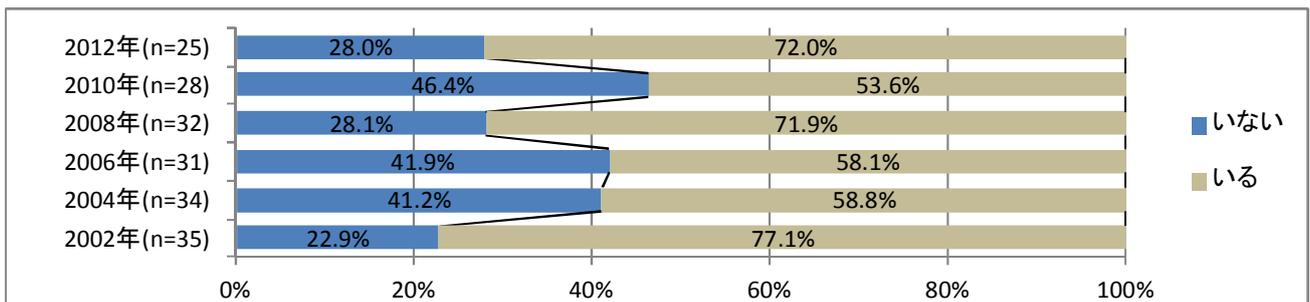
図表 1-23 趣味活動を一緒に行う人の有無（前期高齢期群）

	いない	いる	合計	人数(割合)
2012年(n=54)	21 (38.9%)	33 (61.1%)	54 (100.0%)	
2010年(n=59)	30 (50.8%)	29 (49.2%)	59 (100.0%)	
2008年(n=61)	33 (54.1%)	28 (45.9%)	61 (100.0%)	
2006年(n=61)	21 (34.4%)	40 (65.6%)	61 (100.0%)	
2004年(n=69)	35 (50.7%)	34 (49.3%)	69 (100.0%)	
2002年(n=66)	25 (37.9%)	41 (62.1%)	66 (100.0%)	



図表 1-24 趣味活動を一緒に行う人の有無（後期高齢期群）

	いない	いる	合計	人数(割合)
2012年(n=25)	7 (28.0%)	18 (72.0%)	25 (100.0%)	
2010年(n=28)	13 (46.4%)	15 (53.6%)	28 (100.0%)	
2008年(n=32)	9 (28.1%)	23 (71.9%)	32 (100.0%)	
2006年(n=31)	13 (41.9%)	18 (58.1%)	31 (100.0%)	
2004年(n=34)	14 (41.2%)	20 (58.8%)	34 (100.0%)	
2002年(n=35)	8 (22.9%)	27 (77.1%)	35 (100.0%)	



■趣味活動を一緒に行う人の人数

(「Q.趣味活動を一緒に行う人の有無」で「いる」と回答した人のみ)

(全体の結果)

趣味活動を一緒に行う仲間が「4人以上」いる人が最も多く、すべての調査時で6割以上を占めている。2004年調査時の78.8%をピークに漸減し、2012年調査時では62.0%と最も少なくなっている(-16.8ポイント)。一方「2~3人」の回答は、初回調査時(2002年)が9.2%と最も少なく、その後は2010年調査時を除いて漸増傾向にあり、2012年調査時では27.8%と最も多い(+18.6ポイント)。(図表1-25)

(壮年期群→Y0)

趣味活動を一緒に行う仲間が「4人以上」いる人は、すべての調査時でほぼ6割を超えている。2010年調査時が59.3%と最も少なく、それ以外はほぼ7割で推移している。一方「2~3人」の回答は、2008年調査時から漸増傾向にあり、2012年調査時では28.6%と最も多い(+11.4ポイント)。(図表1-26)

(前期高齢期群→00)

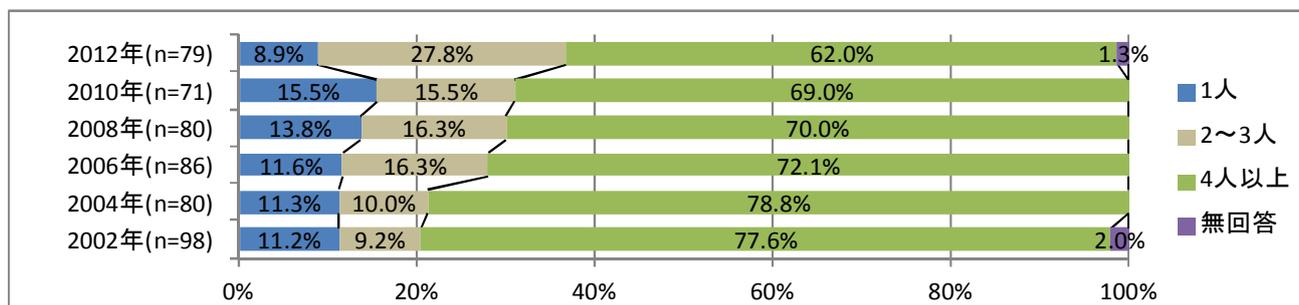
趣味活動を一緒に行う仲間が「4人以上」いる人が最も多く、すべての調査時で半数以上を占めている。2004年調査時が79.4%と最も多く、その後は2010年調査時を除いて漸減傾向にあり、2012年調査時では57.6%と最も少ない(-21.8ポイント)。一方「2~3人」の回答は、初回調査時(2002年)が4.9%と最も少なく、その後は2010年調査時を除いて漸増傾向にあり、2012年調査時では21.2%と最も多い(+16.3ポイント)。(図表1-27)

(後期高齢期群→0d0)

趣味活動を一緒に行う仲間が「4人以上」いる人が最も多く、すべての調査時で半数以上を占めている。2004年調査時の90.0%をピークに漸減し、2012年調査時では55.6%と大幅に減少しているが(-34.4ポイント)、特に2010年調査時以降2年間での減少が大きい(-17.7ポイント)。一方「2~3人」の回答は、2012年調査時が38.9%とこれまでの調査で最も多い。(図表1-28)

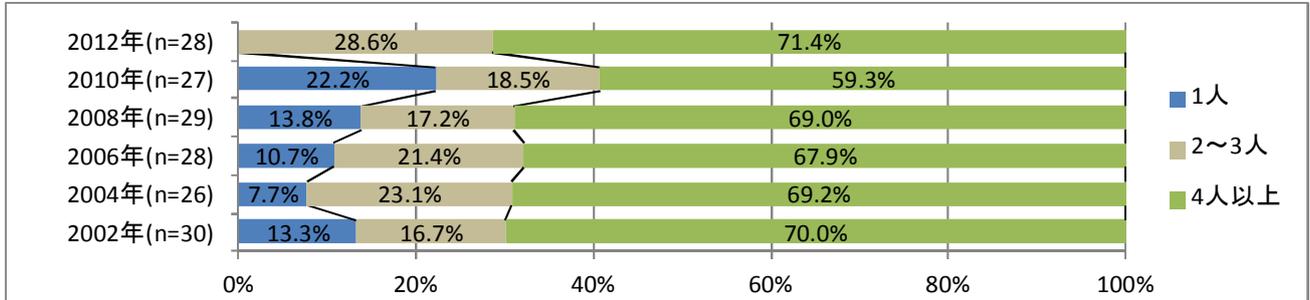
図表 1-25 趣味活動を一緒に行う人の人数 (全体)

	1人	2~3人	4人以上	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=79)	7 (8.9%)	22 (27.8%)	49 (62.0%)	1 (1.3%)	79 (100.0%)	
2010年(n=71)	11 (15.5%)	11 (15.5%)	49 (69.0%)	0 (0.0%)	71 (100.0%)	
2008年(n=80)	11 (13.8%)	13 (16.3%)	56 (70.0%)	0 (0.0%)	80 (100.0%)	
2006年(n=86)	10 (11.6%)	14 (16.3%)	62 (72.1%)	0 (0.0%)	86 (100.0%)	
2004年(n=80)	9 (11.3%)	8 (10.0%)	63 (78.8%)	0 (0.0%)	80 (100.0%)	
2002年(n=98)	11 (11.2%)	9 (9.2%)	76 (77.6%)	2 (2.0%)	98 (100.0%)	



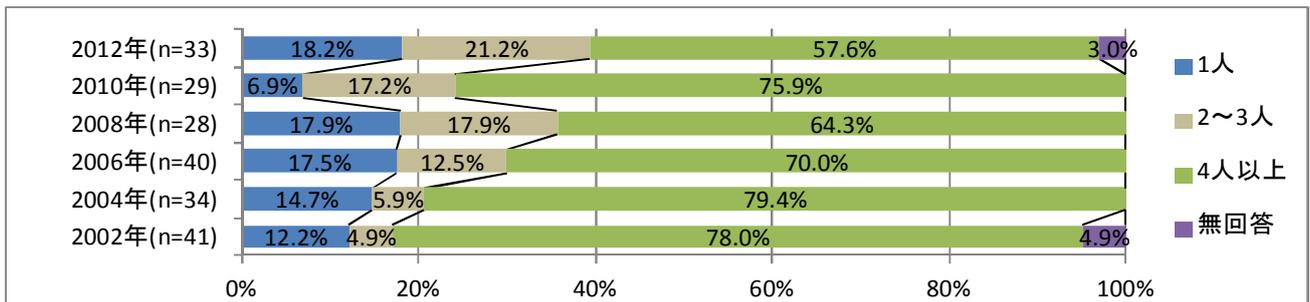
図表 1-26 趣味活動を一緒に行う人の人数（壮年期群）

	1人	2～3人	4人以上	合計	人数(割合)
2012年(n=28)	0 (0.0%)	8 (28.6%)	20 (71.4%)	28 (100.0%)	
2010年(n=27)	6 (22.2%)	5 (18.5%)	16 (59.3%)	27 (100.0%)	
2008年(n=29)	4 (13.8%)	5 (17.2%)	20 (69.0%)	29 (100.0%)	
2006年(n=28)	3 (10.7%)	6 (21.4%)	19 (67.9%)	28 (100.0%)	
2004年(n=26)	2 (7.7%)	6 (23.1%)	18 (69.2%)	26 (100.0%)	
2002年(n=30)	4 (13.3%)	5 (16.7%)	21 (70.0%)	30 (100.0%)	



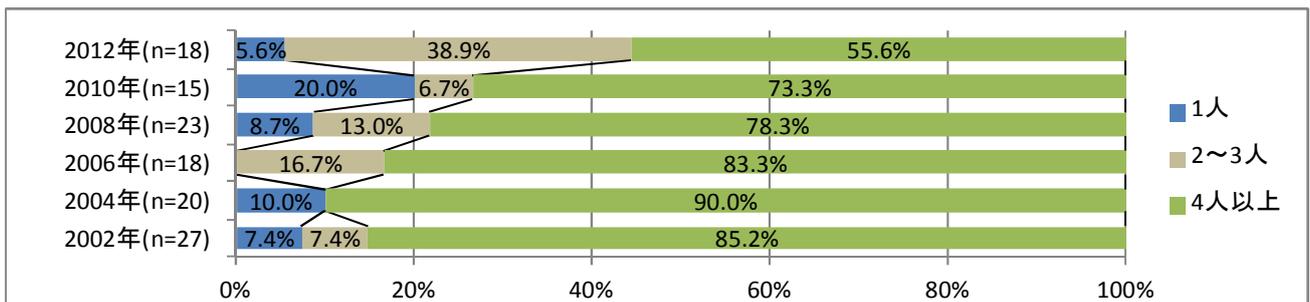
図表 1-27 趣味活動を一緒に行う人の人数（前期高齢期群）

	1人	2～3人	4人以上	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=33)	6 (18.2%)	7 (21.2%)	19 (57.6%)	1 (3.0%)	33 (100.0%)	
2010年(n=29)	2 (6.9%)	5 (17.2%)	22 (75.9%)	0 (0.0%)	29 (100.0%)	
2008年(n=28)	5 (17.9%)	5 (17.9%)	18 (64.3%)	0 (0.0%)	28 (100.0%)	
2006年(n=40)	7 (17.5%)	5 (12.5%)	28 (70.0%)	0 (0.0%)	40 (100.0%)	
2004年(n=34)	5 (14.7%)	2 (5.9%)	27 (79.4%)	0 (0.0%)	34 (100.0%)	
2002年(n=41)	5 (12.2%)	2 (4.9%)	32 (78.0%)	2 (4.9%)	41 (100.0%)	



図表 1-28 趣味活動を一緒に行う人の人数（後期高齢期群）

	1人	2～3人	4人以上	合計	人数(割合)
2012年(n=18)	1 (5.6%)	7 (38.9%)	10 (55.6%)	18 (100.0%)	
2010年(n=15)	3 (20.0%)	1 (6.7%)	11 (73.3%)	15 (100.0%)	
2008年(n=23)	2 (8.7%)	3 (13.0%)	18 (78.3%)	23 (100.0%)	
2006年(n=18)	0 (0.0%)	3 (16.7%)	15 (83.3%)	18 (100.0%)	
2004年(n=20)	2 (10.0%)	0 (0.0%)	18 (90.0%)	20 (100.0%)	
2002年(n=27)	2 (7.4%)	2 (7.4%)	23 (85.2%)	27 (100.0%)	



2) 対人交流

■家にいるときに一緒に過ごす相手

(全体の結果)

「家にいるときに一緒に過ごす相手」で「配偶者」と回答した人は、すべての調査時で半数以上であり、初回調査時（2002年）が66.7%と最も多い。初回調査時（2002年）から2010年調査時まで6割以上で推移しているが、2012年調査時では52.0%と最も少なくなっている。一方「一人」と回答した人は、2012年調査時が16.9%とこれまでの調査で最も多くなっている。（図表2-1）

(壮年期群→Y0)

「家にいるときに一緒に過ごす相手」で「配偶者」と回答した人は、すべての調査時で7割以上を占めている。2006年調査時から漸増傾向にあり、2010年調査時では82.8%と最も多い（+5.2ポイント）。しかし、2012年調査時では74.1%と2年間で8.7ポイント減少している。一方「一人」と回答した人は、2012年調査時が13.8%とこれまでの調査で最も多くなっている。（図表2-2）

(前期高齢期群→00)

「家にいるときに一緒に過ごす相手」で「配偶者」と回答した人は、すべての調査時で半数以上であり、初回調査時が65.4%と最も多い。初回調査時（2002年）から2010年調査時まで6割程度で推移しているが、2012年調査時では51.3%と最も少なくなっている。一方「一人」と回答した人は、初回調査時（2002年）が7.7%と最も少なく、その後は漸増傾向にあり、2012年調査時では21.8%と最も多くなっている（+14.1ポイント）。（図表2-3）

(後期高齢期群→0d0)

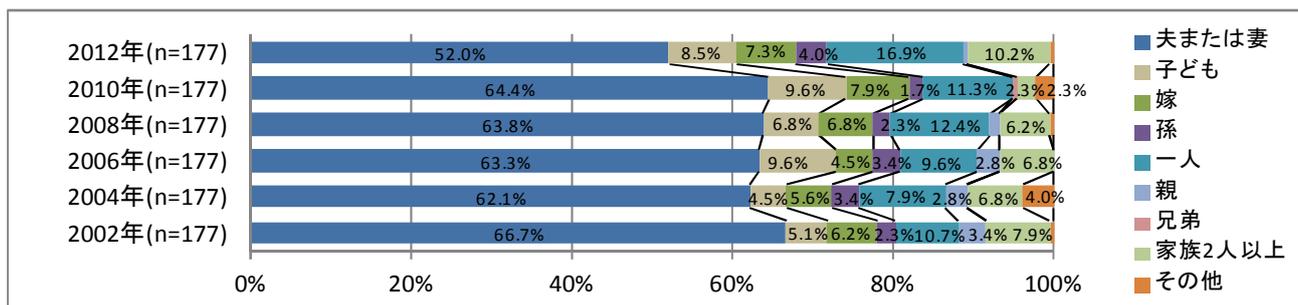
「家にいるときに一緒に過ごす相手」で「配偶者」と回答した人は、初回調査時（2002年）が63.4%と最も多く、その後は2008年調査時を除いて漸減傾向にあり、2012年調査時では22.0%と非常に大きく減少している（-41.4ポイント）。（図表2-4）

図表 2-1 家にいるときに一緒に過ごす相手（全体）

	夫または妻	子ども	嫁	孫	一人	親
2012年(n=177)	92 (52.0%)	15 (8.5%)	13 (7.3%)	7 (4.0%)	30 (16.9%)	1 (0.6%)
2010年(n=177)	114 (64.4%)	17 (9.6%)	14 (7.9%)	3 (1.7%)	20 (11.3%)	0 (0.0%)
2008年(n=177)	113 (63.8%)	12 (6.8%)	12 (6.8%)	4 (2.3%)	22 (12.4%)	2 (1.1%)
2006年(n=177)	112 (63.3%)	17 (9.6%)	8 (4.5%)	6 (3.4%)	17 (9.6%)	5 (2.8%)
2004年(n=177)	110 (62.1%)	8 (4.5%)	10 (5.6%)	6 (3.4%)	19 (10.7%)	5 (2.8%)
2002年(n=177)	118 (66.7%)	9 (5.1%)	11 (6.2%)	4 (2.3%)	14 (7.9%)	6 (3.4%)

	兄弟	家族2人以上	その他	合計
2012年(n=177)	0 (0.0%)	18 (10.2%)	1 (0.6%)	177 (100.0%)
2010年(n=177)	1 (0.6%)	4 (2.3%)	4 (2.3%)	177 (100.0%)
2008年(n=177)	0 (0.0%)	11 (6.2%)	1 (0.6%)	177 (100.0%)
2006年(n=177)	0 (0.0%)	12 (6.8%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)
2004年(n=177)	0 (0.0%)	12 (6.8%)	7 (4.0%)	177 (100.0%)
2002年(n=177)	0 (0.0%)	14 (7.9%)	1 (0.6%)	177 (100.0%)

人数(割合)

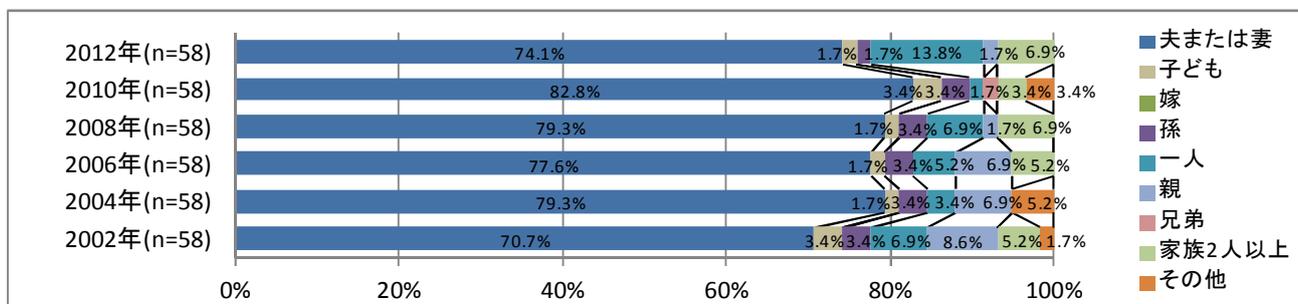


図表 2-2 家にいるときに一緒に過ごす相手（壮年期群）

	夫または妻	子ども	嫁	孫	一人	親
2012年(n=58)	43 (74.1%)	1 (1.7%)	0 (0.0%)	1 (1.7%)	8 (13.8%)	1 (1.7%)
2010年(n=58)	48 (82.8%)	2 (3.4%)	0 (0.0%)	2 (3.4%)	1 (1.7%)	0 (0.0%)
2008年(n=58)	46 (79.3%)	1 (1.7%)	0 (0.0%)	2 (3.4%)	4 (6.9%)	1 (1.7%)
2006年(n=58)	45 (77.6%)	1 (1.7%)	0 (0.0%)	2 (3.4%)	3 (5.2%)	4 (6.9%)
2004年(n=58)	46 (79.3%)	1 (1.7%)	0 (0.0%)	2 (3.4%)	2 (3.4%)	4 (6.9%)
2002年(n=58)	41 (70.7%)	2 (3.4%)	0 (0.0%)	2 (3.4%)	4 (6.9%)	5 (8.6%)

	兄弟	家族2人以上	その他	合計
2012年(n=58)	0 (0.0%)	4 (6.9%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)
2010年(n=58)	1 (1.7%)	2 (3.4%)	2 (3.4%)	58 (100.0%)
2008年(n=58)	0 (0.0%)	4 (6.9%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)
2006年(n=58)	0 (0.0%)	3 (5.2%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)
2004年(n=58)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (5.2%)	58 (100.0%)
2002年(n=58)	0 (0.0%)	3 (5.2%)	1 (1.7%)	58 (100.0%)

人数(割合)

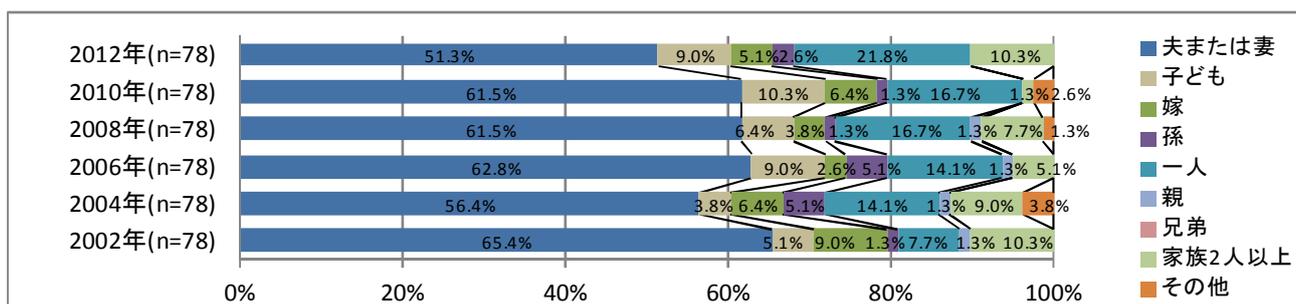


図表 2-3 家にいるときに一緒に過ごす相手（前期高齢期群）

	夫または妻	子ども	嫁	孫	一人	親
2012年(n=78)	40 (51.3%)	7 (9.0%)	4 (5.1%)	2 (2.6%)	17 (21.8%)	0 (0.0%)
2010年(n=78)	48 (61.5%)	8 (10.3%)	5 (6.4%)	1 (1.3%)	13 (16.7%)	0 (0.0%)
2008年(n=78)	48 (61.5%)	5 (6.4%)	3 (3.8%)	1 (1.3%)	13 (16.7%)	1 (1.3%)
2006年(n=78)	49 (62.8%)	7 (9.0%)	2 (2.6%)	4 (5.1%)	11 (14.1%)	1 (1.3%)
2004年(n=78)	44 (56.4%)	3 (3.8%)	5 (6.4%)	4 (5.1%)	11 (14.1%)	1 (1.3%)
2002年(n=78)	51 (65.4%)	4 (5.1%)	7 (9.0%)	1 (1.3%)	6 (7.7%)	1 (1.3%)

	兄弟	家族2人以上	その他	合計
2012年(n=78)	0 (0.0%)	8 (10.3%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)
2010年(n=78)	0 (0.0%)	1 (1.3%)	2 (2.6%)	78 (100.0%)
2008年(n=78)	0 (0.0%)	6 (7.7%)	1 (1.3%)	78 (100.0%)
2006年(n=78)	0 (0.0%)	4 (5.1%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)
2004年(n=78)	0 (0.0%)	7 (9.0%)	3 (3.8%)	78 (100.0%)
2002年(n=78)	0 (0.0%)	8 (10.3%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)

人数(割合)

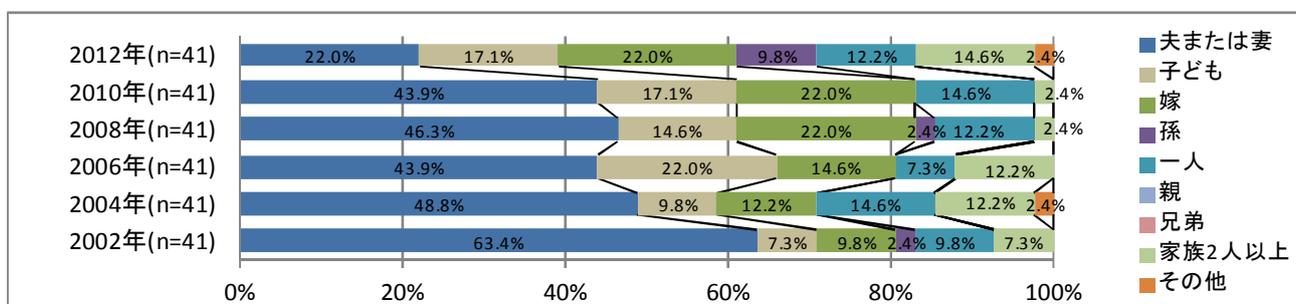


図表 2-4 家にいるときに一緒に過ごす相手（後期高齢期群）

	夫または妻	子ども	嫁	孫	一人	親
2012年(n=41)	9 (22.0%)	7 (17.1%)	9 (22.0%)	4 (9.8%)	5 (12.2%)	0 (0.0%)
2010年(n=41)	18 (43.9%)	7 (17.1%)	9 (22.0%)	0 (0.0%)	6 (14.6%)	0 (0.0%)
2008年(n=41)	19 (46.3%)	6 (14.6%)	9 (22.0%)	1 (2.4%)	5 (12.2%)	0 (0.0%)
2006年(n=41)	18 (43.9%)	9 (22.0%)	6 (14.6%)	0 (0.0%)	3 (7.3%)	0 (0.0%)
2004年(n=41)	20 (48.8%)	4 (9.8%)	5 (12.2%)	0 (0.0%)	6 (14.6%)	0 (0.0%)
2002年(n=41)	26 (63.4%)	3 (7.3%)	4 (9.8%)	1 (2.4%)	4 (9.8%)	0 (0.0%)

	兄弟	家族2人以上	その他	合計
2012年(n=41)	0 (0.0%)	6 (14.6%)	1 (2.4%)	41 (100.0%)
2010年(n=41)	0 (0.0%)	1 (2.4%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)
2008年(n=41)	0 (0.0%)	1 (2.4%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)
2006年(n=41)	0 (0.0%)	5 (12.2%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)
2004年(n=41)	0 (0.0%)	5 (12.2%)	1 (2.4%)	41 (100.0%)
2002年(n=41)	0 (0.0%)	3 (7.3%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)

人数(割合)



■同居していない子どもの有無

(全体の結果)

同居していない子どもが「いる」と回答した人は、すべての調査時でほぼ9割を維持しており、大きな変化はみられない。(図表 2-5)

(壮年期群→Y0)

同居していない子どもが「いる」と回答した人は、すべての調査時で8割以上を維持しているが、2004年調査時と2006年調査時が84.5%と最も少なく、それ以降はほぼ9割を維持している。(図表 2-6)

(前期高齢期群→00)

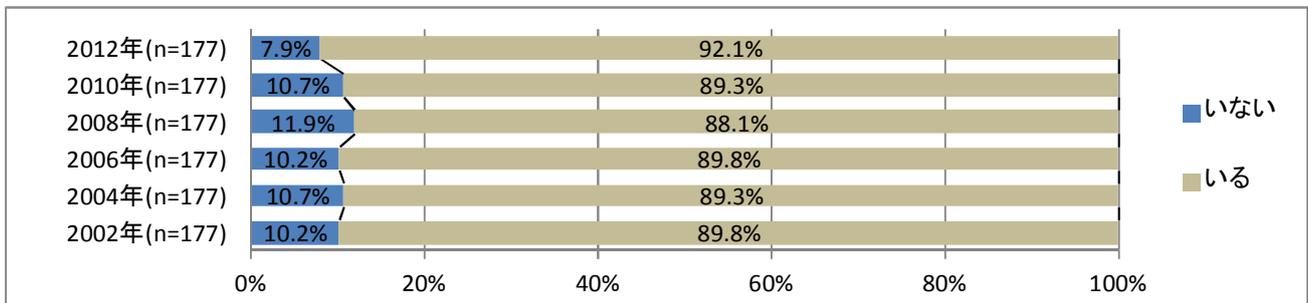
同居していない子どもが「いる」と回答した人は、すべての調査時でほぼ9割を維持しており、大きな変化はみられない。(図表 2-7)

(後期高齢期群→0d0)

同居していない子どもが「いる」と回答した人は、すべての調査時で8割以上を維持しているが、2008年調査時と2010年調査時が82.9%と最も少なく、それ以外はほぼ9割を占めている。(図表 2-8)

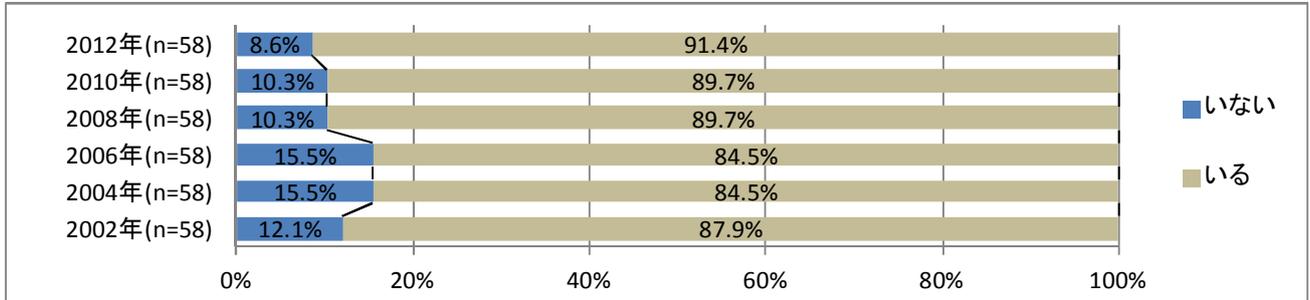
図表 2-5 同居していない子どもの有無 (全体)

	いない	いる	合計	人数(割合)
2012年(n=177)	14 (7.9%)	163 (92.1%)	177 (100.0%)	
2010年(n=177)	19 (10.7%)	158 (89.3%)	177 (100.0%)	
2008年(n=177)	21 (11.9%)	156 (88.1%)	177 (100.0%)	
2006年(n=177)	18 (10.2%)	159 (89.8%)	177 (100.0%)	
2004年(n=177)	19 (10.7%)	158 (89.3%)	177 (100.0%)	
2002年(n=177)	18 (10.2%)	159 (89.8%)	177 (100.0%)	



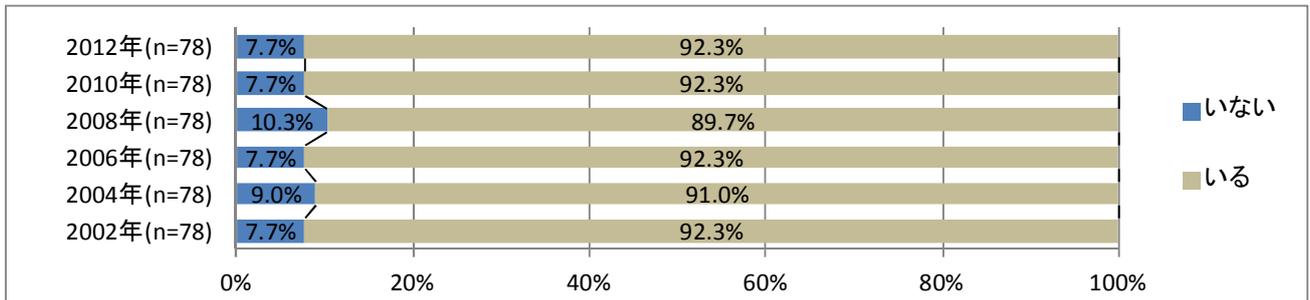
図表 2-6 同居していない子どもの有無（壮年期群）

	いない	いる	合計	人数(割合)
2012年(n=58)	5 (8.6%)	53 (91.4%)	58 (100.0%)	
2010年(n=58)	6 (10.3%)	52 (89.7%)	58 (100.0%)	
2008年(n=58)	6 (10.3%)	52 (89.7%)	58 (100.0%)	
2006年(n=58)	9 (15.5%)	49 (84.5%)	58 (100.0%)	
2004年(n=58)	9 (15.5%)	49 (84.5%)	58 (100.0%)	
2002年(n=58)	7 (12.1%)	51 (87.9%)	58 (100.0%)	



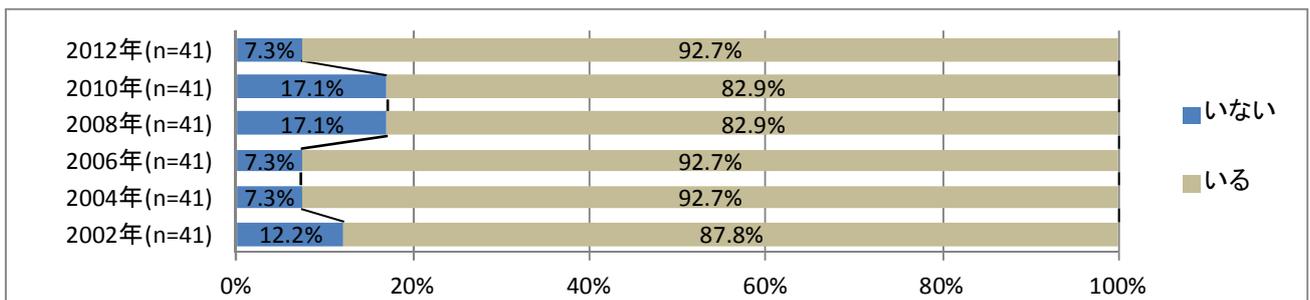
図表 2-7 同居していない子どもの有無（前期高齢期群）

	いない	いる	合計	人数(割合)
2012年(n=78)	6 (7.7%)	72 (92.3%)	78 (100.0%)	
2010年(n=78)	6 (7.7%)	72 (92.3%)	78 (100.0%)	
2008年(n=78)	8 (10.3%)	70 (89.7%)	78 (100.0%)	
2006年(n=78)	6 (7.7%)	72 (92.3%)	78 (100.0%)	
2004年(n=78)	7 (9.0%)	71 (91.0%)	78 (100.0%)	
2002年(n=78)	6 (7.7%)	72 (92.3%)	78 (100.0%)	



図表 2-8 同居していない子どもの有無（後期高齢期群）

	いない	いる	合計	人数(割合)
2012年(n=41)	3 (7.3%)	38 (92.7%)	41 (100.0%)	
2010年(n=41)	7 (17.1%)	34 (82.9%)	41 (100.0%)	
2008年(n=41)	7 (17.1%)	34 (82.9%)	41 (100.0%)	
2006年(n=41)	3 (7.3%)	38 (92.7%)	41 (100.0%)	
2004年(n=41)	3 (7.3%)	38 (92.7%)	41 (100.0%)	
2002年(n=41)	5 (12.2%)	36 (87.8%)	41 (100.0%)	



■同居していない子どもとの連絡頻度

(「Q.同居していない子どもの有無」で「いる」と回答した人のみ)

(全体の結果)

「週2～3回」「週1回程度」を合わせて「週1回以上」子どもと連絡をとっている人は、すべての調査時で3割以上を占めており、初回調査時(2002年)が42.8%と最も多い。2006年調査時から漸減傾向にあり、2012年調査時には33.2%と最も少なくなっている(-8.9ポイント)。一方「ほぼ毎日」連絡をとっている人は、2008年調査時から漸増傾向にあり、2012年調査時は24.5%と最も多い(+9.8ポイント)。(図表2-9)

(壮年期群→Y0)

「週2～3回」「週1回程度」を合わせて「週1回以上」子どもと連絡をとっている人は、初回調査時(2002年)から2008年調査時まで4割以上で推移しているが、2010年調査時以降は2割～3割程度に減少している。一方「ほぼ毎日」連絡をとっている人は、2008年調査時が11.5%と最も少なく、その後は漸増傾向にあり、2012年調査時は18.9%に増加している(+7.4ポイント)。(図表2-10)

(前期高齢期群→00)

「週2～3回」「週1回程度」を合わせて「週1回以上」子どもと連絡をとっている人は、初回調査時(2002年)から2010年調査時までほぼ4割を超えているが、2012年調査時には33.3%と最も少ない。一方「ほぼ毎日」連絡をとっている人は、2008年調査時から漸増傾向にあり、2012年調査時は27.8%と最も多い(+13.5ポイント)。

(図表2-11)

(後期高齢期群→0d0)

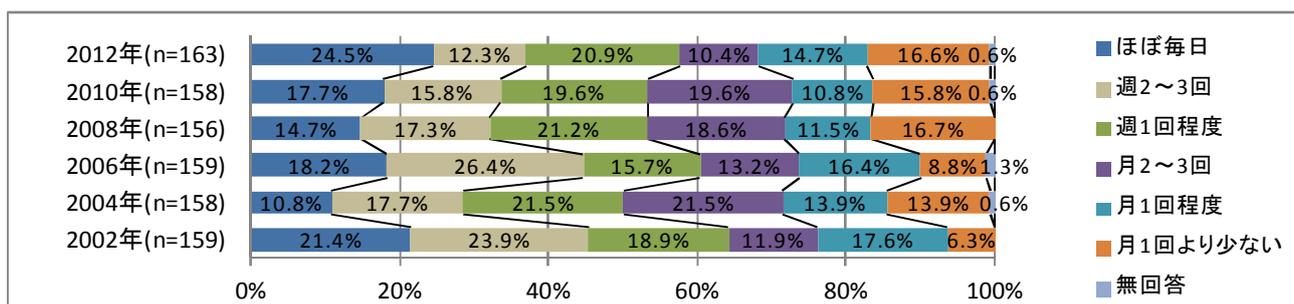
「週2～3回」「週1回程度」を合わせて「週1回以上」子どもと連絡をとっている人は、2004年調査時と2006年調査時が2割程度と少ないが、それ以外は3割以上を占めている。一方「ほぼ毎日」連絡をとっている人は、すべての調査時において1割～2割程度で推移しているが、2012年調査時が26.3%と最も多い。(図表2-12)

図表 2-9 同居していない子どもとの連絡頻度（全体）

	ほぼ毎日	週2～3回	週1回程度	月2～3回	月1回程度
2012年(n=163)	40 (24.5%)	20 (12.3%)	34 (20.9%)	17 (10.4%)	24 (14.7%)
2010年(n=158)	28 (17.7%)	25 (15.8%)	31 (19.6%)	31 (19.6%)	17 (10.8%)
2008年(n=156)	23 (14.7%)	27 (17.3%)	33 (21.2%)	29 (18.6%)	18 (11.5%)
2006年(n=159)	29 (18.2%)	42 (26.4%)	25 (15.7%)	21 (13.2%)	26 (16.4%)
2004年(n=158)	17 (10.8%)	28 (17.7%)	34 (21.5%)	34 (21.5%)	22 (13.9%)
2002年(n=159)	34 (21.4%)	38 (23.9%)	30 (18.9%)	19 (11.9%)	28 (17.6%)

	月1回より少ない	無回答	合計
2012年(n=163)	27 (16.6%)	1 (0.6%)	163 (100.0%)
2010年(n=158)	25 (15.8%)	1 (0.6%)	158 (100.0%)
2008年(n=156)	26 (16.7%)	0 (0.0%)	156 (100.0%)
2006年(n=159)	14 (8.8%)	2 (1.3%)	159 (100.0%)
2004年(n=158)	22 (13.9%)	1 (0.6%)	158 (100.0%)
2002年(n=159)	10 (6.3%)	0 (0.0%)	159 (100.0%)

人数(割合)

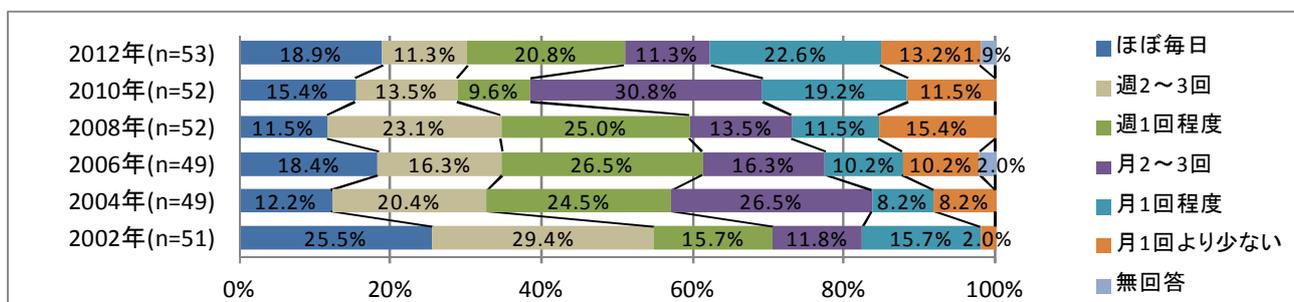


図表 2-10 同居していない子どもとの連絡頻度（壮年期群）

	ほぼ毎日	週2～3回	週1回程度	月2～3回	月1回程度
2012年(n=53)	10 (18.9%)	6 (11.3%)	11 (20.8%)	6 (11.3%)	12 (22.6%)
2010年(n=52)	8 (15.4%)	7 (13.5%)	5 (9.6%)	16 (30.8%)	10 (19.2%)
2008年(n=52)	6 (11.5%)	12 (23.1%)	13 (25.0%)	7 (13.5%)	6 (11.5%)
2006年(n=49)	9 (18.4%)	8 (16.3%)	13 (26.5%)	8 (16.3%)	5 (10.2%)
2004年(n=49)	6 (12.2%)	10 (20.4%)	12 (24.5%)	13 (26.5%)	4 (8.2%)
2002年(n=51)	13 (25.5%)	15 (29.4%)	8 (15.7%)	6 (11.8%)	8 (15.7%)

	月1回より少ない	無回答	合計
2012年(n=53)	7 (13.2%)	1 (1.9%)	53 (100.0%)
2010年(n=52)	6 (11.5%)	0 (0.0%)	52 (100.0%)
2008年(n=52)	8 (15.4%)	0 (0.0%)	52 (100.0%)
2006年(n=49)	5 (10.2%)	1 (2.0%)	49 (100.0%)
2004年(n=49)	4 (8.2%)	0 (0.0%)	49 (100.0%)
2002年(n=51)	1 (2.0%)	0 (0.0%)	51 (100.0%)

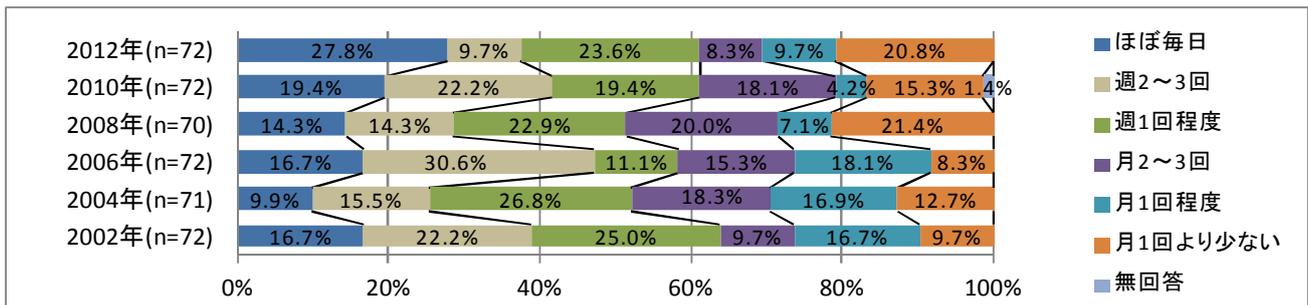
人数(割合)



図表 2-11 同居していない子どもとの連絡頻度（前期高齢期群）

	ほぼ毎日	週2～3回	週1回程度	月2～3回	月1回程度
2012年(n=72)	20 (27.8%)	7 (9.7%)	17 (23.6%)	6 (8.3%)	7 (9.7%)
2010年(n=72)	14 (19.4%)	16 (22.2%)	14 (19.4%)	13 (18.1%)	3 (4.2%)
2008年(n=70)	10 (14.3%)	10 (14.3%)	16 (22.9%)	14 (20.0%)	5 (7.1%)
2006年(n=72)	12 (16.7%)	22 (30.6%)	8 (11.1%)	11 (15.3%)	13 (18.1%)
2004年(n=71)	7 (9.9%)	11 (15.5%)	19 (26.8%)	13 (18.3%)	12 (16.9%)
2002年(n=72)	12 (16.7%)	16 (22.2%)	18 (25.0%)	7 (9.7%)	12 (16.7%)

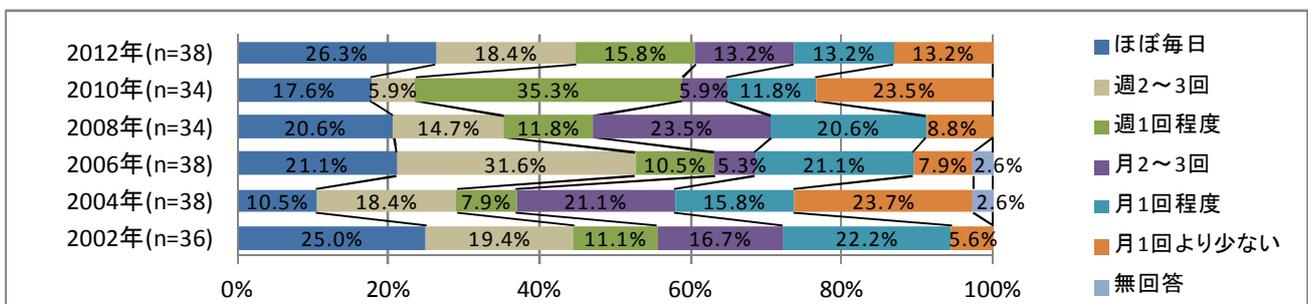
	月1回より少ない	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=72)	15 (20.8%)	0 (0.0%)	72 (100.0%)	
2010年(n=72)	11 (15.3%)	1 (1.4%)	72 (100.0%)	
2008年(n=70)	15 (21.4%)	0 (0.0%)	70 (100.0%)	
2006年(n=72)	6 (8.3%)	0 (0.0%)	72 (100.0%)	
2004年(n=71)	9 (12.7%)	0 (0.0%)	71 (100.0%)	
2002年(n=72)	7 (9.7%)	0 (0.0%)	72 (100.0%)	



図表 2-12 同居していない子どもとの連絡頻度（後期高齢期群）

	ほぼ毎日	週2～3回	週1回程度	月2～3回	月1回程度
2012年(n=38)	10 (26.3%)	7 (18.4%)	6 (15.8%)	5 (13.2%)	5 (13.2%)
2010年(n=34)	6 (17.6%)	2 (5.9%)	12 (35.3%)	2 (5.9%)	4 (11.8%)
2008年(n=34)	7 (20.6%)	5 (14.7%)	4 (11.8%)	8 (23.5%)	7 (20.6%)
2006年(n=38)	8 (21.1%)	12 (31.6%)	4 (10.5%)	2 (5.3%)	8 (21.1%)
2004年(n=38)	4 (10.5%)	7 (18.4%)	3 (7.9%)	8 (21.1%)	6 (15.8%)
2002年(n=36)	9 (25.0%)	7 (19.4%)	4 (11.1%)	6 (16.7%)	8 (22.2%)

	月1回より少ない	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=38)	5 (13.2%)	0 (0.0%)	38 (100.0%)	
2010年(n=34)	8 (23.5%)	0 (0.0%)	34 (100.0%)	
2008年(n=34)	3 (8.8%)	0 (0.0%)	34 (100.0%)	
2006年(n=38)	3 (7.9%)	1 (2.6%)	38 (100.0%)	
2004年(n=38)	9 (23.7%)	1 (2.6%)	38 (100.0%)	
2002年(n=36)	2 (5.6%)	0 (0.0%)	36 (100.0%)	



■普段つきあいのある親戚の有無

(全体の結果)

普段つきあいのある親戚が「いる」と回答した人は、すべての調査時で95%以上を維持しており、大きな変化はみられない。(図表 2-13)

(壮年期群→Y0)

普段つきあいのある親戚が「いる」と回答した人は、すべての調査時でほぼ95%以上を維持しており、大きな変化はみられない。(図表 2-14)

(前期高齢期群→00)

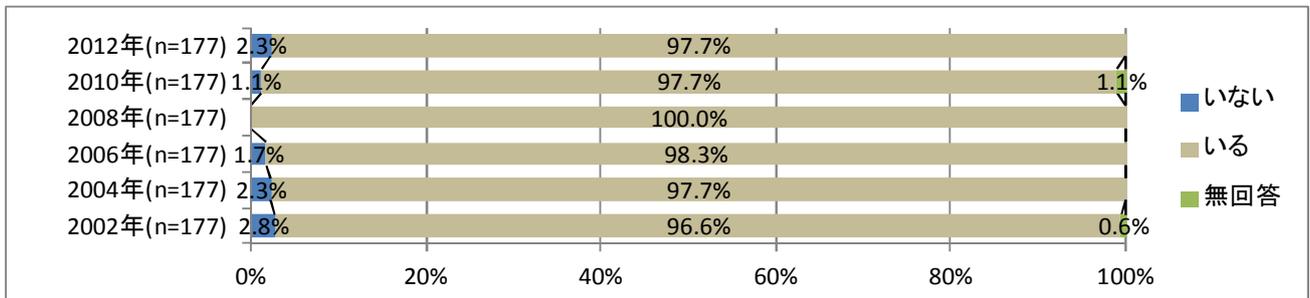
普段つきあいのある親戚が「いる」と回答した人は、すべての調査時で95%以上を維持しており、大きな変化はみられない。(図表 2-15)

(後期高齢期群→0d0)

普段つきあいのある親戚が「いる」と回答した人は、すべての調査時で95%以上を維持しており、大きな変化はみられない。(図表 2-16)

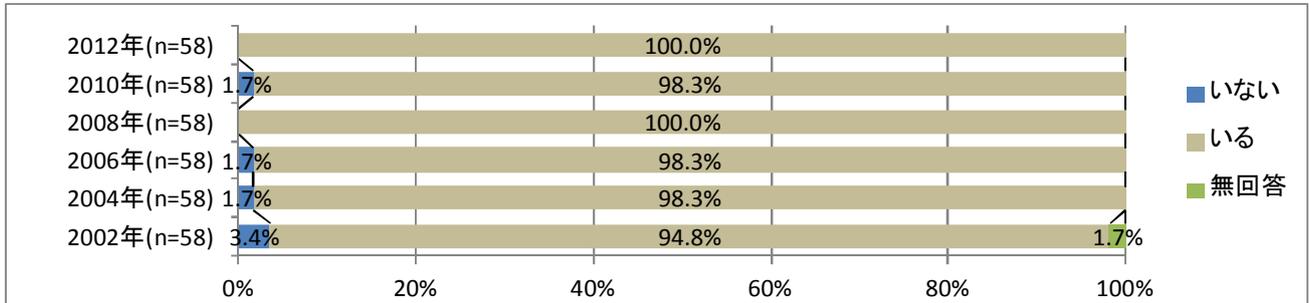
図表 2-13 普段つきあいのある親戚の有無 (全体)

	いない	いる	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=177)	4 (2.3%)	173 (97.7%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2010年(n=177)	2 (1.1%)	173 (97.7%)	2 (1.1%)	177 (100.0%)	
2008年(n=177)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2006年(n=177)	3 (1.7%)	174 (98.3%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2004年(n=177)	4 (2.3%)	173 (97.7%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2002年(n=177)	5 (2.8%)	171 (96.6%)	1 (0.6%)	177 (100.0%)	



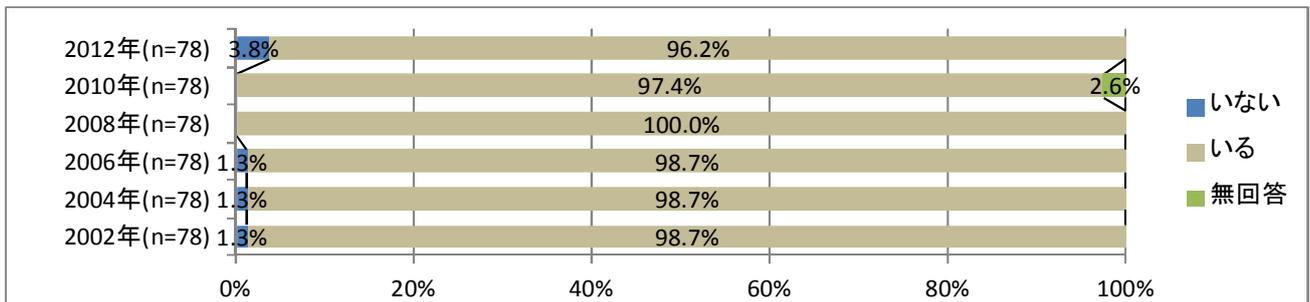
図表 2-14 普段つきあいのある親戚の有無（壮年期群）

	いない	いる	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=58)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2010年(n=58)	1 (1.7%)	57 (98.3%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2008年(n=58)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2006年(n=58)	1 (1.7%)	57 (98.3%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2004年(n=58)	1 (1.7%)	57 (98.3%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2002年(n=58)	2 (3.4%)	55 (94.8%)	1 (1.7%)	58 (100.0%)	



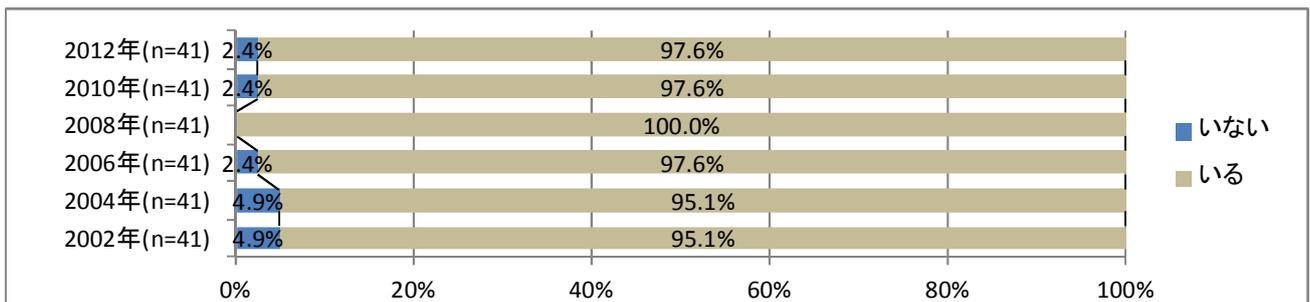
図表 2-15 普段つきあいのある親戚の有無（前期高齢期群）

	いない	いる	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=78)	3 (3.8%)	75 (96.2%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2010年(n=78)	0 (0.0%)	76 (97.4%)	2 (2.6%)	78 (100.0%)	
2008年(n=78)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2006年(n=78)	1 (1.3%)	77 (98.7%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2004年(n=78)	1 (1.3%)	77 (98.7%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2002年(n=78)	1 (1.3%)	77 (98.7%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	



図表 2-16 普段つきあいのある親戚の有無（後期高齢期群）

	いない	いる	合計	人数(割合)
2012年(n=41)	1 (2.4%)	40 (97.6%)	41 (100.0%)	
2010年(n=41)	1 (2.4%)	40 (97.6%)	41 (100.0%)	
2008年(n=41)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	41 (100.0%)	
2006年(n=41)	1 (2.4%)	40 (97.6%)	41 (100.0%)	
2004年(n=41)	2 (4.9%)	39 (95.1%)	41 (100.0%)	
2002年(n=41)	2 (4.9%)	39 (95.1%)	41 (100.0%)	



■ 普段最も話をする相手

(全体の結果)

普段最も話をする相手で「家族」と回答した人は、すべての調査時で8割を超えており、大きな変化はみられないが、2012年調査時では81.4%と最も少なくなっている。一方「友人・知人」「その他」を合わせた家族以外を挙げる人は、2012年調査時が2割程度と最も多くなっている。(図表 2-17)

(壮年期群→Y0)

普段最も話をする相手で「家族」と回答した人は、初回調査時(2002年)から2010年調査時まで9割前後で推移しているが、2012年調査時では81.0%と最も少なくなっている。一方「友人・知人」「その他」を合わせた家族以外を挙げる人は、2012年調査時が2割程度と最も多くなっている。(図表 2-18)

(前期高齢期群→00)

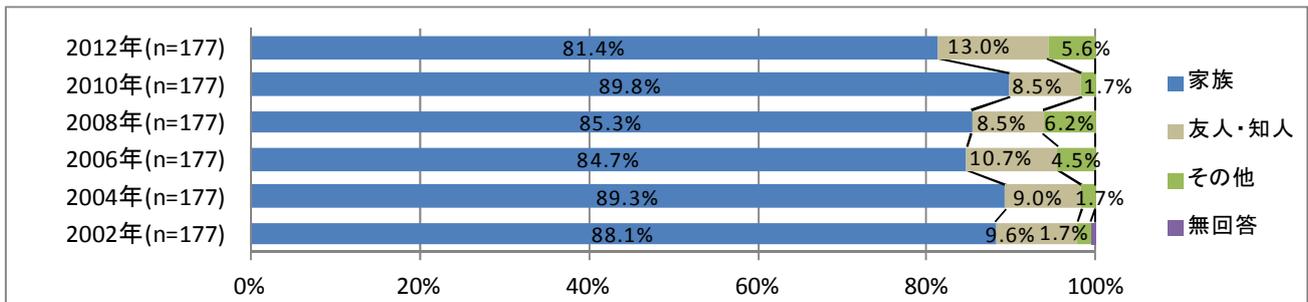
普段最も話をする相手で「家族」と回答した人は、すべての調査時で8割前後を占めている。2006年調査時が76.9%と最も少なく、その後は漸増傾向にあり、2010年調査時では84.6%となっている(+7.7ポイント)。しかし、2012年調査時では79.5%と5.1ポイント減少している。(図表 2-19)

(後期高齢期群→0d0)

普段最も話をする相手で「家族」と回答した人は、初回調査時(2002年)が95.1%と最も多く、その後は85%以上を維持しており、大きな変化はみられない。(図表 2-20)

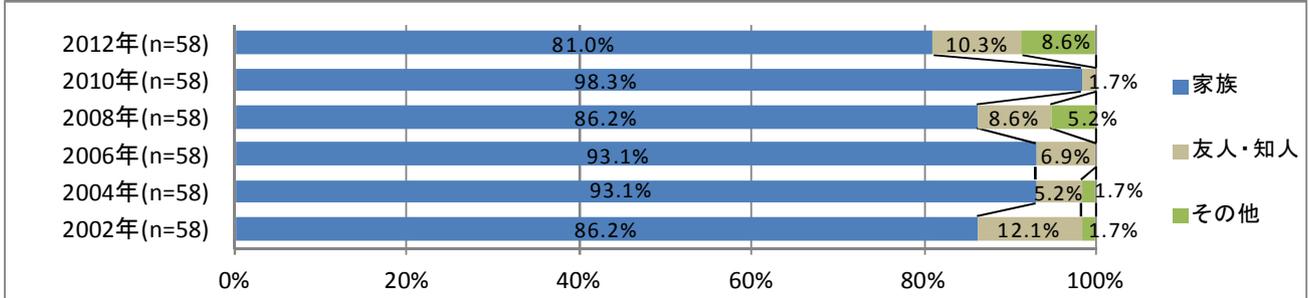
図表 2-17 普段最も話をする相手 (全体)

	家族	友人・知人	その他	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=177)	144 (81.4%)	23 (13.0%)	10 (5.6%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2010年(n=177)	159 (89.8%)	15 (8.5%)	3 (1.7%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2008年(n=177)	151 (85.3%)	15 (8.5%)	11 (6.2%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2006年(n=177)	150 (84.7%)	19 (10.7%)	8 (4.5%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2004年(n=177)	158 (89.3%)	16 (9.0%)	3 (1.7%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2002年(n=177)	156 (88.1%)	17 (9.6%)	3 (1.7%)	1 (0.6%)	177 (100.0%)	



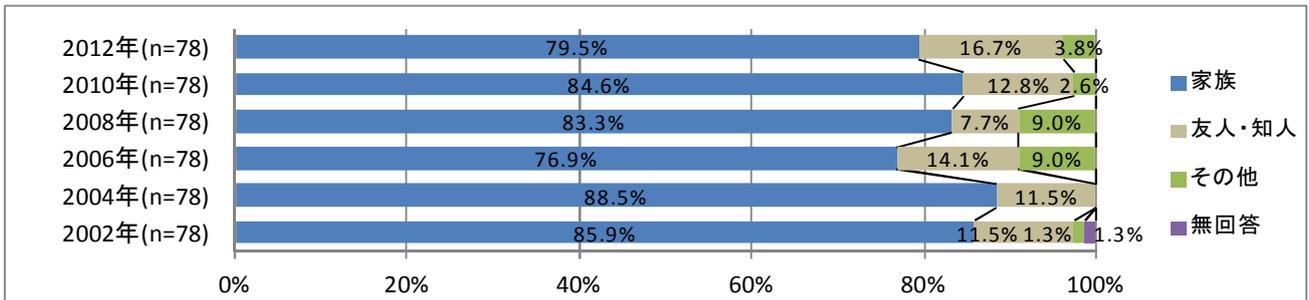
図表 2-18 普段最も話をする相手（壮年期群）

	家族	友人・知人	その他	合計	人数(割合)
2012年(n=58)	47 (81.0%)	6 (10.3%)	5 (8.6%)	58 (100.0%)	
2010年(n=58)	57 (98.3%)	1 (1.7%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2008年(n=58)	50 (86.2%)	5 (8.6%)	3 (5.2%)	58 (100.0%)	
2006年(n=58)	54 (93.1%)	4 (6.9%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2004年(n=58)	54 (93.1%)	3 (5.2%)	1 (1.7%)	58 (100.0%)	
2002年(n=58)	50 (86.2%)	7 (12.1%)	1 (1.7%)	58 (100.0%)	



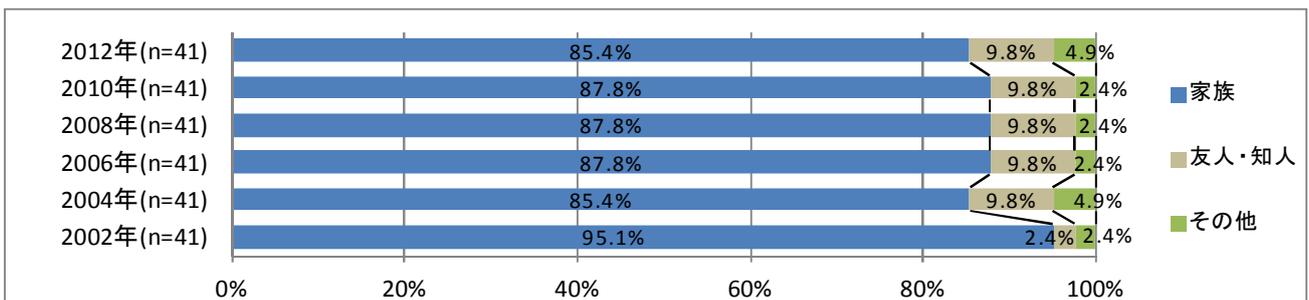
図表 2-19 普段最も話をする相手（前期高齢期群）

	家族	友人・知人	その他	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=78)	62 (79.5%)	13 (16.7%)	3 (3.8%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2010年(n=78)	66 (84.6%)	10 (12.8%)	2 (2.6%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2008年(n=78)	65 (83.3%)	6 (7.7%)	7 (9.0%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2006年(n=78)	60 (76.9%)	11 (14.1%)	7 (9.0%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2004年(n=78)	69 (88.5%)	9 (11.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2002年(n=78)	67 (85.9%)	9 (11.5%)	1 (1.3%)	1 (1.3%)	78 (100.0%)	



図表 2-20 普段最も話をする相手（後期高齢期群）

	家族	友人・知人	その他	合計	人数(割合)
2012年(n=41)	35 (85.4%)	4 (9.8%)	2 (4.9%)	41 (100.0%)	
2010年(n=41)	36 (87.8%)	4 (9.8%)	1 (2.4%)	41 (100.0%)	
2008年(n=41)	36 (87.8%)	4 (9.8%)	1 (2.4%)	41 (100.0%)	
2006年(n=41)	36 (87.8%)	4 (9.8%)	1 (2.4%)	41 (100.0%)	
2004年(n=41)	35 (85.4%)	4 (9.8%)	2 (4.9%)	41 (100.0%)	
2002年(n=41)	39 (95.1%)	1 (2.4%)	1 (2.4%)	41 (100.0%)	



■普段最も話をする相手：【家族】の具体的内容

(「Q. 普段最も話をする相手」で「家族」を挙げた人のみ)

(全体の結果)

最も話をする相手(家族)の回答では「配偶者」を挙げる人が最も多く、すべての調査時で半数を超えている。初回調査時(2002年)から漸増傾向にあり、2008年調査時では75.5%と最も多い(+6.9ポイント)。しかし、2008年調査時以降は漸減傾向にあり、2012年調査時では55.6%と最も少なくなっている(-19.9ポイント)。一方「子供」を挙げる人は、2008年調査時から漸増傾向にあり、2012年調査時では20.8%と最も多い(+10.9ポイント)。(図表2-21)

(壮年期群→Y0)

最も話をする相手(家族)の回答では「配偶者」を挙げる人が最も多く、すべての調査時で7割を超えている。2004年調査時から漸増傾向にあり、2008年調査時では92.0%と最も多い(+12.4ポイント)。しかし、2008年調査時以降は漸減傾向にあり、2012年調査時では70.2%と大きく減少している(-21.8ポイント)。一方「子供」を挙げる人は、2008年調査時から漸増傾向にあり、2012年調査時では17.0%と最も多い(+13.0ポイント)。(図表2-22)

(前期高齢期群→00)

最も話をする相手(家族)の回答では「配偶者」を挙げる人が最も多く、すべての調査時で6割を超えている。初回調査時(2002年)から漸増傾向にあり、2006年調査時では75.0%と最も多い(+10.8ポイント)。しかし、2006年調査時以降は漸減傾向にあり、2012年調査時では61.3%と最も少なくなっている(-13.7ポイント)。一方「子供」を挙げる人は、2008年調査時から漸増傾向にあり、2012年調査時では16.1%とやや増加している(+5.3ポイント)。(図表2-23)

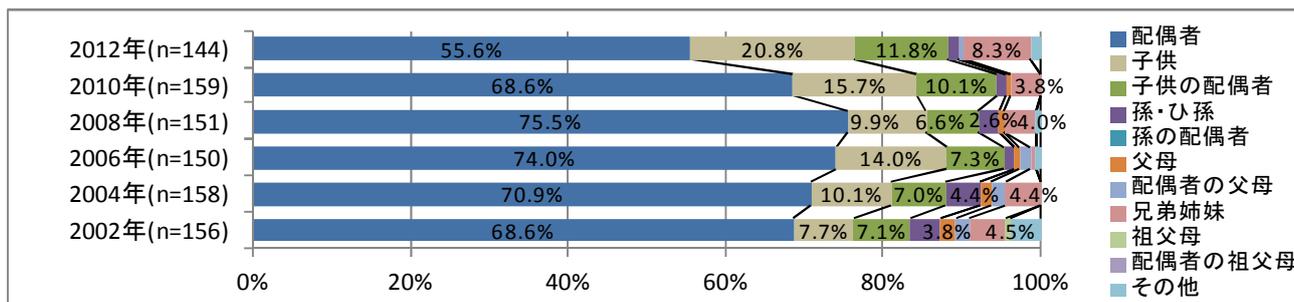
(後期高齢期群→0d0)

最も話をする相手(家族)の回答で「配偶者」を挙げる人は、初回調査時(2002年)が59.0%と最も多く、その後は漸減し、2012年調査時では25.7%と大幅な減少がみられる(-33.3ポイント)。特に、2008年調査時以降4年間の減少が大きい(-29.9ポイント)。一方「子供」を挙げる人は、2008年調査時から漸増傾向にあり、2012年調査時では34.3%と最も多い(+17.6ポイント)。(図表2-24)

図表 2-21 普段最も話をする相手【家族】の具体的内容 (全体)

	配偶者	子供	子供の配偶者	孫・ひ孫	孫の配偶者	父母	配偶者の父母	兄弟姉妹
2012年(n=144)	80 (55.6%)	30 (20.8%)	17 (11.8%)	2 (1.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.7%)	12 (8.3%)
2010年(n=159)	109 (68.6%)	25 (15.7%)	16 (10.1%)	2 (1.3%)	0 (0.0%)	1 (0.6%)	0 (0.0%)	6 (3.8%)
2008年(n=151)	114 (75.5%)	15 (9.9%)	10 (6.6%)	4 (2.6%)	0 (0.0%)	1 (0.7%)	0 (0.0%)	6 (4.0%)
2006年(n=150)	111 (74.0%)	21 (14.0%)	11 (7.3%)	2 (1.3%)	0 (0.0%)	1 (0.7%)	2 (1.3%)	1 (0.7%)
2004年(n=158)	112 (70.9%)	16 (10.1%)	11 (7.0%)	7 (4.4%)	0 (0.0%)	2 (1.3%)	3 (1.9%)	7 (4.4%)
2002年(n=156)	107 (68.6%)	12 (7.7%)	11 (7.1%)	6 (3.8%)	0 (0.0%)	3 (1.9%)	3 (1.9%)	7 (4.5%)

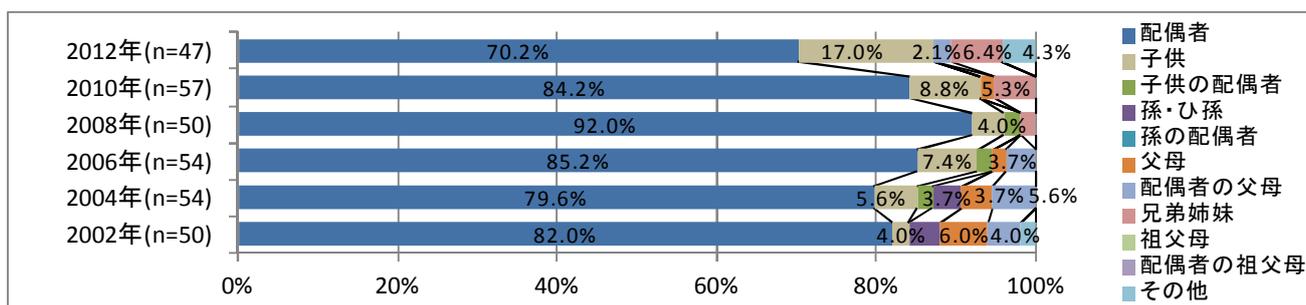
	祖父母	配偶者の祖父母	その他	合計	人数(割合)
2012年(n=144)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (1.4%)	144 (100.0%)	
2010年(n=159)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	159 (100.0%)	
2008年(n=151)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.7%)	151 (100.0%)	
2006年(n=150)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.7%)	150 (100.0%)	
2004年(n=158)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	158 (100.0%)	
2002年(n=156)	1 (0.6%)	0 (0.0%)	6 (3.8%)	156 (100.0%)	



図表 2-22 普段最も話をする相手【家族】の具体的内容(壮年期群)

	配偶者	子供	子供の配偶者	孫・ひ孫	孫の配偶者	父母	配偶者の父母	兄弟姉妹
2012年(n=47)	33 (70.2%)	8 (17.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (2.1%)	3 (6.4%)
2010年(n=57)	48 (84.2%)	5 (8.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.8%)	0 (0.0%)	3 (5.3%)
2008年(n=50)	46 (92.0%)	2 (4.0%)	1 (2.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (2.0%)
2006年(n=54)	46 (85.2%)	4 (7.4%)	1 (1.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.9%)	2 (3.7%)	0 (0.0%)
2004年(n=54)	43 (79.6%)	3 (5.6%)	1 (1.9%)	2 (3.7%)	0 (0.0%)	2 (3.7%)	3 (5.6%)	0 (0.0%)
2002年(n=50)	41 (82.0%)	1 (2.0%)	0 (0.0%)	2 (4.0%)	0 (0.0%)	3 (6.0%)	2 (4.0%)	0 (0.0%)

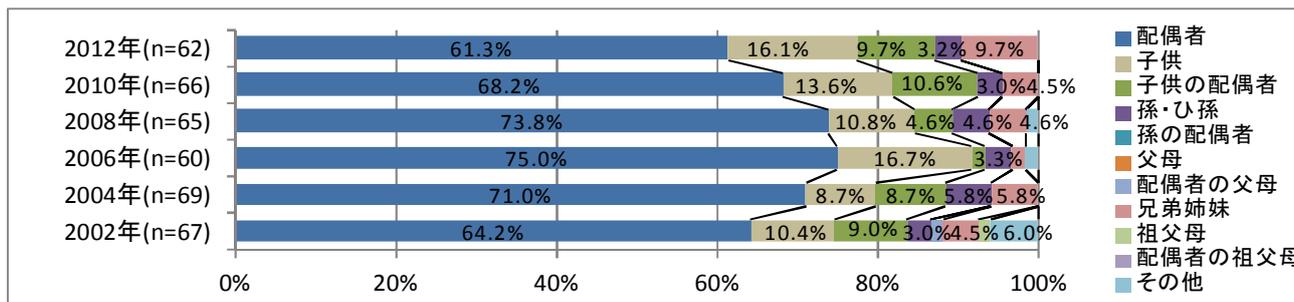
	祖父母	配偶者の祖父母	その他	合計	人数(割合)
2012年(n=47)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (4.3%)	47 (100.0%)	
2010年(n=57)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	57 (100.0%)	
2008年(n=50)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	50 (100.0%)	
2006年(n=54)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	54 (100.0%)	
2004年(n=54)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	54 (100.0%)	
2002年(n=50)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (2.0%)	50 (100.0%)	



図表 2-23 普段最も話をする相手【家族】の具体的内容（前期高齢期群）

	配偶者	子供	子供の配偶者	孫・ひ孫	孫の配偶者	父母	配偶者の父母	兄弟姉妹
2012年(n=62)	38 (61.3%)	10 (16.1%)	6 (9.7%)	2 (3.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	6 (9.7%)
2010年(n=66)	45 (68.2%)	9 (13.6%)	7 (10.6%)	2 (3.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (4.5%)
2008年(n=65)	48 (73.8%)	7 (10.8%)	3 (4.6%)	3 (4.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (4.6%)
2006年(n=60)	45 (75.0%)	10 (16.7%)	1 (1.7%)	2 (3.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.7%)
2004年(n=69)	49 (71.0%)	6 (8.7%)	6 (8.7%)	4 (5.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (5.8%)
2002年(n=67)	43 (64.2%)	7 (10.4%)	6 (9.0%)	2 (3.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.5%)	3 (4.5%)

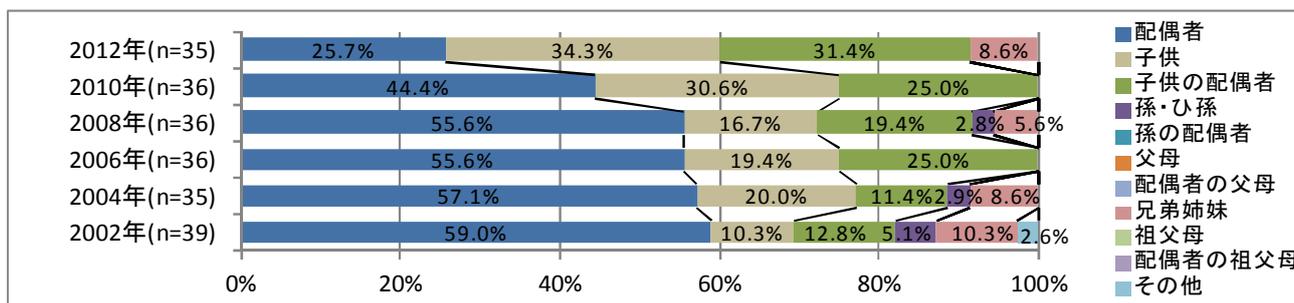
	祖父母	配偶者の祖父母	その他	合計	人数(割合)
2012年(n=62)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	62 (100.0%)	
2010年(n=66)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	66 (100.0%)	
2008年(n=65)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.5%)	65 (100.0%)	
2006年(n=60)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.7%)	60 (100.0%)	
2004年(n=69)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	69 (100.0%)	
2002年(n=67)	1 (1.5%)	0 (0.0%)	4 (6.0%)	67 (100.0%)	



図表 2-24 普段最も話をする相手【家族】の具体的内容（後期高齢期群）

	配偶者	子供	子供の配偶者	孫・ひ孫	孫の配偶者	父母	配偶者の父母	兄弟姉妹
2012年(n=35)	9 (25.7%)	12 (34.3%)	11 (31.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (8.6%)
2010年(n=36)	16 (44.4%)	11 (30.6%)	9 (25.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
2008年(n=36)	20 (55.6%)	6 (16.7%)	7 (19.4%)	1 (2.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (5.6%)
2006年(n=36)	20 (55.6%)	7 (19.4%)	9 (25.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
2004年(n=35)	20 (57.1%)	7 (20.0%)	4 (11.4%)	1 (2.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (8.6%)
2002年(n=39)	23 (59.0%)	4 (10.3%)	5 (12.8%)	2 (5.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (10.3%)

	祖父母	配偶者の祖父母	その他	合計	人数(割合)
2012年(n=35)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	35 (100.0%)	
2010年(n=36)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	36 (100.0%)	
2008年(n=36)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	36 (100.0%)	
2006年(n=36)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	36 (100.0%)	
2004年(n=35)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	35 (100.0%)	
2002年(n=39)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (2.6%)	39 (100.0%)	



■ 普段最も話をする相手との交流頻度

(全体の結果)

最も話をする相手と「ほぼ毎日」会話をする人は、すべての調査時でほぼ9割以上を占めており、大きな変化はみられない。(図表 2-25)

(壮年期群→Y0)

最も話をする相手と「ほぼ毎日」会話をする人は、すべての調査時でほぼ9割以上を占めており、大きな変化はみられない。(図表 2-26)

(前期高齢期群→00)

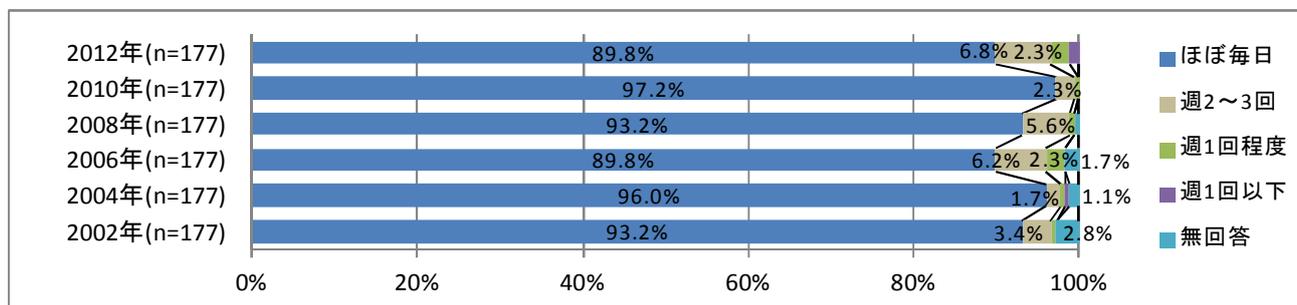
最も話をする相手と「ほぼ毎日」会話をする人は、すべての調査時でほぼ9割以上を占めており、大きな変化はみられない。(図表 2-27)

(後期高齢期群→0d0)

最も話をする相手と「ほぼ毎日」会話をする人は、すべての調査時で9割以上を占めており、大きな変化はみられない。(図表 2-28)

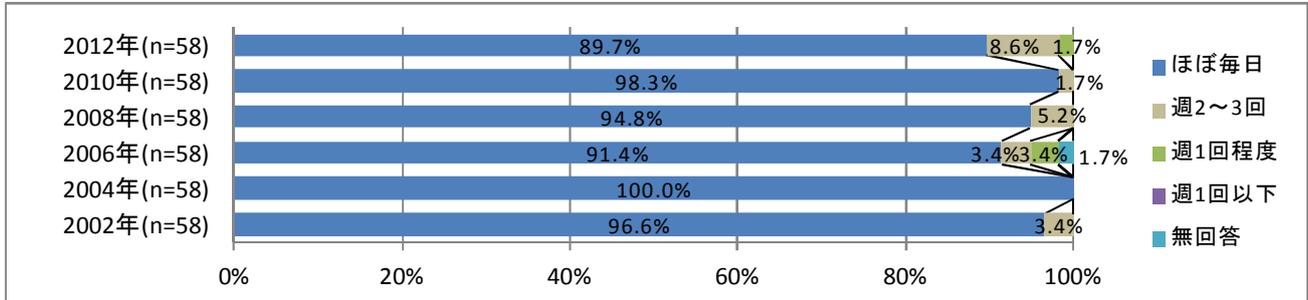
図表 2-25 普段最も話をする相手との交流頻度 (全体)

	ほぼ毎日	週2~3回	週1回程度	週1回以下	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=177)	159 (89.8%)	12 (6.8%)	4 (2.3%)	2 (1.1%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2010年(n=177)	172 (97.2%)	4 (2.3%)	1 (0.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2008年(n=177)	165 (93.2%)	10 (5.6%)	1 (0.6%)	0 (0.0%)	1 (0.6%)	177 (100.0%)	
2006年(n=177)	159 (89.8%)	11 (6.2%)	4 (2.3%)	0 (0.0%)	3 (1.7%)	177 (100.0%)	
2004年(n=177)	170 (96.0%)	3 (1.7%)	1 (0.6%)	1 (0.6%)	2 (1.1%)	177 (100.0%)	
2002年(n=177)	165 (93.2%)	6 (3.4%)	1 (0.6%)	0 (0.0%)	5 (2.8%)	177 (100.0%)	



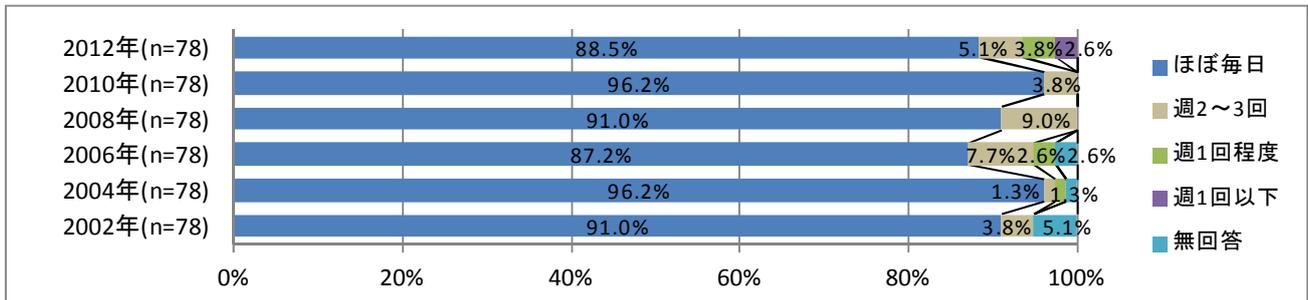
図表 2-26 普段最も話をする相手との交流頻度（壮年期群）

	ほぼ毎日	週2～3回	週1回程度	週1回以下	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=58)	52 (89.7%)	5 (8.6%)	1 (1.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2010年(n=58)	57 (98.3%)	1 (1.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2008年(n=58)	55 (94.8%)	3 (5.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2006年(n=58)	53 (91.4%)	2 (3.4%)	2 (3.4%)	0 (0.0%)	1 (1.7%)	58 (100.0%)	
2004年(n=58)	58 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2002年(n=58)	56 (96.6%)	2 (3.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	



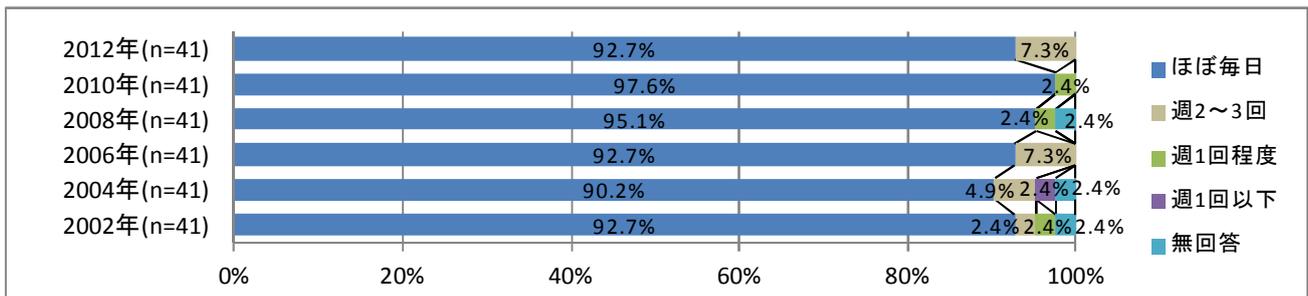
図表 2-27 普段最も話をする相手との交流頻度（前期高齢期群）

	ほぼ毎日	週2～3回	週1回程度	週1回以下	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=78)	69 (88.5%)	4 (5.1%)	3 (3.8%)	2 (2.6%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2010年(n=78)	75 (96.2%)	3 (3.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2008年(n=78)	71 (91.0%)	7 (9.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2006年(n=78)	68 (87.2%)	6 (7.7%)	2 (2.6%)	0 (0.0%)	2 (2.6%)	78 (100.0%)	
2004年(n=78)	75 (96.2%)	1 (1.3%)	1 (1.3%)	0 (0.0%)	1 (1.3%)	78 (100.0%)	
2002年(n=78)	71 (91.0%)	3 (3.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (5.1%)	78 (100.0%)	



図表 2-28 普段最も話をする相手との交流頻度（後期高齢期群）

	ほぼ毎日	週2～3回	週1回程度	週1回以下	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=41)	38 (92.7%)	3 (7.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2010年(n=41)	40 (97.6%)	0 (0.0%)	1 (2.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2008年(n=41)	39 (95.1%)	0 (0.0%)	1 (2.4%)	0 (0.0%)	1 (2.4%)	41 (100.0%)	
2006年(n=41)	38 (92.7%)	3 (7.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2004年(n=41)	37 (90.2%)	2 (4.9%)	0 (0.0%)	1 (2.4%)	1 (2.4%)	41 (100.0%)	
2002年(n=41)	38 (92.7%)	1 (2.4%)	1 (2.4%)	0 (0.0%)	1 (2.4%)	41 (100.0%)	



■（最も話をする相手の）次によく話をする相手

（全体の結果）

次によく話をする相手で「家族」と回答した人は、初回調査時（2002年）から2010年調査時まで半数以上で推移しているが、2012年調査時では45.8%と最も少ない。一方、「友人・知人」「その他」を合わせた家族以外を挙げる人は、初回調査時（2002年）から2010年調査時まで4割程度で推移しているが、2012年調査時では54.3%と半数を超えている。（図表2-29）

（壮年期群→Y0）

次によく話をする相手で「家族」と回答した人は、初回調査時（2002年）が58.6%と最も多く、その後は漸減傾向にあり、2006年調査時では43.1%となっている（-15.5ポイント）。2008年調査時では51.7%に増加しているものの、その後は再び漸減し、2012年調査時では34.5%と4年間で17.2ポイント減少している。一方、「友人・知人」「その他」を合わせた家族以外を挙げる人は、2008年調査時から漸増傾向にあり、2012年調査時では65.5%と7割近くを占めている（+17.2ポイント）。（図表2-30）

（前期高齢期群→00）

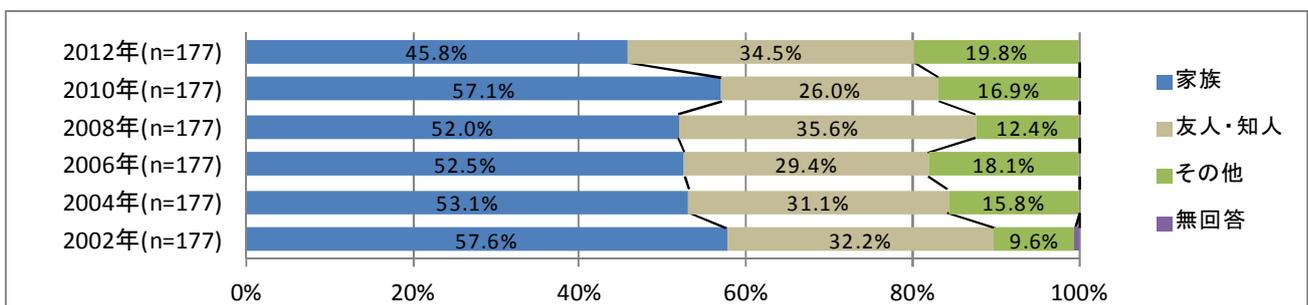
次によく話をする相手で「家族」と回答した人は、2010年調査時が61.5%と最も多く、それ以外は5割程度で推移している。「友人・知人」「その他」を合わせた家族以外を挙げる人は、2010年調査時が38.5%と最も少ないが、それ以外は4割程度で推移している。（図表2-31）

（後期高齢期群→0d0）

次によく話をする相手で「家族」と回答した人は、初回調査時（2002年）が63.4%と最も多く、その後は増減を示しながら4割～6割程度で推移している。「友人・知人」「その他」を合わせた家族以外を挙げる人は、初回調査時（2002年）が36.5%と最も少なく、その後は増減を示しながら4割～5割程度で推移している。（図表2-32）

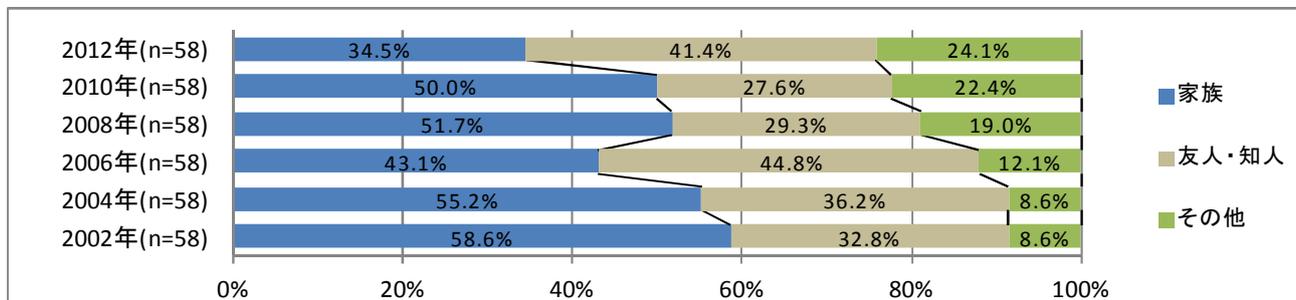
図表2-29 次によく話をする相手（全体）

	家族	友人・知人	その他	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=177)	81 (45.8%)	61 (34.5%)	35 (19.8%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2010年(n=177)	101 (57.1%)	46 (26.0%)	30 (16.9%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2008年(n=177)	92 (52.0%)	63 (35.6%)	22 (12.4%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2006年(n=177)	93 (52.5%)	52 (29.4%)	32 (18.1%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2004年(n=177)	94 (53.1%)	55 (31.1%)	28 (15.8%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2002年(n=177)	102 (57.6%)	57 (32.2%)	17 (9.6%)	1 (0.6%)	177 (100.0%)	



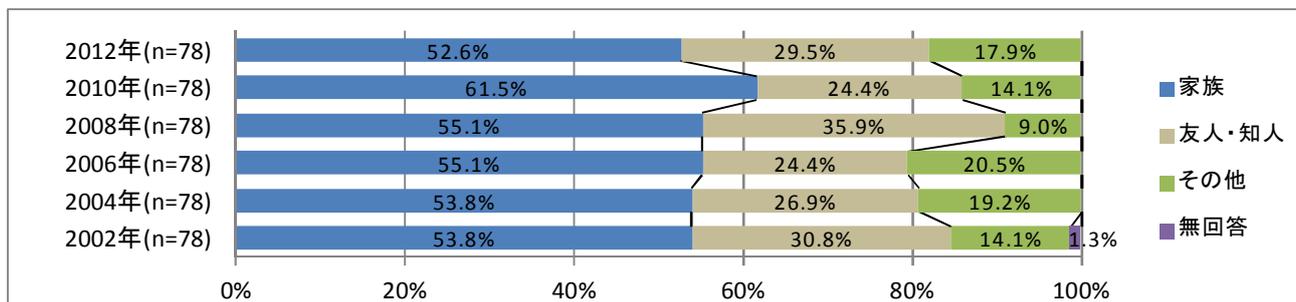
図表 2-30 次によく話をする相手（壮年期群）

	家族	友人・知人	その他	合計	人数(割合)
2012年(n=58)	20 (34.5%)	24 (41.4%)	14 (24.1%)	58 (100.0%)	
2010年(n=58)	29 (50.0%)	16 (27.6%)	13 (22.4%)	58 (100.0%)	
2008年(n=58)	30 (51.7%)	17 (29.3%)	11 (19.0%)	58 (100.0%)	
2006年(n=58)	25 (43.1%)	26 (44.8%)	7 (12.1%)	58 (100.0%)	
2004年(n=58)	32 (55.2%)	21 (36.2%)	5 (8.6%)	58 (100.0%)	
2002年(n=58)	34 (58.6%)	19 (32.8%)	5 (8.6%)	58 (100.0%)	



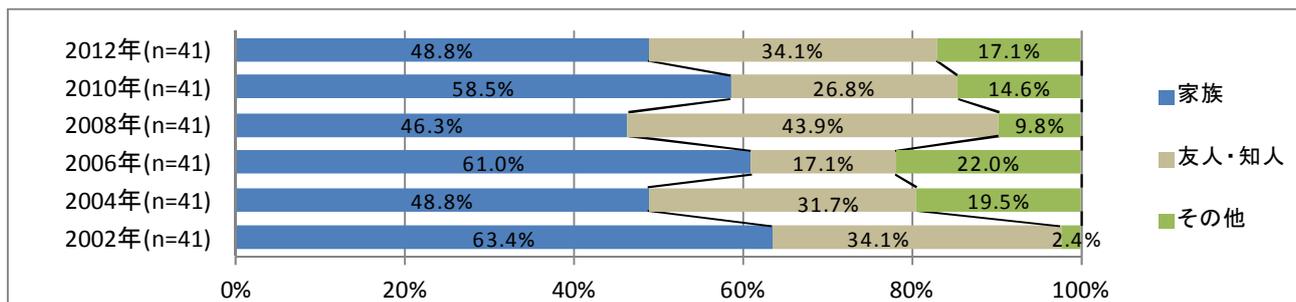
図表 2-31 次によく話をする相手（前期高齢期群）

	家族	友人・知人	その他	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=78)	41 (52.6%)	23 (29.5%)	14 (17.9%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2010年(n=78)	48 (61.5%)	19 (24.4%)	11 (14.1%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2008年(n=78)	43 (55.1%)	28 (35.9%)	7 (9.0%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2006年(n=78)	43 (55.1%)	19 (24.4%)	16 (20.5%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2004年(n=78)	42 (53.8%)	21 (26.9%)	15 (19.2%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2002年(n=78)	42 (53.8%)	24 (30.8%)	11 (14.1%)	1 (1.3%)	78 (100.0%)	



図表 2-32 次によく話をする相手（後期高齢期群）

	家族	友人・知人	その他	合計	人数(割合)
2012年(n=41)	20 (48.8%)	14 (34.1%)	7 (17.1%)	41 (100.0%)	
2010年(n=41)	24 (58.5%)	11 (26.8%)	6 (14.6%)	41 (100.0%)	
2008年(n=41)	19 (46.3%)	18 (43.9%)	4 (9.8%)	41 (100.0%)	
2006年(n=41)	25 (61.0%)	7 (17.1%)	9 (22.0%)	41 (100.0%)	
2004年(n=41)	20 (48.8%)	13 (31.7%)	8 (19.5%)	41 (100.0%)	
2002年(n=41)	26 (63.4%)	14 (34.1%)	1 (2.4%)	41 (100.0%)	



■（最も話をする相手の）次によく話をする相手：【家族】の具体的内容

（「Q.次によく話をする相手」で「家族」を挙げた人のみ）

（全体の結果）

次によく話をする相手（家族）の回答では「子供」を挙げる人が最も多く、初回調査時（2002年）から2008年調査時を除いて漸増傾向にあり、2012年調査時が46.9%と最も多くなっている（+20.4ポイント）。(図表2-33)

（壮年期群→Y0）

次によく話をする相手（家族）のうち「子供」を挙げる人は、初回調査時（2002年）が20.6%と最も少なく、その後は漸増傾向を示しており、2006年調査時では40.0%となっている（+19.4ポイント）。2008年調査時以降は3割～4割程度で推移している。(図表2-34)

（前期高齢期群→00）

次によく話をする相手（家族）の回答では「子供」を挙げる人が最も多く、2004年調査時から漸増傾向にあり、2012年調査時では48.8%と大きく増加している（+27.4ポイント）。(図表2-35)

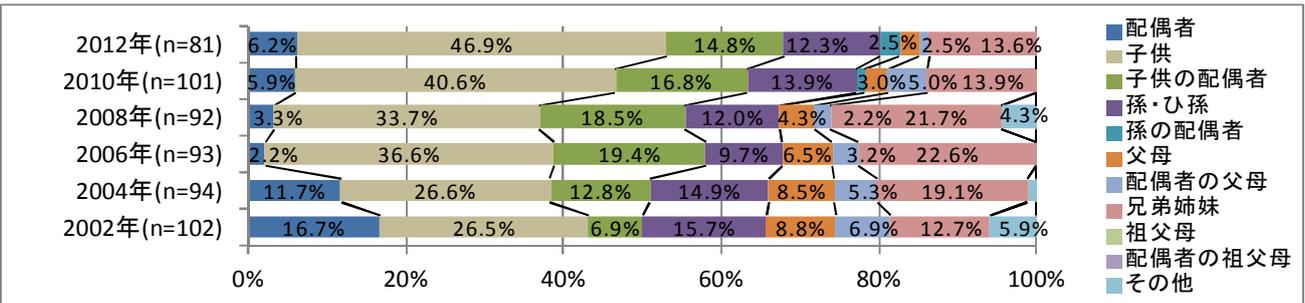
（後期高齢期群→0d0）

次によく話をする相手（家族）の回答では「子供」を挙げる人が最も多く、すべての調査時で4割以上を占めている。初回調査時から2008年調査時まで4割程度で推移しているが、2010年調査時以降は半数以上とやや増加している。(図表2-36)

図表 2-33 次によく話をする相手【家族】（全体）

	配偶者	子供	子供の配偶者	孫・ひ孫	孫の配偶者	父母	配偶者の父母	兄弟姉妹
2012年(n=81)	5 (6.2%)	38 (46.9%)	12 (14.8%)	10 (12.3%)	2 (2.5%)	2 (2.5%)	1 (1.2%)	11 (13.6%)
2010年(n=101)	6 (5.9%)	41 (40.6%)	17 (16.8%)	14 (13.9%)	1 (1.0%)	3 (3.0%)	5 (5.0%)	14 (13.9%)
2008年(n=92)	3 (3.3%)	31 (33.7%)	17 (18.5%)	11 (12.0%)	0 (0.0%)	4 (4.3%)	2 (2.2%)	20 (21.7%)
2006年(n=93)	2 (2.2%)	34 (36.6%)	18 (19.4%)	9 (9.7%)	0 (0.0%)	6 (6.5%)	3 (3.2%)	21 (22.6%)
2004年(n=94)	11 (11.7%)	25 (26.6%)	12 (12.8%)	14 (14.9%)	0 (0.0%)	8 (8.5%)	5 (5.3%)	18 (19.1%)
2002年(n=102)	17 (16.7%)	27 (26.5%)	7 (6.9%)	16 (15.7%)	0 (0.0%)	9 (8.8%)	7 (6.9%)	13 (12.7%)

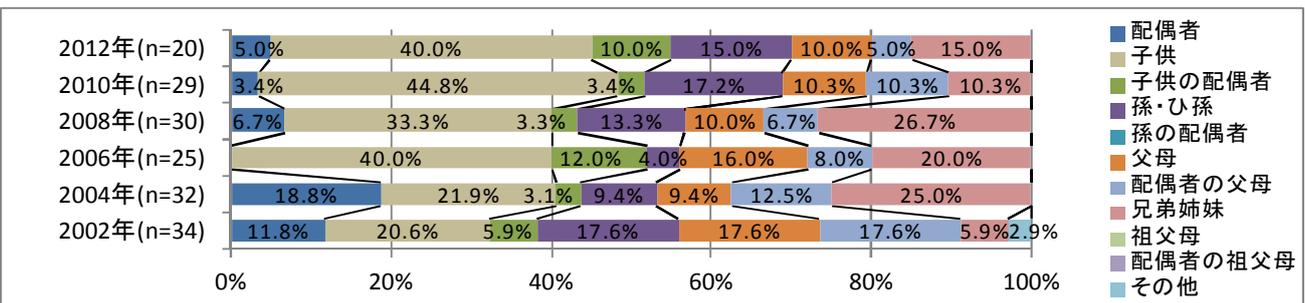
	祖父母	配偶者の祖父母	その他	合計	人数(割合)
2012年(n=81)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	81 (100.0%)	
2010年(n=101)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	101 (100.0%)	
2008年(n=92)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (4.3%)	92 (100.0%)	
2006年(n=93)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	93 (100.0%)	
2004年(n=94)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.1%)	94 (100.0%)	
2002年(n=102)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	6 (5.9%)	102 (100.0%)	



図表 2-34 次によく話をする相手【家族】（壮年期群）

	配偶者	子供	子供の配偶者	孫・ひ孫	孫の配偶者	父母	配偶者の父母	兄弟姉妹
2012年(n=20)	1 (5.0%)	8 (40.0%)	2 (10.0%)	3 (15.0%)	0 (0.0%)	2 (10.0%)	1 (5.0%)	3 (15.0%)
2010年(n=29)	1 (3.4%)	13 (44.8%)	1 (3.4%)	5 (17.2%)	0 (0.0%)	3 (10.3%)	3 (10.3%)	3 (10.3%)
2008年(n=30)	2 (6.7%)	10 (33.3%)	1 (3.3%)	4 (13.3%)	0 (0.0%)	3 (10.0%)	2 (6.7%)	8 (26.7%)
2006年(n=25)	0 (0.0%)	10 (40.0%)	3 (12.0%)	1 (4.0%)	0 (0.0%)	4 (16.0%)	2 (8.0%)	5 (20.0%)
2004年(n=32)	6 (18.8%)	7 (21.9%)	1 (3.1%)	3 (9.4%)	0 (0.0%)	3 (9.4%)	4 (12.5%)	8 (25.0%)
2002年(n=34)	4 (11.8%)	7 (20.6%)	2 (5.9%)	6 (17.6%)	0 (0.0%)	6 (17.6%)	6 (17.6%)	2 (5.9%)

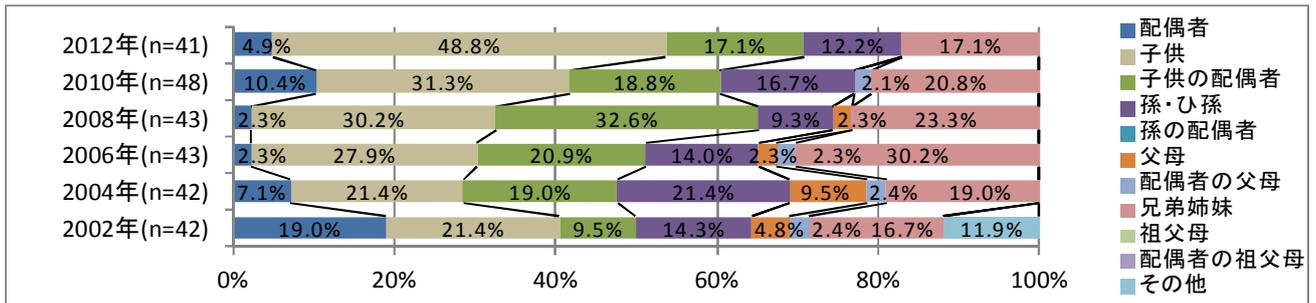
	祖父母	配偶者の祖父母	その他	合計	人数(割合)
2012年(n=20)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	20 (100.0%)	
2010年(n=29)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	29 (100.0%)	
2008年(n=30)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	30 (100.0%)	
2006年(n=25)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	25 (100.0%)	
2004年(n=32)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	32 (100.0%)	
2002年(n=34)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (2.9%)	34 (100.0%)	



図表 2-35 次によく話をする相手【家族】（前期高齢期群）

	配偶者	子供	子供の配偶者	孫・ひ孫	孫の配偶者	父母	配偶者の父母	兄弟姉妹
2012年(n=41)	2 (4.9%)	20 (48.8%)	7 (17.1%)	5 (12.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	7 (17.1%)
2010年(n=48)	5 (10.4%)	15 (31.3%)	9 (18.8%)	8 (16.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (2.1%)	10 (20.8%)
2008年(n=43)	1 (2.3%)	13 (30.2%)	14 (32.6%)	4 (9.3%)	0 (0.0%)	1 (2.3%)	0 (0.0%)	10 (23.3%)
2006年(n=43)	1 (2.3%)	12 (27.9%)	9 (20.9%)	6 (14.0%)	0 (0.0%)	1 (2.3%)	1 (2.3%)	13 (30.2%)
2004年(n=42)	3 (7.1%)	9 (21.4%)	8 (19.0%)	9 (21.4%)	0 (0.0%)	4 (9.5%)	1 (2.4%)	8 (19.0%)
2002年(n=42)	8 (19.0%)	9 (21.4%)	4 (9.5%)	6 (14.3%)	0 (0.0%)	2 (4.8%)	1 (2.4%)	7 (16.7%)

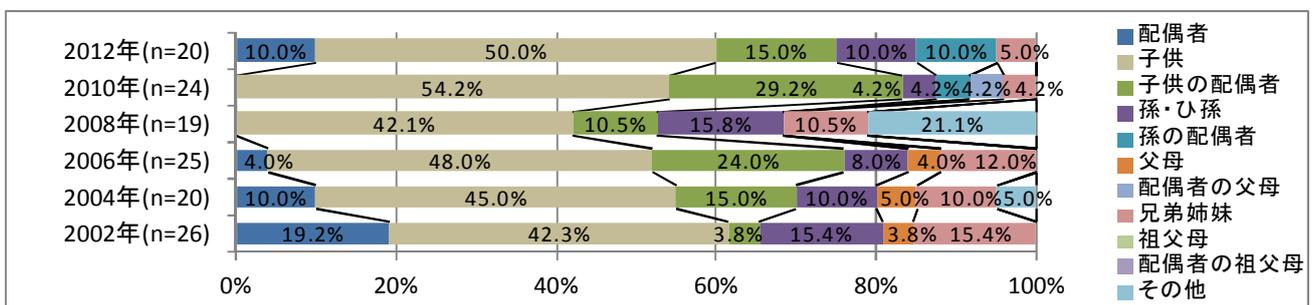
	祖父母	配偶者の祖父母	その他	合計	人数(割合)
2012年(n=41)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2010年(n=48)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	48 (100.0%)	
2008年(n=43)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	43 (100.0%)	
2006年(n=43)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	43 (100.0%)	
2004年(n=42)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	42 (100.0%)	
2002年(n=42)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	5 (11.9%)	42 (100.0%)	



図表 2-36 次によく話をする相手【家族】（後期高齢期群）

	配偶者	子供	子供の配偶者	孫・ひ孫	孫の配偶者	父母	配偶者の父母	兄弟姉妹
2012年(n=20)	2 (10.0%)	10 (50.0%)	3 (15.0%)	2 (10.0%)	2 (10.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (5.0%)
2010年(n=24)	0 (0.0%)	13 (54.2%)	7 (29.2%)	1 (4.2%)	1 (4.2%)	0 (0.0%)	1 (4.2%)	1 (4.2%)
2008年(n=19)	0 (0.0%)	8 (42.1%)	2 (10.5%)	3 (15.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (10.5%)
2006年(n=25)	1 (4.0%)	12 (48.0%)	6 (24.0%)	2 (8.0%)	0 (0.0%)	1 (4.0%)	0 (0.0%)	3 (12.0%)
2004年(n=20)	2 (10.0%)	9 (45.0%)	3 (15.0%)	2 (10.0%)	0 (0.0%)	1 (5.0%)	0 (0.0%)	2 (10.0%)
2002年(n=26)	5 (19.2%)	11 (42.3%)	1 (3.8%)	4 (15.4%)	0 (0.0%)	1 (3.8%)	0 (0.0%)	4 (15.4%)

	祖父母	配偶者の祖父母	その他	合計	人数(割合)
2012年(n=20)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	20 (100.0%)	
2010年(n=24)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	24 (100.0%)	
2008年(n=19)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (21.1%)	19 (100.0%)	
2006年(n=25)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	25 (100.0%)	
2004年(n=20)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (5.0%)	20 (100.0%)	
2002年(n=26)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	26 (100.0%)	



■（最も話をする相手の）次によく話をする相手：【友人・知人】の具体的内容

（「Q.次によく話をする相手」で「友人・知人」を挙げた人のみ）

（全体の結果）

次によく話をする相手（友人・知人）の回答では「ご近所」を挙げる人が最も多く、すべての調査時で6割以上を占めており、2008年調査時と2012年調査時では8割を超えている。（図表2-37）

（壮年期群→Y0）

次によく話をする相手（友人・知人）のうち「ご近所」を挙げる人は、初回調査時（2002年）が42.1%と最も少なく、その後は5割～6割程度で推移しているが、2012年調査時では79.2%と最も多く、10年間で37.1ポイント増加している。特に、2010年調査時以降2年間の増加が顕著である（+29.2ポイント）。「仕事仲間」を挙げる人は、初回調査時（2002年）から増減を示しながら1割～3割程度で推移しているが、2010年調査時が37.5%と最も多い。しかし、2012年調査時では8.3%と最も少なく、2010年調査時以降の2年間で大きく減少している（-29.2ポイント）。（図表2-38）

（前期高齢期群→00）

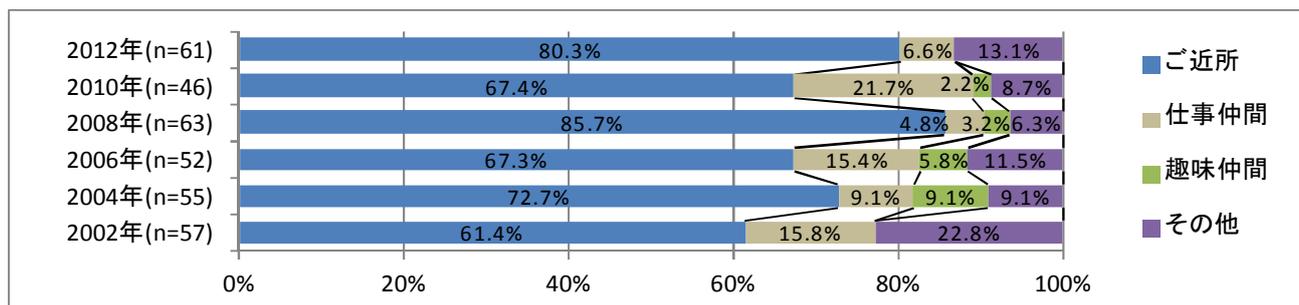
次によく話をする相手（友人・知人）のうち「ご近所」を挙げる人は、初回調査時（2002年）が66.7%と最も少なく、その後は漸増傾向にあり、2008年調査時では100.0%と大きく増加している（+33.3ポイント）。しかし、2010年調査時では68.4%に減少し（-31.6ポイント）、2012年調査時では82.6%と再び増加している（+14.2ポイント）。（図表2-39）

（後期高齢期群→0d0）

次によく話をする相手（友人・知人）のうち「ご近所」を挙げる人は、2006年調査時が57.1%と最も少ないが、それ以外は約8割～9割で推移している。（図表2-40）

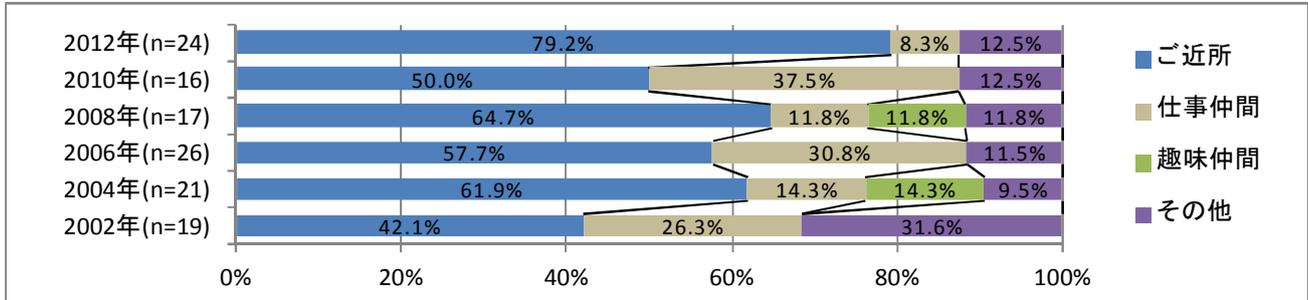
図表2-37 次によく話をする相手【友人・知人】（全体）

	ご近所	仕事仲間	趣味仲間	その他	合計	人数(割合)
2012年(n=61)	49 (80.3%)	4 (6.6%)	0 (0.0%)	8 (13.1%)	61 (100.0%)	
2010年(n=46)	31 (67.4%)	10 (21.7%)	1 (2.2%)	4 (8.7%)	46 (100.0%)	
2008年(n=63)	54 (85.7%)	3 (4.8%)	2 (3.2%)	4 (6.3%)	63 (100.0%)	
2006年(n=52)	35 (67.3%)	8 (15.4%)	3 (5.8%)	6 (11.5%)	52 (100.0%)	
2004年(n=55)	40 (72.7%)	5 (9.1%)	5 (9.1%)	5 (9.1%)	55 (100.0%)	
2002年(n=57)	35 (61.4%)	9 (15.8%)	0 (0.0%)	13 (22.8%)	57 (100.0%)	



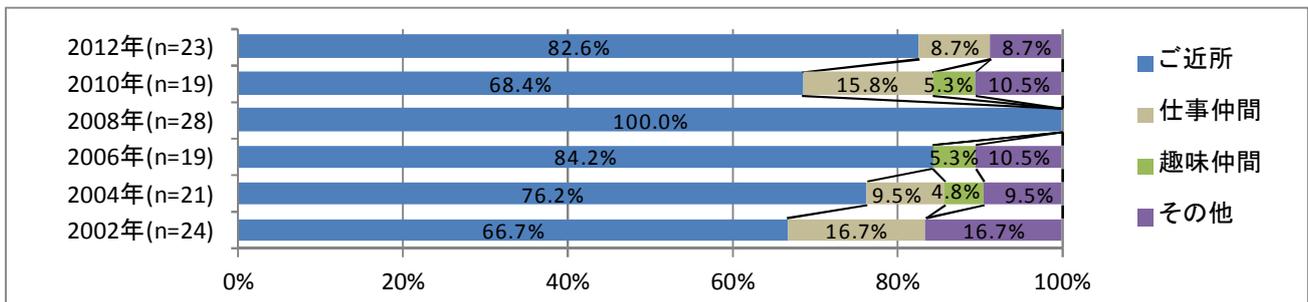
図表 2-38 次によく話をする相手【友人・知人】（壮年期群）

	ご近所	仕事仲間	趣味仲間	その他	合計	人数(割合)
2012年(n=24)	19 (79.2%)	2 (8.3%)	0 (0.0%)	3 (12.5%)	24 (100.0%)	
2010年(n=16)	8 (50.0%)	6 (37.5%)	0 (0.0%)	2 (12.5%)	16 (100.0%)	
2008年(n=17)	11 (64.7%)	2 (11.8%)	2 (11.8%)	2 (11.8%)	17 (100.0%)	
2006年(n=26)	15 (57.7%)	8 (30.8%)	0 (0.0%)	3 (11.5%)	26 (100.0%)	
2004年(n=21)	13 (61.9%)	3 (14.3%)	3 (14.3%)	2 (9.5%)	21 (100.0%)	
2002年(n=19)	8 (42.1%)	5 (26.3%)	0 (0.0%)	6 (31.6%)	19 (100.0%)	



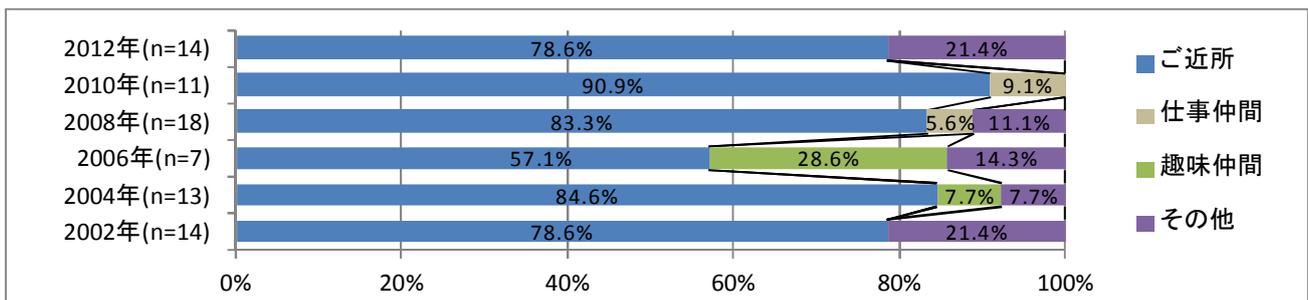
図表 2-39 次によく話をする相手【友人・知人】（前期高齢期群）

	ご近所	仕事仲間	趣味仲間	その他	合計	人数(割合)
2012年(n=23)	19 (82.6%)	2 (8.7%)	0 (0.0%)	2 (8.7%)	23 (100.0%)	
2010年(n=19)	13 (68.4%)	3 (15.8%)	1 (5.3%)	2 (10.5%)	19 (100.0%)	
2008年(n=28)	28 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	28 (100.0%)	
2006年(n=19)	16 (84.2%)	0 (0.0%)	1 (5.3%)	2 (10.5%)	19 (100.0%)	
2004年(n=21)	16 (76.2%)	2 (9.5%)	1 (4.8%)	2 (9.5%)	21 (100.0%)	
2002年(n=24)	16 (66.7%)	4 (16.7%)	0 (0.0%)	4 (16.7%)	24 (100.0%)	



図表 2-40 次によく話をする相手【友人・知人】（後期高齢期群）

	ご近所	仕事仲間	趣味仲間	その他	合計	人数(割合)
2012年(n=14)	11 (78.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (21.4%)	14 (100.0%)	
2010年(n=11)	10 (90.9%)	1 (9.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	11 (100.0%)	
2008年(n=18)	15 (83.3%)	1 (5.6%)	0 (0.0%)	2 (11.1%)	18 (100.0%)	
2006年(n=7)	4 (57.1%)	0 (0.0%)	2 (28.6%)	1 (14.3%)	7 (100.0%)	
2004年(n=13)	11 (84.6%)	0 (0.0%)	1 (7.7%)	1 (7.7%)	13 (100.0%)	
2002年(n=14)	11 (78.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (21.4%)	14 (100.0%)	



■（最も話をする相手の）次によく話をする相手との交流頻度

（全体の結果）

次によく話をする相手と「ほぼ毎日」会話をする人は、すべての調査時で6割以上を占めており、初回調査時（2002年）が76.3%と最も多い。初回調査時（2002年）から2010年調査時まで7割以上で推移しているが、2012年調査時では61.0%と最も少なくなっている。一方「週2～3回」の回答は、2012年調査時が2割以上と最も多くなっている。（図表2-41）

（壮年期群→Y0）

次によく話をする相手と「ほぼ毎日」会話をする人は、すべての調査時で半数以上を占めている。初回調査時（2002年）から漸減傾向にあり、2008年調査時では69.0%となっている（-8.6ポイント）。しかし、2010年調査時では79.3%と最も多く（+10.3ポイント）、2012年調査時では50.0%と2年間で大きく減少している（-29.3ポイント）。一方「週2～3回」の回答は、初回調査時（2002年）から2010年調査時までほぼ2割以下で推移しているが、2012年調査時では36.2%と最も多くなっている。（図表2-42）

（前期高齢期群→00）

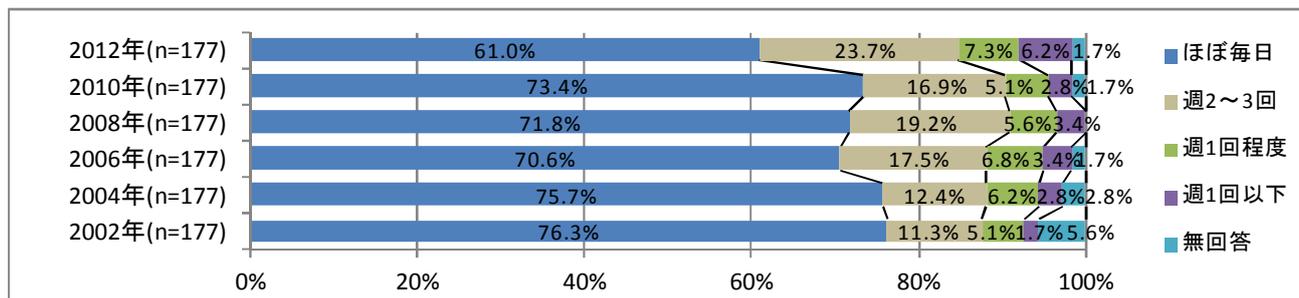
次によく話をする相手と「ほぼ毎日」会話をする人は、すべての調査時で6割以上を占めているが、2008年調査時から漸減傾向にあり、2012年調査時では65.4%と最も少ない（-12.8ポイント）。一方「週2～3回」の回答は、初回調査時（2002年）から2004年調査時まで1割程度で推移しているが、2006年調査時以降は2割程度で推移している。（図表2-43）

（後期高齢期群→0d0）

次によく話をする相手と「ほぼ毎日」会話をする人は、初回調査時（2002年）が80.5%と最も多く、それ以降は6割～7割で推移している。一方「週2～3回」の回答は、2008年調査時が22.0%と最も多く、それ以外は2割以下で推移している。（図表2-44）

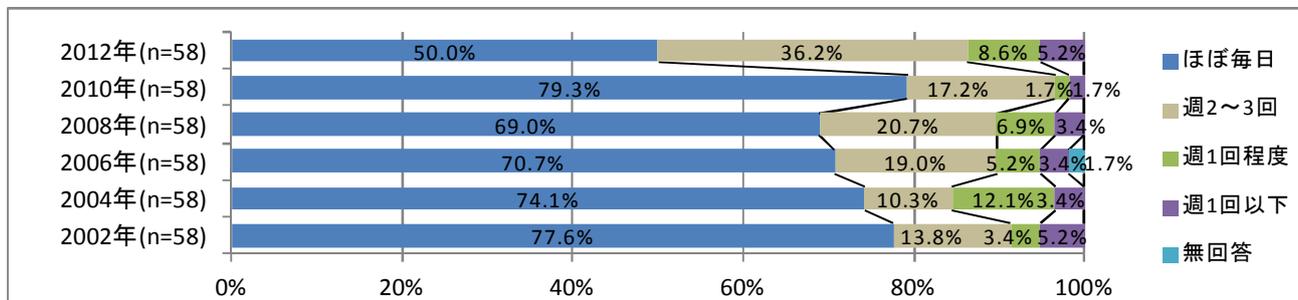
図表 2-41 次によく話をする相手との交流頻度（全体）

	ほぼ毎日	週2～3回	週1回程度	週1回以下	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=177)	108 (61.0%)	42 (23.7%)	13 (7.3%)	11 (6.2%)	3 (1.7%)	177 (100.0%)	
2010年(n=177)	130 (73.4%)	30 (16.9%)	9 (5.1%)	5 (2.8%)	3 (1.7%)	177 (100.0%)	
2008年(n=177)	127 (71.8%)	34 (19.2%)	10 (5.6%)	6 (3.4%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2006年(n=177)	125 (70.6%)	31 (17.5%)	12 (6.8%)	6 (3.4%)	3 (1.7%)	177 (100.0%)	
2004年(n=177)	134 (75.7%)	22 (12.4%)	11 (6.2%)	5 (2.8%)	5 (2.8%)	177 (100.0%)	
2002年(n=177)	135 (76.3%)	20 (11.3%)	9 (5.1%)	3 (1.7%)	10 (5.6%)	177 (100.0%)	



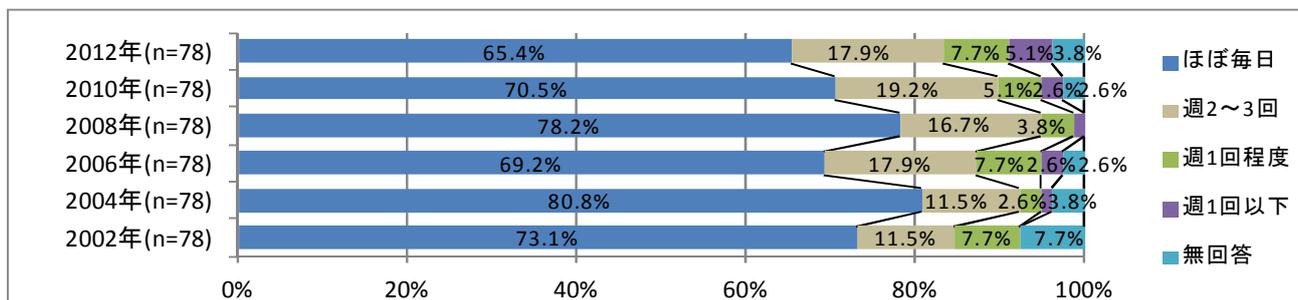
図表 2-42 次によく話をする相手との交流頻度（壮年期群）

	ほぼ毎日	週2～3回	週1回程度	週1回以下	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=58)	29 (50.0%)	21 (36.2%)	5 (8.6%)	3 (5.2%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2010年(n=58)	46 (79.3%)	10 (17.2%)	1 (1.7%)	1 (1.7%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2008年(n=58)	40 (69.0%)	12 (20.7%)	4 (6.9%)	2 (3.4%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2006年(n=58)	41 (70.7%)	11 (19.0%)	3 (5.2%)	2 (3.4%)	1 (1.7%)	58 (100.0%)	
2004年(n=58)	43 (74.1%)	6 (10.3%)	7 (12.1%)	2 (3.4%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2002年(n=58)	45 (77.6%)	8 (13.8%)	2 (3.4%)	3 (5.2%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	



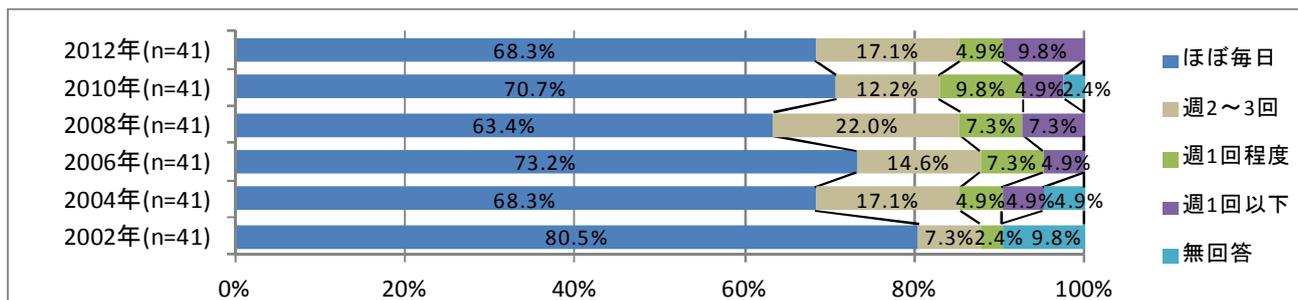
図表 2-43 次によく話をする相手との交流頻度（前期高齢期群）

	ほぼ毎日	週2～3回	週1回程度	週1回以下	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=78)	51 (65.4%)	14 (17.9%)	6 (7.7%)	4 (5.1%)	3 (3.8%)	78 (100.0%)	
2010年(n=78)	55 (70.5%)	15 (19.2%)	4 (5.1%)	2 (2.6%)	2 (2.6%)	78 (100.0%)	
2008年(n=78)	61 (78.2%)	13 (16.7%)	3 (3.8%)	1 (1.3%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2006年(n=78)	54 (69.2%)	14 (17.9%)	6 (7.7%)	2 (2.6%)	2 (2.6%)	78 (100.0%)	
2004年(n=78)	63 (80.8%)	9 (11.5%)	2 (2.6%)	1 (1.3%)	3 (3.8%)	78 (100.0%)	
2002年(n=78)	57 (73.1%)	9 (11.5%)	6 (7.7%)	0 (0.0%)	6 (7.7%)	78 (100.0%)	



図表 2-44 次によく話をする相手との交流頻度（後期高齢期群）

	ほぼ毎日	週2～3回	週1回程度	週1回以下	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=41)	28 (68.3%)	7 (17.1%)	2 (4.9%)	4 (9.8%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2010年(n=41)	29 (70.7%)	5 (12.2%)	4 (9.8%)	2 (4.9%)	1 (2.4%)	41 (100.0%)	
2008年(n=41)	26 (63.4%)	9 (22.0%)	3 (7.3%)	3 (7.3%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2006年(n=41)	30 (73.2%)	6 (14.6%)	3 (7.3%)	2 (4.9%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2004年(n=41)	28 (68.3%)	7 (17.1%)	2 (4.9%)	2 (4.9%)	2 (4.9%)	41 (100.0%)	
2002年(n=41)	33 (80.5%)	3 (7.3%)	1 (2.4%)	0 (0.0%)	4 (9.8%)	41 (100.0%)	



■心配事や悩み事があったときなど相談に乗ってくれる人の有無

(全体の結果)

心配事や悩み事の相談に乗ってくれる人が「いる」と回答した人は、2004年調査時から2012年調査時まで9割以上を維持しており、わずかに漸増傾向がみられる（+4.5ポイント）。（図表2-45）

(壮年期群→Y0)

心配事や悩み事の相談に乗ってくれる人が「いる」と回答した人は、2004年調査時から2012年調査時まで9割以上を維持しており、2008年調査時以降は、ほぼ95%以上で推移している。（図表2-46）

(前期高齢期群→00)

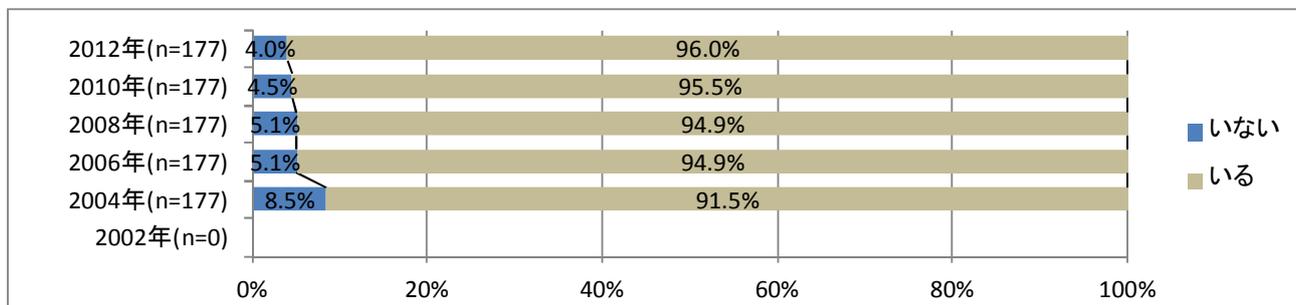
心配事や悩み事の相談に乗ってくれる人が「いる」と回答した人は、2004年調査時から2012年調査時まで9割以上を維持しており、2006年調査時が96.2%と最も多い。（図表2-47）

(後期高齢期群→0d0)

心配事や悩み事の相談に乗ってくれる人が「いる」と回答した人は、2004年調査時から2012年調査時まで9割以上を維持しており、2010年調査時以降は、95%以上で推移している。（図表2-48）

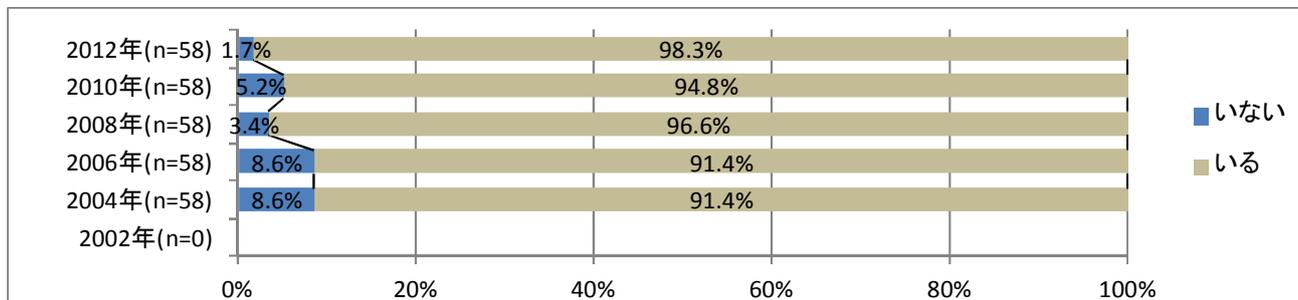
図表2-45 心配事や悩み事があったときなど相談にのってくれそうな相手の有無（全体）

	いない	いる	合計	人数(割合)
2012年(n=177)	7 (4.0%)	170 (96.0%)	177 (100.0%)	
2010年(n=177)	8 (4.5%)	169 (95.5%)	177 (100.0%)	
2008年(n=177)	9 (5.1%)	168 (94.9%)	177 (100.0%)	
2006年(n=177)	9 (5.1%)	168 (94.9%)	177 (100.0%)	
2004年(n=177)	15 (8.5%)	162 (91.5%)	177 (100.0%)	
2002年(n=0)				



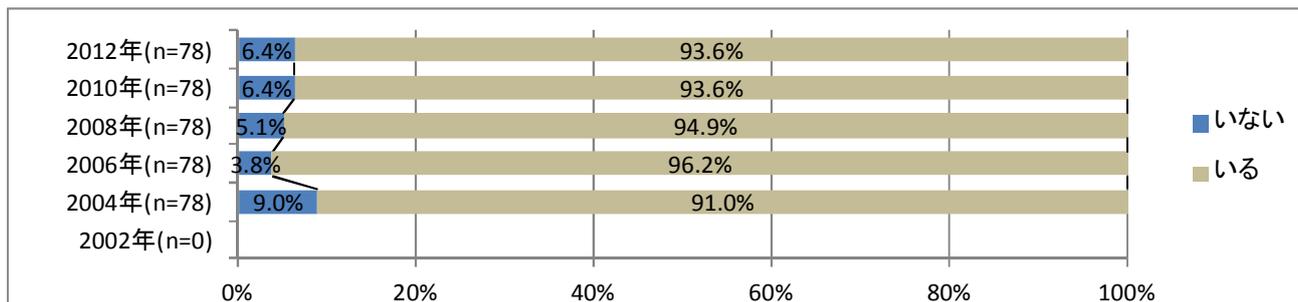
図表 2-46 心配事や悩み事があったときなど相談にのってくれそうな相手の有無（壮年期群）

	いない	いる	合計	人数(割合)
2012年(n=58)	1 (1.7%)	57 (98.3%)	58 (100.0%)	
2010年(n=58)	3 (5.2%)	55 (94.8%)	58 (100.0%)	
2008年(n=58)	2 (3.4%)	56 (96.6%)	58 (100.0%)	
2006年(n=58)	5 (8.6%)	53 (91.4%)	58 (100.0%)	
2004年(n=58)	5 (8.6%)	53 (91.4%)	58 (100.0%)	
2002年(n=0)				



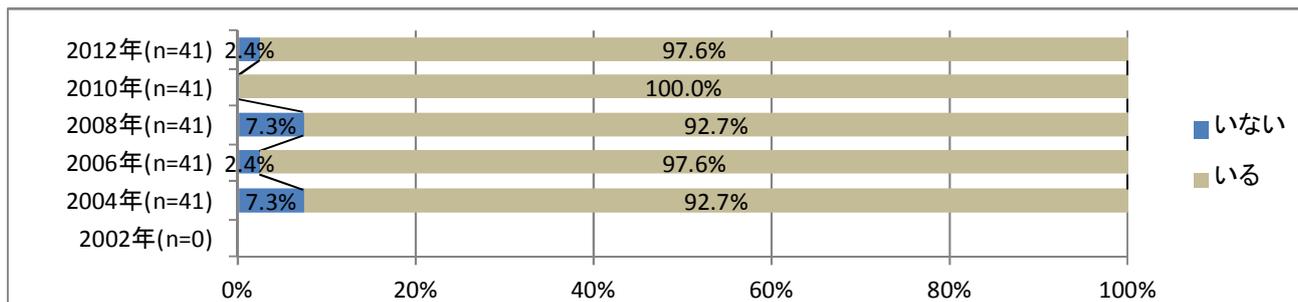
図表 2-47 心配事や悩み事があったときなど相談にのってくれそうな相手の有無（前期高齢期群）

	いない	いる	合計	人数(割合)
2012年(n=78)	5 (6.4%)	73 (93.6%)	78 (100.0%)	
2010年(n=78)	5 (6.4%)	73 (93.6%)	78 (100.0%)	
2008年(n=78)	4 (5.1%)	74 (94.9%)	78 (100.0%)	
2006年(n=78)	3 (3.8%)	75 (96.2%)	78 (100.0%)	
2004年(n=78)	7 (9.0%)	71 (91.0%)	78 (100.0%)	
2002年(n=0)				



図表 2-48 心配事や悩み事があったときなど相談にのってくれそうな相手の有無（後期高齢期群）

	いない	いる	合計	人数(割合)
2012年(n=41)	1 (2.4%)	40 (97.6%)	41 (100.0%)	
2010年(n=41)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	41 (100.0%)	
2008年(n=41)	3 (7.3%)	38 (92.7%)	41 (100.0%)	
2006年(n=41)	1 (2.4%)	40 (97.6%)	41 (100.0%)	
2004年(n=41)	3 (7.3%)	38 (92.7%)	41 (100.0%)	
2002年(n=0)				



■相談相手の具体的な間柄

(「Q. 心配事や悩み事があったときなど相談にのってくれそうな相手の有無」で「いる」と回答した人のみ)

(全体の結果)

相談相手に「家族」を挙げる人が最も多く、2008年調査時が92.3%と最も多いが、それ以外は8割以上で推移している。「友人・知人」の回答は、2004年調査時が18.5%と最も少なく、その後は漸増傾向にあり、2012年調査時では26.5%と最も多くなっている(+8.0ポイント)。(図表2-49)

(壮年期群→Y0)

相談相手に「家族」を挙げる人が最も多く、2004年調査時から2012年調査時までほぼ8割を超えているが、2012年調査時が91.2%と最も多い。「友人・知人」の回答は、2004年調査時から2010年調査時まで2割程度で推移しているが、2012年調査時では35.1%と最も多くなっている。(図表2-50)

(前期高齢期群→00)

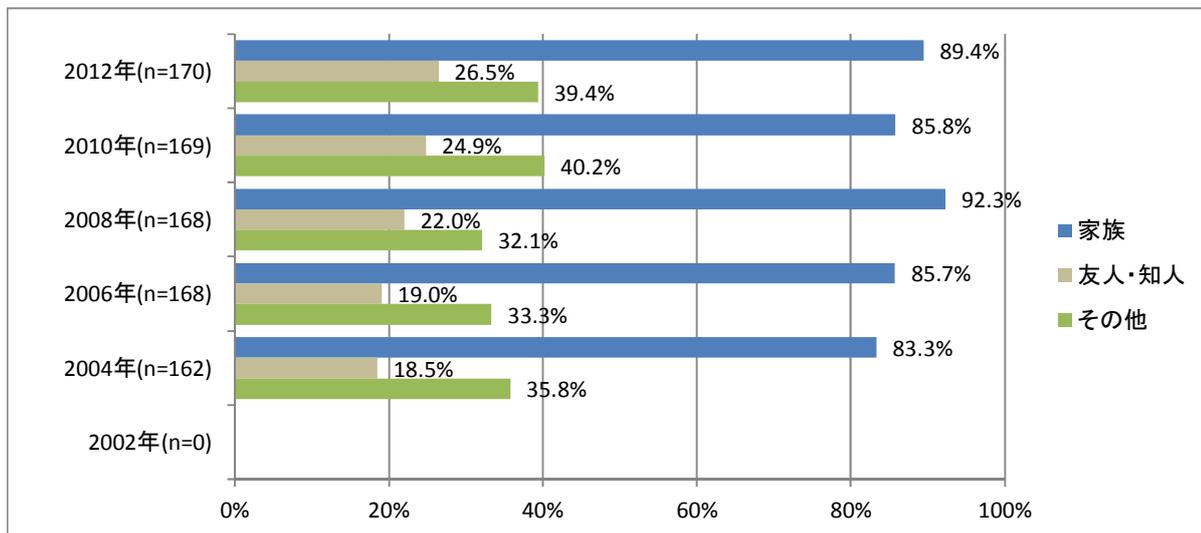
相談相手に「家族」を挙げる人が最も多く、2008年調査時が95.9%と最も多いが、それ以外は8割以上で推移している。「友人・知人」の回答は、2004年調査時が14.1%と最も少なく、その後は漸増傾向にあり、2010年調査時では28.8%と最も多くなっている(+14.7ポイント)。(図表2-51)

(後期高齢期群→0d0)

相談相手に「家族」を挙げる人が最も多く、2006年調査時が95.0%と最も多いが、それ以外は85%以上で推移している。「友人・知人」の回答は、2004年調査時から2010年調査時まで2割以上で推移しているが、2012年調査時では15.0%と最も少なくなっている。(図表2-52)

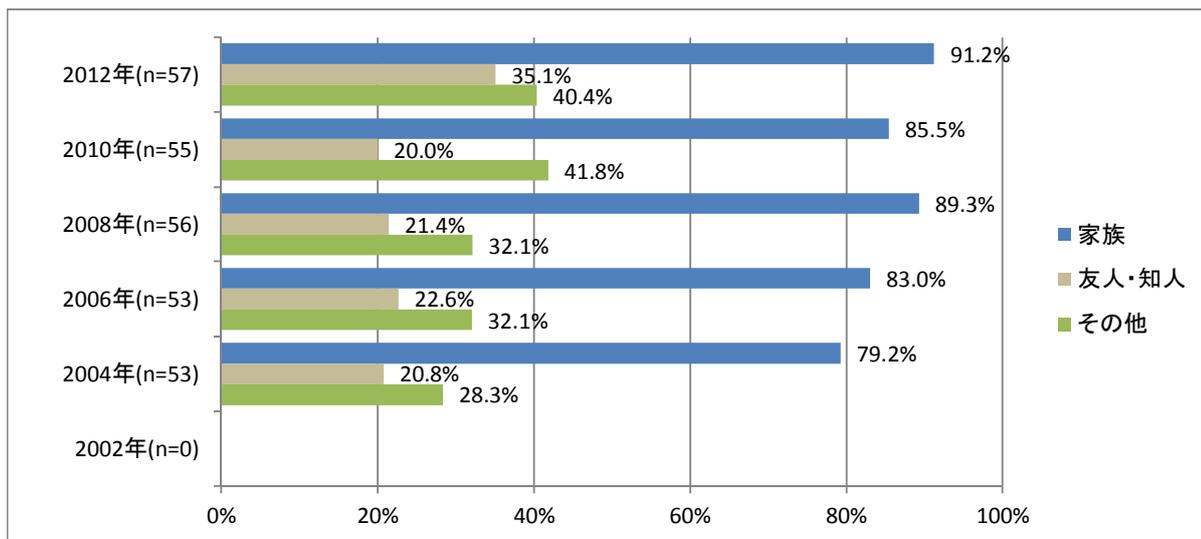
図表 2-49 相談相手の具体的な間柄（全体）※複数回答

	家族	友人・知人	その他	回答数	回答数(割合)
2012年(n=170)	152 (89.4%)	45 (26.5%)	67 (39.4%)	264	
2010年(n=169)	145 (85.8%)	42 (24.9%)	68 (40.2%)	255	
2008年(n=168)	155 (92.3%)	37 (22.0%)	54 (32.1%)	246	
2006年(n=168)	144 (85.7%)	32 (19.0%)	56 (33.3%)	232	
2004年(n=162)	135 (83.3%)	30 (18.5%)	58 (35.8%)	223	
2002年(n=0)					



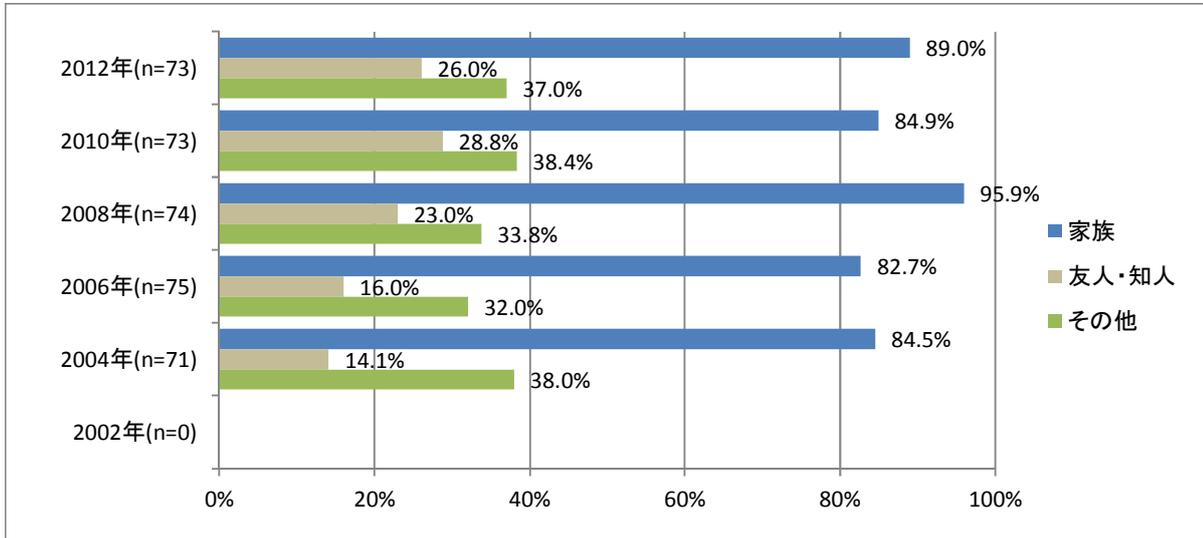
図表 2-50 相談相手の具体的な間柄（壮年期群）※複数回答

	家族	友人・知人	その他	回答数	回答数(割合)
2012年(n=57)	52 (91.2%)	20 (35.1%)	23 (40.4%)	95	
2010年(n=55)	47 (85.5%)	11 (20.0%)	23 (41.8%)	81	
2008年(n=56)	50 (89.3%)	12 (21.4%)	18 (32.1%)	80	
2006年(n=53)	44 (83.0%)	12 (22.6%)	17 (32.1%)	73	
2004年(n=53)	42 (79.2%)	11 (20.8%)	15 (28.3%)	68	
2002年(n=0)					



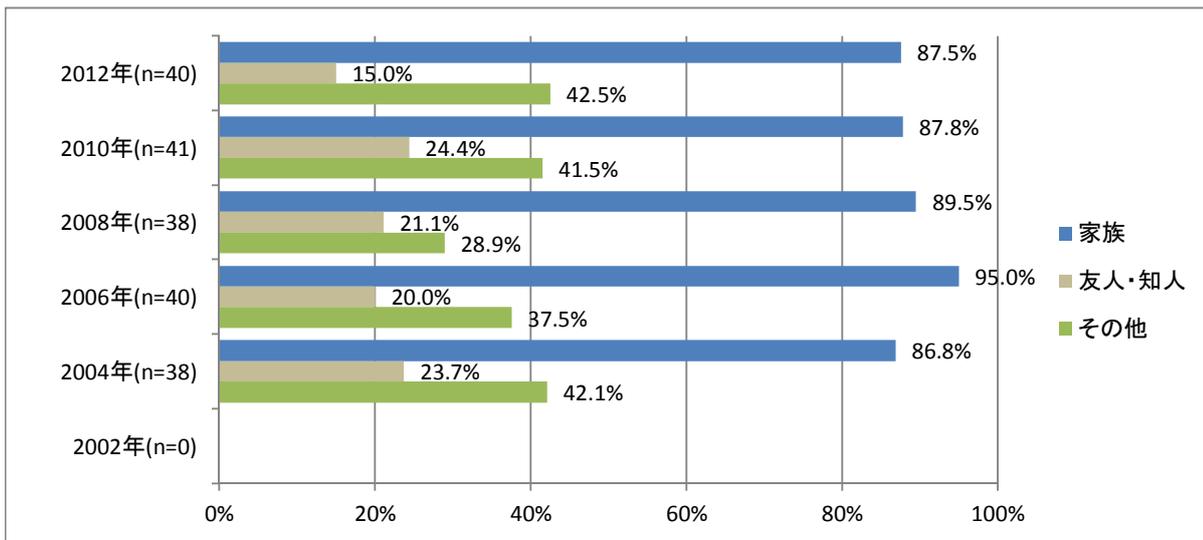
図表 2-51 相談相手の具体的な間柄（前期高齢期群）※複数回答

	家族	友人・知人	その他	回答数	回答数(割合)
2012年(n=73)	65 (89.0%)	19 (26.0%)	27 (37.0%)	111	
2010年(n=73)	62 (84.9%)	21 (28.8%)	28 (38.4%)	111	
2008年(n=74)	71 (95.9%)	17 (23.0%)	25 (33.8%)	113	
2006年(n=75)	62 (82.7%)	12 (16.0%)	24 (32.0%)	98	
2004年(n=71)	60 (84.5%)	10 (14.1%)	27 (38.0%)	97	
2002年(n=0)					



図表 2-52 相談相手の具体的な間柄（後期高齢期群）※複数回答

	家族	友人・知人	その他	回答数	回答数(割合)
2012年(n=40)	35 (87.5%)	6 (15.0%)	17 (42.5%)	58	
2010年(n=41)	36 (87.8%)	10 (24.4%)	17 (41.5%)	63	
2008年(n=38)	34 (89.5%)	8 (21.1%)	11 (28.9%)	53	
2006年(n=40)	38 (95.0%)	8 (20.0%)	15 (37.5%)	61	
2004年(n=38)	33 (86.8%)	9 (23.7%)	16 (42.1%)	58	
2002年(n=0)					



■相談相手の具体的な間柄：【家族】の具体的な内容

(「Q. 相談相手の具体的な間柄」で「家族」を挙げた人のみ)

(全体の結果)

相談相手(家族)の回答では「子供」を挙げる人が最も多く、2004年調査時から2012年調査時までほぼ半数を超えている。2006年調査時が47.9%と最も少なく、その後は漸増傾向にあり、2012年調査時では65.8%と最も多くなっている(+17.9ポイント)。「配偶者」を挙げる人は、2006年調査時から漸増傾向にあり、2010年調査時では56.6%と最も多いが(+14.2ポイント)、2012年調査時では27.0%と2年間で大きく減少している(-29.6ポイント)。(図表2-53)

(壮年期群→Y0)

相談相手(家族)の回答では、2004年調査時から2010年調査時まで「配偶者」を挙げる人が最も多く、半数以上で推移しているが、2012年調査時では「子供」を挙げる人が51.9%と最も多くなっている。「配偶者」を挙げる人は、2006年調査時から漸増傾向にあり、2010年調査時では70.2%と最も多いが(+20.2ポイント)、2012年調査時では42.3%と2年間で大きく減少している(-27.9ポイント)。一方「子供」を挙げる人は、2004年調査時が23.8%と最も少なく、その後は漸増傾向にあり、2010年調査時では57.4%と大幅に増加している(+33.6ポイント)。(図表2-54)

(前期高齢期群→00)

相談相手(家族)の回答では「子供」を挙げる人が最も多く、2004年調査時から2012年調査時までほぼ6割を超えている。2006年調査時が58.1%と最も少なく、その後は漸増傾向にあり、2012年調査時では72.3%と最も多くなっている(+14.2ポイント)。「配偶者」を挙げる人は、2004年調査時から漸増傾向にあり、2010年調査時では58.1%と最も多いが(+18.1ポイント)、2012年調査時では23.1%と2年間で大きく減少している(-35.0ポイント)。(図表2-55)

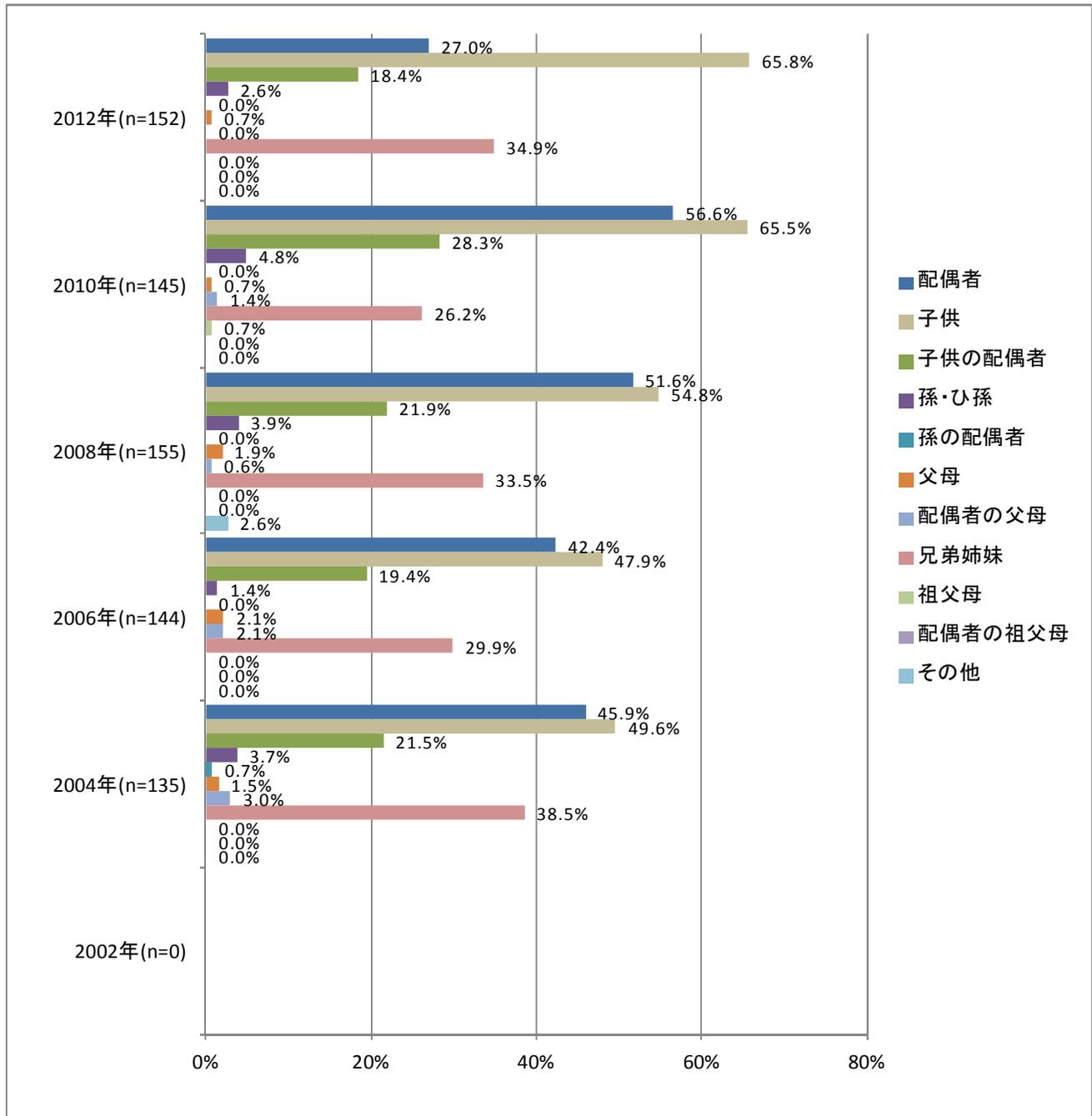
(後期高齢期群→0d0)

相談相手(家族)の回答では「子供」を挙げる人が最も多く、2006年調査時が52.6%と最も少ないが、それ以外は6割以上で推移している。「配偶者」を挙げる人は、2004年調査時から2010年調査時まで3割程度で推移しているが、2012年調査時では11.4%と最も少なくなっている。(図表2-56)

図表 2-53 相談相手の具体的な間柄【家族】（全体）※複数回答

	配偶者	子供	子供の配偶者	孫・ひ孫	孫の配偶者	父母	配偶者の父母	兄弟姉妹
2012年(n=152)	41 (27.0%)	100 (65.8%)	28 (18.4%)	4 (2.6%)	0 (0.0%)	1 (0.7%)	0 (0.0%)	53 (34.9%)
2010年(n=145)	82 (56.6%)	95 (65.5%)	41 (28.3%)	7 (4.8%)	0 (0.0%)	1 (0.7%)	2 (1.4%)	38 (26.2%)
2008年(n=155)	80 (51.6%)	85 (54.8%)	34 (21.9%)	6 (3.9%)	0 (0.0%)	3 (1.9%)	1 (0.6%)	52 (33.5%)
2006年(n=144)	61 (42.4%)	69 (47.9%)	28 (19.4%)	2 (1.4%)	0 (0.0%)	3 (2.1%)	3 (2.1%)	43 (29.9%)
2004年(n=135)	62 (45.9%)	67 (49.6%)	29 (21.5%)	5 (3.7%)	1 (0.7%)	2 (1.5%)	4 (3.0%)	52 (38.5%)
2002年(n=0)								

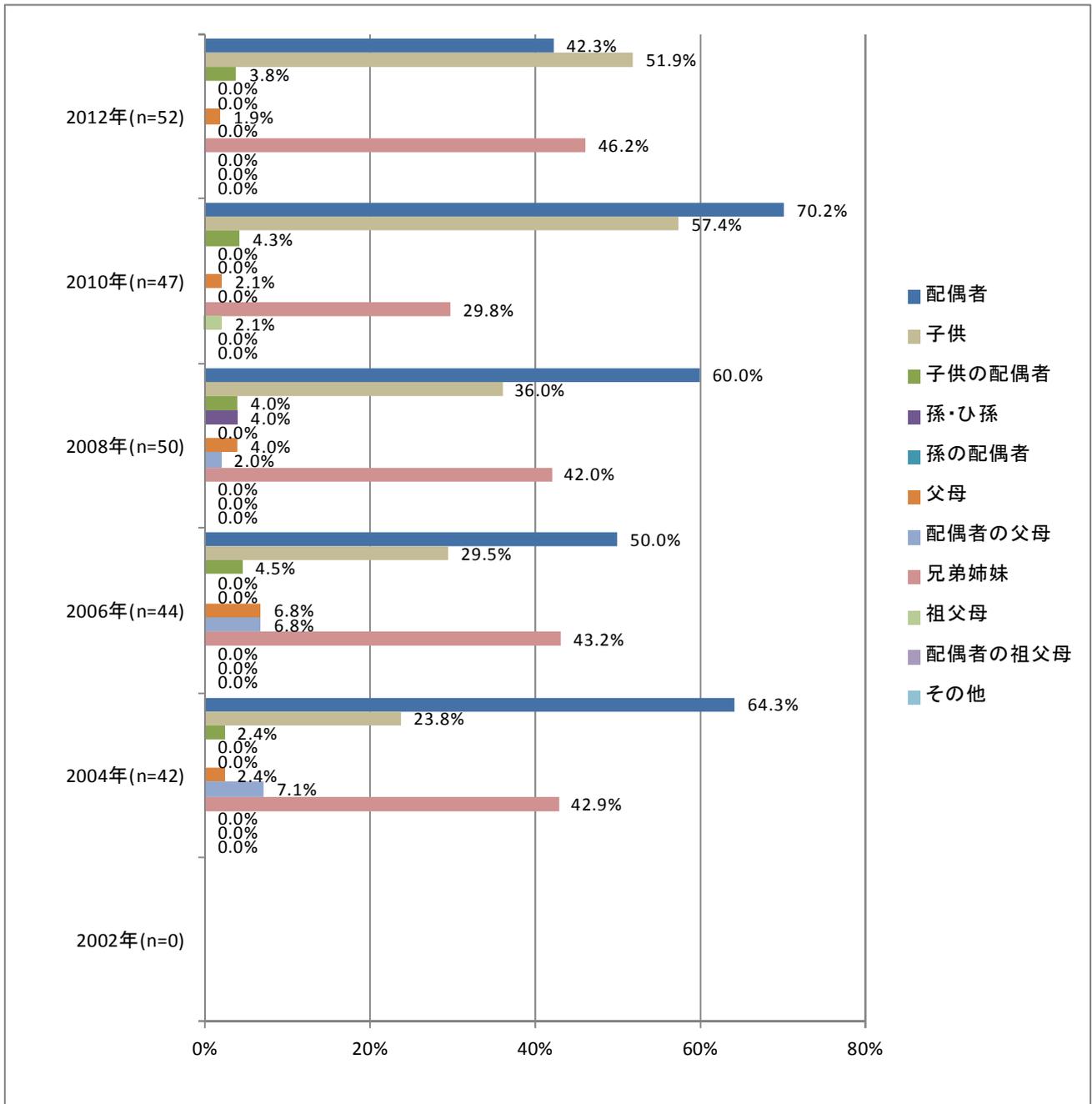
	祖父母	配偶者の祖父母	その他	回答数	回答数(割合)
2012年(n=152)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	227	
2010年(n=145)	1 (0.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	267	
2008年(n=155)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (2.6%)	265	
2006年(n=144)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	209	
2004年(n=135)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	222	
2002年(n=0)					



図表 2-54 相談相手の具体的な間柄【家族】（壮年期群）※複数回答

	配偶者	子供	子供の配偶者	孫・ひ孫	孫の配偶者	父母	配偶者の父母	兄弟姉妹
2012年(n=52)	22 (42.3%)	27 (51.9%)	2 (3.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.9%)	0 (0.0%)	24 (46.2%)
2010年(n=47)	33 (70.2%)	27 (57.4%)	2 (4.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (2.1%)	0 (0.0%)	14 (29.8%)
2008年(n=50)	30 (60.0%)	18 (36.0%)	2 (4.0%)	2 (4.0%)	0 (0.0%)	2 (4.0%)	1 (2.0%)	21 (42.0%)
2006年(n=44)	22 (50.0%)	13 (29.5%)	2 (4.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (6.8%)	3 (6.8%)	19 (43.2%)
2004年(n=42)	27 (64.3%)	10 (23.8%)	1 (2.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (2.4%)	3 (7.1%)	18 (42.9%)
2002年(n=0)								

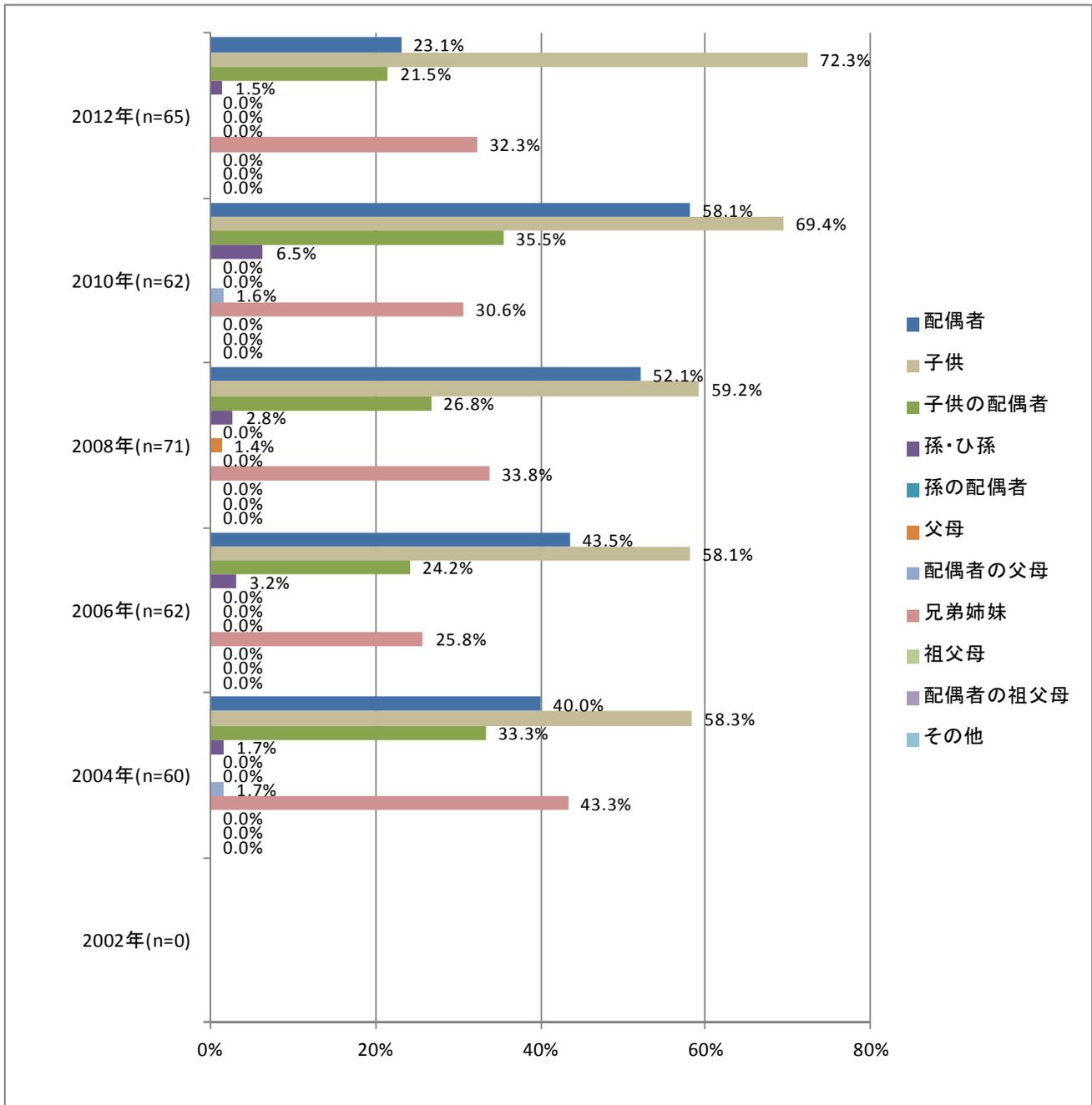
	祖父母	配偶者の祖父母	その他	回答数	回答数(割合)
2012年(n=52)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	76	
2010年(n=47)	1 (2.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	78	
2008年(n=50)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	76	
2006年(n=44)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	62	
2004年(n=42)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	60	
2002年(n=0)					



図表 2-55 相談相手の具体的な間柄【家族】（前期高齢期群）※複数回答

	配偶者	子供	子供の配偶者	孫・ひ孫	孫の配偶者	父母	配偶者の父母	兄弟姉妹
2012年(n=65)	15 (23.1%)	47 (72.3%)	14 (21.5%)	1 (1.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	21 (32.3%)
2010年(n=62)	36 (58.1%)	43 (69.4%)	22 (35.5%)	4 (6.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.6%)	19 (30.6%)
2008年(n=71)	37 (52.1%)	42 (59.2%)	19 (26.8%)	2 (2.8%)	0 (0.0%)	1 (1.4%)	0 (0.0%)	24 (33.8%)
2006年(n=62)	27 (43.5%)	36 (58.1%)	15 (24.2%)	2 (3.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	16 (25.8%)
2004年(n=60)	24 (40.0%)	35 (58.3%)	20 (33.3%)	1 (1.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.7%)	26 (43.3%)
2002年(n=0)								

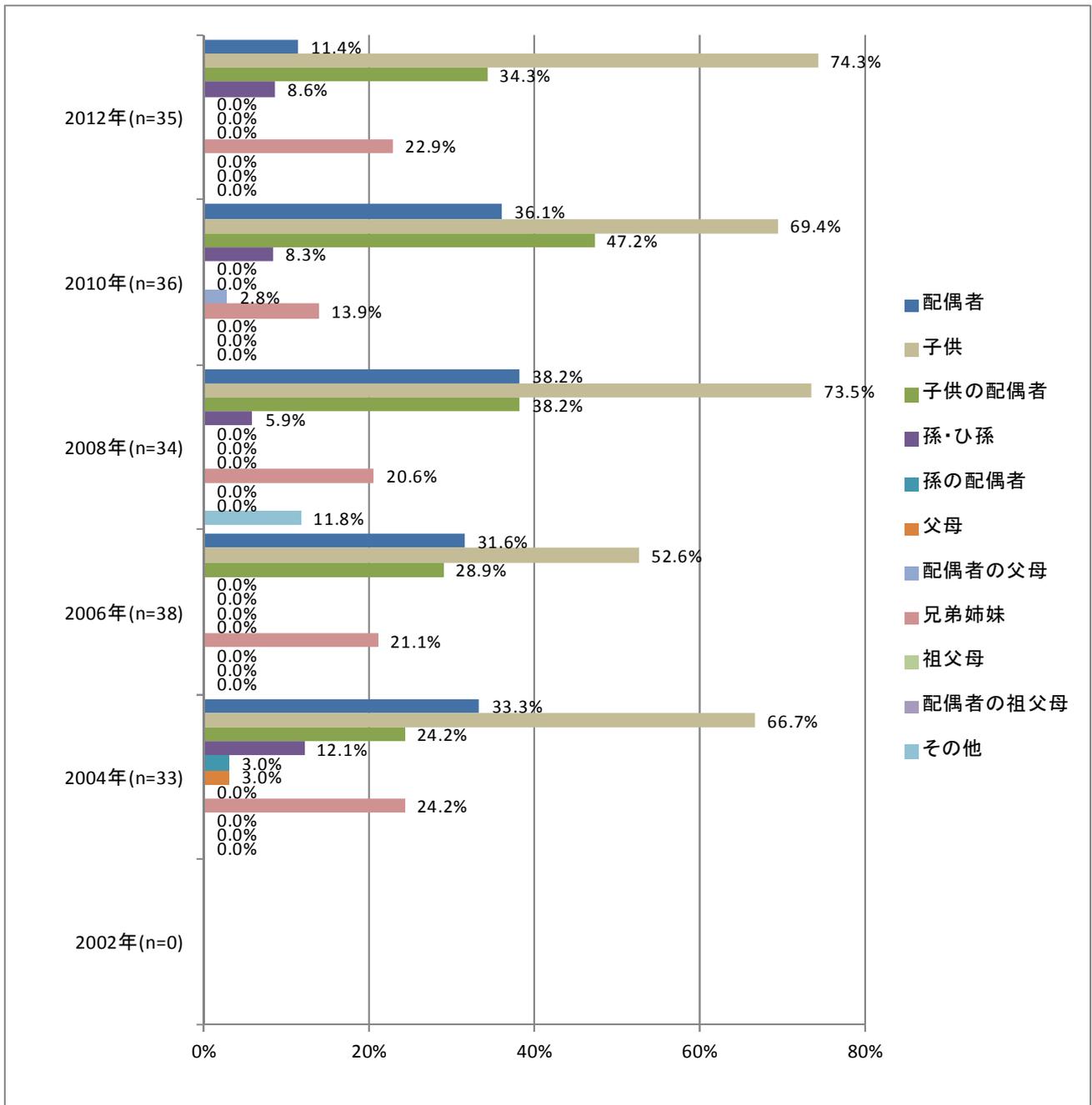
	祖父母	配偶者の祖父母	その他	回答数	回答数(割合)
2012年(n=65)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	98	
2010年(n=62)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	125	
2008年(n=71)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	125	
2006年(n=62)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	96	
2004年(n=60)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	107	
2002年(n=0)					



図表 2-56 相談相手の具体的な間柄【家族】（後期高齢期群）※複数回答

	配偶者	子供	子供の配偶者	孫・ひ孫	孫の配偶者	父母	配偶者の父母	兄弟姉妹
2012年(n=35)	4 (11.4%)	26 (74.3%)	12 (34.3%)	3 (8.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	8 (22.9%)
2010年(n=36)	13 (36.1%)	25 (69.4%)	17 (47.2%)	3 (8.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (2.8%)	5 (13.9%)
2008年(n=34)	13 (38.2%)	25 (73.5%)	13 (38.2%)	2 (5.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	7 (20.6%)
2006年(n=38)	12 (31.6%)	20 (52.6%)	11 (28.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	8 (21.1%)
2004年(n=33)	11 (33.3%)	22 (66.7%)	8 (24.2%)	4 (12.1%)	1 (3.0%)	1 (3.0%)	0 (0.0%)	8 (24.2%)
2002年(n=0)								

	祖父母	配偶者の祖父母	その他	回答数	回答数(割合)
2012年(n=35)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	53	
2010年(n=36)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	64	
2008年(n=34)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (11.8%)	64	
2006年(n=38)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	51	
2004年(n=33)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	55	
2002年(n=0)					



■同居の家族以外でちょっとした用事や留守番などを頼める相手の有無

(全体の結果)

用事や留守番を頼める人が「いる」と回答した人は、2004年調査時から2012年調査時まで7割以上を占めている。2008年調査時では74.6%と最も少ないが、その後は漸増傾向にあり、2012年調査時では85.9%と最も多くなっている（+11.3ポイント）。（図表2-57）

(壮年期群→Y0)

用事や留守番を頼める人が「いる」と回答した人は、2004年調査時から2012年調査時まで8割以上で推移している。2008年調査時では81.0%と最も少ないが、その後は漸増傾向にあり、2012年調査時では89.7%と最も多くなっている（+8.7ポイント）。（図表2-58）

(前期高齢期群→00)

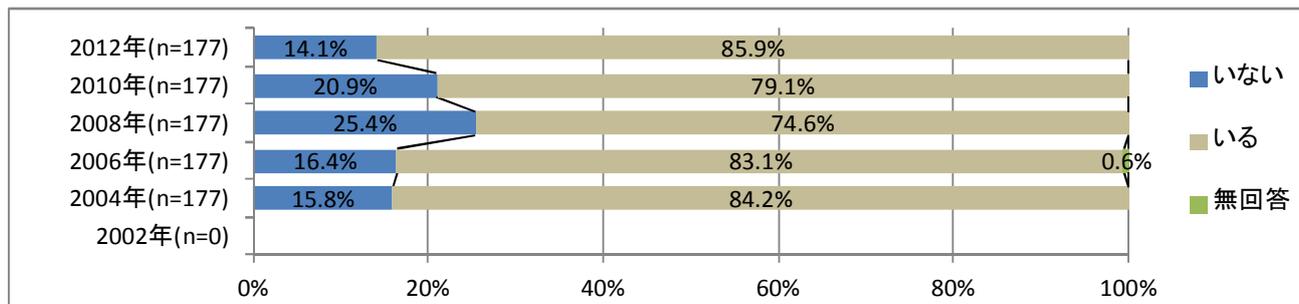
用事や留守番を頼める人が「いる」と回答した人は、2008年調査時が69.2%と最も少ないが、それ以外はほぼ8割以上で推移している。2008年調査時から漸増傾向にあり、2012年調査時では83.3%となっている（+14.1ポイント）。（図表2-59）

(後期高齢期群→0d0)

用事や留守番を頼める人が「いる」と回答した人は、2004年調査時から2010年調査時までほぼ7割～8割程度で推移しているが、2012年調査時では85.4%とこれまでの調査で最も多くなっている。（図表2-60）

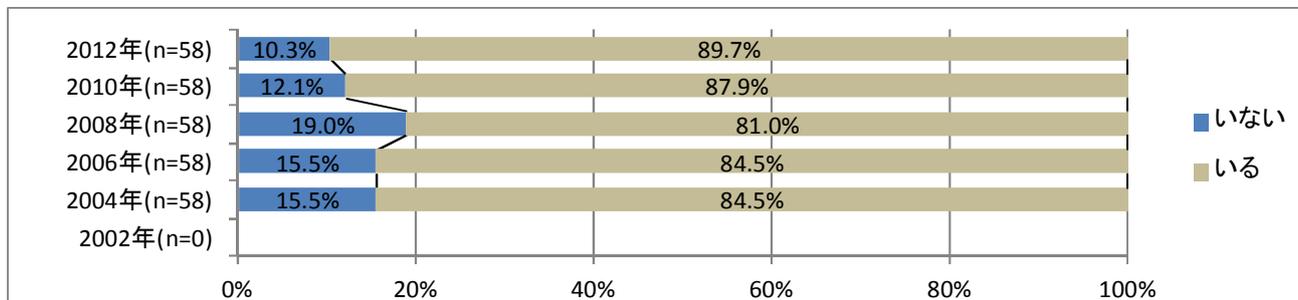
図表 2-57 同居の家族以外でちょっとした用事や留守番などを頼める相手の有無（全体）

	いない	いる	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=177)	25 (14.1%)	152 (85.9%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2010年(n=177)	37 (20.9%)	140 (79.1%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2008年(n=177)	45 (25.4%)	132 (74.6%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2006年(n=177)	29 (16.4%)	147 (83.1%)	1 (0.6%)	177 (100.0%)	
2004年(n=177)	28 (15.8%)	149 (84.2%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2002年(n=0)					



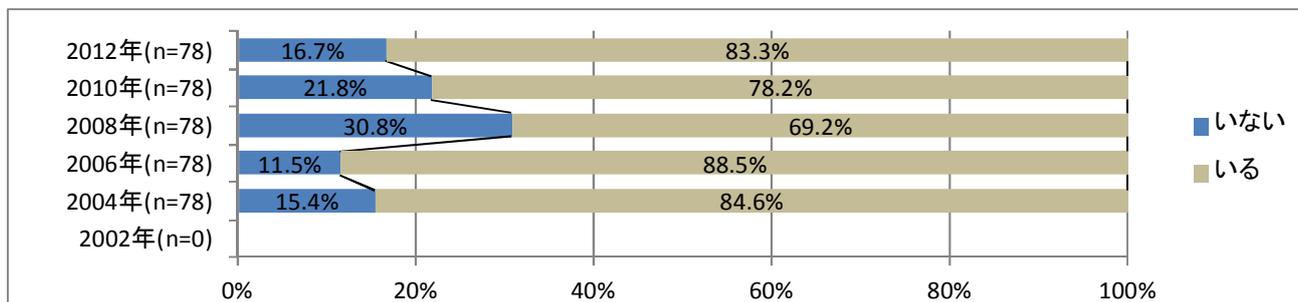
図表 2-58 同居の家族以外でちょっとした用事や留守番などを頼める相手の有無（壮年期群）

	いない	いる	合計	人数(割合)
2012年(n=58)	6 (10.3%)	52 (89.7%)	58 (100.0%)	
2010年(n=58)	7 (12.1%)	51 (87.9%)	58 (100.0%)	
2008年(n=58)	11 (19.0%)	47 (81.0%)	58 (100.0%)	
2006年(n=58)	9 (15.5%)	49 (84.5%)	58 (100.0%)	
2004年(n=58)	9 (15.5%)	49 (84.5%)	58 (100.0%)	
2002年(n=0)				



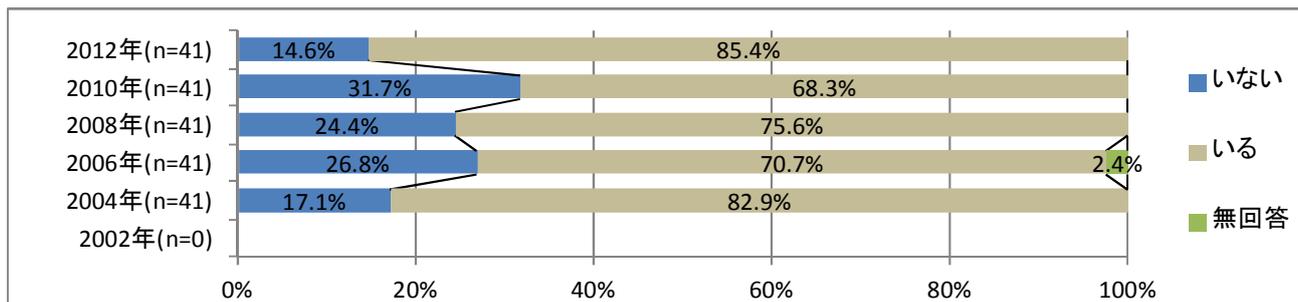
図表 2-59 同居の家族以外でちょっとした用事や留守番などを頼める相手の有無（前期高齢期群）

	いない	いる	合計	人数(割合)
2012年(n=78)	13 (16.7%)	65 (83.3%)	78 (100.0%)	
2010年(n=78)	17 (21.8%)	61 (78.2%)	78 (100.0%)	
2008年(n=78)	24 (30.8%)	54 (69.2%)	78 (100.0%)	
2006年(n=78)	9 (11.5%)	69 (88.5%)	78 (100.0%)	
2004年(n=78)	12 (15.4%)	66 (84.6%)	78 (100.0%)	
2002年(n=0)				



図表 2-60 同居の家族以外でちょっとした用事や留守番などを頼める相手の有無（後期高齢期群）

	いない	いる	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=41)	6 (14.6%)	35 (85.4%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2010年(n=41)	13 (31.7%)	28 (68.3%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2008年(n=41)	10 (24.4%)	31 (75.6%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2006年(n=41)	11 (26.8%)	29 (70.7%)	1 (2.4%)	41 (100.0%)	
2004年(n=41)	7 (17.1%)	34 (82.9%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2002年(n=0)					



■同居の家族以外で用事を頼める相手の具体的な間柄

(「Q.同居の家族以外でちょっとした用事や留守番などを頼める相手の有無」で「いる」と回答した人のみ)

(全体の結果)

用事や留守番を頼める相手の間柄は、「その他」の回答が最も多く、2004年調査時から2012年調査時までほぼ半数を占めている。「家族」を挙げる人は、2008年調査時が25.8%と最も少ないが、それ以外はほぼ4割程度で推移している。(図表2-61)

(壮年期群→Y0)

用事や留守番を頼める相手の間柄は、2004年調査時から2008年調査時まで「その他」の回答が最も多く、ほぼ半数を超えているが、2010年調査時では「友人・知人」の回答が47.1%と最も多く、2012年調査時では「友人・知人」「その他」の回答がそれぞれ約半数を占めている。「家族」を挙げる人は、2004年調査時から2006年調査時まで4割以上で推移しているが、2008年調査時では27.7%と最も少ない。2008年調査時以降は漸増傾向にあり、2012年調査時では38.5%に増加している(+10.8ポイント)。(図表2-62)

(前期高齢期群→00)

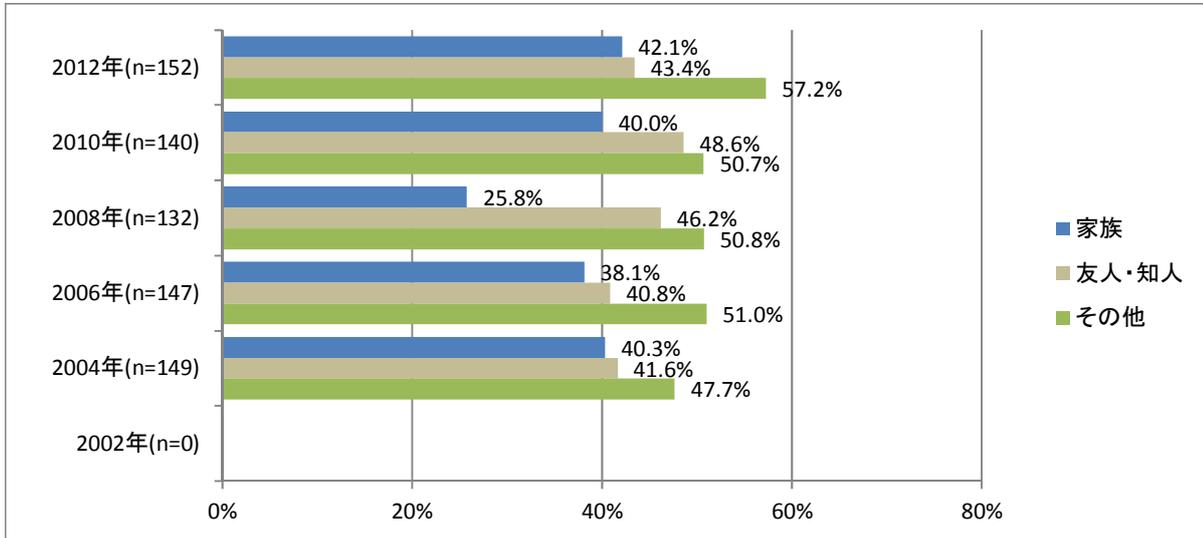
用事や留守番を頼める相手の間柄は、「その他」の回答が最も多く、2004年調査時から2012年調査時まで4割以上で推移している。「家族」を挙げる人は、2008年調査時が29.6%と最も少ないが、それ以外はほぼ4割程度で推移している。(図表2-63)

(後期高齢期群→0d0)

用事や留守番を頼める相手で「友人・知人」を挙げる人は、2006年調査時から2010年調査時まで半数以上を占めているが、2012年調査時では25.7%と最も少ない。「家族」を挙げる人は、2004年調査時から漸減傾向にあり、2008年調査時では16.1%と最も少なくなっている(-22.1ポイント)。しかし、2008年調査時以降は漸増し、2012年調査時では48.6%と大幅に増加している(+32.5ポイント)。(図表2-64)

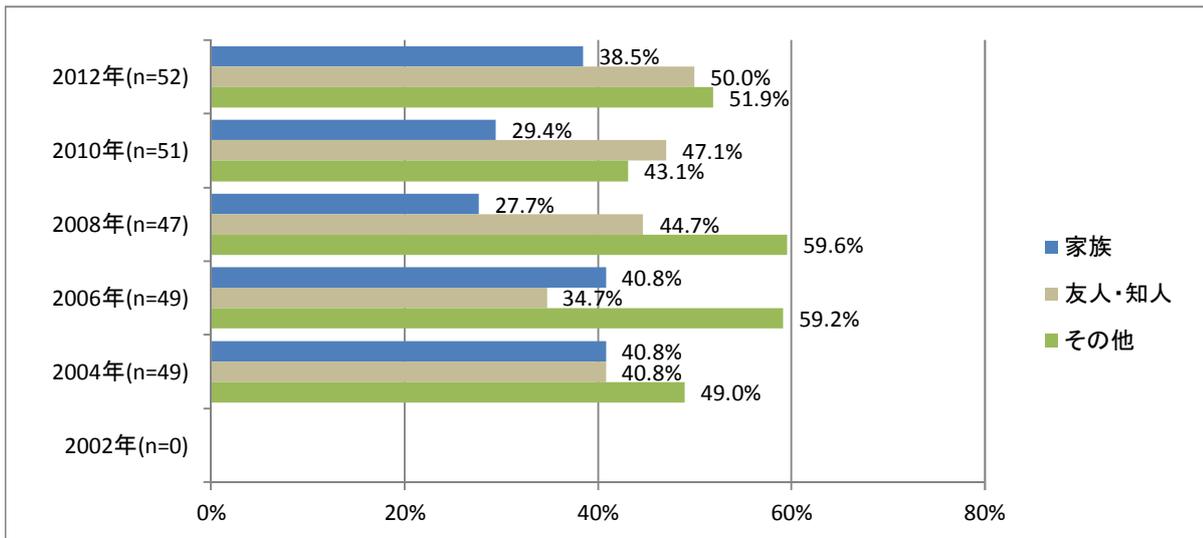
図表 2-61 同居の家族以外で用事を頼める相手の具体的な間柄（全体）※複数回答

	家族	友人・知人	その他	回答数	回答数(割合)
2012年(n=152)	64 (42.1%)	66 (43.4%)	87 (57.2%)	217	
2010年(n=140)	56 (40.0%)	68 (48.6%)	71 (50.7%)	195	
2008年(n=132)	34 (25.8%)	61 (46.2%)	67 (50.8%)	162	
2006年(n=147)	56 (38.1%)	60 (40.8%)	75 (51.0%)	191	
2004年(n=149)	60 (40.3%)	62 (41.6%)	71 (47.7%)	193	
2002年(n=0)					



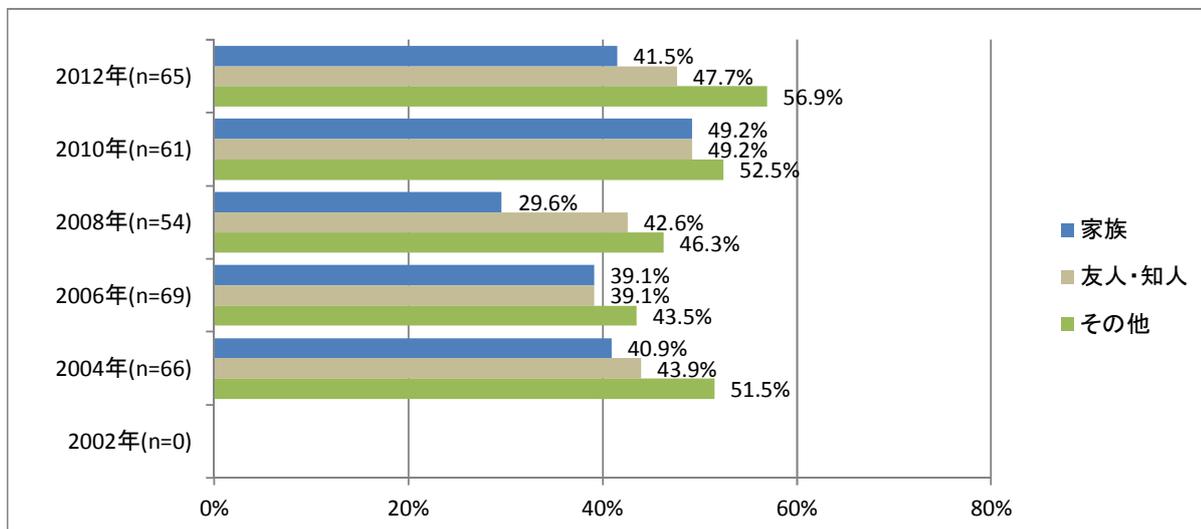
図表 2-62 同居の家族以外で用事を頼める相手の具体的な間柄（壮年期群）※複数回答

	家族	友人・知人	その他	回答数	回答数(割合)
2012年(n=52)	20 (38.5%)	26 (50.0%)	27 (51.9%)	73	
2010年(n=51)	15 (29.4%)	24 (47.1%)	22 (43.1%)	61	
2008年(n=47)	13 (27.7%)	21 (44.7%)	28 (59.6%)	62	
2006年(n=49)	20 (40.8%)	17 (34.7%)	29 (59.2%)	66	
2004年(n=49)	20 (40.8%)	20 (40.8%)	24 (49.0%)	64	
2002年(n=0)					



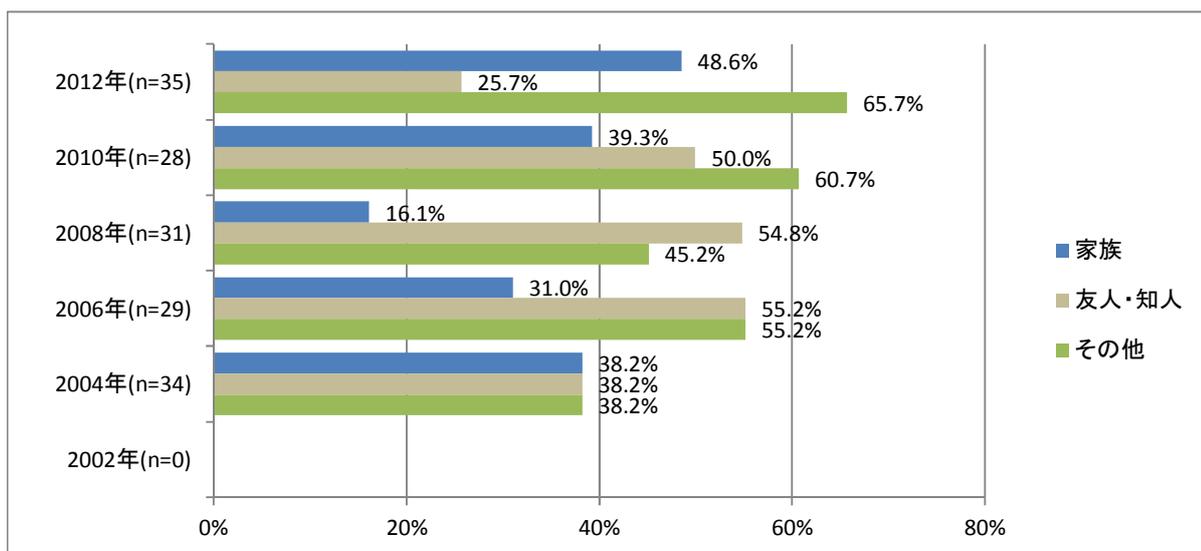
図表 2-63 同居の家族以外で用事を頼める相手の具体的な間柄（前期高齢期群）※複数回答

	家族	友人・知人	その他	回答数	回答数(割合)
2012年(n=65)	27 (41.5%)	31 (47.7%)	37 (56.9%)	95	
2010年(n=61)	30 (49.2%)	30 (49.2%)	32 (52.5%)	92	
2008年(n=54)	16 (29.6%)	23 (42.6%)	25 (46.3%)	64	
2006年(n=69)	27 (39.1%)	27 (39.1%)	30 (43.5%)	84	
2004年(n=66)	27 (40.9%)	29 (43.9%)	34 (51.5%)	90	
2002年(n=0)					



図表 2-64 同居の家族以外で用事を頼める相手の具体的な間柄（後期高齢期群）※複数回答

	家族	友人・知人	その他	回答数	回答数(割合)
2012年(n=35)	17 (48.6%)	9 (25.7%)	23 (65.7%)	49	
2010年(n=28)	11 (39.3%)	14 (50.0%)	17 (60.7%)	42	
2008年(n=31)	5 (16.1%)	17 (54.8%)	14 (45.2%)	36	
2006年(n=29)	9 (31.0%)	16 (55.2%)	16 (55.2%)	41	
2004年(n=34)	13 (38.2%)	13 (38.2%)	13 (38.2%)	39	
2002年(n=0)					



■同居の家族以外で用事を頼める相手の具体的な間柄：【家族】の具体的な内容

(「Q.同居の家族以外で用事を頼める相手の具体的な間柄」で「家族」を挙げた人のみ)

(全体の結果)

用事や留守番を頼める相手(家族)の回答では、「兄弟姉妹」を挙げる人が最も多く、2004年調査時から2012年調査時まで半数以上を占めている。2004年調査時が56.7%と最も少なく、その後は漸増傾向にあり、2008年調査時には73.5%と最も多いが(+16.8ポイント)、その後は6割程度で推移している。(図表2-65)

(壮年期群→Y0)

用事や留守番を頼める相手(家族)の回答では、「兄弟姉妹」を挙げる人が最も多く、2004年調査時から2012年調査時まで6割以上を占めている。2004年調査時から漸増傾向にあり、2008年調査時には100.0%と最も多い(+25.0ポイント)。しかし、2010年調査時には6割に減少し、2012年調査時には9割を占めている。(図表2-66)

(前期高齢期群→00)

用事や留守番を頼める相手(家族)の回答では、「兄弟姉妹」を挙げる人が最も多く、2004年調査時から2012年調査時まで半数以上を維持しているが、2010年調査時以降は約6割を占めている。(図表2-67)

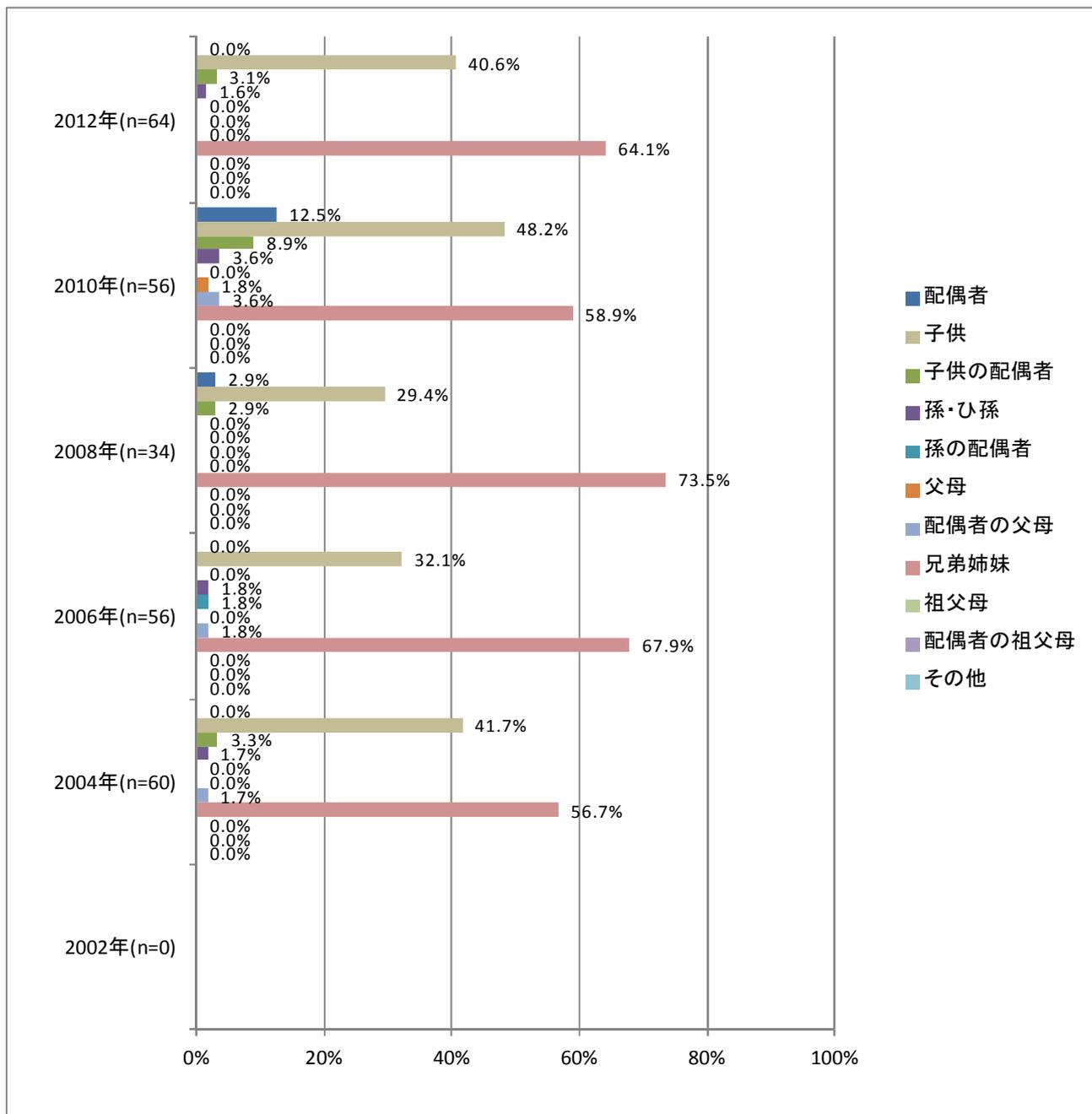
(後期高齢期群→0d0)

用事や留守番を頼める相手(家族)の回答のうち「子供」を挙げる人は、2008年調査時が40.0%と最も少ないが、その後は漸増傾向にあり、2012年調査時には58.8%と6割近くを占めている(+18.8ポイント)。一方「兄弟姉妹」を挙げる人は、2008年調査時が60.0%と最も多いが、その後は漸減傾向にあり、2012年調査時には41.2%に減少している(-18.8ポイント)。(図表2-68)

図表 2-65 同居の家族以外で用事を頼める相手の具体的な間柄【家族】（全体）※複数回答

	配偶者	子供	子供の配偶者	孫・ひ孫	孫の配偶者	父母	配偶者の父母	兄弟姉妹
2012年(n=64)	0 (0.0%)	26 (40.6%)	2 (3.1%)	1 (1.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	41 (64.1%)
2010年(n=56)	7 (12.5%)	27 (48.2%)	5 (8.9%)	2 (3.6%)	0 (0.0%)	1 (1.8%)	2 (3.6%)	33 (58.9%)
2008年(n=34)	1 (2.9%)	10 (29.4%)	1 (2.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	25 (73.5%)
2006年(n=56)	0 (0.0%)	18 (32.1%)	0 (0.0%)	1 (1.8%)	1 (1.8%)	0 (0.0%)	1 (1.8%)	38 (67.9%)
2004年(n=60)	0 (0.0%)	25 (41.7%)	2 (3.3%)	1 (1.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.7%)	34 (56.7%)
2002年(n=0)								

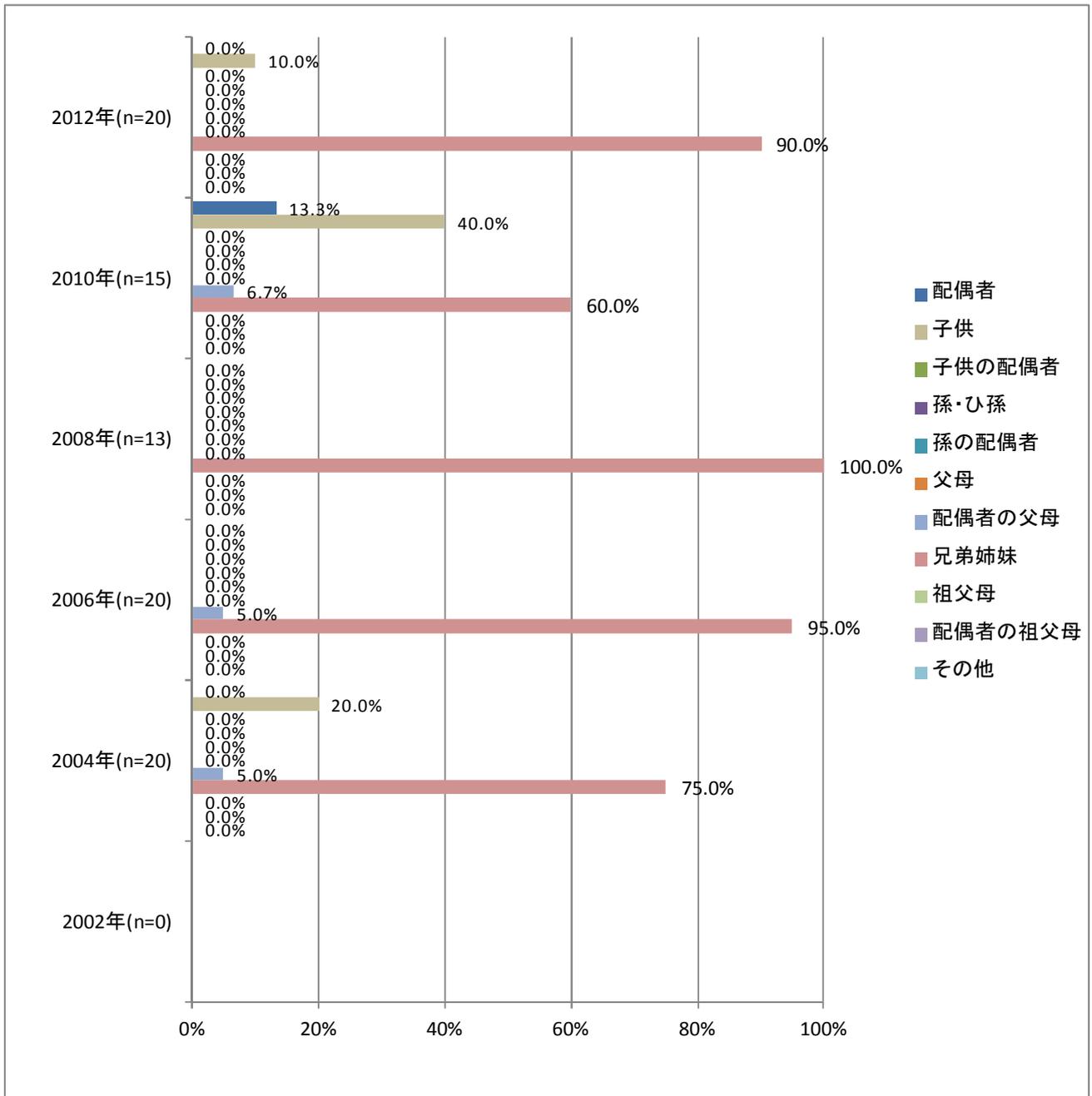
	祖父母	配偶者の祖父母	その他	回答数	回答数(割合)
2012年(n=64)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	70	
2010年(n=56)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	77	
2008年(n=34)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	37	
2006年(n=56)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	59	
2004年(n=60)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	63	
2002年(n=0)					



図表 2-66 同居の家族以外で用事を頼める相手の具体的な間柄【家族】（壮年期群）※複数回答

	配偶者	子供	子供の配偶者	孫・ひ孫	孫の配偶者	父母	配偶者の父母	兄弟姉妹
2012年(n=20)	0 (0.0%)	2 (10.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	18 (90.0%)
2010年(n=15)	2 (13.3%)	6 (40.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (6.7%)	9 (60.0%)
2008年(n=13)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	13 (100.0%)
2006年(n=20)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (5.0%)	19 (95.0%)
2004年(n=20)	0 (0.0%)	4 (20.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (5.0%)	15 (75.0%)
2002年(n=0)								

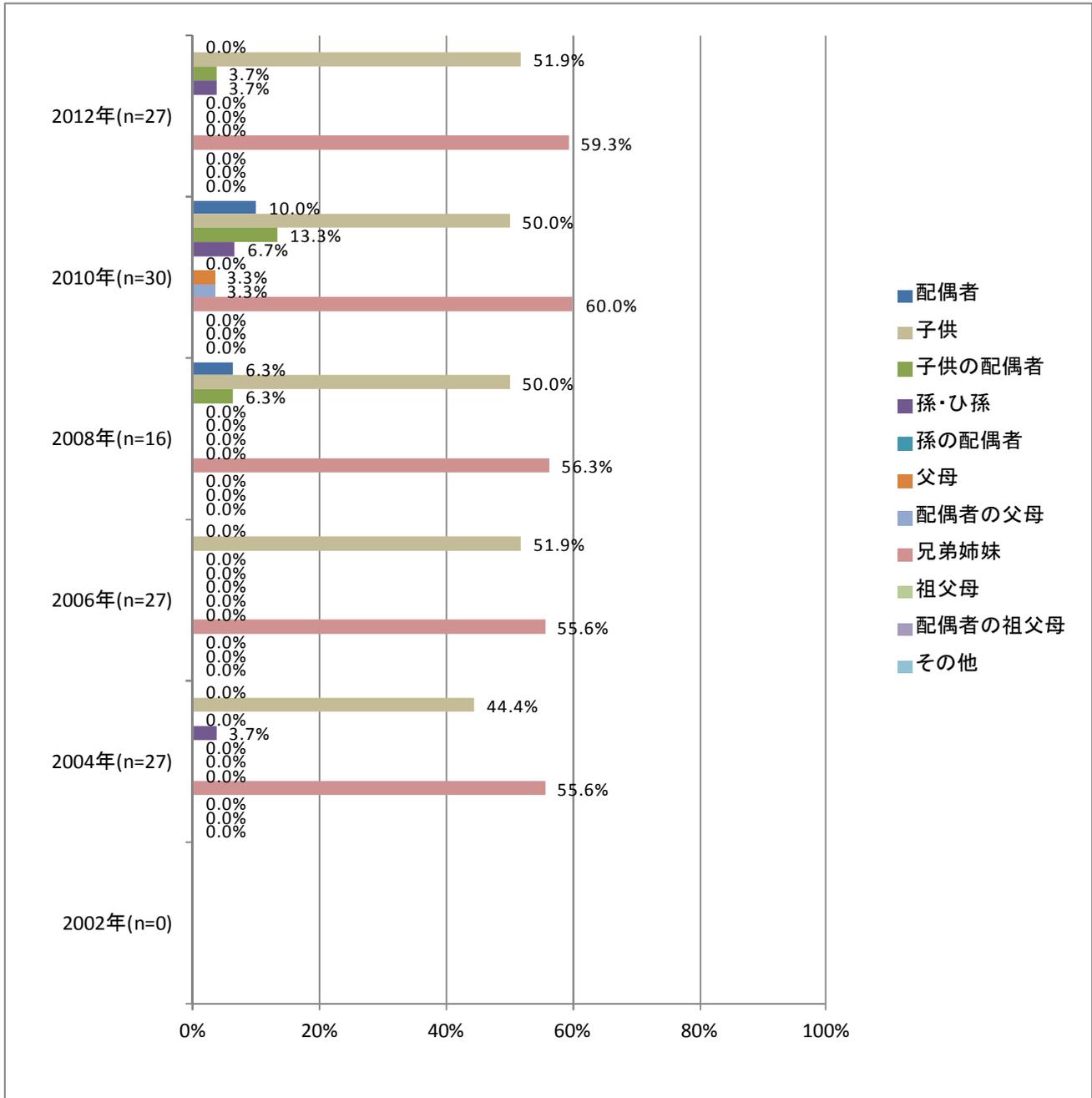
	祖父母	配偶者の祖父母	その他	回答数	回答数(割合)
2012年(n=20)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	20	
2010年(n=15)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	18	
2008年(n=13)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	13	
2006年(n=20)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	20	
2004年(n=20)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	20	
2002年(n=0)					



図表 2-67 同居の家族以外で用事を頼める相手の具体的な間柄【家族】（前期高齢期群）※複数回答

	配偶者	子供	子供の配偶者	孫・ひ孫	孫の配偶者	父母	配偶者の父母	兄弟姉妹
2012年(n=27)	0 (0.0%)	14 (51.9%)	1 (3.7%)	1 (3.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	16 (59.3%)
2010年(n=30)	3 (10.0%)	15 (50.0%)	4 (13.3%)	2 (6.7%)	0 (0.0%)	1 (3.3%)	1 (3.3%)	18 (60.0%)
2008年(n=16)	1 (6.3%)	8 (50.0%)	1 (6.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	9 (56.3%)
2006年(n=27)	0 (0.0%)	14 (51.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	15 (55.6%)
2004年(n=27)	0 (0.0%)	12 (44.4%)	0 (0.0%)	1 (3.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	15 (55.6%)
2002年(n=0)								

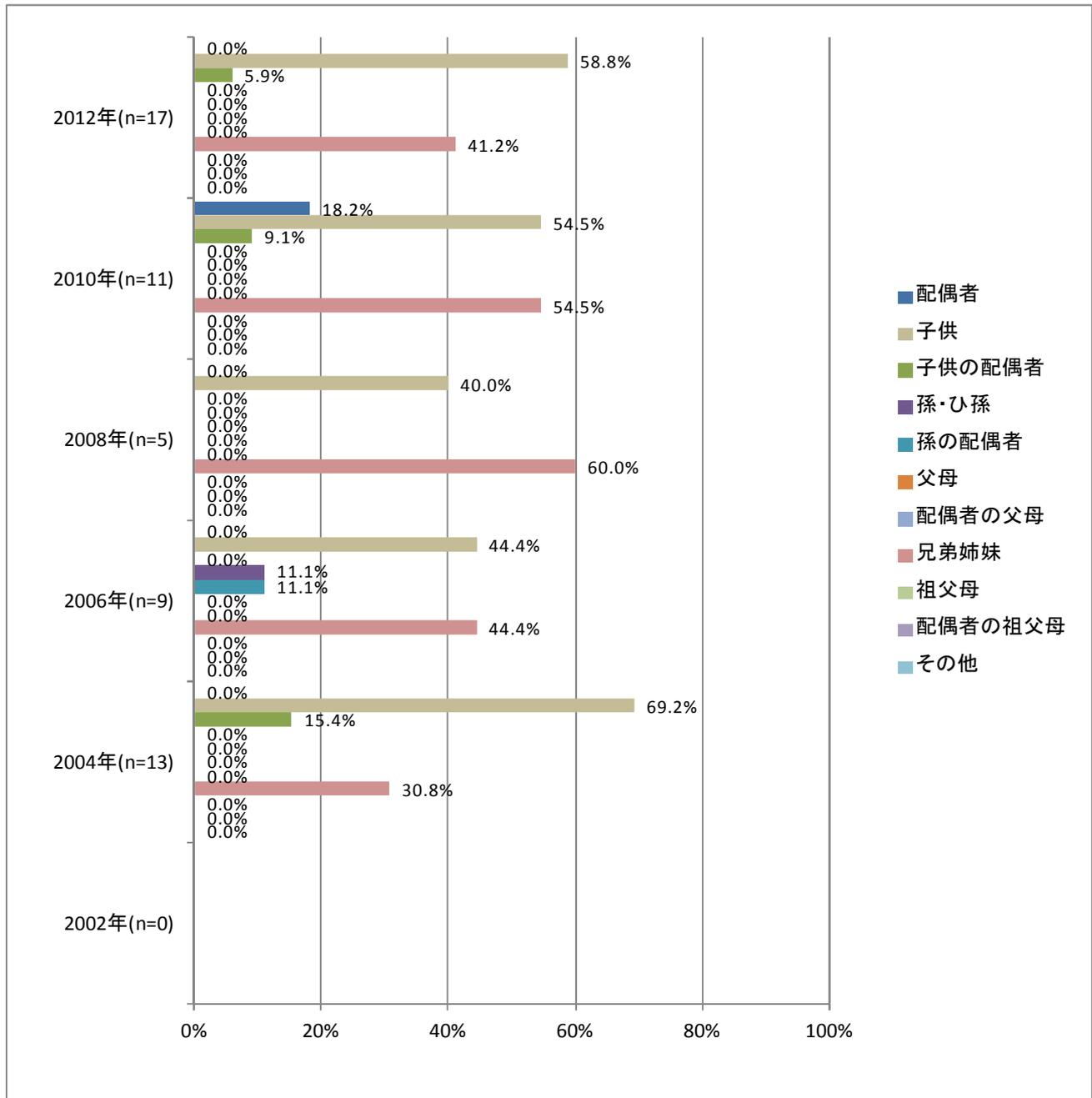
	祖父母	配偶者の祖父母	その他	回答数	回答数(割合)
2012年(n=27)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	32	
2010年(n=30)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	44	
2008年(n=16)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	19	
2006年(n=27)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	29	
2004年(n=27)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	28	
2002年(n=0)					



図表 2-68 同居の家族以外で用事を頼める相手の具体的な間柄【家族】（後期高齢期群）※複数回答

	配偶者	子供	子供の配偶者	孫・ひ孫	孫の配偶者	父母	配偶者の父母	兄弟姉妹
2012年(n=17)	0 (0.0%)	10 (58.8%)	1 (5.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	7 (41.2%)
2010年(n=11)	2 (18.2%)	6 (54.5%)	1 (9.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	6 (54.5%)
2008年(n=5)	0 (0.0%)	2 (40.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (60.0%)
2006年(n=9)	0 (0.0%)	4 (44.4%)	0 (0.0%)	1 (11.1%)	1 (11.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (44.4%)
2004年(n=13)	0 (0.0%)	9 (69.2%)	2 (15.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (30.8%)
2002年(n=0)								

	祖父母	配偶者の祖父母	その他	回答数	回答数(割合)
2012年(n=17)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	18	
2010年(n=11)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	15	
2008年(n=5)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	5	
2006年(n=9)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	10	
2004年(n=13)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	15	
2002年(n=0)					



■同居の家族以外で用事を頼める相手の具体的な間柄：【友人・知人】の具体的内容

（「Q.同居の家族以外で用事を頼める相手の具体的な間柄」で「友人・知人」を挙げた人のみ）

（全体の結果）

用事や留守番を頼める相手（友人・知人）の回答では、「ご近所」を挙げる人が最も多く、2004年調査時から2012年調査時まで9割以上を維持しており、大きな変化はみられない。（図表2-69）

（壮年期群→Y0）

用事や留守番を頼める相手（友人・知人）の回答では、「ご近所」を挙げる人が最も多く、2008年調査時が76.2%と最も少ないが、それ以外はほぼ9割を超えており、2010年調査時以降は95%以上を占めている。（図表2-70）

（前期高齢期群→00）

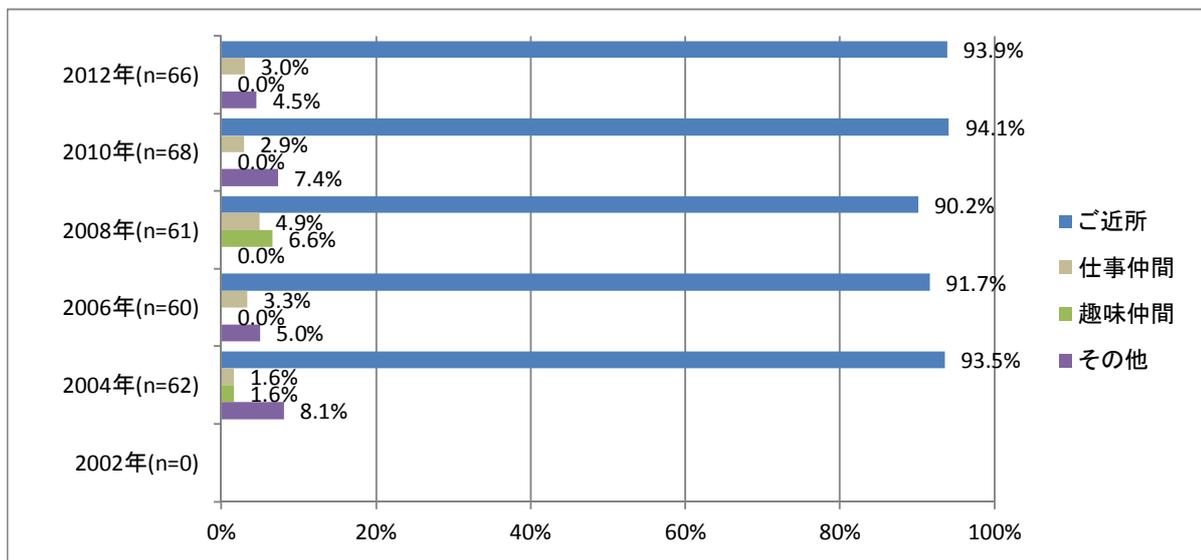
用事や留守番を頼める相手（友人・知人）の回答では、「ご近所」を挙げる人が最も多く、2004年調査時から2012年調査時まで9割以上を維持している。2008年調査時の100.0%をピークに漸減傾向にあり、2012年調査時では90.3%と最も少ない（-9.7ポイント）。（図表2-71）

（後期高齢期群→0d0）

用事や留守番を頼める相手（友人・知人）の回答では、「ご近所」を挙げる人が最も多く、2004年調査時から2012年調査時までほぼ9割を超えている。（図表2-72）

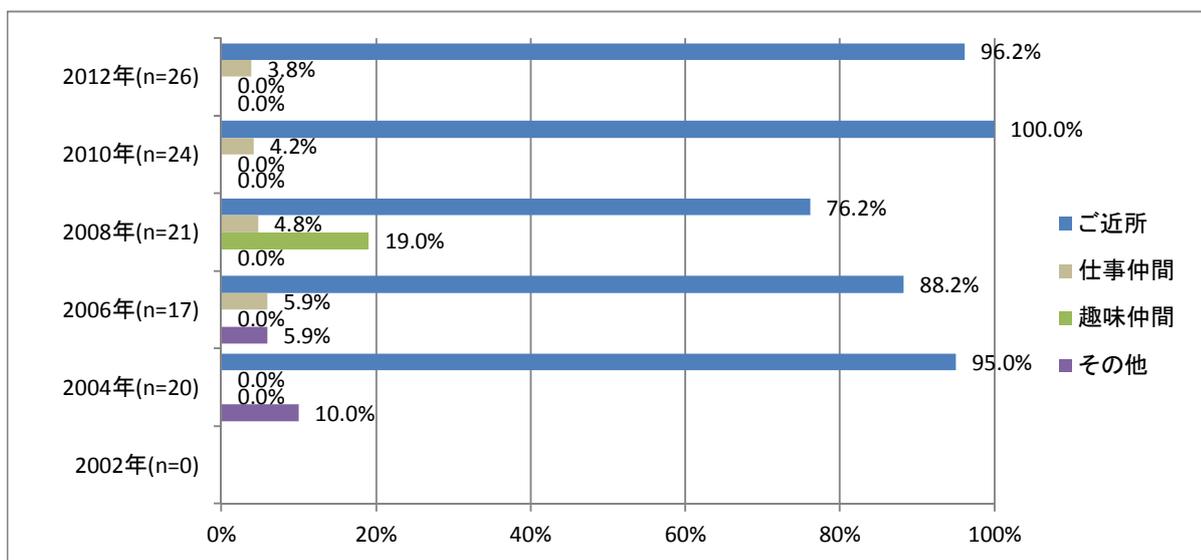
図表 2-69 同居の家族以外で用事を頼める相手の具体的な間柄【友人・知人】（全体）※複数回答

	ご近所	仕事仲間	趣味仲間	その他	回答数	回答数(割合)
2012年(n=66)	62 (93.9%)	2 (3.0%)	0 (0.0%)	3 (4.5%)	67	
2010年(n=68)	64 (94.1%)	2 (2.9%)	0 (0.0%)	5 (7.4%)	71	
2008年(n=61)	55 (90.2%)	3 (4.9%)	4 (6.6%)	0 (0.0%)	62	
2006年(n=60)	55 (91.7%)	2 (3.3%)	0 (0.0%)	3 (5.0%)	60	
2004年(n=62)	58 (93.5%)	1 (1.6%)	1 (1.6%)	5 (8.1%)	65	
2002年(n=0)						



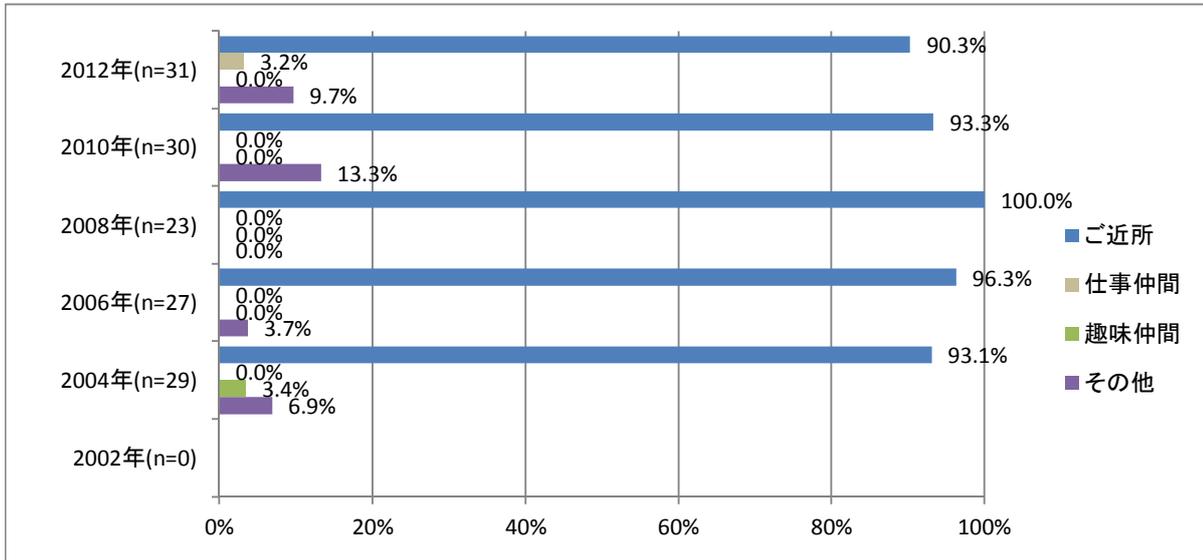
図表 2-70 同居の家族以外で用事を頼める相手の具体的な間柄【友人・知人】（壮年期群）※複数回答

	ご近所	仕事仲間	趣味仲間	その他	回答数	回答数(割合)
2012年(n=26)	25 (96.2%)	1 (3.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	26	
2010年(n=24)	24 (100.0%)	1 (4.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	25	
2008年(n=21)	16 (76.2%)	1 (4.8%)	4 (19.0%)	0 (0.0%)	21	
2006年(n=17)	15 (88.2%)	1 (5.9%)	0 (0.0%)	1 (5.9%)	17	
2004年(n=20)	19 (95.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (10.0%)	21	
2002年(n=0)						



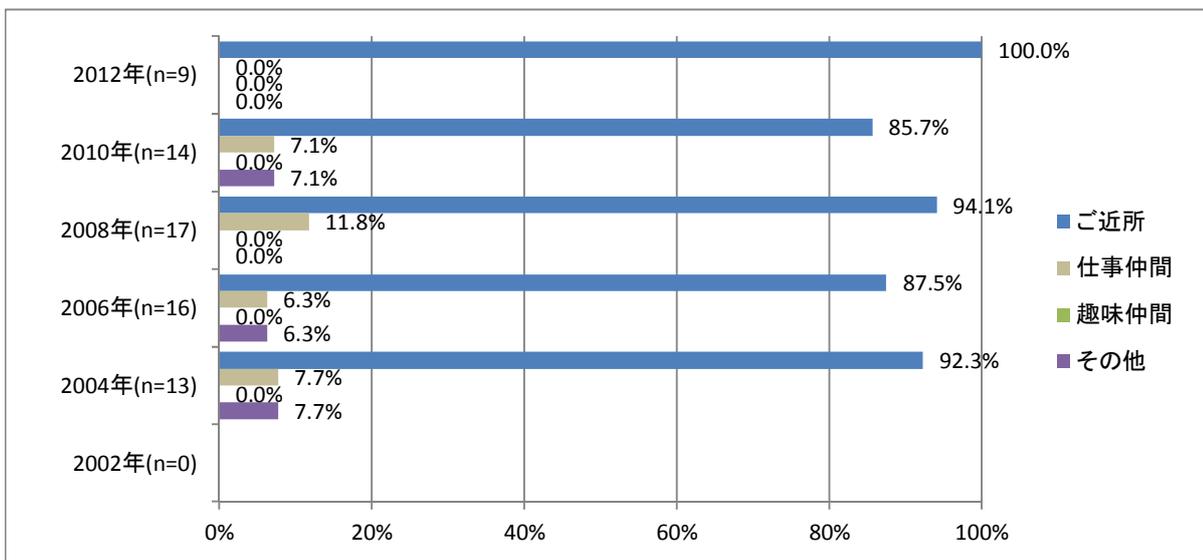
図表 2-71 同居の家族以外で用事を頼める相手の具体的な間柄【友人・知人】（前期高齢期群）※複数回答

	ご近所	仕事仲間	趣味仲間	その他	回答数	回答数(割合)
2012年(n=31)	28 (90.3%)	1 (3.2%)	0 (0.0%)	3 (9.7%)	32	
2010年(n=30)	28 (93.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (13.3%)	32	
2008年(n=23)	23 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	23	
2006年(n=27)	26 (96.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (3.7%)	27	
2004年(n=29)	27 (93.1%)	0 (0.0%)	1 (3.4%)	2 (6.9%)	30	
2002年(n=0)						



図表 2-72 同居の家族以外で用事を頼める相手の具体的な間柄【友人・知人】（後期高齢期群）※複数回答

	ご近所	仕事仲間	趣味仲間	その他	回答数	回答数(割合)
2012年(n=9)	9 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	9	
2010年(n=14)	12 (85.7%)	1 (7.1%)	0 (0.0%)	1 (7.1%)	14	
2008年(n=17)	16 (94.1%)	2 (11.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	18	
2006年(n=16)	14 (87.5%)	1 (6.3%)	0 (0.0%)	1 (6.3%)	16	
2004年(n=13)	12 (92.3%)	1 (7.7%)	0 (0.0%)	1 (7.7%)	14	
2002年(n=0)						



■同居の家族以外で用事を頼める相手の具体的な間柄：大項目【その他】の具体的内容

（「Q.同居の家族以外で用事を頼める相手の具体的な間柄」で「その他」を挙げた人のみ）

（全体の結果）

用事や留守番を頼める相手（その他）の回答では、「親戚」を挙げる人が最も多く、すべての調査時で95%以上を維持しており、大きな変化はみられない。（図表 2-73）

（壮年期群→Y0）

用事や留守番を頼める相手（その他）の回答では、すべての人が「親戚」を挙げており、大きな変化はみられない。（図表 2-74）

（前期高齢期群→00）

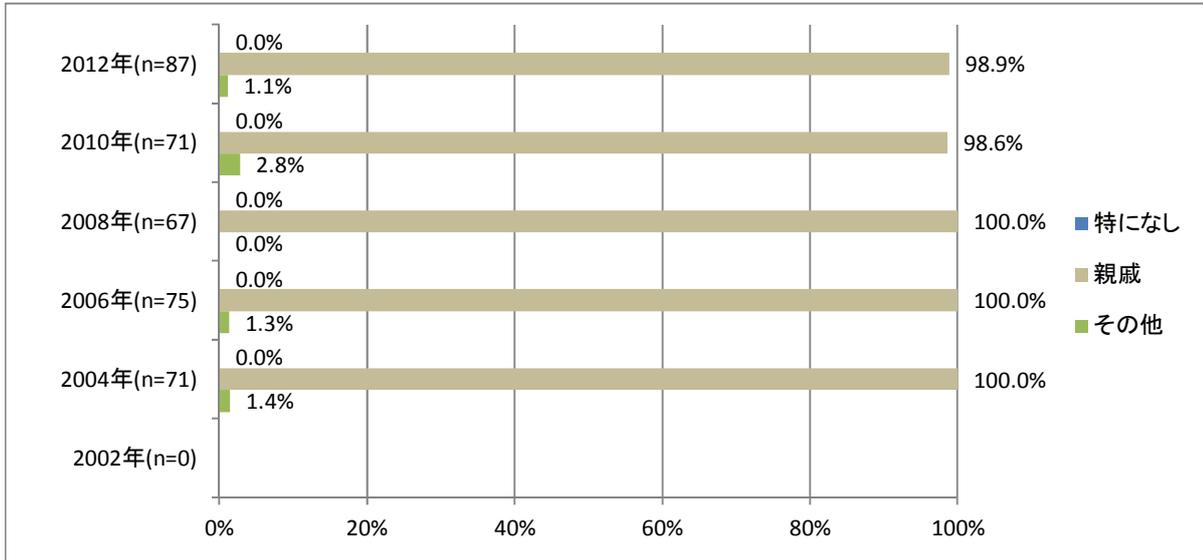
用事や留守番を頼める相手（その他）の回答では、すべての人が「親戚」を挙げており、大きな変化はみられない。（図表 2-75）

（後期高齢期群→0d0）

用事や留守番を頼める相手（その他）の回答では、「親戚」を挙げる人が最も多く、すべての調査時で9割以上を維持しており、大きな変化はみられない。（図表 2-76）

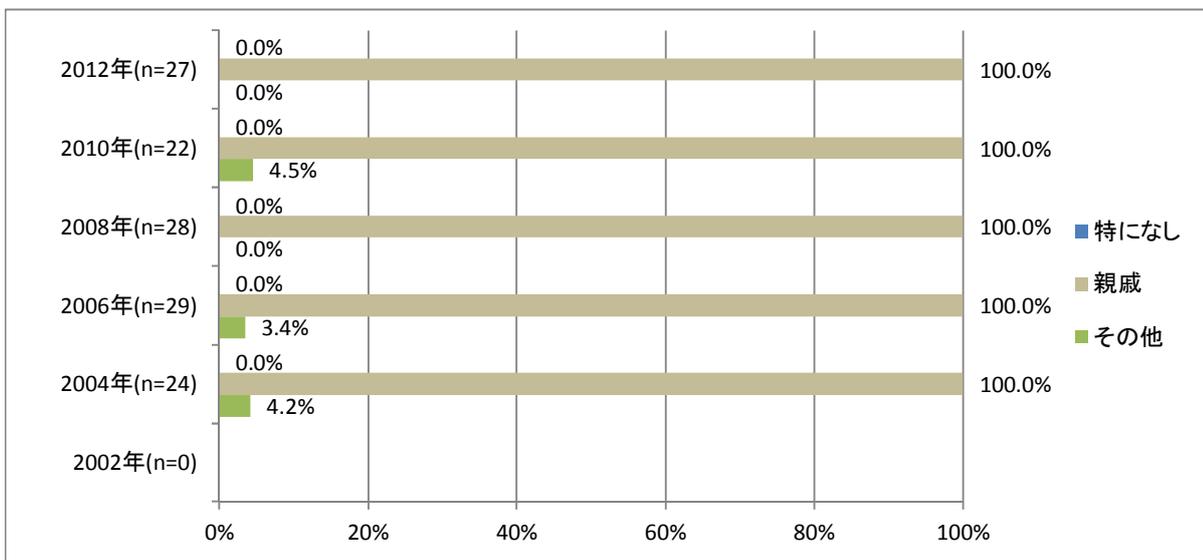
図表 2-73 同居の家族以外で用事を頼める相手の具体的な間柄【その他】（全体）※複数回答

	特になし	親戚	その他	回答数	回答数(割合)
2012年(n=87)	0 (0.0%)	86 (98.9%)	1 (1.1%)	87	
2010年(n=71)	0 (0.0%)	70 (98.6%)	2 (2.8%)	72	
2008年(n=67)	0 (0.0%)	67 (100.0%)	0 (0.0%)	67	
2006年(n=75)	0 (0.0%)	75 (100.0%)	1 (1.3%)	76	
2004年(n=71)	0 (0.0%)	71 (100.0%)	1 (1.4%)	72	
2002年(n=0)					



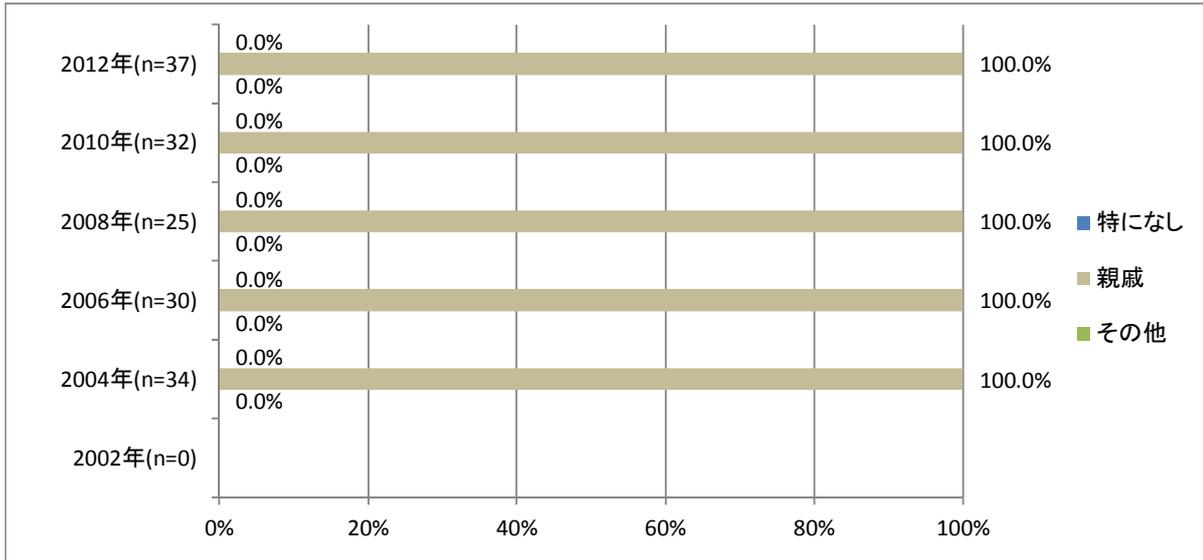
図表 2-74 同居の家族以外で用事を頼める相手の具体的な間柄【その他】（壮年期群）※複数回答

	特になし	親戚	その他	回答数	回答数(割合)
2012年(n=27)	0 (0.0%)	27 (100.0%)	0 (0.0%)	27	
2010年(n=22)	0 (0.0%)	22 (100.0%)	1 (4.5%)	23	
2008年(n=28)	0 (0.0%)	28 (100.0%)	0 (0.0%)	28	
2006年(n=29)	0 (0.0%)	29 (100.0%)	1 (3.4%)	30	
2004年(n=24)	0 (0.0%)	24 (100.0%)	1 (4.2%)	25	
2002年(n=0)					



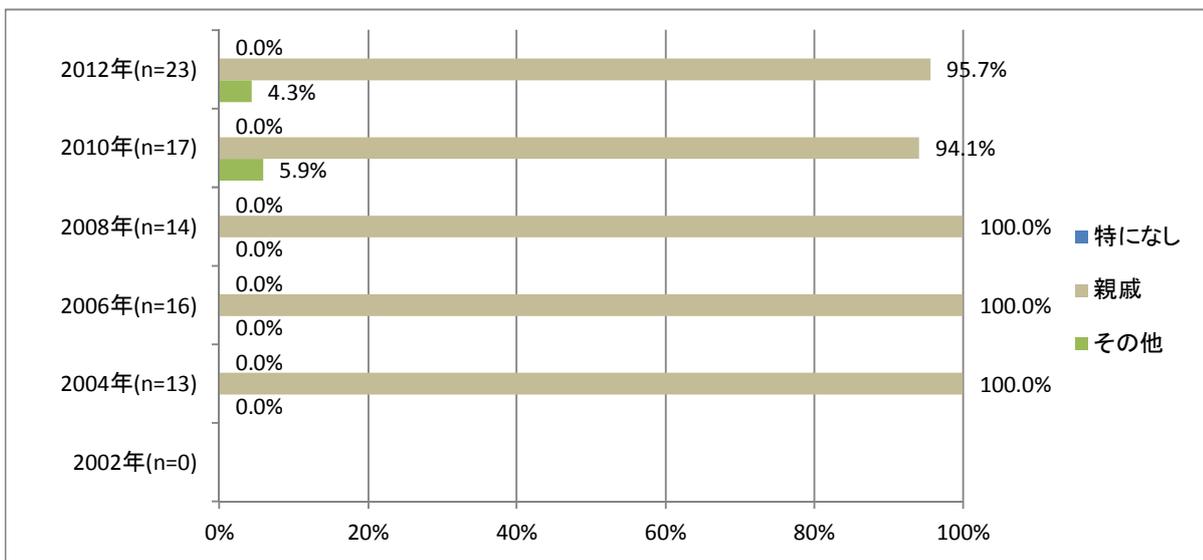
図表 2-75 同居の家族以外で用事を頼める相手の具体的な間柄【その他】（前期高齢期群）※複数回答

	特になし	親戚	その他	回答数	回答数(割合)
2012年(n=37)	0 (0.0%)	37 (100.0%)	0 (0.0%)	37	
2010年(n=32)	0 (0.0%)	32 (100.0%)	0 (0.0%)	32	
2008年(n=25)	0 (0.0%)	25 (100.0%)	0 (0.0%)	25	
2006年(n=30)	0 (0.0%)	30 (100.0%)	0 (0.0%)	30	
2004年(n=34)	0 (0.0%)	34 (100.0%)	0 (0.0%)	34	
2002年(n=0)					



図表 2-76 同居の家族以外で用事を頼める相手の具体的な間柄【その他】（後期高齢期群）※複数回答

	特になし	親戚	その他	回答数	回答数(割合)
2012年(n=23)	0 (0.0%)	22 (95.7%)	1 (4.3%)	23	
2010年(n=17)	0 (0.0%)	16 (94.1%)	1 (5.9%)	17	
2008年(n=14)	0 (0.0%)	14 (100.0%)	0 (0.0%)	14	
2006年(n=16)	0 (0.0%)	16 (100.0%)	0 (0.0%)	16	
2004年(n=13)	0 (0.0%)	13 (100.0%)	0 (0.0%)	13	
2002年(n=0)					



■同居の家族以外で緊急な用があったときにすぐにかけてくれる人の有無

(全体の結果)

緊急時に駆けつけてくれる人が「いる」と回答した人は、すべての調査時で95%以上を維持しており、大きな変化はみられない。(図表 2-77)

(壮年期群→Y0)

緊急時に駆けつけてくれる人が「いる」と回答した人は、すべての調査時で95%以上を維持しており、大きな変化はみられない。(図表 2-78)

(前期高齢期群→00)

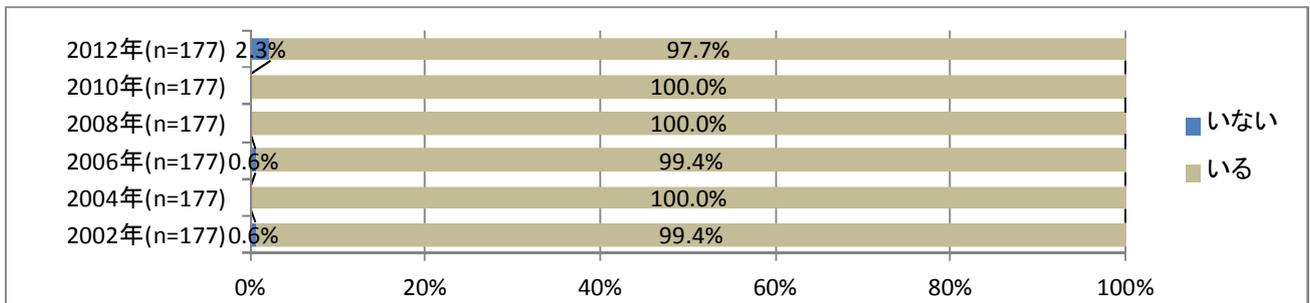
緊急時に駆けつけてくれる人が「いる」と回答した人は、すべての調査時で95%以上を維持しており、大きな変化はみられない。(図表 2-79)

(後期高齢期群→0d0)

緊急時に駆けつけてくれる人が「いる」と回答した人は、すべての調査時で95%以上を維持しており、大きな変化はみられない。(図表 2-80)

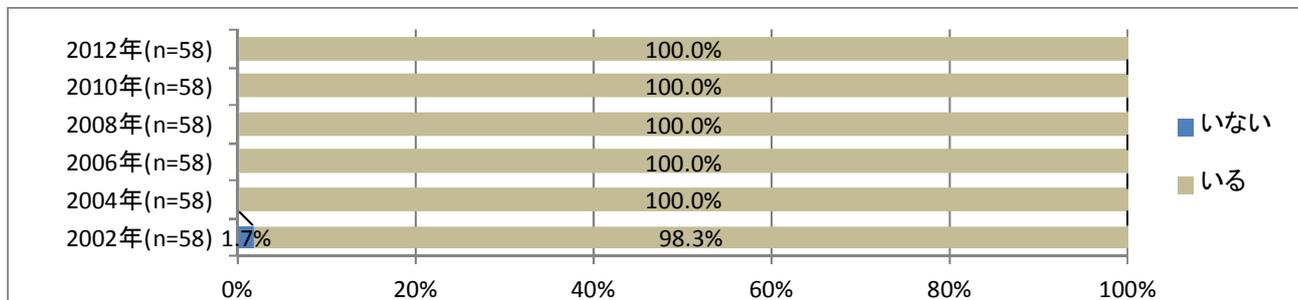
図表 2-77 同居の家族以外で緊急な用があったときにすぐにかけてくれる相手の有無 (全体)

	いない	いる	合計	人数(割合)
2012年(n=177)	4 (2.3%)	173 (97.7%)	177 (100.0%)	
2010年(n=177)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	177 (100.0%)	
2008年(n=177)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	177 (100.0%)	
2006年(n=177)	1 (0.6%)	176 (99.4%)	177 (100.0%)	
2004年(n=177)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	177 (100.0%)	
2002年(n=177)	1 (0.6%)	176 (99.4%)	177 (100.0%)	



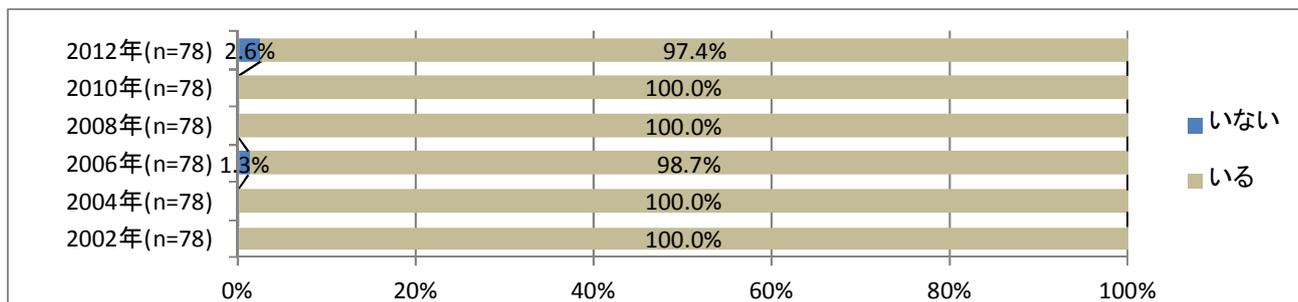
図表 2-78 同居の家族以外で緊急な用があったときにすぐにかけてくれる人の有無（壮年期群）

	いない	いる	合計	人数(割合)
2012年(n=58)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	58 (100.0%)	
2010年(n=58)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	58 (100.0%)	
2008年(n=58)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	58 (100.0%)	
2006年(n=58)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	58 (100.0%)	
2004年(n=58)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	58 (100.0%)	
2002年(n=58)	1 (1.7%)	57 (98.3%)	58 (100.0%)	



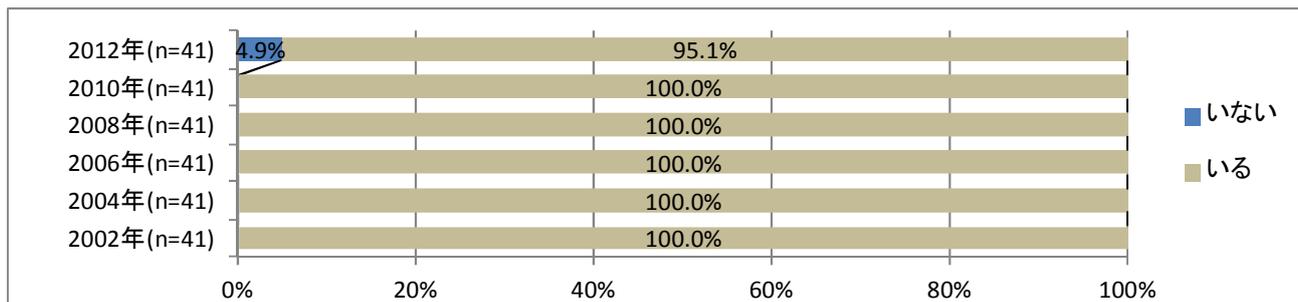
図表 2-79 同居の家族以外で緊急な用があったときにすぐにかけてくれる人の有無（前期高齢期群）

	いない	いる	合計	人数(割合)
2012年(n=78)	2 (2.6%)	76 (97.4%)	78 (100.0%)	
2010年(n=78)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	78 (100.0%)	
2008年(n=78)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	78 (100.0%)	
2006年(n=78)	1 (1.3%)	77 (98.7%)	78 (100.0%)	
2004年(n=78)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	78 (100.0%)	
2002年(n=78)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	78 (100.0%)	



図表 2-80 同居の家族以外で緊急な用があったときにすぐにかけてくれる人の有無（後期高齢期群）

	いない	いる	合計	人数(割合)
2012年(n=41)	2 (4.9%)	39 (95.1%)	41 (100.0%)	
2010年(n=41)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	41 (100.0%)	
2008年(n=41)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	41 (100.0%)	
2006年(n=41)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	41 (100.0%)	
2004年(n=41)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	41 (100.0%)	
2002年(n=41)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	41 (100.0%)	



■同居の家族以外で、緊急時にかけつけてくれる人数

(「Q.同居の家族以外で緊急な用があったときにすぐにかけつけてくれる人の有無」で「いる」と回答した人のみ)

(全体の結果)

緊急時に駆けつけてくれる人の数は、初回調査時(2002年)から2010年調査時まで「4人以上」の回答が6割以上と最も多いが、2012年調査時では「2~3人」の回答が55.5%と最も多い。「4人以上」の回答は、初回調査時(2002年)が89.2%と最も多く、その後は6割~7割程度で推移しているが、2012年調査時では37.0%と最も少なく、10年間で大幅に減少している(-52.2ポイント)。特に、2010年調査時以降の2年間で減少が大きい(-33.1ポイント)。(図表2-81)

(壮年期群→Y0)

緊急時に駆けつけてくれる人の数は、初回調査時(2002年)から2010年調査時まで「4人以上」の回答が6割以上と最も多いが、2012年調査時では「2~3人」の回答が63.8%と最も多い。「4人以上」の回答は、初回調査時(2002年)が93.0%と最も多く、その後は6割~7割程度で推移しているが、2012年調査時では32.8%と最も少なく、10年間で大幅に減少している(-60.2ポイント)。特に、2010年調査時以降の2年間で減少が大きい(-37.9ポイント)。(図表2-82)

(前期高齢期群→00)

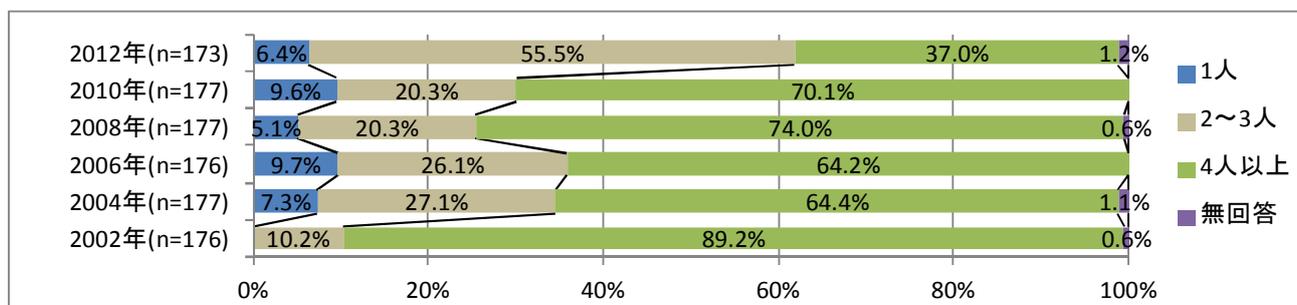
緊急時に駆けつけてくれる人の数は、初回調査時(2002年)から2010年調査時まで「4人以上」の回答が最も多く、ほぼ6割を超えているが、2012年調査時では「2~3人」の回答が57.9%と最も多い。「4人以上」の回答は、初回調査時(2002年)が92.3%と最も多く、その後は6割~7割程度で推移しているが、2012年調査時では31.6%と最も少なく、10年間で大幅に減少している(-60.7ポイント)。特に、2010年調査時以降の2年間で減少が大きい(-37.6ポイント)。(図表2-83)

(後期高齢期群→0d0)

緊急時に駆けつけてくれる人の数は、「4人以上」の回答が最も多く、すべての調査時において半数以上を維持している。2008年調査時が80.5%と最も多く、その後は漸減し、2012年調査時では53.8%と大きく減少している(-26.7ポイント)。一方「2~3人」の回答は、2004年調査時が17.1%と最も少なく、その後は漸増傾向にあり、2012年調査時では38.5%と最も多くなっている(+21.4ポイント)。(図表2-84)

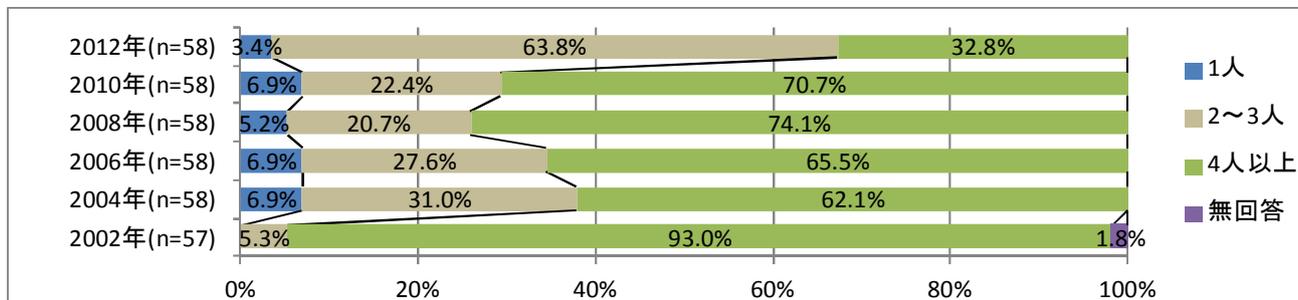
図表 2-81 同居の家族以外で緊急時にかけつけてくれる人数(全体)

	1人	2~3人	4人以上	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=173)	11 (6.4%)	96 (55.5%)	64 (37.0%)	2 (1.2%)	173 (100.0%)	
2010年(n=177)	17 (9.6%)	36 (20.3%)	124 (70.1%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2008年(n=177)	9 (5.1%)	36 (20.3%)	131 (74.0%)	1 (0.6%)	177 (100.0%)	
2006年(n=176)	17 (9.7%)	46 (26.1%)	113 (64.2%)	0 (0.0%)	176 (100.0%)	
2004年(n=177)	13 (7.3%)	48 (27.1%)	114 (64.4%)	2 (1.1%)	177 (100.0%)	
2002年(n=176)	0 (0.0%)	18 (10.2%)	157 (89.2%)	1 (0.6%)	176 (100.0%)	



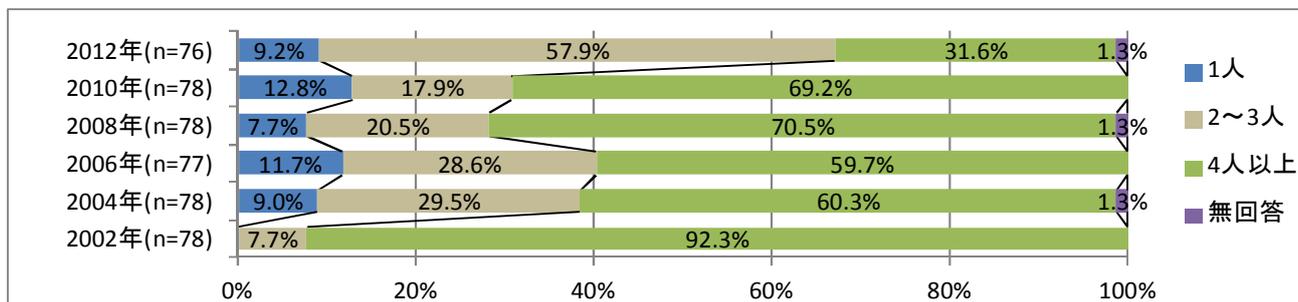
図表 2-82 同居の家族以外で緊急時にかけてくれる人数（壮年期群）

	1人	2～3人	4人以上	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=58)	2 (3.4%)	37 (63.8%)	19 (32.8%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2010年(n=58)	4 (6.9%)	13 (22.4%)	41 (70.7%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2008年(n=58)	3 (5.2%)	12 (20.7%)	43 (74.1%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2006年(n=58)	4 (6.9%)	16 (27.6%)	38 (65.5%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2004年(n=58)	4 (6.9%)	18 (31.0%)	36 (62.1%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)	
2002年(n=57)	0 (0.0%)	3 (5.3%)	53 (93.0%)	1 (1.8%)	57 (100.0%)	



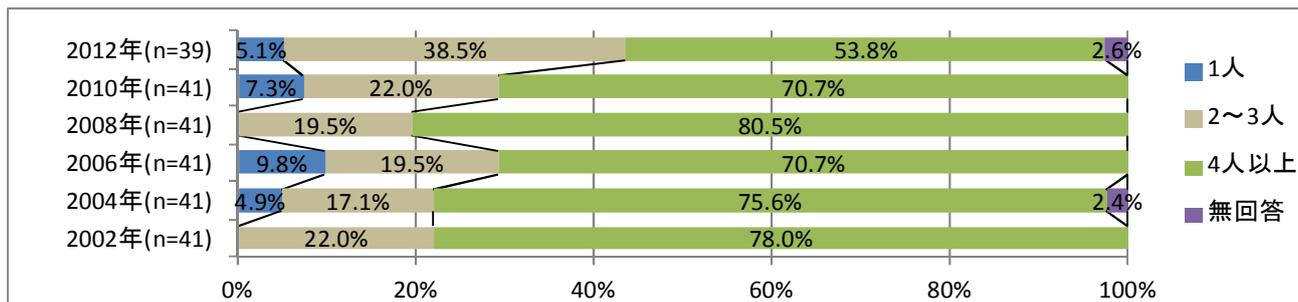
図表 2-83 同居の家族以外で緊急時にかけてくれる人数（前期高齢期群）

	1人	2～3人	4人以上	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=76)	7 (9.2%)	44 (57.9%)	24 (31.6%)	1 (1.3%)	76 (100.0%)	
2010年(n=78)	10 (12.8%)	14 (17.9%)	54 (69.2%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	
2008年(n=78)	6 (7.7%)	16 (20.5%)	55 (70.5%)	1 (1.3%)	78 (100.0%)	
2006年(n=77)	9 (11.7%)	22 (28.6%)	46 (59.7%)	0 (0.0%)	77 (100.0%)	
2004年(n=78)	7 (9.0%)	23 (29.5%)	47 (60.3%)	1 (1.3%)	78 (100.0%)	
2002年(n=78)	0 (0.0%)	6 (7.7%)	72 (92.3%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)	



図表 2-84 同居の家族以外で緊急時にかけてくれる人数（後期高齢期群）

	1人	2～3人	4人以上	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=39)	2 (5.1%)	15 (38.5%)	21 (53.8%)	1 (2.6%)	39 (100.0%)	
2010年(n=41)	3 (7.3%)	9 (22.0%)	29 (70.7%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2008年(n=41)	0 (0.0%)	8 (19.5%)	33 (80.5%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2006年(n=41)	4 (9.8%)	8 (19.5%)	29 (70.7%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2004年(n=41)	2 (4.9%)	7 (17.1%)	31 (75.6%)	1 (2.4%)	41 (100.0%)	
2002年(n=41)	0 (0.0%)	9 (22.0%)	32 (78.0%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	



■親戚・友人・仕事仲間などから相談されたり、用事を頼まれる機会の有無

(全体の結果)

「相談されたり用事を頼まれたりすることがある」と回答した人は、「よくある」「ときどきある」を含めて、すべての調査時点で7割以上を占めている。相談されることがある人は、2004年調査時から2010年調査時まで7割程度で推移しているが、2012年調査時では85.3%と最も多くなっている。(図表2-85)

(壮年期群→Y0)

「相談されたり用事を頼まれたりすることがある」と回答した人は、「よくある」「ときどきある」を含めて、すべての調査時点でほぼ8割を超えている。相談されることがある人は、2008年調査時から漸増傾向にあり、2012年調査時では86.2%と最も多くなっている(+6.9ポイント)。(図表2-86)

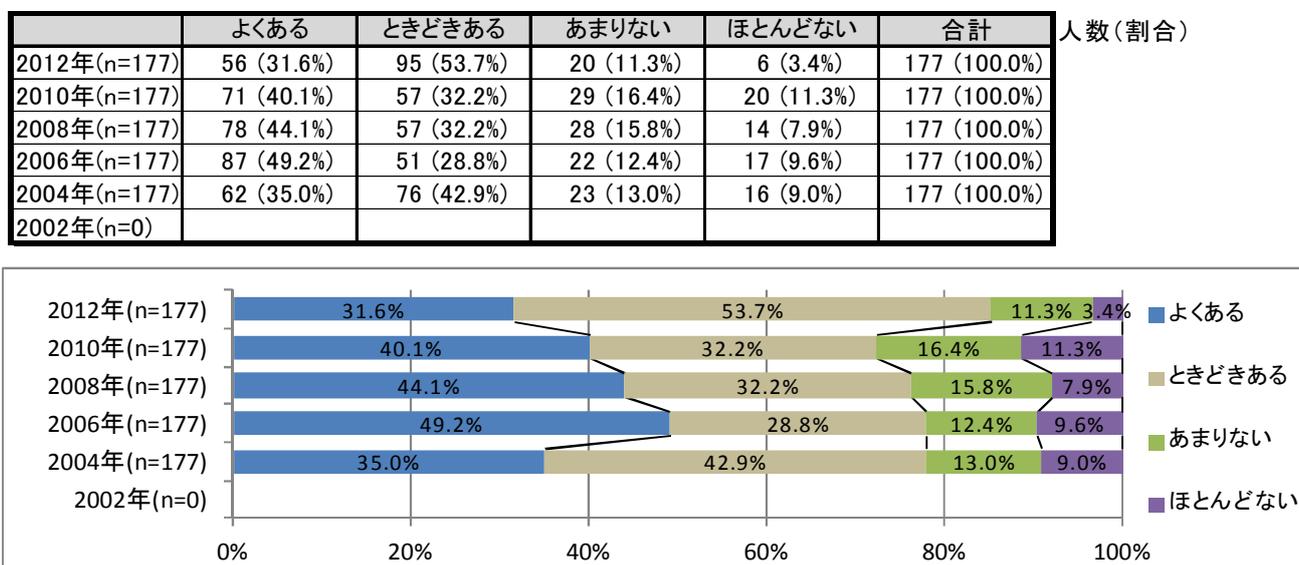
(前期高齢期群→00)

「相談されたり用事を頼まれたりすることがある」と回答した人は、「よくある」「ときどきある」を含めて、すべての調査時点でほぼ7割を超えている。相談されることがある人は、2006年調査時から漸減傾向にあり、2010年調査時では69.3%と最も少ない(-11.5ポイント)。しかし、2012年調査時では85.9%と2010年調査時からの2年間で増加がみられる(+16.6ポイント)。(図表2-87)

(後期高齢期群→0d0)

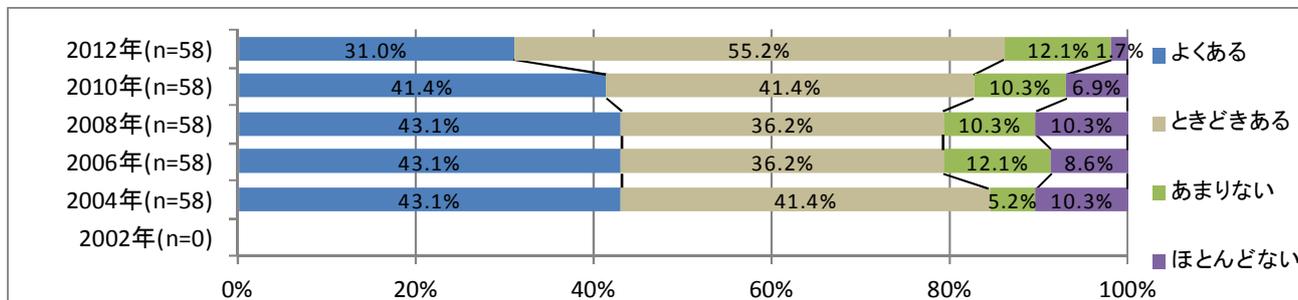
「相談されたり用事を頼まれたりすることがある」と回答した人は、「よくある」「ときどきある」を含めて、すべての調査時点で6割以上を占めている。相談されることがある人は、2004年調査時から漸減傾向にあり、2010年調査時では63.4%と最も少ないが(-14.7ポイント)、2012年調査時では82.9%と2年間で増加がみられる(+19.5ポイント)。(図表2-88)

図表2-85 相談されたり用事を頼まれる機会の有無(全体)



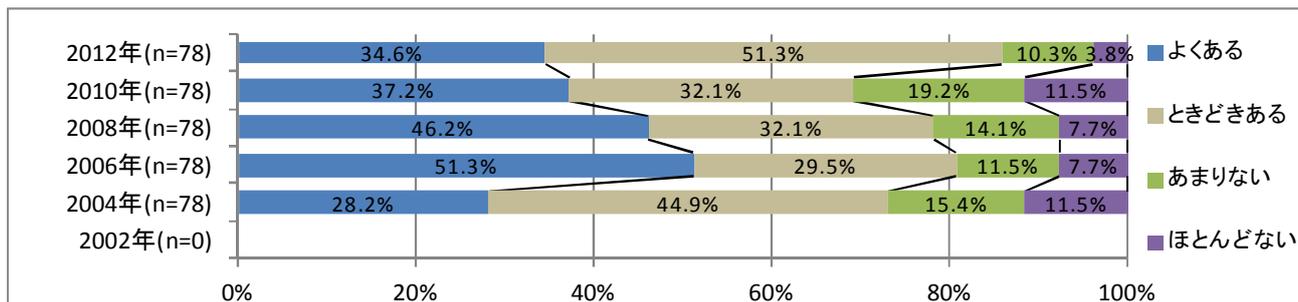
図表 2-86 相談されたり用事を頼まれる機会の有無（壮年期群）

	よくある	ときどきある	あまりない	ほとんどない	合計	人数(割合)
2012年(n=58)	18 (31.0%)	32 (55.2%)	7 (12.1%)	1 (1.7%)	58 (100.0%)	
2010年(n=58)	24 (41.4%)	24 (41.4%)	6 (10.3%)	4 (6.9%)	58 (100.0%)	
2008年(n=58)	25 (43.1%)	21 (36.2%)	6 (10.3%)	6 (10.3%)	58 (100.0%)	
2006年(n=58)	25 (43.1%)	21 (36.2%)	7 (12.1%)	5 (8.6%)	58 (100.0%)	
2004年(n=58)	25 (43.1%)	24 (41.4%)	3 (5.2%)	6 (10.3%)	58 (100.0%)	
2002年(n=0)						



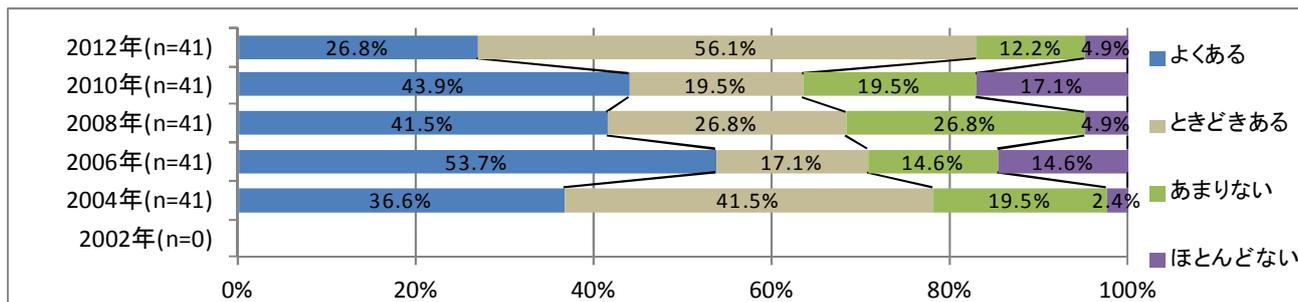
図表 2-87 相談されたり用事を頼まれる機会の有無（前期高齢期群）

	よくある	ときどきある	あまりない	ほとんどない	合計	人数(割合)
2012年(n=78)	27 (34.6%)	40 (51.3%)	8 (10.3%)	3 (3.8%)	78 (100.0%)	
2010年(n=78)	29 (37.2%)	25 (32.1%)	15 (19.2%)	9 (11.5%)	78 (100.0%)	
2008年(n=78)	36 (46.2%)	25 (32.1%)	11 (14.1%)	6 (7.7%)	78 (100.0%)	
2006年(n=78)	40 (51.3%)	23 (29.5%)	9 (11.5%)	6 (7.7%)	78 (100.0%)	
2004年(n=78)	22 (28.2%)	35 (44.9%)	12 (15.4%)	9 (11.5%)	78 (100.0%)	
2002年(n=0)						



図表 2-88 相談されたり用事を頼まれる機会の有無（後期高齢期群）

	よくある	ときどきある	あまりない	ほとんどない	合計	人数(割合)
2012年(n=41)	11 (26.8%)	23 (56.1%)	5 (12.2%)	2 (4.9%)	41 (100.0%)	
2010年(n=41)	18 (43.9%)	8 (19.5%)	8 (19.5%)	7 (17.1%)	41 (100.0%)	
2008年(n=41)	17 (41.5%)	11 (26.8%)	11 (26.8%)	2 (4.9%)	41 (100.0%)	
2006年(n=41)	22 (53.7%)	7 (17.1%)	6 (14.6%)	6 (14.6%)	41 (100.0%)	
2004年(n=41)	15 (36.6%)	17 (41.5%)	8 (19.5%)	1 (2.4%)	41 (100.0%)	
2002年(n=0)						



3) 社会活動

■地域活動への参加状況

(全体の結果)

地域活動に「参加している」人は、すべての調査時で半数以上を占めている。2004年調査時が54.8%と最も少なく、その後は漸増傾向にあり、2010年調査時では63.3%と最も多い(+8.5ポイント)。しかし、2012年調査時では56.5%とわずかに減少している(-6.8ポイント)。(図表3-1)

(壮年期群→Y0)

地域活動に「参加している」人は、すべての調査時で4割以上を占めている。初回調査時(2002年)が44.8%と最も少なく、その後は漸増傾向にあり、2006年調査時では63.8%と最も多い(+19.0ポイント)。2006年調査時以降は漸減傾向にあり、2012年調査時では53.4%となっている(-10.4ポイント)。(図表3-2)

(前期高齢期群→00)

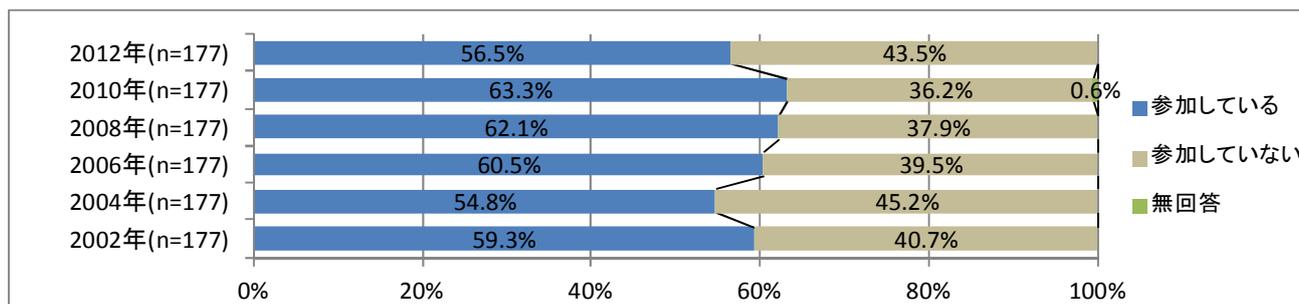
地域活動に「参加している」人は、すべての調査時ではほぼ6割を占めており、2010年調査時が64.1%と最も多いが、大きな変化はみられない。(図表3-3)

(後期高齢期群→0d0)

地域活動に「参加している」人は、すべての調査時で半数以上を占めている。初回調査時(2002年)が80.5%と最も多く、その後は漸減傾向にあり、2006年調査時では53.7%と大きく減少している(-26.8ポイント)。2006年調査時以降は漸増傾向にあり、2010年調査時では70.7%となっている(+17.0ポイント)、2012年調査時では53.7%と2年間で減少している(-17.0ポイント)。(図表3-4)

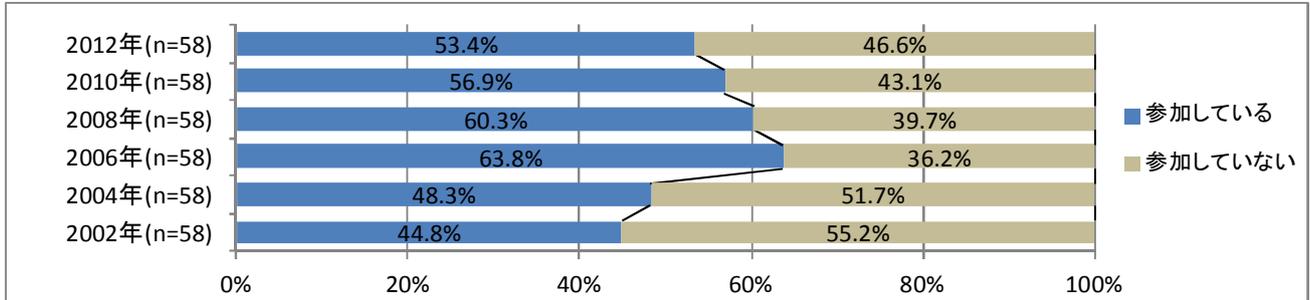
図表 3-1 地域活動への参加状況 (全体)

	参加している	参加していない	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=177)	100 (56.5%)	77 (43.5%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2010年(n=177)	112 (63.3%)	64 (36.2%)	1 (0.6%)	177 (100.0%)	
2008年(n=177)	110 (62.1%)	67 (37.9%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2006年(n=177)	107 (60.5%)	70 (39.5%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2004年(n=177)	97 (54.8%)	80 (45.2%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	
2002年(n=177)	105 (59.3%)	72 (40.7%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)	



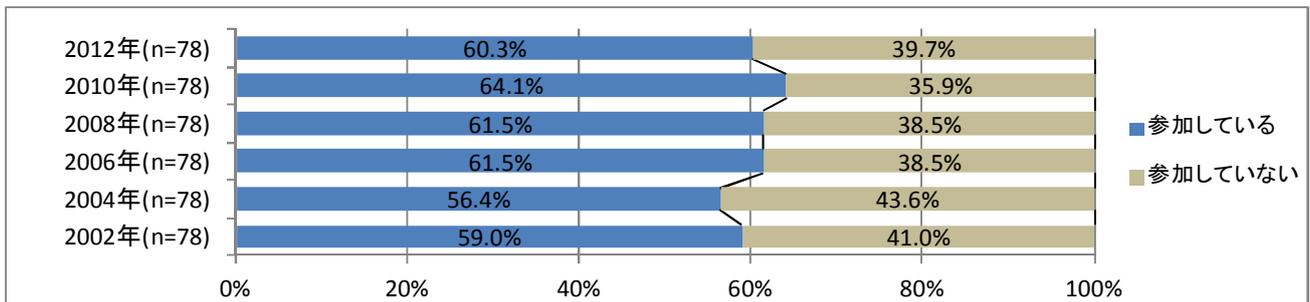
図表 3-2 地域活動への参加状況（壮年期群）

	参加している	参加していない	合計	人数(割合)
2012年(n=58)	31 (53.4%)	27 (46.6%)	58 (100.0%)	
2010年(n=58)	33 (56.9%)	25 (43.1%)	58 (100.0%)	
2008年(n=58)	35 (60.3%)	23 (39.7%)	58 (100.0%)	
2006年(n=58)	37 (63.8%)	21 (36.2%)	58 (100.0%)	
2004年(n=58)	28 (48.3%)	30 (51.7%)	58 (100.0%)	
2002年(n=58)	26 (44.8%)	32 (55.2%)	58 (100.0%)	



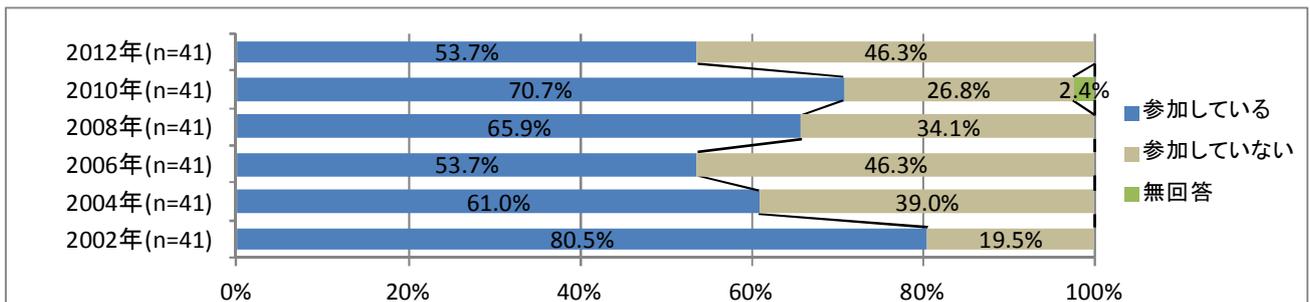
図表 3-3 地域活動への参加状況（前期高齢期群）

	参加している	参加していない	合計	人数(割合)
2012年(n=78)	47 (60.3%)	31 (39.7%)	78 (100.0%)	
2010年(n=78)	50 (64.1%)	28 (35.9%)	78 (100.0%)	
2008年(n=78)	48 (61.5%)	30 (38.5%)	78 (100.0%)	
2006年(n=78)	48 (61.5%)	30 (38.5%)	78 (100.0%)	
2004年(n=78)	44 (56.4%)	34 (43.6%)	78 (100.0%)	
2002年(n=78)	46 (59.0%)	32 (41.0%)	78 (100.0%)	



図表 3-4 地域活動への参加状況（後期高齢期群）

	参加している	参加していない	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=41)	22 (53.7%)	19 (46.3%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2010年(n=41)	29 (70.7%)	11 (26.8%)	1 (2.4%)	41 (100.0%)	
2008年(n=41)	27 (65.9%)	14 (34.1%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2006年(n=41)	22 (53.7%)	19 (46.3%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2004年(n=41)	25 (61.0%)	16 (39.0%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	
2002年(n=41)	33 (80.5%)	8 (19.5%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)	



■地域活動の種類

(「Q. 地域活動への参加状況」で「参加している」と回答した人のみ)

(全体の結果)

地域活動の種類について、初回調査時(2002年)から2004年調査時まで「行政の委員」に参加している人が最も多く、約半数を占めているが、2006年調査時以降は「高齢者(老人)クラブ」に参加している人が4割以上と最も多い。「高齢者(老人)クラブ」の参加者は、初回調査時(2002年)が42.9%と最も少なく、その後は2006年調査時を除いて漸増傾向にあり、2012年調査時では64.0%と最も多くなっている(+21.1ポイント)。(図表3-5)

(壮年期群→Y0)

地域活動で「行政の委員」に参加している人が最も多く、すべての調査時で半数以上を占めており、2010年調査時が97.0%と最も多い。「高齢者(老人)クラブ」の参加者は、2006年調査時から漸増傾向にあり、2012年調査時では32.3%と大きく増加している(+26.9ポイント)。(図表3-6)

(前期高齢期群→00)

地域活動の種類について、初回調査時(2002年)では「行政の委員」に参加している人が最も多く、4割近くを占めているが、2004年調査時以降は、「高齢者(老人)クラブ」に参加している人が4割以上と最も多い。「高齢者(老人)クラブ」の参加者は、初回調査時(2002年)が37.0%と最も少なく、その後は2008年調査時を除いて漸増傾向にあり、2012年調査時では72.3%と大きく増加している(+35.3ポイント)。(図表3-7)

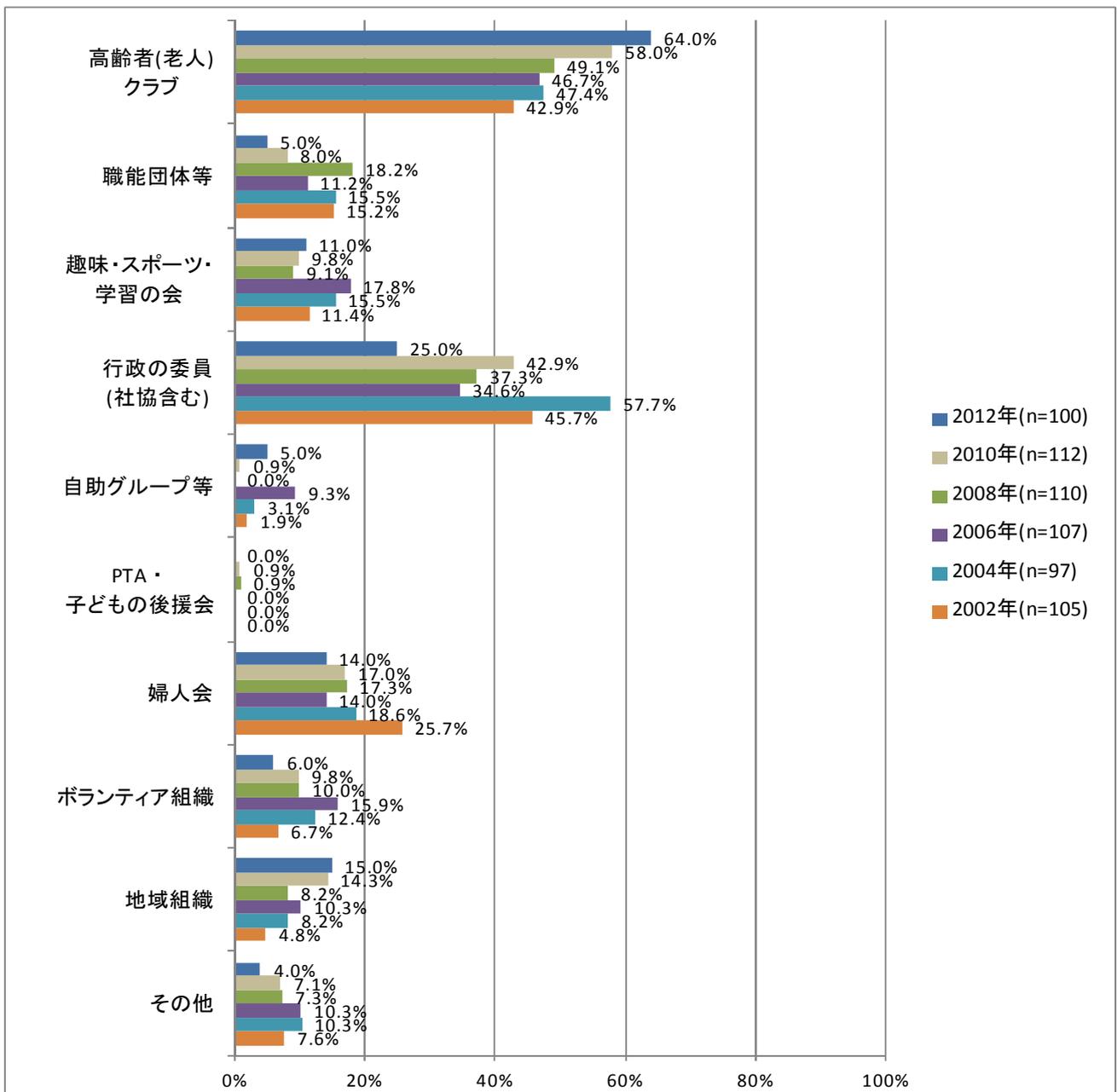
(後期高齢期群→0d0)

地域活動で「高齢者(老人)クラブ」に参加している人が最も多く、すべての調査時で7割以上を占めているが、2004年調査時が96.0%と最も多い。「高齢者(老人)クラブ」は、2008年調査時以降ほぼ9割の人が参加している。(図表3-8)

図表 3-5 地域活動の種類（全体）※複数回答

	高齢者(老人) クラブ	職能団体等	趣味・スポーツ・ 学習の会	行政の委員 (社協含む)	自助グループ等	PTA・子どもの 後援会
2012年(n=100)	64 (64.0%)	5 (5.0%)	11 (11.0%)	25 (25.0%)	5 (5.0%)	0 (0.0%)
2010年(n=112)	65 (58.0%)	9 (8.0%)	11 (9.8%)	48 (42.9%)	1 (0.9%)	1 (0.9%)
2008年(n=110)	54 (49.1%)	20 (18.2%)	10 (9.1%)	41 (37.3%)	0 (0.0%)	1 (0.9%)
2006年(n=107)	50 (46.7%)	12 (11.2%)	19 (17.8%)	37 (34.6%)	10 (9.3%)	0 (0.0%)
2004年(n=97)	46 (47.4%)	15 (15.5%)	15 (15.5%)	56 (57.7%)	3 (3.1%)	0 (0.0%)
2002年(n=105)	45 (42.9%)	16 (15.2%)	12 (11.4%)	48 (45.7%)	2 (1.9%)	0 (0.0%)

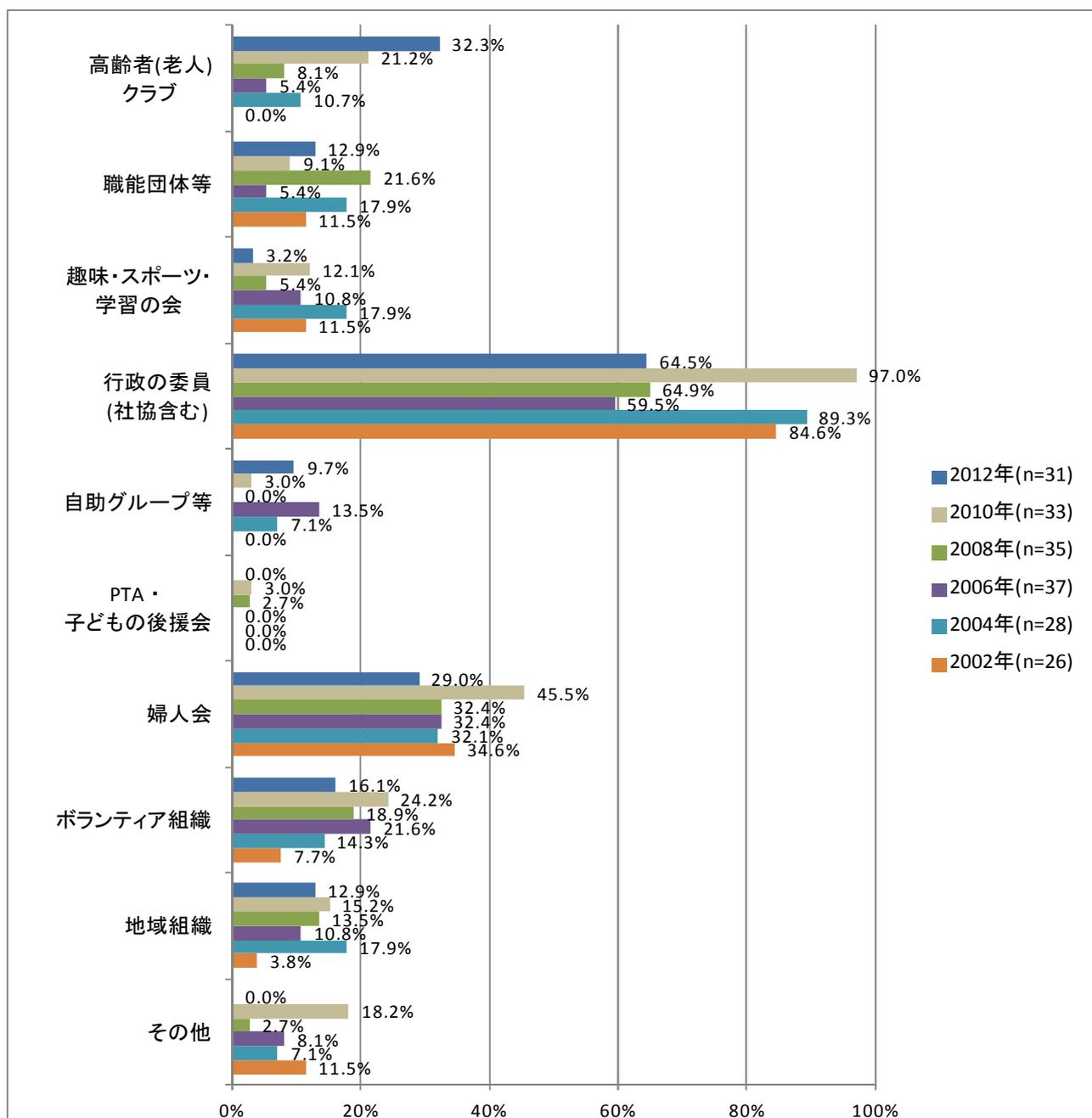
	婦人会	ボランティア組織	地域組織	その他	回答数	回答数(割合)
2012年(n=100)	14 (14.0%)	6 (6.0%)	15 (15.0%)	4 (4.0%)	149	
2010年(n=112)	19 (17.0%)	11 (9.8%)	16 (14.3%)	8 (7.1%)	189	
2008年(n=110)	19 (17.3%)	11 (10.0%)	9 (8.2%)	8 (7.3%)	173	
2006年(n=107)	15 (14.0%)	17 (15.9%)	11 (10.3%)	11 (10.3%)	182	
2004年(n=97)	18 (18.6%)	12 (12.4%)	8 (8.2%)	10 (10.3%)	183	
2002年(n=105)	27 (25.7%)	7 (6.7%)	5 (4.8%)	8 (7.6%)	170	



図表 3-6 地域活動の種類（壮年期群）※複数回答

	高齢者(老人)クラブ	職能団体等	趣味・スポーツ・学習の会	行政の委員(社協含む)	自助グループ等	PTA・子どもの後援会
2012年(n=31)	10 (32.3%)	4 (12.9%)	1 (3.2%)	20 (64.5%)	3 (9.7%)	0 (0.0%)
2010年(n=33)	7 (21.2%)	3 (9.1%)	4 (12.1%)	32 (97.0%)	1 (3.0%)	1 (3.0%)
2008年(n=35)	3 (8.6%)	8 (22.9%)	2 (5.7%)	24 (68.6%)	0 (0.0%)	1 (2.9%)
2006年(n=37)	2 (5.4%)	2 (5.4%)	4 (10.8%)	22 (59.5%)	5 (13.5%)	0 (0.0%)
2004年(n=28)	3 (10.7%)	5 (17.9%)	5 (17.9%)	25 (89.3%)	2 (7.1%)	0 (0.0%)
2002年(n=26)	0 (0.0%)	3 (11.5%)	3 (11.5%)	22 (84.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)

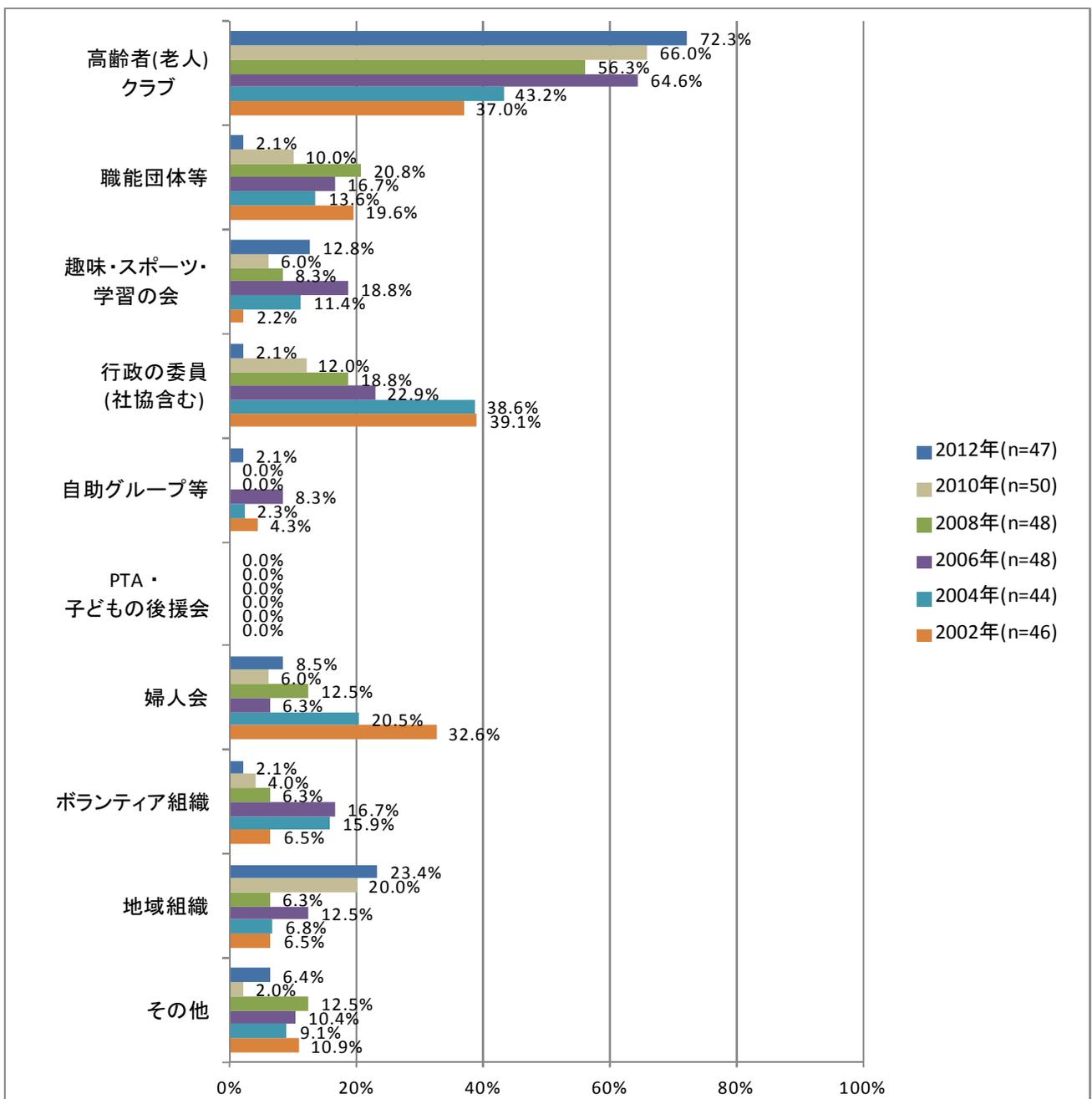
	婦人会	ボランティア組織	地域組織	その他	回答数	回答数(割合)
2012年(n=31)	9 (29.0%)	5 (16.1%)	4 (12.9%)	0 (0.0%)	56	
2010年(n=33)	15 (45.5%)	8 (24.2%)	5 (15.2%)	6 (18.2%)	82	
2008年(n=35)	12 (34.3%)	7 (20.0%)	5 (14.3%)	1 (2.9%)	63	
2006年(n=37)	12 (32.4%)	8 (21.6%)	4 (10.8%)	3 (8.1%)	62	
2004年(n=28)	9 (32.1%)	4 (14.3%)	5 (17.9%)	2 (7.1%)	60	
2002年(n=26)	9 (34.6%)	2 (7.7%)	1 (3.8%)	3 (11.5%)	43	



図表 3-7 地域活動の種類（前期高齢期群）※複数回答

	高齢者(老人)クラブ	職能団体等	趣味・スポーツ・学習の会	行政の委員(社協含む)	自助グループ等	PTA・子どもの後援会
2012年(n=47)	34 (72.3%)	1 (2.1%)	6 (12.8%)	1 (2.1%)	1 (2.1%)	0 (0.0%)
2010年(n=50)	33 (66.0%)	5 (10.0%)	3 (6.0%)	6 (12.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
2008年(n=48)	27 (56.3%)	10 (20.8%)	4 (8.3%)	9 (18.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
2006年(n=48)	31 (64.6%)	8 (16.7%)	9 (18.8%)	11 (22.9%)	4 (8.3%)	0 (0.0%)
2004年(n=44)	19 (43.2%)	6 (13.6%)	5 (11.4%)	17 (38.6%)	1 (2.3%)	0 (0.0%)
2002年(n=46)	17 (37.0%)	9 (19.6%)	1 (2.2%)	18 (39.1%)	2 (4.3%)	0 (0.0%)

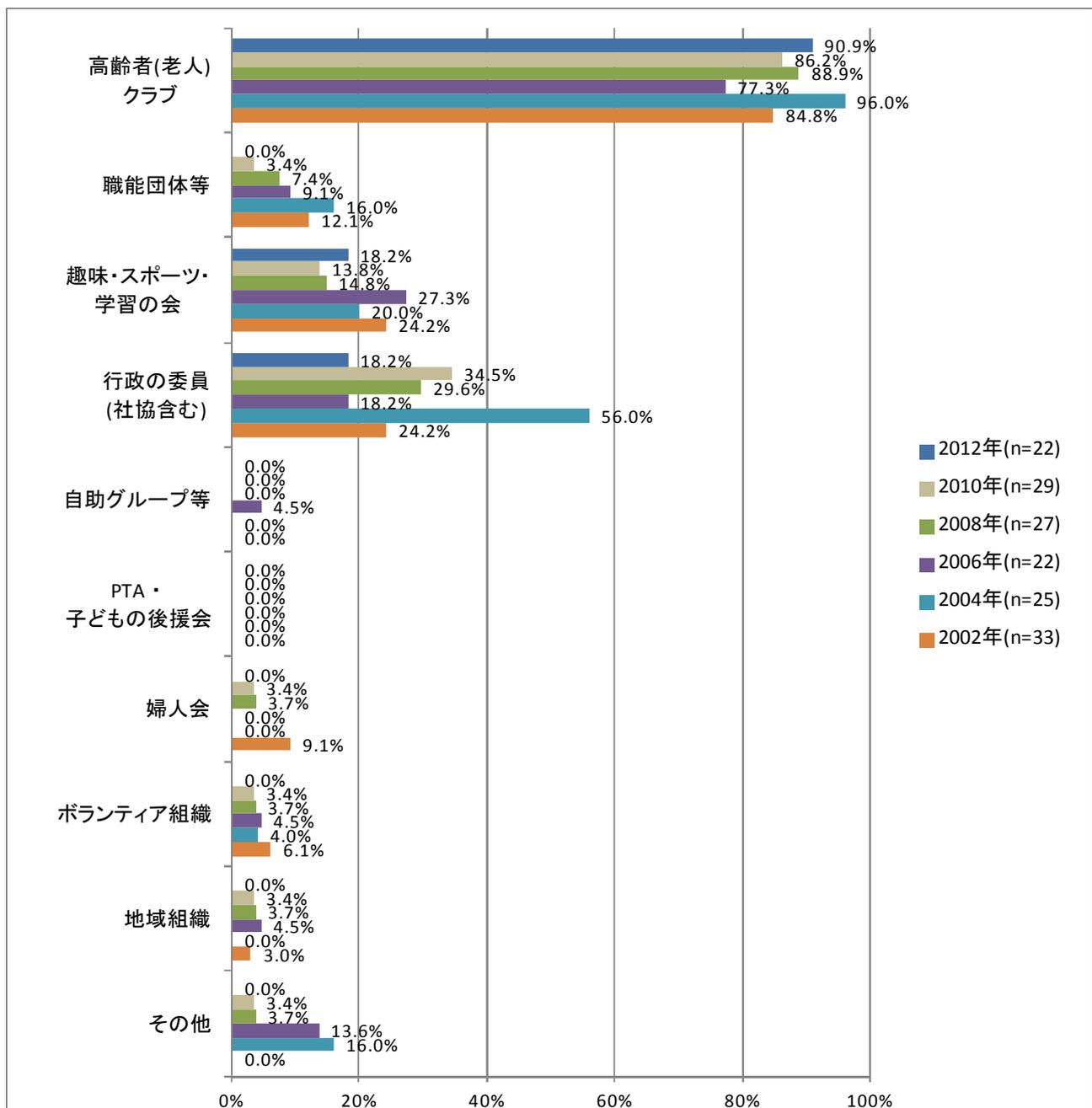
	婦人会	ボランティア組織	地域組織	その他	回答数	回答数(割合)
2012年(n=47)	4 (8.5%)	1 (2.1%)	11 (23.4%)	3 (6.4%)	62	
2010年(n=50)	3 (6.0%)	2 (4.0%)	10 (20.0%)	1 (2.0%)	63	
2008年(n=48)	6 (12.5%)	3 (6.3%)	3 (6.3%)	6 (12.5%)	68	
2006年(n=48)	3 (6.3%)	8 (16.7%)	6 (12.5%)	5 (10.4%)	85	
2004年(n=44)	9 (20.5%)	7 (15.9%)	3 (6.8%)	4 (9.1%)	71	
2002年(n=46)	15 (32.6%)	3 (6.5%)	3 (6.5%)	5 (10.9%)	73	



図表 3-8 地域活動の種類（後期高齢期群）※複数回答

	高齢者(老人) クラブ	職能団体等	趣味・スポーツ・ 学習の会	行政の委員 (社協含む)	自助グループ等	PTA・子どもの 後援会
2012年(n=22)	20 (90.9%)	0 (0.0%)	4 (18.2%)	4 (18.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
2010年(n=29)	25 (86.2%)	1 (3.4%)	4 (13.8%)	10 (34.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
2008年(n=27)	24 (88.9%)	2 (7.4%)	4 (14.8%)	8 (29.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
2006年(n=22)	17 (77.3%)	2 (9.1%)	6 (27.3%)	4 (18.2%)	1 (4.5%)	0 (0.0%)
2004年(n=25)	24 (96.0%)	4 (16.0%)	5 (20.0%)	14 (56.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
2002年(n=33)	28 (84.8%)	4 (12.1%)	8 (24.2%)	8 (24.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)

	婦人会	ボランティア組織	地域組織	その他	回答数	回答数(割合)
2012年(n=22)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	28	
2010年(n=29)	1 (3.4%)	1 (3.4%)	1 (3.4%)	1 (3.4%)	44	
2008年(n=27)	1 (3.7%)	1 (3.7%)	1 (3.7%)	1 (3.7%)	42	
2006年(n=22)	0 (0.0%)	1 (4.5%)	1 (4.5%)	3 (13.6%)	35	
2004年(n=25)	0 (0.0%)	1 (4.0%)	0 (0.0%)	4 (16.0%)	52	
2002年(n=33)	3 (9.1%)	2 (6.1%)	1 (3.0%)	0 (0.0%)	54	



■地域活動における役職の有無

(「Q. 地域活動への参加状況」で「参加している」と回答した人のみ)

(全体の結果)

地域活動での役職が「ある」と回答した人は、すべての調査時で4割以上を維持しており、2008年調査時の41.8%を除いて、ほぼ半数近い人が何らかの役職についている。(図表 3-9)

(壮年期群→Y0)

地域活動での役職が「ある」と回答した人は、すべての調査時で半数以上を維持している。初回調査時(2002年)が65.4%と最も多く、その後は漸減傾向にあり、2008年調査時では54.3%と最も少ないが(-11.1ポイント)、それ以降は6割程度で推移している。(図表 3-10)

(前期高齢期群→00)

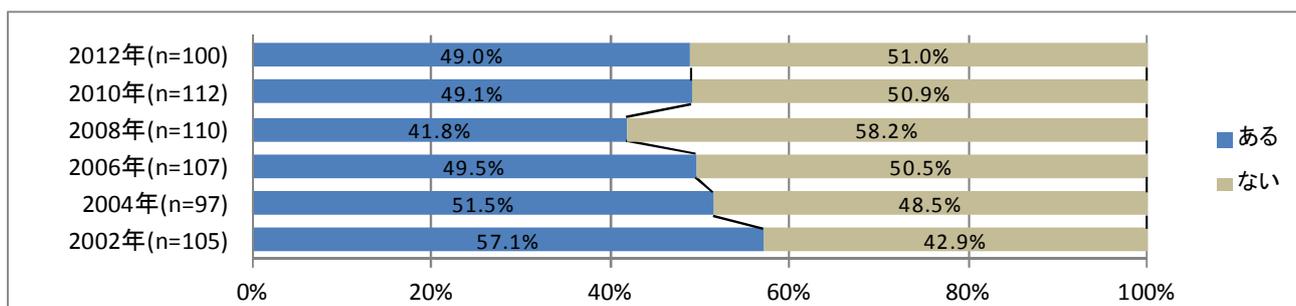
地域活動での役職が「ある」と回答した人は、初回調査時(2002年)が52.2%と最も多いが、その後は2010年調査時を除いて漸減傾向にあり、2012年調査時では31.9%と最も少なくなっている(-20.3ポイント)。(図表 3-11)

(後期高齢期群→0d0)

地域活動での役職が「ある」と回答した人は、2004年調査時から漸減傾向にあり、2008年調査時では33.3%と最も少ない(-26.7ポイント)。2008年調査時以降は漸増傾向にあり、2012年調査時では68.2%と大きく増加している(+34.9ポイント)。(図表 3-12)

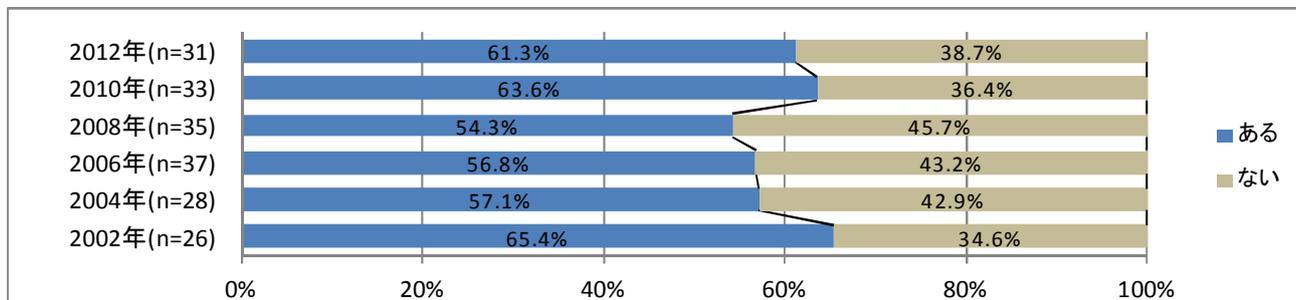
図表 3-9 地域活動における役職の有無 (全体)

	ある	ない	合計	人数(割合)
2012年(n=100)	49 (49.0%)	51 (51.0%)	100 (100.0%)	
2010年(n=112)	55 (49.1%)	57 (50.9%)	112 (100.0%)	
2008年(n=110)	46 (41.8%)	64 (58.2%)	110 (100.0%)	
2006年(n=107)	53 (49.5%)	54 (50.5%)	107 (100.0%)	
2004年(n=97)	50 (51.5%)	47 (48.5%)	97 (100.0%)	
2002年(n=105)	60 (57.1%)	45 (42.9%)	105 (100.0%)	



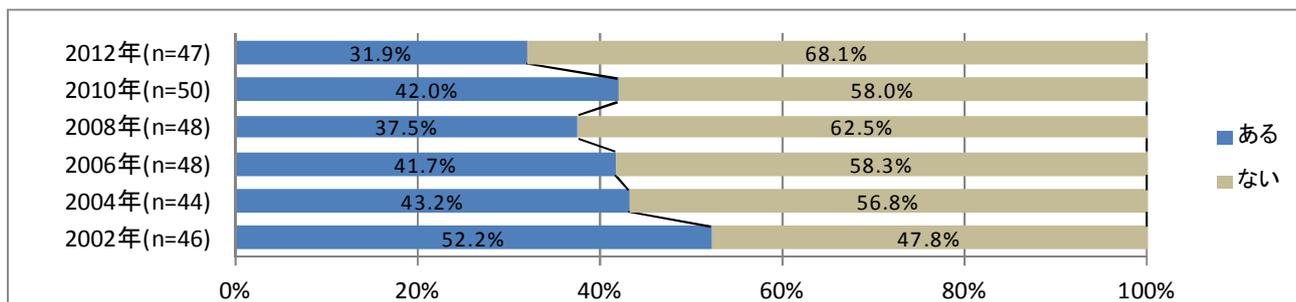
図表 3-10 地域活動における役職の有無（壮年期群）

	ある	ない	合計	人数(割合)
2012年(n=31)	19 (61.3%)	12 (38.7%)	31 (100.0%)	
2010年(n=33)	21 (63.6%)	12 (36.4%)	33 (100.0%)	
2008年(n=35)	19 (54.3%)	16 (45.7%)	35 (100.0%)	
2006年(n=37)	21 (56.8%)	16 (43.2%)	37 (100.0%)	
2004年(n=28)	16 (57.1%)	12 (42.9%)	28 (100.0%)	
2002年(n=26)	17 (65.4%)	9 (34.6%)	26 (100.0%)	



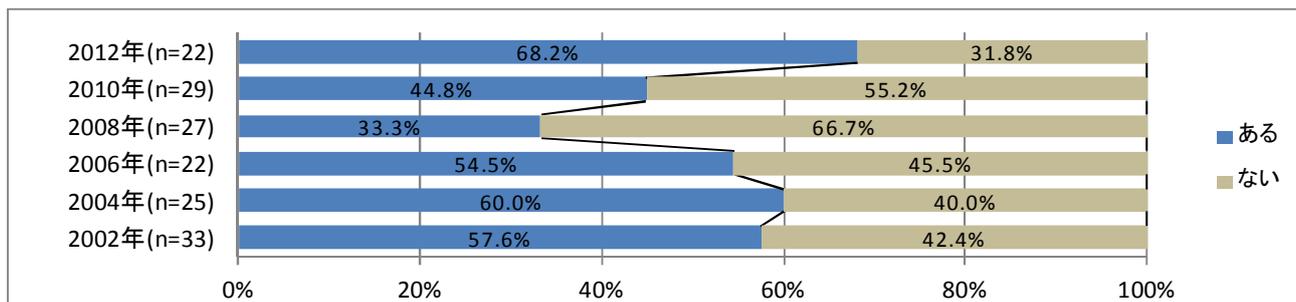
図表 3-11 地域活動における役職の有無（前期高齢期群）

	ある	ない	合計	人数(割合)
2012年(n=47)	15 (31.9%)	32 (68.1%)	47 (100.0%)	
2010年(n=50)	21 (42.0%)	29 (58.0%)	50 (100.0%)	
2008年(n=48)	18 (37.5%)	30 (62.5%)	48 (100.0%)	
2006年(n=48)	20 (41.7%)	28 (58.3%)	48 (100.0%)	
2004年(n=44)	19 (43.2%)	25 (56.8%)	44 (100.0%)	
2002年(n=46)	24 (52.2%)	22 (47.8%)	46 (100.0%)	



図表 3-12 地域活動における役職の有無（後期高齢期群）

	ある	ない	合計	人数(割合)
2012年(n=22)	15 (68.2%)	7 (31.8%)	22 (100.0%)	
2010年(n=29)	13 (44.8%)	16 (55.2%)	29 (100.0%)	
2008年(n=27)	9 (33.3%)	18 (66.7%)	27 (100.0%)	
2006年(n=22)	12 (54.5%)	10 (45.5%)	22 (100.0%)	
2004年(n=25)	15 (60.0%)	10 (40.0%)	25 (100.0%)	
2002年(n=33)	19 (57.6%)	14 (42.4%)	33 (100.0%)	



■地域活動への参加頻度

(「Q. 地域活動への参加状況」で「参加している」と回答した人のみ)

(全体の結果)

「週2～3回」「週1回程度」を合わせて「週数回」地域活動に参加している人は、初回調査時(2002年)が24.8%と最も多く、その後は2割程度で推移しているが、2012年調査時では11.0%と最も少なくなっている。一方「ほとんど毎日」参加している人は、すべての調査時において1割以下で推移しているが、2012年調査時が2.0%と最も少ない。(図表3-13)

(壮年期群→Y0)

「週2～3回」「週1回程度」を合わせて「週数回」地域活動に参加している人は、2006年調査時が10.8%と最も少なく、その後は漸増傾向にあり、2010年調査時では33.3%となっている(+22.5ポイント)。しかし、2012年調査時では16.2%と2年間で17.1ポイント減少している。(図表3-14)

(前期高齢期群→00)

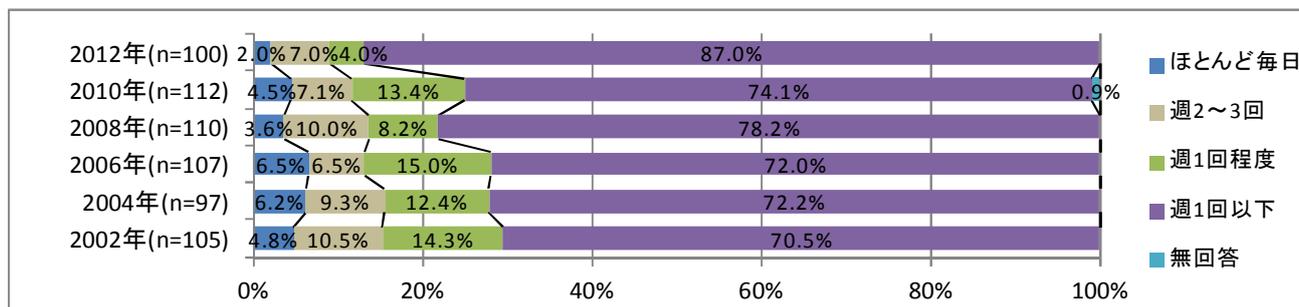
「週2～3回」「週1回程度」を合わせて「週数回」地域活動に参加している人は、2006年調査時が27.1%と最も多く、それ以外は2010年調査時まで1割～2割程度で推移しているが、2012年調査時では6.4%と最も少なくなっている。(図表3-15)

(後期高齢期群→0d0)

「週2～3回」「週1回程度」を合わせて「週数回」地域活動に参加している人は、初回調査時(2002年)が36.4%と最も多く、2004年調査時から2006年調査時まで2割程度で推移しているが、2008年調査時以降は1割程度に減少している。一方「ほとんど毎日」参加している人は、2004年調査時が20.0%と最も多く、その後は漸減傾向にあり、2010年調査時では3.4%に減少している(-16.6ポイント)。(図表3-16)

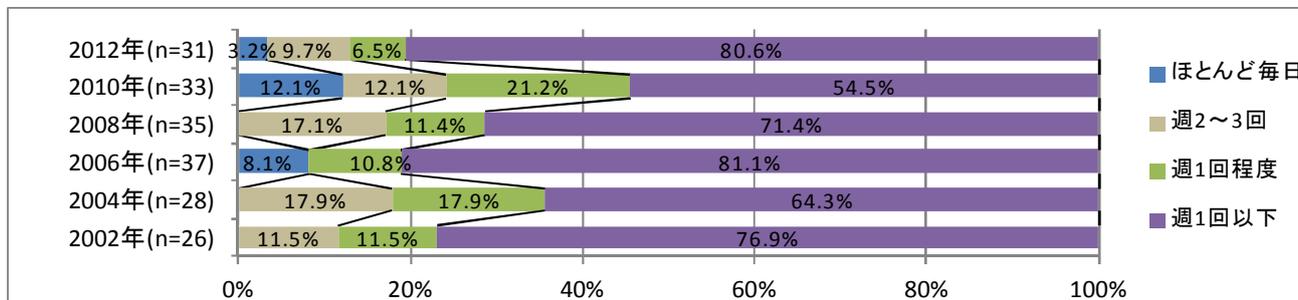
図表3-13 地域活動への参加頻度(全体)

	ほとんど毎日	週2～3回	週1回程度	週1回以下	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=100)	2 (2.0%)	7 (7.0%)	4 (4.0%)	87 (87.0%)	0 (0.0%)	100 (100.0%)	
2010年(n=112)	5 (4.5%)	8 (7.1%)	15 (13.4%)	83 (74.1%)	1 (0.9%)	112 (100.0%)	
2008年(n=110)	4 (3.6%)	11 (10.0%)	9 (8.2%)	86 (78.2%)	0 (0.0%)	110 (100.0%)	
2006年(n=107)	7 (6.5%)	7 (6.5%)	16 (15.0%)	77 (72.0%)	0 (0.0%)	107 (100.0%)	
2004年(n=97)	6 (6.2%)	9 (9.3%)	12 (12.4%)	70 (72.2%)	0 (0.0%)	97 (100.0%)	
2002年(n=105)	5 (4.8%)	11 (10.5%)	15 (14.3%)	74 (70.5%)	0 (0.0%)	105 (100.0%)	



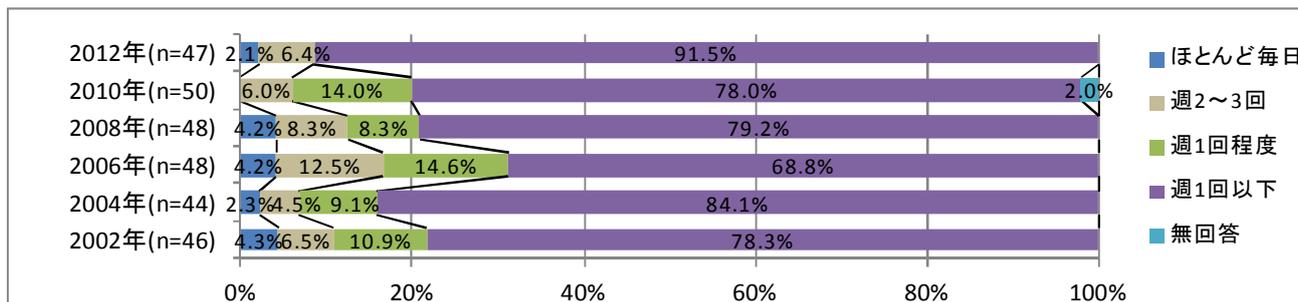
図表 3-14 地域活動への参加頻度（壮年期群）

	ほとんど毎日	週2～3回	週1回程度	週1回以下	合計	人数(割合)
2012年(n=31)	1 (3.2%)	3 (9.7%)	2 (6.5%)	25 (80.6%)	31 (100.0%)	
2010年(n=33)	4 (12.1%)	4 (12.1%)	7 (21.2%)	18 (54.5%)	33 (100.0%)	
2008年(n=35)	0 (0.0%)	6 (17.1%)	4 (11.4%)	25 (71.4%)	35 (100.0%)	
2006年(n=37)	3 (8.1%)	0 (0.0%)	4 (10.8%)	30 (81.1%)	37 (100.0%)	
2004年(n=28)	0 (0.0%)	5 (17.9%)	5 (17.9%)	18 (64.3%)	28 (100.0%)	
2002年(n=26)	0 (0.0%)	3 (11.5%)	3 (11.5%)	20 (76.9%)	26 (100.0%)	



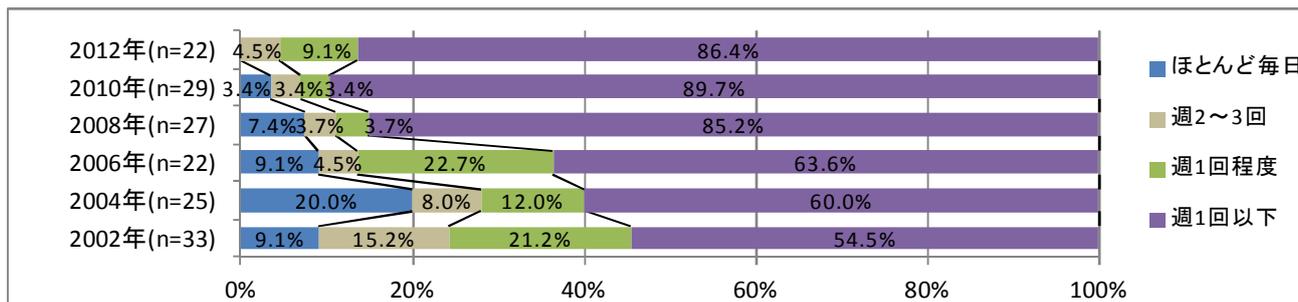
図表 3-15 地域活動への参加頻度（前期高齢期群）

	ほとんど毎日	週2～3回	週1回程度	週1回以下	無回答	合計	人数(割合)
2012年(n=47)	1 (2.1%)	3 (6.4%)	0 (0.0%)	43 (91.5%)	0 (0.0%)	47 (100.0%)	
2010年(n=50)	0 (0.0%)	3 (6.0%)	7 (14.0%)	39 (78.0%)	1 (2.0%)	50 (100.0%)	
2008年(n=48)	2 (4.2%)	4 (8.3%)	4 (8.3%)	38 (79.2%)	0 (0.0%)	48 (100.0%)	
2006年(n=48)	2 (4.2%)	6 (12.5%)	7 (14.6%)	33 (68.8%)	0 (0.0%)	48 (100.0%)	
2004年(n=44)	1 (2.3%)	2 (4.5%)	4 (9.1%)	37 (84.1%)	0 (0.0%)	44 (100.0%)	
2002年(n=46)	2 (4.3%)	3 (6.5%)	5 (10.9%)	36 (78.3%)	0 (0.0%)	46 (100.0%)	



図表 3-16 地域活動への参加頻度（後期高齢期群）

	ほとんど毎日	週2～3回	週1回程度	週1回以下	合計	人数(割合)
2012年(n=22)	0 (0.0%)	1 (4.5%)	2 (9.1%)	19 (86.4%)	22 (100.0%)	
2010年(n=29)	1 (3.4%)	1 (3.4%)	1 (3.4%)	26 (89.7%)	29 (100.0%)	
2008年(n=27)	2 (7.4%)	1 (3.7%)	1 (3.7%)	23 (85.2%)	27 (100.0%)	
2006年(n=22)	2 (9.1%)	1 (4.5%)	5 (22.7%)	14 (63.6%)	22 (100.0%)	
2004年(n=25)	5 (20.0%)	2 (8.0%)	3 (12.0%)	15 (60.0%)	25 (100.0%)	
2002年(n=33)	3 (9.1%)	5 (15.2%)	7 (21.2%)	18 (54.5%)	33 (100.0%)	



■利用している情報源

(全体の結果)

身の回りや世の中の出来事を知るために「新聞」を利用している人は、初回調査時（2002年）から2010年調査時まで95%以上を維持している。「テレビ」を利用している人も、初回調査時（2002年）から2010年調査時まで95%以上を維持しており、大きな変化はみられない。（図表 3-17）

(壮年期群→Y0)

身の回りや世の中の出来事を知るために「新聞」を利用している人は、初回調査時（2002年）から2010年調査時まで95%以上を維持している。「テレビ」を利用している人も、初回調査時（2002年）から2010年調査時まで95%以上を維持しており、大きな変化はみられない。（図表 3-18）

(前期高齢期群→00)

身の回りや世の中の出来事を知るために「新聞」を利用している人は、初回調査時（2002年）から2010年調査時まで9割以上を維持している。「テレビ」を利用している人も、初回調査時（2002年）から2010年調査時まで9割以上を維持しており、大きな変化はみられない。（図表 3-19）

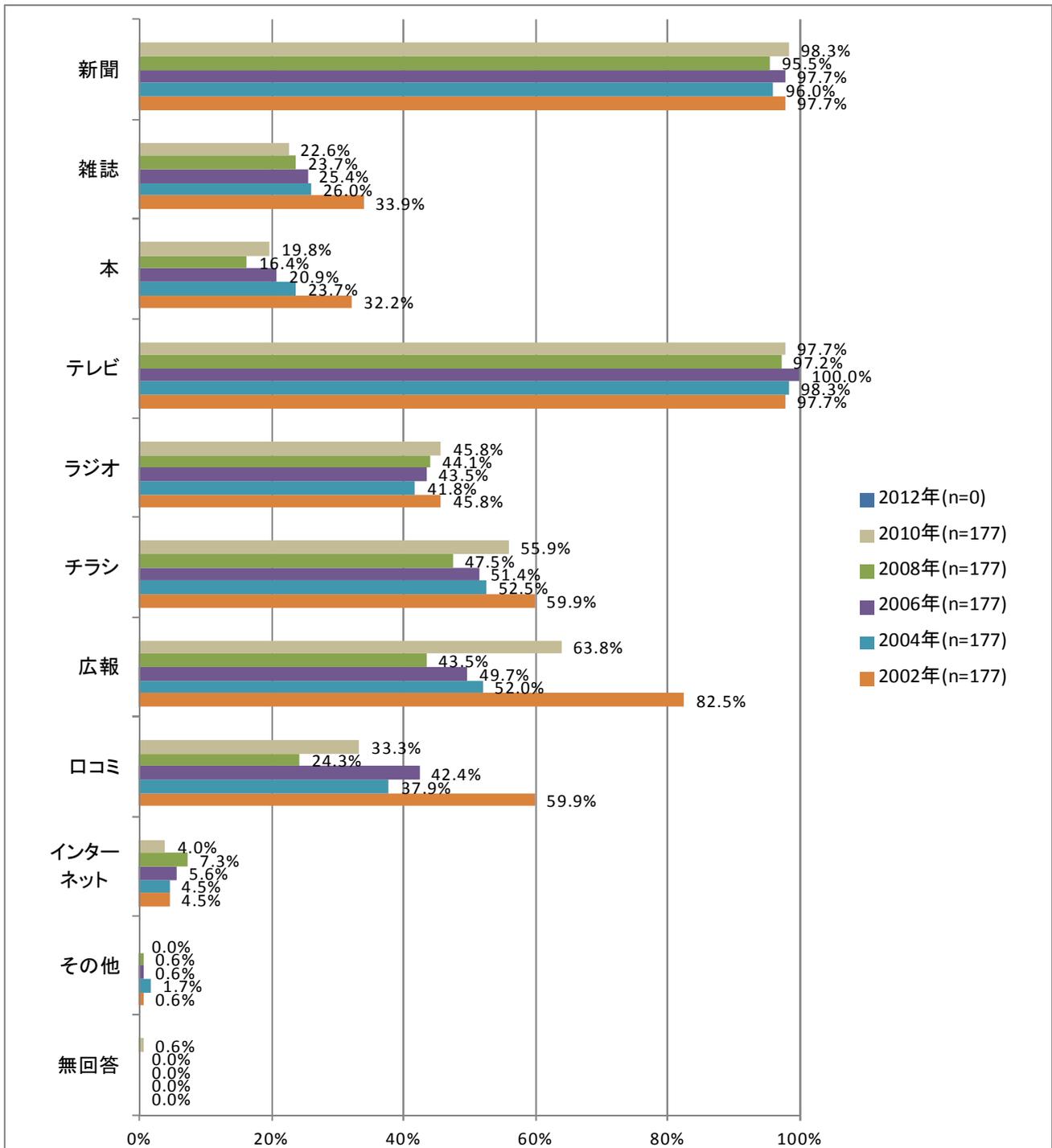
(後期高齢期群→0d0)

身の回りや世の中の出来事を知るために「新聞」を利用している人は、初回調査時（2002年）から2010年調査時まで9割以上を維持している。「テレビ」を利用している人も、初回調査時（2002年）から2010年調査時まで95%以上を維持しており、大きな変化はみられない。（図表 3-20）

図表 3-17 利用している情報源（全体）※複数回答

	新聞	雑誌	本	テレビ	ラジオ	チラシ	広報
2012年(n=0)							
2010年(n=177)	174 (98.3%)	40 (22.6%)	35 (19.8%)	173 (97.7%)	81 (45.8%)	99 (55.9%)	113 (63.8%)
2008年(n=177)	169 (95.5%)	42 (23.7%)	29 (16.4%)	172 (97.2%)	78 (44.1%)	84 (47.5%)	77 (43.5%)
2006年(n=177)	173 (97.7%)	45 (25.4%)	37 (20.9%)	177 (100.0%)	77 (43.5%)	91 (51.4%)	88 (49.7%)
2004年(n=177)	170 (96.0%)	46 (26.0%)	42 (23.7%)	174 (98.3%)	74 (41.8%)	93 (52.5%)	92 (52.0%)
2002年(n=177)	173 (97.7%)	60 (33.9%)	57 (32.2%)	173 (97.7%)	81 (45.8%)	106 (59.9%)	146 (82.5%)

	口コミ	インターネット	その他	無回答	回答数	回答数(割合)
2012年(n=0)						
2010年(n=177)	59 (33.3%)	7 (4.0%)	0 (0.0%)	1 (0.6%)	782	
2008年(n=177)	43 (24.3%)	13 (7.3%)	1 (0.6%)	0 (0.0%)	708	
2006年(n=177)	75 (42.4%)	10 (5.6%)	1 (0.6%)	0 (0.0%)	774	
2004年(n=177)	67 (37.9%)	8 (4.5%)	3 (1.7%)	0 (0.0%)	769	
2002年(n=177)	106 (59.9%)	8 (4.5%)	1 (0.6%)	0 (0.0%)	911	

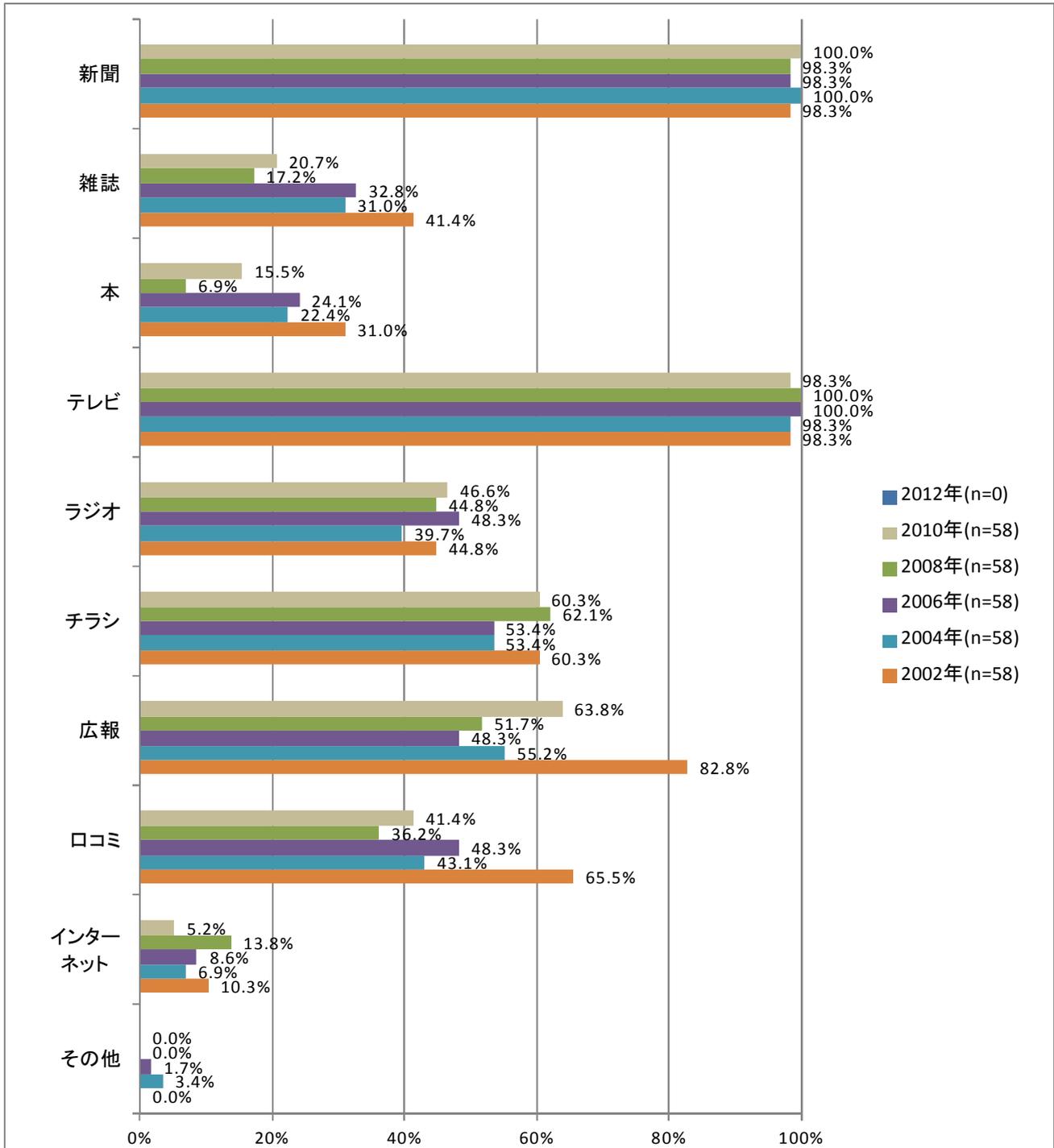


図表 3-18 利用している情報源 (壮年期群) ※複数回答

	新聞	雑誌	本	テレビ	ラジオ	チラシ	広報
2012年(n=0)							
2010年(n=58)	58 (100.0%)	12 (20.7%)	9 (15.5%)	57 (98.3%)	27 (46.6%)	35 (60.3%)	37 (63.8%)
2008年(n=58)	57 (98.3%)	10 (17.2%)	4 (6.9%)	58 (100.0%)	26 (44.8%)	36 (62.1%)	30 (51.7%)
2006年(n=58)	57 (98.3%)	19 (32.8%)	14 (24.1%)	58 (100.0%)	28 (48.3%)	31 (53.4%)	28 (48.3%)
2004年(n=58)	58 (100.0%)	18 (31.0%)	13 (22.4%)	57 (98.3%)	23 (39.7%)	31 (53.4%)	32 (55.2%)
2002年(n=58)	57 (98.3%)	24 (41.4%)	18 (31.0%)	57 (98.3%)	26 (44.8%)	35 (60.3%)	48 (82.8%)

	口コミ	インターネット	その他	回答数
2012年(n=0)				
2010年(n=58)	24 (41.4%)	3 (5.2%)	0 (0.0%)	262
2008年(n=58)	21 (36.2%)	8 (13.8%)	0 (0.0%)	250
2006年(n=58)	28 (48.3%)	5 (8.6%)	1 (1.7%)	269
2004年(n=58)	25 (43.1%)	4 (6.9%)	2 (3.4%)	263
2002年(n=58)	38 (65.5%)	6 (10.3%)	0 (0.0%)	309

回答数(割合)

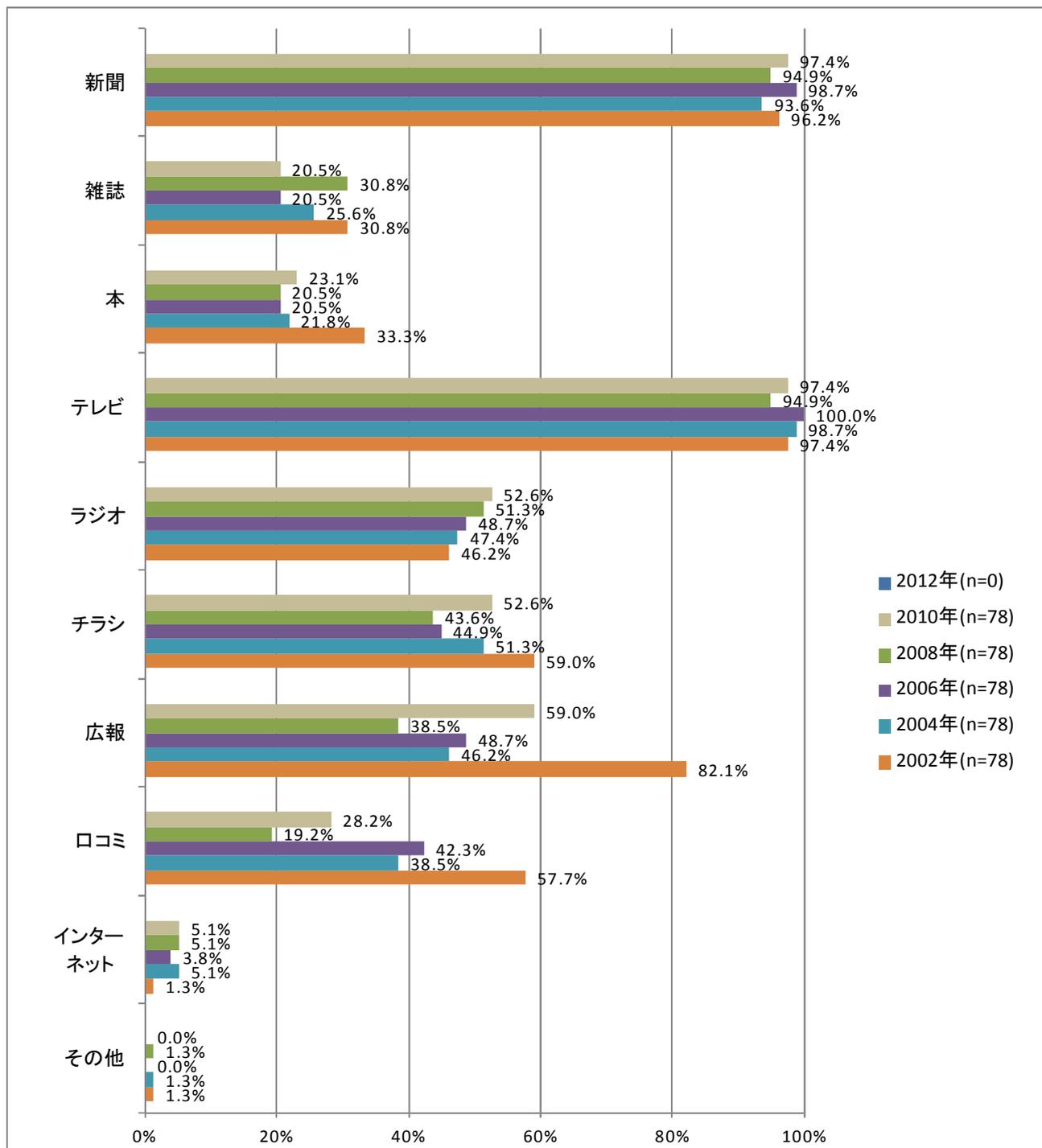


図表 3-19 利用している情報源（前期高齢期群）※複数回答

	新聞	雑誌	本	テレビ	ラジオ	チラシ	広報
2012年(n=0)							
2010年(n=78)	76 (97.4%)	16 (20.5%)	18 (23.1%)	76 (97.4%)	41 (52.6%)	41 (52.6%)	46 (59.0%)
2008年(n=78)	74 (94.9%)	24 (30.8%)	16 (20.5%)	74 (94.9%)	40 (51.3%)	34 (43.6%)	30 (38.5%)
2006年(n=78)	77 (98.7%)	16 (20.5%)	16 (20.5%)	78 (100.0%)	38 (48.7%)	35 (44.9%)	38 (48.7%)
2004年(n=78)	73 (93.6%)	20 (25.6%)	17 (21.8%)	77 (98.7%)	37 (47.4%)	40 (51.3%)	36 (46.2%)
2002年(n=78)	75 (96.2%)	24 (30.8%)	26 (33.3%)	76 (97.4%)	36 (46.2%)	46 (59.0%)	64 (82.1%)

	口コミ	インターネット	その他	回答数
2012年(n=0)				
2010年(n=78)	22 (28.2%)	4 (5.1%)	0 (0.0%)	340
2008年(n=78)	15 (19.2%)	4 (5.1%)	1 (1.3%)	312
2006年(n=78)	33 (42.3%)	3 (3.8%)	0 (0.0%)	334
2004年(n=78)	30 (38.5%)	4 (5.1%)	1 (1.3%)	335
2002年(n=78)	45 (57.7%)	1 (1.3%)	1 (1.3%)	394

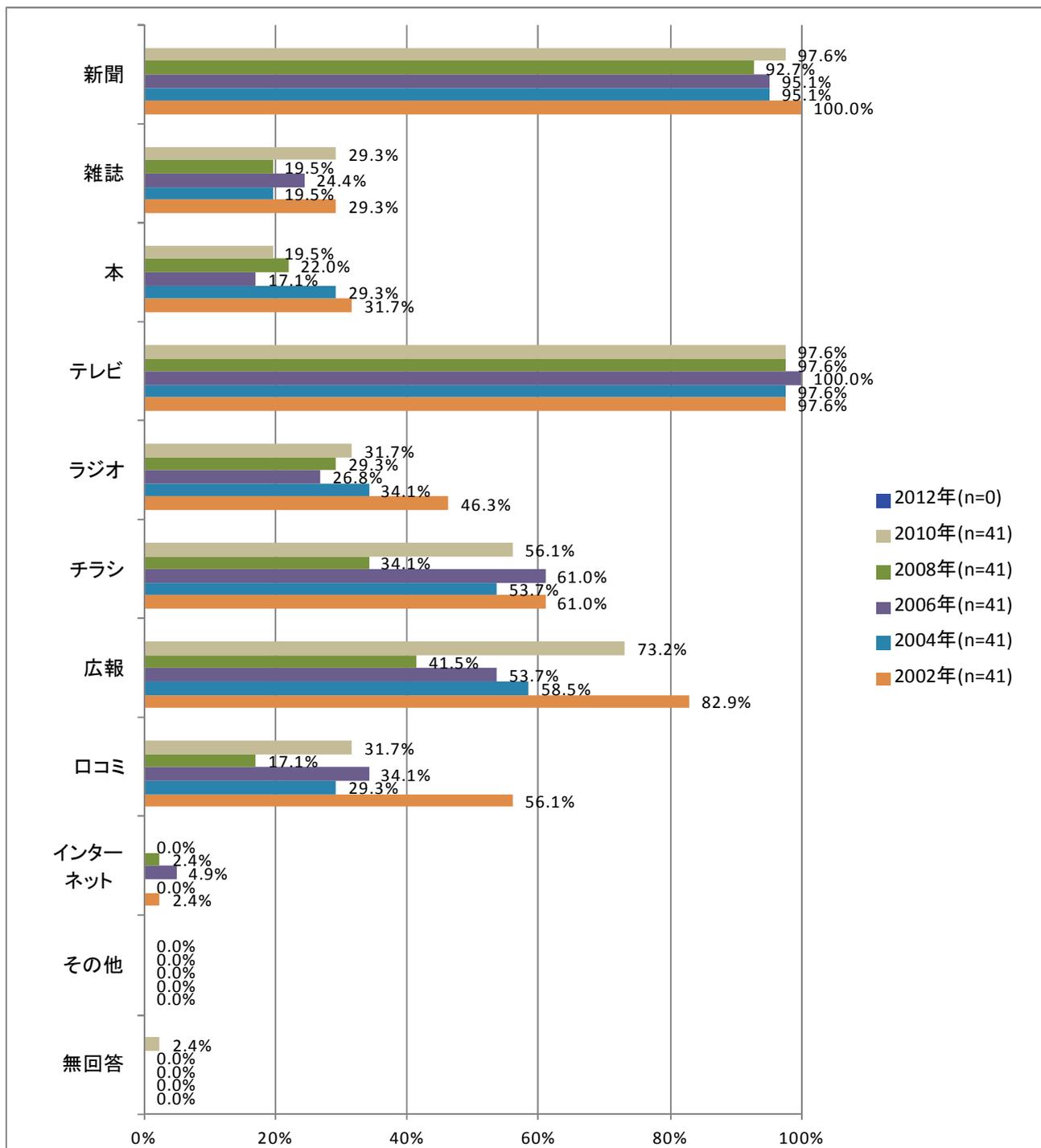
回答数(割合)



図表 3-20 利用している情報源（後期高齢期群）※複数回答

	新聞	雑誌	本	テレビ	ラジオ	チラシ	広報
2012年(n=0)							
2010年(n=41)	40 (97.6%)	12 (29.3%)	8 (19.5%)	40 (97.6%)	13 (31.7%)	23 (56.1%)	30 (73.2%)
2008年(n=41)	38 (92.7%)	8 (19.5%)	9 (22.0%)	40 (97.6%)	12 (29.3%)	14 (34.1%)	17 (41.5%)
2006年(n=41)	39 (95.1%)	10 (24.4%)	7 (17.1%)	41 (100.0%)	11 (26.8%)	25 (61.0%)	22 (53.7%)
2004年(n=41)	39 (95.1%)	8 (19.5%)	12 (29.3%)	40 (97.6%)	14 (34.1%)	22 (53.7%)	24 (58.5%)
2002年(n=41)	41 (100.0%)	12 (29.3%)	13 (31.7%)	40 (97.6%)	19 (46.3%)	25 (61.0%)	34 (82.9%)

	口コミ	インターネット	その他	無回答	回答数	回答数(割合)
2012年(n=0)						
2010年(n=41)	13 (31.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (2.4%)	180	
2008年(n=41)	7 (17.1%)	1 (2.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	146	
2006年(n=41)	14 (34.1%)	2 (4.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	171	
2004年(n=41)	12 (29.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	171	
2002年(n=41)	23 (56.1%)	1 (2.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	208	



■最もよく利用する情報源

(全体の結果)

最もよく利用する情報源では、初回調査時（2002年）から2004年調査時まで「テレビ」を挙げる人が半数以上と最も多いが、2006年調査時では「新聞」を挙げる人が半数以上と最も多い。2008年調査時以降は、再び「テレビ」を挙げる人がほぼ半数を占めている。（図表3-21）

(壮年期群→Y0)

最もよく利用する情報源では、初回調査時（2002年）から2010年調査時まで「テレビ」を挙げる人が最も多く、4割以上を占めている。「新聞」を挙げる人は、初回調査時（2002年）が29.3%と最も少なく、その後は漸増傾向にあり、2006年調査時が46.6%と最も多い（+17.3ポイント）。しかし、2008年調査時では36.2%と10.4ポイント減少している。（図表3-22）

(前期高齢期群→00)

最もよく利用する情報源では、初回調査時（2002年）から2004年調査時まで「テレビ」を挙げる人が半数以上と最も多いが、2006年調査時では「新聞」を挙げる人が半数以上と最も多い。2008年調査時以降は、再び「テレビ」を挙げる人が半数以上を占めている。（図表3-23）

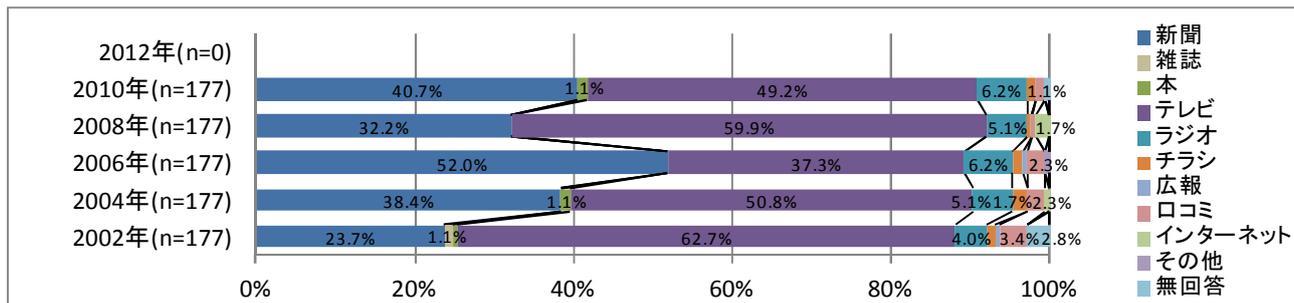
(後期高齢期群→0d0)

最もよく利用する情報源では、初回調査時（2002年）から2004年調査時まで「テレビ」を挙げる人が最も多く、ほぼ半数を超えているが、2006年調査時では「新聞」を挙げる人が58.5%と最も多い。2008年調査時では「テレビ」を挙げる人が61.0%と最も多く、2010年調査時は「新聞」を挙げる人が約半数を占めている。（図表3-24）

図表 3-21 最もよく利用する情報源（全体）

	新聞	雑誌	本	テレビ	ラジオ	チラシ	広報
2012年(n=0)							
2010年(n=177)	72 (40.7%)	0 (0.0%)	2 (1.1%)	87 (49.2%)	11 (6.2%)	2 (1.1%)	0 (0.0%)
2008年(n=177)	57 (32.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	106 (59.9%)	9 (5.1%)	1 (0.6%)	0 (0.0%)
2006年(n=177)	92 (52.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	66 (37.3%)	11 (6.2%)	2 (1.1%)	1 (0.6%)
2004年(n=177)	68 (38.4%)	0 (0.0%)	2 (1.1%)	90 (50.8%)	9 (5.1%)	3 (1.7%)	0 (0.0%)
2002年(n=177)	42 (23.7%)	2 (1.1%)	1 (0.6%)	111 (62.7%)	7 (4.0%)	2 (1.1%)	1 (0.6%)

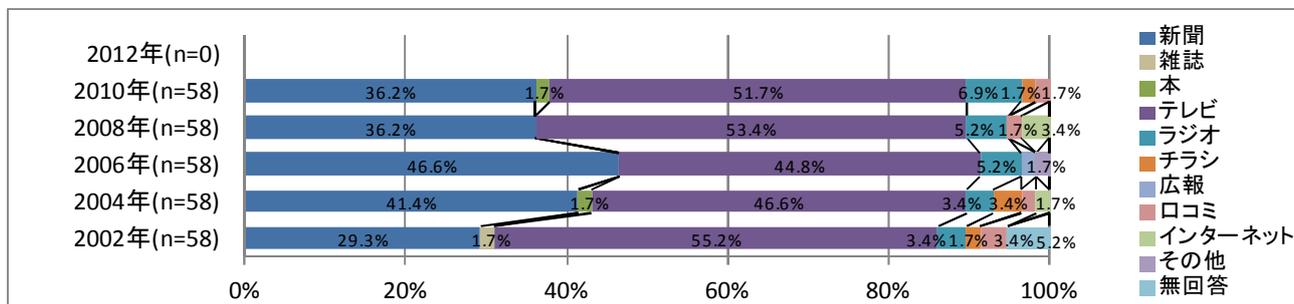
	口コミ	インターネット	その他	無回答	合計
2012年(n=0)					
2010年(n=177)	2 (1.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.6%)	177 (100.0%)
2008年(n=177)	1 (0.6%)	3 (1.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)
2006年(n=177)	4 (2.3%)	0 (0.0%)	1 (0.6%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)
2004年(n=177)	4 (2.3%)	1 (0.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	177 (100.0%)
2002年(n=177)	6 (3.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	5 (2.8%)	177 (100.0%)



図表 3-22 最もよく利用する情報源（壮年期群）

	新聞	雑誌	本	テレビ	ラジオ	チラシ	広報
2012年(n=0)							
2010年(n=58)	21 (36.2%)	0 (0.0%)	1 (1.7%)	30 (51.7%)	4 (6.9%)	1 (1.7%)	0 (0.0%)
2008年(n=58)	21 (36.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	31 (53.4%)	3 (5.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
2006年(n=58)	27 (46.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	26 (44.8%)	3 (5.2%)	0 (0.0%)	1 (1.7%)
2004年(n=58)	24 (41.4%)	0 (0.0%)	1 (1.7%)	27 (46.6%)	2 (3.4%)	2 (3.4%)	0 (0.0%)
2002年(n=58)	17 (29.3%)	1 (1.7%)	0 (0.0%)	32 (55.2%)	2 (3.4%)	1 (1.7%)	0 (0.0%)

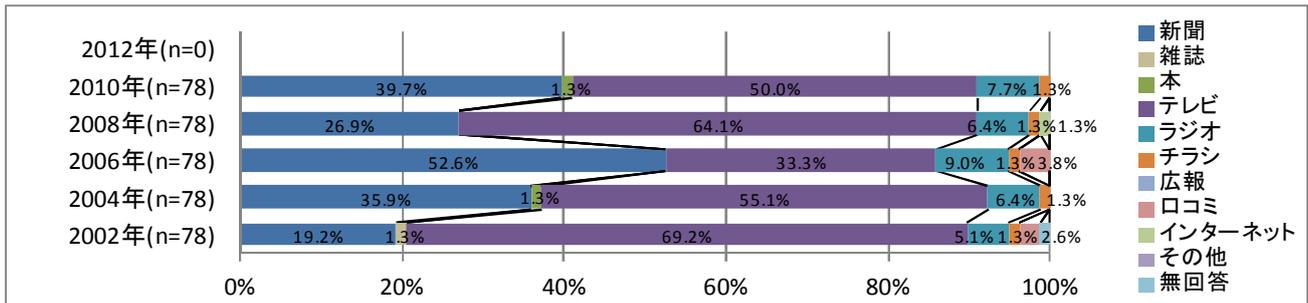
	口コミ	インターネット	その他	無回答	合計
2012年(n=0)					
2010年(n=58)	1 (1.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)
2008年(n=58)	1 (1.7%)	2 (3.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)
2006年(n=58)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.7%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)
2004年(n=58)	1 (1.7%)	1 (1.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	58 (100.0%)
2002年(n=58)	2 (3.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (5.2%)	58 (100.0%)



図表 3-23 最もよく利用する情報源（前期高齢期群）

	新聞	雑誌	本	テレビ	ラジオ	チラシ	広報
2012年(n=0)							
2010年(n=78)	31 (39.7%)	0 (0.0%)	1 (1.3%)	39 (50.0%)	6 (7.7%)	1 (1.3%)	0 (0.0%)
2008年(n=78)	21 (26.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	50 (64.1%)	5 (6.4%)	1 (1.3%)	0 (0.0%)
2006年(n=78)	41 (52.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	26 (33.3%)	7 (9.0%)	1 (1.3%)	0 (0.0%)
2004年(n=78)	28 (35.9%)	0 (0.0%)	1 (1.3%)	43 (55.1%)	5 (6.4%)	1 (1.3%)	0 (0.0%)
2002年(n=78)	15 (19.2%)	1 (1.3%)	0 (0.0%)	54 (69.2%)	4 (5.1%)	1 (1.3%)	0 (0.0%)

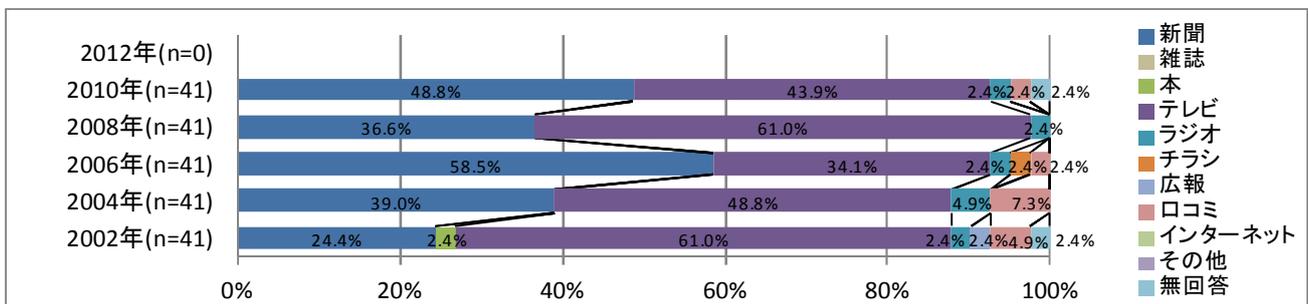
	口コミ	インターネット	その他	無回答	合計
2012年(n=0)					
2010年(n=78)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)
2008年(n=78)	0 (0.0%)	1 (1.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)
2006年(n=78)	3 (3.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)
2004年(n=78)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	78 (100.0%)
2002年(n=78)	2 (2.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.3%)	78 (100.0%)



図表 3-24 最もよく利用する情報源（後期高齢期群）

	新聞	雑誌	本	テレビ	ラジオ	チラシ	広報
2012年(n=0)							
2010年(n=41)	20 (48.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	18 (43.9%)	1 (2.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
2008年(n=41)	15 (36.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	25 (61.0%)	1 (2.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
2006年(n=41)	24 (58.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	14 (34.1%)	1 (2.4%)	1 (2.4%)	0 (0.0%)
2004年(n=41)	16 (39.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	20 (48.8%)	2 (4.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
2002年(n=41)	10 (24.4%)	0 (0.0%)	1 (2.4%)	25 (61.0%)	1 (2.4%)	0 (0.0%)	1 (2.4%)

	口コミ	インターネット	その他	無回答	合計
2012年(n=0)					
2010年(n=41)	1 (2.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (2.4%)	41 (100.0%)
2008年(n=41)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)
2006年(n=41)	1 (2.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)
2004年(n=41)	3 (7.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	41 (100.0%)
2002年(n=41)	2 (4.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (2.4%)	41 (100.0%)



5. 結果のまとめと考察

1) 日常活動状況

(収入を伴う仕事)

- 全体として、収入を伴う仕事をしている人は初回調査時が4割弱で最も多かったが、その後はすべての年齢群で漸減している。減少は壮年期群で最も多い。
 - ・もともと壮年期から前期高齢期に至る群は半数以上の人が仕事をしてきたが、仕事をしている人は10年間で約4分の1となっている。

(仕事の種類)

- 全体として、仕事は農林漁業をしている人が最も多く、次いで自営業が多い。2002年度調査時は、これ以外にも多彩な職種がみられたが、10年間で他の職種は減り、農林漁業と自営業が大半を占めるようになった。

(趣味活動の有無)

- 全体として、趣味活動をしている人は、初回調査時(2002年)が8割以上で最も多く、その後は漸減している。この傾向は、前期高齢期から後期高齢期に至る群と、後期高齢期以上の高齢者に目立つ。

(趣味活動の種類)

- 全体として、文化系の趣味をしている人が最も多く、次いで畑・庭系、アウトドア・スポーツ系が多い。しかし、前期高齢期から後期高齢期に至る群では、文化系、畑・庭系が多く、アウトドア・スポーツ系の割合は少ない。

(趣味活動の活動頻度)

- 全体として、趣味活動をほぼ毎日している人が半数を超えて最も多く、年齢が高い群ほど多い。
 - ・趣味をほぼ毎日行っている人は、年齢が高い群ほど多く、特に前期高齢期から後期高齢期に至る群で漸増傾向が顕著である。一方壮年期から前期高齢期に至る群では、震災を挟んだ2年間で2割近く減少している。

(趣味活動を一緒に行う人の有無)

- 全体として、趣味活動を一緒に行う相手があると回答した人は5割~6割程度で推移しており、10年間安定している。

(趣味活動を一緒に行う人の人数)

- 全体として、趣味活動を一緒に行う仲間が4人以上いる人が最も多く、すべての調査時で6割以上を占めているが、4人以上いる人は漸減傾向にあり、2~3人が漸増傾向にある。

2) 対人交流

(家にいるときに一緒に過ごす相手)

- 全体として、家にいるときに一緒に過ごす相手が配偶者という人は半数以上で最も多く、すべての年齢群のすべての調査で共通している。しかし、後期高齢期以上の高齢者は配偶者が漸減し、初回調査時が6割以上であるが、2012年調査では2割程度となる。

(同居していない子どもの有無)

- 同居していない子どもがいる人は、すべての調査時でほぼ9割を維持しており、大きな変化はない。

(同居していない子どもとの連絡頻度)

- 全体として、同居していない子どもとの連絡頻度が週1回以上の方は、すべての調査時で3割以上を占めており、10年間安定している。ほぼ毎日連絡をとっている人は、漸増傾向にあり、2012年調査時では、4分の1を占めている。
 - ・同居していない子どもとの連絡頻度がほぼ毎日という人は多く、前期高齢期から後期高齢期の人と、後期高齢期以上の高齢者で最も多い。

(普段つきあいのある親戚の有無)

- 全体として、普段つきあいのある親戚がいると回答した人は、すべての調査時で95%以上を維持しており、10年間安定している。この傾向は、すべての年齢群のすべての調査時で共通している。

(普段最も話をする相手)

- 全体として、普段最も話をする相手で「家族」と回答した人は、すべての調査時で8割を超えており、安定していたが、震災を挟んだ2年間で減少している。この傾向は壮年期から前期高齢期に至る人たちに目立つ。

(話す相手が家族の場合)

- ・全体として、家族の中では話す相手が配偶者と解答した人が最も多い。後期高齢期以上の高齢者では、配偶者の割合が一貫して漸減傾向にある。また、壮年期から前期高齢期に至る人たちと、前期高齢期から後期高齢期に至る人たちも、6~8年前から減少傾向が目立つ。配偶者以外の家族では、「子ども」が最も多い。

(普段最も話をする相手との交流頻度)

- 最も話をする相手とほぼ毎日会話をする人は、すべての調査時でほぼ9割以上を占めており、10年間安定している。この傾向は、すべての年齢群、すべての調査時で共通している。

(最も話をする相手の)次によく話をする相手

- 「次によく話をする相手」で「家族」と回答した人は、初回調査時(2002年)から2010年調査時まで半数以上で安定していたが、震災を挟んだ2年間では、減少している。一方、友人・知人などの家族以外をあげる人は、8年間4割程度で推移していたが、震災を挟んだ2年間では54.3%と半数を超えている。

(最も話をする相手で、「次によく話をする相手」が友人・知人の場合の具体的内容)

- 全体として、「次によく話をする相手」で、友人・知人と解答した中では、「ご近所」をあげる人が最も多く、すべての調査時で6割以上を占めており、2008年調査時と2012年調査時では8割を超えている。

(最も話をする相手で、「次によく話をする相手」との交流頻度)

- 全体として、「次によく話をする相手」と「ほぼ毎日」会話をする人は、7割以上と安定していたが、震災を挟んだ2年間で減少している。震災後の減少傾向は、すべての年齢群で共通している。

(心配事や悩み事があったときなど相談に乗ってくれる人の有無)

- 心配事や悩み事の相談に乗ってくれる人がいると回答した人は、すべての調査時、すべての年代で9割以上を維持しており、10年間安定している。

(相談相手の具体的な間柄)

- 相談相手には、家族をあげる人が8割以上と最も多く、すべての年齢群、すべての調査時で、安定して多い。家族の中では、「子ども」をあげる人が最も多く、全体としては、漸増傾向にある。次いで多いのは配偶者であるが、震災を挟んだ2年間ではすべての年齢群で減少傾向がある。一方相談相手として次に多いのは友人や知人であり、全体として漸増傾向にある。

(同居の家族以外でちょっとした用事や留守番などを頼める相手の有無)

- 家族以外で、用事や留守番を頼める人がいると回答した人は、全体として、10年間7割以上を維持しており、安定している。特に震災を挟んだ2年間では、すべての年齢群で増加している。

(同居の家族以外でちょっとした用事や留守番などを頼める相手)

- 用事や留守番を頼める相手が、同居していない家族の場合、全体としては、その相手が兄弟姉妹である場合が最も多い。同居していない家族以外では、近所という回答が最も多い。
- ・同居の家族以外で頼める相手が兄弟姉妹であることが最も多いのは、壮年期から前期高齢期に至る群と、前期高齢期から後期高齢期に至る群で共通している。一方後期高齢期以上の高齢者では、相手が同居していない子どもであることが多い。また同居していない家族以外の場合では、近所に頼む場合が最も多い。これは、すべての調査時、すべての年齢群で共通している。

(同居の家族以外で緊急な用があったときにすぐにつけてくれる人の有無)

- 緊急時に駆けつけてくれる人が「いる」と回答した人は、すべての調査時、すべての年齢群で95%以上を維持しており、10年間安定している。

(同居の家族以外で、緊急時に駆けつけてくれる人数)

- 緊急時に駆けつけてくれる人の数は、「4人以上」が初回調査時から8年間安定していたが、震災を挟んだ2年間では、すべての年齢群で「2~3人」が最も多く、駆けつけてくれる人の人数は減っている。

(親戚・友人・仕事仲間などから相談されたり、用事を頼まれる機会の有無)

- 相談されたり用事を頼まれたりすることがある人は、すべての調査時、すべての年齢群で7割以上を占めており、安定している。特に震災を挟んだ2年間では、すべての年齢群で増加しており、震災後の相互扶助体制は強まっていることが考えられる。

3) 社会活動

(地域活動への参加状況)

- 地域活動に「参加している」人は、全体として、10年間6割前後で推移している。これは前期高齢期から後期高齢期に至る群で特に安定している。一方壮年期から前期高齢期に至る群では、2006年からの6年間で漸減傾向にある。

(地域活動の種類)

- 全体として、初回調査時からの2年間では「行政の委員」が最も多く、約半数を占めているが、2006年調査時以降では、老人クラブが4割以上と最も多い。壮年期から前期高齢期に至る群では行政の委員が最も多く、それ以上の年齢群では老人クラブが最も多い。

(地域活動における役職の有無)

- 地域活動での役職が「ある」と回答した人は、すべての調査時で4割以上を維持しており、2008年調査時の41.8%を除いて、ほぼ半数近い人が何らかの役職についている。

(地域活動への参加頻度)

- 全体として、地域活動に週数回参加している人は、初回調査時(2002年)で24.8%と最も多く、その後は2割程度で推移している。しかし震災を挟んだ2年間では減少している。この点は、壮年期から前期高齢期に至る群と、前期高齢期から後期高齢期に至る群で共通している。

(利用している情報源)

- 身の回りや世の中の出来事を知るために利用している情報源は、新聞とテレビが最も多く、すべての調査時、すべての年齢群で最も多く、安定している。

(最もよく利用する情報源)

- 全体として、最もよく利用する情報源では、初回調査時(2002年)から2004年調査時まで「テレビ」を挙げる人が半数以上と最も多いが、2006年調査時では「新聞」を挙げる人が半数以上と最も多い。2008年調査時以降は、再び「テレビ」を挙げる人がほぼ半数を占めている。

平成 26 年度認知症介護研究・研修仙台センター運営事業費研究事業

加齢と健康に関する縦断研究
—心身の健康を維持するための要因に関する分析研究—

平成 27 年 3 月

発行所 社会福祉法人東北福社会 認知症介護研究・研修仙台センター
〒989-3201 宮城県仙台市青葉区国見ヶ丘 6-149-1
TEL 022-303-7550 FAX 022-303-7570

発行者 社会福祉法人東北福社会 認知症介護研究・研修仙台センター
センター長 加藤伸司
